

2005年度

全学共通授業科目シラバス

外国語学部共通科目（2002年度以前入学生用）

獨協大学

【シラバスの見方】

「シラバス」は、科目の担当教員が、学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。学生諸君は、シラバスを良く読み、計画的な履修登録をしてください。

本シラバスは、2003年度以降入学生用の全学共通カリキュラム「全学共通授業科目」と、2002年度以前入学生用の「外国語学部共通科目」のシラバスです。各自の入学年度に従い、以下の点に注意し目次を確認してください。

*入学年度により履修開始の表現が異なります。

2003年度以降入学生用目次 : 履修開始 学期

2002年度以前入学生用目次 : 履修開始 学年

*履修不可学科の表記

外：外国語学部	経：経済学部	法：法学部
独：ドイツ語学科	済：経済学科	律：法律学科
英：英語学科	営：経営学科	国：国際関係法学科
仏：フランス語学科		
言：言語文化学科		
言(*1)：言語文化学科、スペイン語履修者		
言(*2)：言語文化学科、中国語履修者		

① 全カリ (春) 外共	② 科目名 科目名	③ 担当者
④ 講義目的、講義概要 【 春学期 】	⑤ 授業計画 第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週	
	⑥ テキスト、参考文献	⑦ 評価方法
① 全カリ (秋) 外共	② 科目名 科目名	③ 担当者
④ 講義目的、講義概要 【 秋学期 】	⑤ 授業計画 第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週	
	⑥ テキスト、参考文献	⑦ 評価方法

*上段は、春学期科目です。

①② 入学年度により科目が異なります。

全カリ=全学共通授業科目 (学期完結)

全カリ = 2003年度以降入学生対象

05全カリ = 2005年度入学生対象

03全カリ = 2003年度から2004年度入学生対象

外共=外国語学部共通科目 (原則として通年)

③ 担当教員氏名

④ 授業の目的や講義全体の説明、学生への要望が記載してあります。

⑤ 学期の授業計画についての欄です。

各週ごとに講義するテーマが記載してあります。

⑥ 授業で使用するテキストや参考となる文献が記載してあります。

⑦ 春学期完結科目は春学期終了時に成績評価が出ます。

秋学期完結科目と通年科目は秋学期終了時に成績評価が出ます。

*下段は、秋学期科目です。

各項目については、春学期と同一です。

[注意]

1. 定員

「全学共通授業科目」および合併される

「外国語学部共通科目」は、定員を設けて

います。「授業時間割表」を参照してください。

2. 集中講義

集中講義を伴うスポーツ・リクリエーション科目は上・下両段に記載してあります。開講学期に注意してください。

2005年度入学生 学則別表

別表Ⅳ 全学共通授業科目

別表Ⅳ-1 全学総合科目

科目群	カテゴリー	部門	科目	単位	
講義科目	I	全学総合講座	哲学a	2	
			哲学b	2	
			倫理学a	2	
			倫理学b	2	
			社会思想史a	2	
			社会思想史b	2	
			心理学a	2	
			心理学b	2	
			言語学a	2	
			言語学b	2	
			文学a	2	
			文学b	2	
			歴史と文化	歴史学a	2
				歴史学b	2
				文化人類学a	2
		文化人類学b		2	
		現代文化論a**		2	
		現代文化論b**		2	
		比較文化論a*		2	
		比較文化論b*		2	
		現代社会		経済学a**	2
				経済学b**	2
				日本国憲法	2
				国際法a	2
				国際法b	2
				政治学a	2
				政治学b	2
			社会学a	2	
			社会学b	2	
			地理学a	2	
	地理学b		2		
	女性学a		2		
	女性学b		2		
	自然・環境・人間		数学a	2	
			数学b	2	
		物理学a	2		
物理学b		2			
化学a		2			
化学b		2			
生物学a		2			
生物学b		2			
地球科学a		2			
地球科学b		2			
健康科学a		2			
健康科学b		2			
スポーツ・レクリエーション学a		2			
スポーツ・レクリエーション学b		2			
III		ことばと思想	ことばと思想(Ⅲ)	2	
	歴史と文化	歴史と文化(Ⅲ)	2		
	現代社会	現代社会(Ⅲ)	2		
	自然・環境・人間	自然・環境・人間(Ⅲ)	2		
講義・実習科目	IV	ことばと思想	ことばと思想(Ⅳ)	2	
		歴史と文化	歴史と文化(Ⅳ)	2	
		現代社会	現代社会(Ⅳ)	2	
		自然・環境・人間	自然・環境・人間(Ⅳ)	2	
体育科目	V	スポーツ・レクリエーション	1		

備考:

- (1) 全学共通授業科目の履修については学則別表Ⅰ～Ⅲの定めるところによる。
 - (2) *外国語学部言語文化学科からの学部提供科目。**経済学部からの学部提供科目。
- 本表は、2003年度入学者から適用する。

付記: 教職課程にかかる科目は、学則別表Ⅴによるが、運用にあたっては以下の通りとする。

- (1) 学則別表Ⅴ-1「教職に関する科目」の「第二欄」の科目は全学総合科目の「カテゴリーⅠ」の科目に読みかえることができる。
- (2) 学則別表Ⅴ-1「教職に関する科目」の「第三欄」の科目は全学総合科目の「カテゴリーⅡ」の科目に読みかえることができる。
- (3) 学則別表Ⅴ-2「各学部共通科目」は全学総合科目の「カテゴリーⅡ」の科目に読みかえることができる。
- (4) 学則別表Ⅴ-1「教職に関する科目」の「第四欄」の科目の内、「各教科の指導法」を除く科目は全学総合科目の「カテゴリーⅢ」の科目に読みかえることができる。
- (5) 学則別表Ⅴ-1「教職に関する科目」の「第五欄」の科目は全学総合科目の「カテゴリーⅣ」の科目に読みかえることができる。
- (6) 学則別表Ⅴ-3「教科または教職に関する科目」の内、「介護ボランティアの理論と実践」は全学総合科目の「カテゴリーⅣ」の科目に読みかえることができる。

以上の読みかえは、合計20単位までとする。

2005年度入学生 学則別表

別表IV-2 外国語科目

部門	科目	単位
英語科目	English 110-a Introductory Reading Strategies	1
	English 110-b Introductory Reading Strategies	1
	English 111-a Basic Reading Strategies	1
	English 111-b Basic Reading Strategies	1
	English 112-a Reading Strategies	1
	English 112-b Reading Strategies	1
	English 121-a Basic Composition	1
	English 121-b Basic Composition	1
	English 122-a Composition	1
	English 122-b Composition	1
	English 131-a Basic Communicative English	1
	English 131-b Basic Communicative English	1
	English 132-a Communicative English	1
	English 132-b Communicative English	1
	English 141-a Basic Listening Comprehension	1
	English 141-b Basic Listening Comprehension	1
	English 142-a Speech Communication	1
	English 142-b Speech Communication	1
	English 211-a Basic Reading Strategies	1
	English 211-b Basic Reading Strategies	1
	English 212-a Reading Strategies	1
	English 212-b Reading Strategies	1
	English 221-a Basic Composition	1
	English 221-b Basic Composition	1
	English 222-a Composition	1
	English 222-b Composition	1
	English 231-a Basic Communicative English	1
	English 231-b Basic Communicative English	1
	English 232-a Communicative English	1
	English 232-b Communicative English	1
	English 241-a Basic Listening Comprehension	1
	English 241-b Basic Listening Comprehension	1
	English 242-a Speech Communication	1
	English 242-b Speech Communication	1
	English 311-a Reading English for Specific Purposes	1
English 311-b Reading English for Specific Purposes	1	
English 321-a Writing English for Specific Purposes	1	
English 321-b Writing English for Specific Purposes	1	
English 331-a Speech Communication	1	
English 331-b Speech Communication	1	
English 351 Computer-Assisted English Learning*	2	
英語以外の外国語科目	ドイツ語 I a	1
	ドイツ語 I b	1
	ドイツ語 II a	1
	ドイツ語 II b	1
	ドイツ語 III a	1
	ドイツ語 III b	1
	フランス語 I a	1
	フランス語 I b	1
	フランス語 II a	1
	フランス語 II b	1
	フランス語 III a	1
	フランス語 III b	1
	スペイン語 I a	1
	スペイン語 I b	1
	スペイン語 II a	1
	スペイン語 II b	1
	スペイン語 III a	1
	スペイン語 III b	1
中国語 I a	1	
中国語 I b	1	
中国語 II a	1	
中国語 II b	1	
中国語 III a	1	
中国語 III b	1	

部門	科目	単位
英語以外の外国語科目	イタリア語 I a	1
	イタリア語 I b	1
	イタリア語 II a	1
	イタリア語 II b	1
	ポルトガル語 I a	1
	ポルトガル語 I b	1
	ポルトガル語 II a	1
	ポルトガル語 II b	1
	ロシア語 I a	1
	ロシア語 I b	1
	ロシア語 II a	1
	ロシア語 II b	1
	朝鮮語 I a	1
	朝鮮語 I b	1
	朝鮮語 II a	1
	朝鮮語 II b	1
	タイ語 I a	1
	タイ語 I b	1
	タイ語 II a	1
	タイ語 II b	1
	アラビア語 I a	1
アラビア語 I b	1	
アラビア語 II a	1	
アラビア語 II b	1	
現代ヘブライ語 I a	1	
現代ヘブライ語 I b	1	
現代ヘブライ語 II a	1	
現代ヘブライ語 II b	1	
古典語科目	古典ギリシア語 I a	2
	古典ギリシア語 I b	2
	古典ギリシア語 II a	2
	古典ギリシア語 II b	2
	ラテン語 I a	2
	ラテン語 I b	2
ラテン語 II a	2	
ラテン語 II b	2	

備考:

(1) 全学共通授業科目の履修については学則別表 I ~ III の定めるところによる。

(2) *を付した「English 351 Computer-Assisted English Learning」は、45分×4コマの正規授業と、それと同等の自習時間により2単位科目とする。

○ 本表は、2005年度入学者から適用する。

ただし、中国語 III a、中国語 III b、およびイタリア語 I a、イタリア語 I b、ならびにイタリア語 II a、イタリア語 II bは2003年度入学者から適用する。

2003～2004年度入学生 学則別表

別表Ⅳ 全学共通授業科目

別表Ⅳ-1 全学総合科目

科目群	カテゴリ	部門	科目	単位
講義科目	I	全学総合講座	ことばと思想	2
			哲学a	2
			哲学b	2
			倫理学a	2
			倫理学b	2
			社会思想史a	2
			社会思想史b	2
			心理学a	2
			心理学b	2
			言語学a	2
			言語学b	2
			文学a	2
			文学b	2
			歴史と文化	2
			歴史学a	2
			歴史学b	2
			文化人類学a	2
			文化人類学b	2
			現代文化論a **	2
			現代文化論b **	2
			比較文化論a *	2
			比較文化論b *	2
			現代社会	2
			経済学a **	2
			経済学b **	2
			日本国憲法	2
			国際法a	2
			国際法b	2
			政治学a	2
			政治学b	2
	社会学a	2		
	社会学b	2		
	地理学a	2		
	地理学b	2		
	女性学a	2		
	女性学b	2		
	自然・環境・人間	2		
	数学a	2		
	数学b	2		
	物理学a	2		
	物理学b	2		
	化学a	2		
化学b	2			
生物学a	2			
生物学b	2			
地球科学a	2			
地球科学b	2			
健康科学a	2			
健康科学b	2			
スポーツ・レクリエーション学a	2			
スポーツ・レクリエーション学b	2			
III	ことばと思想	ことばと思想(Ⅲ)	2	
	歴史と文化	歴史と文化(Ⅲ)	2	
	現代社会	現代社会(Ⅲ)	2	
	自然・環境・人間	自然・環境・人間(Ⅲ)	2	
講義・実習科目	IV	ことばと思想	ことばと思想(Ⅳ)	2
		歴史と文化	歴史と文化(Ⅳ)	2
		現代社会	現代社会(Ⅳ)	2
		自然・環境・人間	自然・環境・人間(Ⅳ)	2
体育科目	V	スポーツ・レクリエーション	1	

備考:

- (1) 全学共通授業科目の履修については学則別表Ⅰ～Ⅲの定めるところによる。
 - (2) *外国語学部言語文化学科からの学部提供科目。**経済学部からの学部提供科目。
- 本表は、2003年度入学者から適用する。

付記: 教職課程にかかる科目は、学則別表Ⅴによるが、運用にあたっては以下の通りとする。

- (1) 学則別表Ⅴ-1「教職に関する科目」の「第二欄」の科目は全学総合科目の「カテゴリⅠ」の科目に読みかえることができる。
- (2) 学則別表Ⅴ-1「教職に関する科目」の「第三欄」の科目は全学総合科目の「カテゴリⅡ」の科目に読みかえることができる。
- (3) 学則別表Ⅴ-2「各学部共通科目」は全学総合科目の「カテゴリⅡ」の科目に読みかえることができる。
- (4) 学則別表Ⅴ-1「教職に関する科目」の「第四欄」の科目の内、「各教科の指導法」を除く科目は全学総合科目の「カテゴリⅢ」の科目に読みかえることができる。
- (5) 学則別表Ⅴ-1「教職に関する科目」の「第五欄」の科目は全学総合科目の「カテゴリⅣ」の科目に読みかえることができる。
- (6) 学則別表Ⅴ-3「教科または教職に関する科目」の内、「介護ボランティアの理論と実践」は全学総合科目の「カテゴリⅣ」の科目に読みかえることができる。

以上の読みかえは、合計20単位までとする。

2003~2004年度入学生 学則別表

別表IV-2 外国語科目

部門	科目	単位	部門	科目	単位	
英語科目	English 110-a Introductory Reading Strategies	1	英語以外の外国語科目	スペイン語 I Aa	1	
	English 110-b Introductory Reading Strategies	1		スペイン語 I Ab	1	
	English 111-a Basic Reading Strategies	1		スペイン語 I Ba	1	
	English 111-b Basic Reading Strategies	1		スペイン語 I Bb	1	
	English 112-a Reading Strategies	1		スペイン語 I Ca	1	
	English 112-b Reading Strategies	1		スペイン語 I Cb	1	
	English 121-a Basic Composition	1		スペイン語 II Aa	1	
	English 121-b Basic Composition	1		スペイン語 II Ab	1	
	English 122-a Composition	1		スペイン語 II Ba	1	
	English 122-b Composition	1		スペイン語 II Bb	1	
	English 131-a Basic Communicative English	1		スペイン語 II Ca	1	
	English 131-b Basic Communicative English	1		スペイン語 II Cb	1	
	English 132-a Communicative English	1		スペイン語 III Aa	1	
	English 132-b Communicative English	1		スペイン語 III Ab	1	
	English 141-a Basic Listening Comprehension	1		スペイン語 III Ba	1	
	English 141-b Basic Listening Comprehension	1		スペイン語 III Bb	1	
	English 142-a Speech Communication	1		中国語 I Aa	1	
	English 142-b Speech Communication	1		中国語 I Ab	1	
	English 211-a Basic Reading Strategies	1		中国語 I Ba	1	
	English 211-b Basic Reading Strategies	1		中国語 I Bb	1	
	English 212-a Reading Strategies	1		中国語 I Ca	1	
	English 212-b Reading Strategies	1		中国語 I Cb	1	
	English 221-a Basic Composition	1		中国語 II Aa	1	
	English 221-b Basic Composition	1		中国語 II Ab	1	
	English 222-a Composition	1		中国語 II Ba	1	
	English 222-b Composition	1		中国語 II Bb	1	
	English 231-a Basic Communicative English	1		中国語 II Ca	1	
	English 231-b Basic Communicative English	1		中国語 II Cb	1	
	English 232-a Communicative English	1		ポルトガル語 I a	1	
	English 232-b Communicative English	1		ポルトガル語 I b	1	
	English 241-a Basic Listening Comprehension	1		ポルトガル語 II a	1	
	English 241-b Basic Listening Comprehension	1		ポルトガル語 II b	1	
	English 242-a Speech Communication	1		ロシア語 I Aa	1	
	English 242-b Speech Communication	1		ロシア語 I Ab	1	
	English 311-a Reading English for Specific Purposes	1		ロシア語 I Ba	1	
	English 311-b Reading English for Specific Purposes	1		ロシア語 I Bb	1	
	English 321-a Writing English for Specific Purposes	1		ロシア語 II Aa	1	
	English 321-b Writing English for Specific Purposes	1		ロシア語 II Ab	1	
	English 331-a Speech Communication	1		ロシア語 II Ba	1	
	English 331-b Speech Communication	1		ロシア語 II Bb	1	
	English 351 Computer-Assisted English Learning*	2		朝鮮語 I Aa	1	
	英語以外の外国語科目	ドイツ語 I Aa		1	朝鮮語 I Ab	1
		ドイツ語 I Ab		1	朝鮮語 I Ba	1
		ドイツ語 I Ba		1	朝鮮語 I Bb	1
		ドイツ語 I Bb		1	朝鮮語 II Aa	1
		ドイツ語 I Ca		1	朝鮮語 II Ab	1
		ドイツ語 I Cb		1	朝鮮語 II Ba	1
		ドイツ語 II Aa		1	朝鮮語 II Bb	1
		ドイツ語 II Ab		1	タイ語 I a	1
		ドイツ語 II Ba		1	タイ語 I b	1
		ドイツ語 II Bb		1	タイ語 II a	1
ドイツ語 II Ca		1	タイ語 II b	1		
ドイツ語 II Cb		1	アラビア語 I a	1		
ドイツ語 III Aa		1	アラビア語 I b	1		
ドイツ語 III Ab		1	アラビア語 II a	1		
ドイツ語 III Ba		1	アラビア語 II b	1		
ドイツ語 III Bb		1	現代ヘブライ語 I a	1		
フランス語 I Aa		1	現代ヘブライ語 I b	1		
フランス語 I Ab		1	現代ヘブライ語 II a	1		
フランス語 I Ba		1	現代ヘブライ語 II b	1		
フランス語 I Bb		1	古典ギリシア語	古典ギリシア語 I a	2	
フランス語 I Ca		1		古典ギリシア語 I b	2	
フランス語 I Cb		1		古典ギリシア語 II a	2	
フランス語 II Aa		1		古典ギリシア語 II b	2	
フランス語 II Ab		1		ラテン語	ラテン語 I a	2
フランス語 II Ba		1			ラテン語 I b	2
フランス語 II Bb		1			ラテン語 II a	2
フランス語 II Ca		1			ラテン語 II b	2
フランス語 II Cb		1				
フランス語 III Aa		1				
フランス語 III Ab		1				
フランス語 III Ba		1				
フランス語 III Bb		1				

備考:

- (1) 全学共通授業科目の履修については学則別表 I ~ III の定めるところによる。
 - (2) *を付した「English351 Computer-Assisted English Learning」は、45分×4コマの正規授業と、それと同等の自習時間により2単位科目とする。
- 本表は、2003年度入学者から適用する。

全学共通授業科目 (2003年度以降入学生用)

目次

〔全学総合科目〕 カテゴリーⅠ～Ⅴ

カテゴリーⅠ 全学総合講座

科目名	開講期	曜時	担当教員	単位数	開始学期	履修不可	ページ
全学総合講座(現代世界論)	秋	木 4	佐藤 勤治	2	1	言	1
全学総合講座(日本文化を考える-ことばとこころ)	春	木 3	飯島 一彦	2	1		2
全学総合講座(キャンパスライフと仕事)	春	木 2	伊藤 為一郎	2	1		3
全学総合講座(キャンパスライフと仕事)	秋	木 2	伊藤 為一郎	2	1		3
全学総合講座(子どもの人権と子どもの権利条約)	秋	水 3	市川 須美子	2	1		4
全学総合講座(獨協学)	春	水 2	新井 孝重	2	1		5
全学総合講座(グローバル社会のなかの「ニッポン」)	春	木 3	岡村 圭子	2	1		6
全学総合講座(多文化社会のビジネスとリスク・マネジメント)	秋	木 3	岡村 圭子	2	1		7
全学総合講座(21世紀を探るⅠ)	春	火 3	辻 康吾	2	1		8
全学総合講座(21世紀を探るⅡ)	秋	火 3	辻 康吾	2	1		9
全学総合講座(国家と国境を考える:地域・民族・国家)	春	金 2	佐藤 勤治	2	1		10
全学総合講座(国家と国境を考える:地域・民族・国家)	秋	金 2	古川 堅治	2	1		10
全学総合講座(スポーツ・健康の世界)	春	木 4	松原 裕	2	1		11
全学総合講座(スポーツ・健康の世界)	秋	木 4	松原 裕	2	1		11
全学総合講座(環境学)	春	火 2	湯田 雅夫	2	1		12
全学総合講座(環境学)	秋	火 2	湯田 雅夫	2	1		12
全学総合講座(教えるという仕事)	春	火 5	川村 肇	2	1		13
全学総合講座(教えるという仕事)	秋	火 5	川村 肇	2	1		13
全学総合講座(ものづくりの現場から)	春	金 3	上坂 卓郎	2	1		14
全学総合講座(ものづくりの現場から)	秋	金 3	上坂 卓郎	2	1		14
全学総合講座(働くための基礎知識-知って得する労働問題)	春	月 2	斉藤 美彦	2	1		15
全学総合講座(心と体の健康)	春	月 4	田口 雅徳	2	1		16
全学総合講座(自由時間設計)	秋	火 3	和田 智	2	1		17
全学総合講座(NPO論 人を変える・地域を変える・世界を変える)	春	水 2	高松 和幸	2	1		18

カテゴリーⅡ 概論科目

科目名	開講期	曜時	担当教員	単位数	開始学期	履修不可	ページ
哲学a(哲学の諸問題)	春	月 2	谷口 郁夫	2	1		19
哲学b(死を哲学する)	秋	月 2	谷口 郁夫	2	2		19
哲学b(生きる意味)	秋	金 3	松丸 壽雄	2	2		20
倫理学a(倫理の基本について考える)	春	火 3	市川 達人	2	1		21
倫理学b(環境と生命の倫理)	秋	火 3	市川 達人	2	2		21
社会思想史b(錬金術と現代)	秋	水 2	松丸 壽雄	2	2		22
社会思想史a(市民的社會像の黎明期)	春	火 4	市川 達人	2	1		23
社会思想史b(市民的社會像の確立期)	秋	火 4	市川 達人	2	2		23
心理学a(知覚・認知)	春	月 1	増田 直衛	2	1		24
心理学b(行動・個性)	秋	月 1	増田 直衛	2	2		24
心理学a(知覚・認知)	春	月 2	増田 直衛	2	1		24
心理学b(行動・個性)	秋	月 2	増田 直衛	2	2		24
心理学a(人間の行動・認知・感情の共通法則)	春	木 1	杉山 憲司	2	1		25
心理学b(人間の個性・多様性理解)	秋	木 1	杉山 憲司	2	2		25
心理学a(人間の行動・認知・感情の共通法則)	春	木 2	杉山 憲司	2	1		25
心理学b(人間の個性・多様性理解)	秋	木 2	杉山 憲司	2	2		25

言語学a(一般言語学)	春	月 3	浅山 佳郎	2	1	26
言語学b(一般言語学)	秋	月 3	二宮 哲	2	2	26
言語学a(日本語とはどのような言語か)	春	木 4	小島 幸枝	2	1	27
言語学b(辞書を読む)	秋	木 4	小島 幸枝	2	2	27
言語学a(母語の修得と日本人)	春	木 3	桂 千佳子	2	1	28
言語学b(コトバの構造と文法観)	秋	木 3	桂 千佳子	2	2	28
文学a(恐怖の日本文学)	春	水 2	佐藤 毅	2	1	29
文学b(癒しの日本文学)	秋	水 2	佐藤 毅	2	2	29
文学a(日本文学-上代から中古前期)	春	月 3	福沢 健	2	1	30
文学b(日本文学-中古後期から現代)	秋	月 3	福沢 健	2	2	30
文学a(スペイン文学)	春	水 3	野々山 ミチコ	2	1	31
文学b(ラテンアメリカ文学)	秋	水 3	野々山 ミチコ	2	2	31
文学a(文学としての聖書)	春	火 2	宮谷 尚実	2	1	32
文学b(文学とそのリメイク)	秋	火 2	宮谷 尚実	2	2	32
歴史学a(日本中世社会における「悪党」)	春	土 1	新井 孝重	2	1	33
歴史学b(中世「悪党」の諸相)	秋	土 1	新井 孝重	2	2	33
歴史学a(「15年戦争」をどうとらえるか)	春	木 4	丸浜 昭	2	3	言 34
歴史学b(戦後史の中の「15年戦争」)	秋	木 4	丸浜 昭	2	4	言 34
歴史学a(イスラーム世界の成立と拡大)	春	木 3	熊谷 哲也	2	1	35
歴史学b(イスラーム世界の近代化とその後)	秋	木 3	熊谷 哲也	2	2	35
歴史学a(中国近代史概説-清朝国家の黄昏)	春	木 4	張 士陽	2	1	36
歴史学b(中国近代史概説-変革の諸相)	秋	木 4	張 士陽	2	2	36
歴史学a(「ヨーロッパ時代」のユダヤの歴史(1))	春	火 2	増谷 英樹	2	1	37
歴史学b(「ヨーロッパ時代」のユダヤの歴史(2))	秋	火 2	増谷 英樹	2	2	37
歴史学a(ヨーロッパの歴史-統合と分裂の視点から)	秋	金 3	古川 堅治	2	2	38
歴史学b(バルカン情勢の現在-地域・国家・民族の視点から)	秋	金 1	古川 堅治	2	2	39
歴史学a(アメリカのエスニック・ヒストリー)	春	金 3	佐藤 唯行	2	1	40
歴史学b(アメリカのエスニック・ヒストリー)	秋	金 3	佐藤 唯行	2	2	40
文化人類学a(未開文化の理解へ)	春	火 2	井上 兼行	2	1	41
文化人類学b(未開文化の理解へ)	秋	火 2	井上 兼行	2	2	41
文化人類学a(未開文化の理解へ)	春	火 3	井上 兼行	2	1	41
文化人類学b(未開文化の理解へ)	秋	火 3	井上 兼行	2	2	41
現代文化論a(グローバリゼーションを巡って)	春	水 3	柴崎 信三	2	1	経 42
現代文化論b(日本の表象と世界)	秋	水 3	柴崎 信三	2	2	経 42
比較文化論a(東西の文化を結ぶもの)	春	木 4	熊谷 哲也	2	3	言 43
比較文化論b(東西文化と近代化)	秋	木 4	熊谷 哲也	2	4	言 43
経済学a(理論経済学の基礎的理解)	春	火 1	片岡 晴雄	2	1	経 44
経済学b(理論経済学の基礎的理解)	秋	火 1	片岡 晴雄	2	2	経 44
経済学a(国民所得の概念と決定メカニズム)	春	水 2	浜本 光紹	2	1	経 45
経済学b(経済政策の基礎理論と課題)	秋	水 2	浜本 光紹	2	2	経 45
日本国憲法(憲法と私たち)	春	火 3	高佐 智美	2	1	法 46
日本国憲法(憲法と私たち)	春	水 2	大藤 紀子	2	1	法 47
日本国憲法(憲法と私たち)	秋	水 2	大藤 紀子	2	1	法 47
国際法a(国際社会と私たち)	春	火 3	廣部 和也	2	1	48
国際法b(国際紛争を考える)	秋	火 3	廣部 和也	2	2	48
政治学a(身近な政治学)	春	火 2	雨宮 昭一	2	1	49
政治学b(参加する政治学)	秋	火 2	雨宮 昭一	2	2	49
社会学a(他者と自己)	春	土 1	岡村 圭子	2	1	50
社会学b(現代社会の諸問題)	秋	土 1	岡村 圭子	2	2	50
社会学a(他者と自己)	春	土 2	岡村 圭子	2	1	50
社会学b(現代社会の諸問題)	秋	土 2	岡村 圭子	2	2	50
地理学a(自然環境と文化)	春	水 2	秋本 弘章	2	1	51
地理学b(自然環境と文化)	秋	水 2	秋本 弘章	2	2	51
地理学a(世界の自然環境と文化)	春	月 2	犬井 正	2	1	言 52
地理学b(世界の自然環境と文化)	秋	月 2	犬井 正	2	2	言 52
女性学a(女性学と女性の歴史)	春	水 2	井上 たか子	2	1	53
女性学b(女性学と女性の現状)	秋	水 2	井上 たか子	2	2	53
数学a(微分学)	春	月 3	福井 尚生	2	1	54
数学b(積分学)	秋	月 3	福井 尚生	2	2	54

物理学a(特殊相対論の世界)	春	金 4	東 孝博	2	1	55
物理学b(一般相対論の世界)	秋	金 4	東 孝博	2	2	55
化学b(生命と健康の化学)	秋	火 4	和田 浩志	2	2	56
生物学a(植物の特性と自然の仕組み)	春	火 1	加藤 僖重	2	1	57
生物学b(植物の分布)	秋	火 1	加藤 僖重	2	2	57
生物学a(植物の特性と自然の仕組み)	春	火 3	加藤 僖重	2	1	57
生物学b(植物の分布)	秋	火 3	加藤 僖重	2	2	57
地球科学a(恒星天文学)	春	水 1	福井 尚生	2	1	58
地球科学b(銀河天文学)	秋	水 1	福井 尚生	2	2	58
スポーツ・レクリエーション学a(身体運動と生体の生理的变化)	春	木 2	梶野 克之	2	1	59
スポーツ・レクリエーション学b(トレーニングの科学的基礎)	秋	木 2	梶野 克之	2	2	59
スポーツ・レクリエーション学a(自由時間とクオリティオブライフを考えよう)	春	金 3	和田 智	2	1	経 60
スポーツ・レクリエーション学b(最近のスポーツ・健康に関する話題を正しく知ろう)	秋	金 3	和田 智	2	2	経 60

カテゴリーⅢ 各論科目

科目名	開講期	曜時	担当教員	単位数	開始学期	履修不可	ページ
ことばと思想(Ⅲ)(悪の思想史)	春	月 3	谷口 郁夫	2	1		61
ことばと思想(Ⅲ)(ニヒリズムの克服と生きる意味)	秋	月 3	谷口 郁夫	2	2		61
ことばと思想(Ⅲ)(英語圏の社会と思想a)	春	月 2	福井 嘉彦	2	3	英	62
ことばと思想(Ⅲ)(英語圏の社会と思想b)	秋	月 2	福井 嘉彦	2	4	英	62
ことばと思想(Ⅲ)(科学としての心理学とこころの世界)	春	火 2	田口 雅徳	2	1		63
ことばと思想(Ⅲ)(外国語としての日本語教育)	秋	火 4	中西 家栄子	2	2	言	64
ことばと思想(Ⅲ)(通訳・翻訳論)	秋	火 3	永田 小絵	2	4	言	65
ことばと思想(Ⅲ)(言語音の構造a)	春	火 2	伊豆山 敦子	2	1		66
ことばと思想(Ⅲ)(言語音の構造b)	秋	火 2	伊豆山 敦子	2	2		66
ことばと思想(Ⅲ)(国文法から日本語文法へ)	春	金 3	城田 俊	2	1	言	67
ことばと思想(Ⅲ)(国語学から日本語学へ)	秋	金 3	城田 俊	2	2	言	67
歴史と文化(Ⅲ)(日本思想史a)	春	木 3	川村 肇	2	3	言	68
歴史と文化(Ⅲ)(日本思想史b)	秋	木 3	川村 肇	2	4	言	68
歴史と文化(Ⅲ)(能楽における中世武士の諸像a)	春	火 2	瀬尾 菊次	2	3	言	69
歴史と文化(Ⅲ)(能楽における中世武士の諸像b)	秋	火 2	瀬尾 菊次	2	4	言	69
歴史と文化(Ⅲ)(日本事情とコミュニケーション教育)	秋	木 4	小山 慎治	2	2		70
歴史と文化(Ⅲ)(西洋美術史b)	秋	火 3	前川 久美子	2	2		71
歴史と文化(Ⅲ)(おもしろまじめな芝居のミカタa)	春	月 3	児嶋 一男	2	3	英	72
歴史と文化(Ⅲ)(おもしろまじめな芝居のミカタb)	秋	月 3	児嶋 一男	2	4	英	72
歴史と文化(Ⅲ)(アメリカの詩の楽しみ方)	春	火 2	原 成吉	2	3	英	73
歴史と文化(Ⅲ)(イギリスの詩の楽しみ方)	秋	月 4	白鳥 正孝	2	4	英	73
歴史と文化(Ⅲ)(グローバル化とイスラム-公と私)	春	月 2	水口 章	2	1		74
歴史と文化(Ⅲ)(移民・交易に見る文化変容)	秋	月 2	水口 章	2	2		74
歴史と文化(Ⅲ)(未開人の認識a)	春	月 2	井上 兼行	2	1		75
歴史と文化(Ⅲ)(未開人の認識b)	秋	月 2	井上 兼行	2	2		75
歴史と文化(Ⅲ)(都市と建築)	秋	火 1	鈴木 隆	2	2		76
歴史と文化(Ⅲ)(イタリアの音楽史)	春	木 3	園田 みどり	2	1		77
歴史と文化(Ⅲ)(イタリアの声楽曲)	秋	木 3	園田 みどり	2	2		77
歴史と文化(Ⅲ)(英語圏の小説a)	春	水 2	藤田 永祐	2	3	英	78
歴史と文化(Ⅲ)(英語圏の小説b)	秋	火 3	北澤 滋久	2	4	英	78
現代社会(Ⅲ)(英国人は階級問題抜きで語れない)	春	火 2	有吉 広介	2	1		79
現代社会(Ⅲ)(少子・高齢社会を生きる)	秋	火 2	有吉 広介	2	2		79
現代社会(Ⅲ)(キャンパスライフと仕事Ⅱ)	春	火 3	山越 徳	2	3		80
現代社会(Ⅲ)(キャンパスライフと仕事Ⅱ)	秋	火 3	山越 徳	2	3		80
現代社会(Ⅲ)(中東政治思想a)	春	月 1	藤原 和彦	2	1		81
現代社会(Ⅲ)(中東政治思想b)	秋	月 1	藤原 和彦	2	2		81
現代社会(Ⅲ)(中国を考えるa)	春	月 3	辻 康吾	2	1		82
現代社会(Ⅲ)(中国を考えるb)	秋	月 3	辻 康吾	2	2		82
現代社会(Ⅲ)(歴史の中のメディア)	春	木 4	柴崎 信三	2	1		83
現代社会(Ⅲ)(メディアと現代社会)	秋	木 4	柴崎 信三	2	2		83

現代社会(Ⅲ)(広告論a)	春	土	2	川又 祥平	2	3	経	84
現代社会(Ⅲ)(広告論b)	秋	土	2	川又 祥平	2	4	経	84
現代社会(Ⅲ)(社会科学概論a)	春	木	1	杉田 孝夫	2	1	法	85
現代社会(Ⅲ)(社会科学概論b)	秋	木	1	杉田 孝夫	2	2	法	85
現代社会(Ⅲ)(教育法a)	春	金	1	市川 須美子	2	3	法	86
現代社会(Ⅲ)(教育法b)	秋	金	1	市川 須美子	2	4	法	86
現代社会(Ⅲ)(法学a)	春	火	2	中空 壽雅	2	1	法	87
現代社会(Ⅲ)(法学b)	秋	火	2	中空 壽雅	2	2	法	87
現代社会(Ⅲ)(東アジア国際関係の史的展開)	春	土	1	阿部 純一	2	1		88
現代社会(Ⅲ)(東アジア国際関係の現状と展望)	秋	土	1	阿部 純一	2	2		88
現代社会(Ⅲ)(アンダルシアの文化)	春	水	4	野々山 ミチコ	2	1		89
現代社会(Ⅲ)(現代スペイン社会の諸問題)	秋	水	4	野々山 ミチコ	2	2		89
自然・環境・人間(Ⅲ)(地球環境の変化とその要因)	春	火	2	鈴木 滋	2	1		90
自然・環境・人間(Ⅲ)(地球環境問題と環境保全)	秋	火	2	鈴木 滋	2	2		90
自然・環境・人間(Ⅲ)(宇宙論a)	春	金	3	福井 尚生	2	1		91
自然・環境・人間(Ⅲ)(宇宙論b)	秋	金	3	福井 尚生	2	2		91
自然・環境・人間(Ⅲ)(地球外文明論a)	春	月	1	福井 尚生	2	1		92
自然・環境・人間(Ⅲ)(地球外文明論b)	秋	月	1	福井 尚生	2	2		92

カテゴリーⅣ 実習・実践科目

科目名	開講期	曜時	担当教員	単位数	開始学期	履修不可	ページ
ことばと思想(Ⅳ)(論文を書く)	春	月	2	福沢 健	2	1	93
ことばと思想(Ⅳ)(口頭発表を行う)	秋	月	2	福沢 健	2	2	93
ことばと思想(Ⅳ)(書き言葉の問題)	春	水	1	佐藤 毅	2	1	94
ことばと思想(Ⅳ)(話し言葉の問題)	秋	水	1	佐藤 毅	2	2	94
ことばと思想(Ⅳ)(日本語口頭表現のトレーニング-コミュニケーション篇)	春	火	1	飯島 一彦	2	1	95
ことばと思想(Ⅳ)(日本語口頭表現のトレーニング-表現篇)	秋	火	1	飯島 一彦	2	2	95
ことばと思想(Ⅳ)(日本語口頭表現のトレーニング-コミュニケーション篇)	春	木	2	飯島 一彦	2	1	95
ことばと思想(Ⅳ)(日本語口頭表現のトレーニング-表現篇)	秋	木	2	飯島 一彦	2	2	95
ことばと思想(Ⅳ)(日本語文章の理論と実践a)	春	火	3	小島 幸枝	2	1	96
ことばと思想(Ⅳ)(日本語文章の理論と実践b)	秋	火	3	小島 幸枝	2	2	96
ことばと思想(Ⅳ)(作品を読む)	春	水	2	小島 幸枝	2	1	97
ことばと思想(Ⅳ)(作品を書く)	秋	水	2	小島 幸枝	2	2	97
ことばと思想(Ⅳ)(英語通訳の仕事)	春	土	1	福井 星一	2	1	98
ことばと思想(Ⅳ)(英語通訳の仕事)	秋	土	1	福井 星一	2	1	98
ことばと思想(Ⅳ)(心理検査法とこころの健康)	秋	火	2	田口 雅徳	2	2	63
現代社会(Ⅳ)(教育の現場:教師と語るa)	春	水	1	川村 肇	2	1	99
現代社会(Ⅳ)(教育の現場:教師と語るb)	秋	水	1	川村 肇	2	2	99
現代社会(Ⅳ)(インターンシップ)	春	土	1	阿部 正浩	2	3	100
現代社会(Ⅳ)(インターンシップ)	春	土	2	阿部 正浩	2	3	100
現代社会(Ⅳ)(生活に役立つ経理(A)a)	春	月	3	橋口 徹	2	1	101
現代社会(Ⅳ)(生活に役立つ経理(A)b)	秋	月	3	橋口 徹	2	2	101
現代社会(Ⅳ)(生活に役立つ経理(B)a)	春	月	2	橋口 徹	2	1	102
現代社会(Ⅳ)(生活に役立つ経理(B)b)	秋	月	2	橋口 徹	2	2	102
現代社会(Ⅳ)(コンピュータ入門a)	春			各担当教員	2	1	103
現代社会(Ⅳ)(コンピュータ入門b)	秋			各担当教員	2	2	103
現代社会(Ⅳ)(コンピュータ入門a)	春	金	3	黄 海湘	2	1	外・経 -
現代社会(Ⅳ)(コンピュータ入門b)	秋	金	3	黄 海湘	2	2	外・経 -
現代社会(Ⅳ)(コンピュータ入門a)	春	金	4	黄 海湘	2	1	外・経 -
現代社会(Ⅳ)(コンピュータ入門b)	秋	金	4	黄 海湘	2	2	外・経 -
現代社会(Ⅳ)(コンピュータ入門a)	春	火	4	久東 義典	2	1	外・経 -
現代社会(Ⅳ)(コンピュータ入門b)	秋	火	4	久東 義典	2	2	外・経 -
現代社会(Ⅳ)(コンピュータ入門a)	春	金	3	杉村 和枝	2	1	外・経 -
現代社会(Ⅳ)(コンピュータ入門b)	秋	金	3	杉村 和枝	2	2	外・経 -
現代社会(Ⅳ)(コンピュータ入門a)	春	月	2	松田 洋	2	1	外・経 -
現代社会(Ⅳ)(コンピュータ入門b)	秋	月	2	松田 洋	2	2	外・経 -

現代社会(IV)(コンピュータアドヴァンスa)	春	火 5	加藤 由樹	2	1	外・経	104
現代社会(IV)(コンピュータアドヴァンスb)	秋	火 5	加藤 由樹	2	2	外・経	104
現代社会(IV)(ホームページ作成)	春	水 5	A. ベロフ	2	1		105
現代社会(IV)(ホームページ作成)	秋	水 5	A. ベロフ	2	1		105
現代社会(IV)(ホームページ作成)	春	火 5	久東 義典	2	1		106
現代社会(IV)(ホームページ作成)	秋	火 5	久東 義典	2	1		106
現代社会(IV)(模擬国際裁判)	秋	月 2	鈴木 淳一	2	5	法	107
自然・環境・人間(IV)(身近な自然観察 春)	春	木 3	加藤 僖重	2	1		108
自然・環境・人間(IV)(身近な自然観察 秋)	秋	木 3	加藤 僖重	2	2		108
自然・環境・人間(IV)(身近な自然観察 春)	春	木 4	加藤 僖重	2	1		108
自然・環境・人間(IV)(身近な自然観察 秋)	秋	木 4	加藤 僖重	2	2		108
自然・環境・人間(IV)(東洋の健康哲学a)	春	木 1	青柳 多恵子	2	1		109
自然・環境・人間(IV)(東洋の健康哲学b)	秋	木 1	青柳 多恵子	2	2		109

カテゴリーV 体育科目

科目名	開講期	曜時	担当教員	単位数	開始学期	履修不可	ページ
スポーツ・レクリエーション(アウトドアレクリエーション)	春	火 3	青柳 多恵子	1	1		110
スポーツ・レクリエーション(アウトドア山岳)	春	集中	青柳 多恵子	1	1		110
スポーツ・レクリエーション(アウトドアレクリエーション)	春	金 2	和田 智	1	1		111
スポーツ・レクリエーション(アウトドア海浜・ウィンドサーフィン)	春	集中	和田 智	1	1		111
スポーツ・レクリエーション(アウトドアレクリエーション)	春	水 2	和田 智	1	1		111
スポーツ・レクリエーション(アウトドア海浜・ウィンドサーフィン)	春	集中	和田 智	1	1		111
スポーツ・レクリエーション(アウトドアレクリエーション)	秋	火 2	和田 智	1	2		112
スポーツ・レクリエーション(スケートトレーニング)	秋	集中	和田 智	1	2		112
スポーツ・レクリエーション(インラインスケートa/b)	春・秋	水 1	和田 智	1	1		113
スポーツ・レクリエーション(インラインスケートa/b)	春・秋	土 2	和田 智	1	1		113
スポーツ・レクリエーション(インラインスケートb)	秋	土 1	松原 裕	1	2		114
スポーツ・レクリエーション(スノースポーツ)	秋	集中	松原 裕	1	2		114
スポーツ・レクリエーション(硬式テニスa/b)	春・秋	木 1	田中 茂宏	1	1		115
スポーツ・レクリエーション(硬式テニスa/b)	春・秋	木 3	田中 茂宏	1	1		115
スポーツ・レクリエーション(硬式テニスa/b)	春・秋	火 1	松原 裕	1	1		116
スポーツ・レクリエーション(硬式テニスa/b)	春・秋	火 2	松原 裕	1	1		116
スポーツ・レクリエーション(硬式テニスa/b)	春・秋	火 3	松原 裕	1	1		116
スポーツ・レクリエーション(ゴルフa/b)	春・秋	月 1	山中 邦夫	1	1		117
スポーツ・レクリエーション(ゴルフa/b)	春・秋	月 2	山中 邦夫	1	1		117
スポーツ・レクリエーション(ゴルフa/b)	春・秋	金 1	吉田 卓司	1	1		118
スポーツ・レクリエーション(ゴルフa/b)	春・秋	金 2	吉田 卓司	1	1		118
スポーツ・レクリエーション(サッカーa/b)	春・秋	木 3	檜山 康	1	1		119
スポーツ・レクリエーション(サッカーa/b)	春・秋	土 2	松原 裕	1	1		120
スポーツ・レクリエーション(サッカーa/b)	春・秋	月 2	松本 光弘	1	1		121
スポーツ・レクリエーション(サッカーa/b)	春・秋	月 3	松本 光弘	1	1		121
スポーツ・レクリエーション(スポーツエクササイズa/b)	春・秋	水 2	梶野 克之	1	1		122
スポーツ・レクリエーション(ソフトボールa/b)	春・秋	火 1	池垣 功一	1	1		123
スポーツ・レクリエーション(ソフトボールa/b)	春・秋	火 2	池垣 功一	1	1		123
スポーツ・レクリエーション(ソフトボールa/b)	春・秋	金 2	太田 朝博	1	1		124
スポーツ・レクリエーション(ソフトボールa/b)	春・秋	木 1	萩野 元祐	1	1		125
スポーツ・レクリエーション(ソフトボールa/b)	春・秋	木 2	萩野 元祐	1	1		125
スポーツ・レクリエーション(卓球a/b)	春・秋	月 1	奥野 忠枝	1	1		126
スポーツ・レクリエーション(卓球a/b)	春・秋	月 2	奥野 忠枝	1	1		126
スポーツ・レクリエーション(卓球a/b)	春・秋	金 1	本田 稔祐	1	1		127
スポーツ・レクリエーション(卓球a/b)	春・秋	金 2	本田 稔祐	1	1		127
スポーツ・レクリエーション(卓球a/b)	春・秋	土 1	本田 稔祐	1	1		127
スポーツ・レクリエーション(卓球a/b)	春・秋	土 2	本田 稔祐	1	1		127
スポーツ・レクリエーション(バスケットボールa/b)	春・秋	金 1	勝瀬 武	1	1		128
スポーツ・レクリエーション(バスケットボールa/b)	春・秋	金 2	勝瀬 武	1	1		128
スポーツ・レクリエーション(バスケットボールa/b)	春・秋	水 1	蓬郷 尚代	1	1		129
スポーツ・レクリエーション(バスケットボールa/b)	春・秋	水 2	蓬郷 尚代	1	1		129

スポーツ・レクリエーション(バドミントンa/b)	春・秋	金 3	太田 朝博	1	1	130
スポーツ・レクリエーション(バドミントンa/b)	春・秋	火 1	梶野 克之	1	1	131
スポーツ・レクリエーション(バドミントンa/b)	春・秋	火 3	梶野 克之	1	1	131
スポーツ・レクリエーション(バドミントンa/b)	春・秋	木 3	梶野 克之	1	1	131
スポーツ・レクリエーション(バレーボールa/b)	春・秋	月 1	小川 又八朗	1	1	132
スポーツ・レクリエーション(バレーボールa/b)	春・秋	月 3	小川 又八朗	1	1	132
スポーツ・レクリエーション(バレーボールa/b)	春・秋	土 1	小山 さなえ	1	1	133
スポーツ・レクリエーション(バレーボールa/b)	春・秋	土 2	小山 さなえ	1	1	133
スポーツ・レクリエーション(フットサルa/b)	春・秋	木 2	檜山 康	1	1	134
スポーツ・レクリエーション(フットサルa/b)	春・秋	木 1	松原 裕	1	1	135
スポーツ・レクリエーション(フリスビーa/b)	春・秋	金 1	和田 智	1	1	136
スポーツ・レクリエーション(ボールルームダンスa/b)	春・秋	火 2	青柳 多恵子	1	1	137
スポーツ・レクリエーション(ボールルームダンスa/b)	春・秋	水 2	青柳 多恵子	1	1	137
スポーツ・レクリエーション(ボールルームダンスa/b)	春・秋	木 2	青柳 多恵子	1	1	137

〔外国語科目〕

英語科目

科目名	開講期	曜時	担当教員	単位数	開始 学期	履修 不可	ページ
■必修科目〔履修クラス指定科目〕							
English 111 a/b、112 a/b	春・秋		各担当教員	1	1	—	138
English 112 a/b Super	春・秋	火 5	岡田 圭子	1	1	—	139
English 121 a/b、122 a/b (国際関係法学科)	春・秋		各担当教員	1	1	—	140
English 141 a/b (独・仏学科)	春・秋		各担当教員	1	1	—	141
English 141 a/b、142 a/b (経・法学部)	春・秋		各担当教員	1	1	—	141
English 142 a/b (独・仏学科)	春・秋		各担当教員	1	1	—	142
English 142 a/b Super	春・秋	金 5	J.スティベンソン	1	1	—	143
English 211a/b、212 a/b (独・仏学科、法学部)	春・秋		各担当教員	1	3	—	144
English 221a/b、222 a/b (国際関係法学科)	春・秋		各担当教員	1	3	—	145
English 241a/b、242 a/b (独・仏学科、法学部)	春・秋		各担当教員	1	3	—	146
English 311 a/b、312 a/b (独・仏学科)	春・秋		各担当教員	1	5	—	147

■対象者指定科目〔既習、外国人学生〕

English 110 a/b (既習、外国人学生)	春・秋		各担当教員	1	1	—	148
English 211 a/b (独・仏学科既習、外国人学生)	春・秋	金 2	山本 英政	1	3	—	149
English 211 a/b (経・法学部既習、外国人学生)	春・秋	火 1	C.カーペンター	1	3	—	150

■選択科目

English 121 a/b (独・仏学科)	春・秋	木 2	堀 いづみ	1	1	経・法	151
English 121 a/b (独・仏学科)	春・秋	木 3	松岡 昇	1	1	経・法	152
English 131 a/b (独・仏学科)	春・秋	火 5	G.ロビン	1	1	経・法	153
English 131 a/b (独・仏学科)	春・秋	月 3	M.ミルティアダス	1	1	経・法	154
English 131 a/b (経・法学部)	春・秋	水 3	G.コッホ	1	1	独・仏	155
English 131 a/b (経・法学部)	春・秋	月 2	R.ラミティ	1	1	独・仏	156
English 211 a/b (経済学部)	春・秋	火 3	岡田 圭子	1	3	独・仏・法	157
English 221 a/b (独・仏学科)	春・秋	火 2	福井 星一	1	3	経・法	158
English 231 a/b (独・仏学科)	春・秋	火 4	D.ブラドリ	1	3	経・法	159
English 231 a/b (経・法学部)	春・秋	水 2	C.カーペンター	1	3	独・仏	160
English 351	春	水 2	安井 美代子	2	3		161
English 351	秋	水 2	安井 美代子	2	3		161

英語以外の外国語科目

科目名	開講期	曜時	担当教員	単位数	開始 学期	履修 不可	ページ
ドイツ語 I a/b(基礎)	春・秋		各担当教員	1	1	独	162
ドイツ語 I a/b(会話)	春・秋		各担当教員	1	1	独	164
ドイツ語 IA a/b	春・秋		各担当教員	1	1	独	162
ドイツ語 IB a/b	春・秋		各担当教員	1	1	独	163
ドイツ語 IC a/b	春・秋		各担当教員	1	1	独	164
ドイツ語 IIA a/b	春・秋		各担当教員	1	3	独	165
ドイツ語 IIB a/b	春・秋		各担当教員	1	3	独	166
ドイツ語 IIC a/b	春・秋		各担当教員	1	3	独	167
ドイツ語 IIIB a/b	春・秋	木 2	田島 加奈子	1	5	独	168
フランス語 I a/b(基礎)	春・秋		各担当教員	1	1	仏	169
フランス語 I a/b(総合J)	春・秋		各担当教員	1	1	仏	170
フランス語 I a/b(総合F)	春・秋		各担当教員	1	1	仏	171
フランス語 IA a/b	春・秋		各担当教員	1	1	仏	169
フランス語 IB a/b	春・秋		各担当教員	1	1	仏	170
フランス語 IC a/b	春・秋		各担当教員	1	1	仏	171

フランス語ⅡA a/b	春・秋		各担当教員	1	3	仏	172
フランス語ⅡB a/b	春・秋		各担当教員	1	3	仏	173
フランス語ⅡC a/b	春・秋		各担当教員	1	3	仏	174
フランス語ⅢA a/b	春・秋	火 1	C.ペリセロ	1	5	仏	175
フランス語ⅢA a/b	春・秋	金 2	F.ルーセル	1	5	仏	176
フランス語ⅢA a/b	春・秋	木 4	伊藤 幸次	1	5	仏	177
スペイン語Ⅰ a/b(文法)	春・秋		各担当教員	1	1	言(*1)	178
スペイン語Ⅰ a/b(会話)	春・秋		各担当教員	1	1	言(*1)	180
スペイン語ⅠA a/b	春・秋		各担当教員	1	1	言(*1)	178
スペイン語ⅠB a/b	春・秋		各担当教員	1	1	言(*1)	179
スペイン語ⅠC a/b	春・秋		各担当教員	1	1	言(*1)	180
スペイン語ⅡA a/b	春・秋		各担当教員	1	3	言(*1)	181
スペイン語ⅡB a/b	春・秋		各担当教員	1	3	言(*1)	182
スペイン語ⅡC a/b	春・秋		各担当教員	1	3	言(*1)	183
スペイン語ⅢA a/b	春・秋	木 4	喜多 延鷹	1	5	言(*1)	184
スペイン語ⅢB a/b	春・秋	金 5	J.フェレーラス	1	5	言(*1)	185
中国語Ⅰ a/b(会話)	春・秋		各担当教員	1	1	言(*2)	186
中国語Ⅰ a/b(講読・文法)	春・秋		各担当教員	1	1	言(*2)	188
中国語ⅠA a/b	春・秋		各担当教員	1	1	言(*2)	186
中国語ⅠB a/b	春・秋		各担当教員	1	1	言(*2)	187
中国語ⅠC a/b	春・秋		各担当教員	1	1	言(*2)	188
中国語ⅡA a/b	春・秋		各担当教員	1	3	言(*2)	189
中国語ⅡB a/b	春・秋		各担当教員	1	3	言(*2)	190
中国語ⅡC a/b	春・秋		各担当教員	1	3	言(*2)	191
中国語Ⅲ a/b(会話)	春・秋	火 4	張 継英	1	5	言(*2)	192
中国語Ⅲ a/b(講読・文法)	春・秋	火 1	石垣 寿夫	1	5	言(*2)	193
イタリア語Ⅰ a/b	春・秋	木 4	園田 みどり	1	1		194
イタリア語Ⅱ a/b	春・秋		本年度休講	1	3		—
ポルトガル語Ⅰ a/b	春・秋	木 5	牧野 真也	1	1		195
ポルトガル語Ⅱ a/b	春・秋		本年度休講	1	3		—
ロシア語Ⅰ a/b(総合)	春・秋	水 4	斉藤 毅	1	1		196
ロシア語Ⅰ a/b(会話)	春・秋	金 4	佐藤 千登勢	1	1		197
ロシア語ⅠA a/b	春・秋	水 4	斉藤 毅	1	1		196
ロシア語ⅠB a/b	春・秋	金 4	佐藤 千登勢	1	1		197
ロシア語ⅡA a/b	春・秋	金 3	佐藤 千登勢	1	3		198
ロシア語ⅡB a/b	春・秋	水 3	斉藤 毅	1	3		199
朝鮮語Ⅰ a/b(総合)	春・秋	土 1	朴 勇俊	1	1		200
朝鮮語Ⅰ a/b(講読・会話)	春・秋	土 2	李 貞美	1	1		201
朝鮮語ⅠA a/b	春・秋	土 1	朴 勇俊	1	1		200
朝鮮語ⅠB a/b	春・秋	土 2	李 貞美	1	1		201
朝鮮語ⅡA a/b	春・秋	土 1	李 貞美	1	3		202
朝鮮語ⅡBa/b	春・秋	土 2	朴 勇俊	1	3		203
タイ語Ⅰ a/b	春・秋	火 3	江藤 双恵	1	1		204
タイ語Ⅱ a/b	春・秋	火 2	江藤 双恵	1	3		205
アラビア語Ⅰ a/b	春・秋	月 3	師岡 カリーマ	1	1		206
アラビア語Ⅱ a/b	春・秋	月 2	師岡 カリーマ	1	3		207
現代ヘブライ語Ⅰ a/b	春・秋	月 3	高橋 正男	1	1		208
現代ヘブライ語Ⅱ a/b	春・秋		本年度休講	1	3		—

古典語科目

科目名	開講期	曜時	担当教員	単位数	開始学期	履修不可	ページ
古典ギリシア語Ⅰ a/b	春・秋	木 4	櫻井悠美/古川堅治	2	1		209
古典ギリシア語Ⅱ a/b	春・秋		本年度休講	2	3		—
ラテン語Ⅰ a/b	春・秋	月 2	松田 治	2	1		210
ラテン語Ⅱ a/b	春・秋		本年度休講	2	3		—

学則別表（1999年度以降入学者用）

部門	科目	単位	必修	選択必修	選択
人文科学	哲学	4		4	
	心理学	4			
	倫理学	4			
	国語学	4			
	国語表現	4			
	日本文学	4			
	外国文学	4			
	歴史学	4			
	人文科学特殊講義A	4			
人文科学特殊講義B	*2				
社会科学	経済学	4		4	8
	経済原論	4			
	政治学	4			
	日本国憲法	4			
	教育法	4			
	民法	4			
	国際法	4			
	国際関係論	4			
	社会学	4			
	社会思想史	4			
	社会心理学	4			
	文化人類学	4			
	社会科学特殊講義A	4			
	社会科学特殊講義B	*2			
自然科学	数学	4		4	
	物理学	4			
	地学	4			
	生物学	4			
	自然科学概論	4			
	自然科学特殊講義A	4			
	自然科学特殊講義B	*2			
	情報科学	*2			
コンピュータ入門	4				
情報科学概論	4				
言語学	4				
情報科学各論	*2				
日本語教育	日本語学概論	4			4
	日本語教育概論	*2			
	日本語学特殊講義A	4			
	日本語学特殊講義B	*2			
第三外国語	基礎ドイツ語Ⅰ	2			
	基礎ドイツ語Ⅱ	2			
	基礎フランス語Ⅰ	2			
	基礎フランス語Ⅱ	2			
	基礎スペイン語Ⅰ	2			
	基礎スペイン語Ⅱ	2			
	基礎ポルトガル語Ⅰ	2			
	基礎ポルトガル語Ⅱ	2			
	基礎ロシア語Ⅰ	2			
	基礎ロシア語Ⅱ	2			
	基礎中国語Ⅰ	2			
	基礎中国語Ⅱ	2			
	基礎朝鮮語Ⅰ	2			
	基礎朝鮮語Ⅱ	2			
	基礎タイ語Ⅰ	2			
	基礎タイ語Ⅱ	2			
	基礎アラビア語Ⅰ	2			
	基礎アラビア語Ⅱ	2			
	現代ヘブライ語Ⅰ	2			
	現代ヘブライ語Ⅱ	2			
	古典ギリシア語Ⅰ	4			
	古典ギリシア語Ⅱ	4			
	ラテン語Ⅰ	4			
ラテン語Ⅱ	4				
総合	総合講座A	4			
	総合講座B	*2			
保健体育	体育Ⅰ	2	2		
	体育Ⅱ	2	2		
	保健体育講義	*2			
卒業に必要な単位数合計			2	22	4
				28	

備考

- (1) *は半期完結科目を表す。
- (2) 保健体育部門を除く部門から所定の単位数を超えて修得した単位は、各学科の定める選択科目の単位数に算入される。
- (3) 言語文化学科においては、「コンピュータ入門」を必修とする。

○ 本表は、1999年度入学者から適用する。ただし、基礎ポルトガル語ⅠおよびⅡ、ならびに基礎タイ語ⅠおよびⅡは、1997年度入学者から適用する。

外国語学部共通科目 (2002年度以前入学生用)

目次

※抽選有無欄：“無し”と表記のある科目はオンライン抽選の無い科目である。空白の科目は登録が定員を超えた場合に抽選を行う。定員は履修登録会場内に掲示する。

「人文科学」部門

時間割 コード	※ 開講期 抽選 有無	科目名	担当教員	曜時	教室	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
00013		哲学	谷口 郁夫	月2	1-401	4	1	経・法	19
00010		心理学	増田 直衛	月1	5-128	4	1	経・法	24
00027		心理学	増田 直衛	月2	5-128	4	1	経・法	24
00033		心理学	田口 雅徳	火2	(春)5-403 (秋)3-205	4	1	経・法	63
00170		心理学	杉山 憲司	木1	3-404	4	1	経・法	25
00176		心理学	杉山 憲司	木2	3-404	4	1	経・法	25
00106		倫理学	市川 達人	火3	5-211	4	1	経・法	21
00186		国語学	桂 千佳子	木3	1-206	4	1	経・法	28
00204		国語学	小島 幸枝	木4	1-206	4	1	経・法	27
00014		国語表現	福沢 健	月2	3-306	4	1	経・法	93
00036	無し	国語表現	福沢 健	月4	3-404	4	1	経・法	211
00134		国語表現	飯島 一彦	火1	6-203	4	1	経・法	95
00081		国語表現	小島 幸枝	火3	1-203	4	1	経・法	96
06411		国語表現	佐藤 毅	水1	1-210	4	1	経・法	94
00153		国語表現	小島 幸枝	水2	3-209	4	1	経・法	97
00187		国語表現	飯島 一彦	木2	6-202	4	1	経・法	95
00002		日本文学	福沢 健	月3	2-404	4	1	経・法	30
06412		日本文学	佐藤 毅	水2	2-402	4	1	経・法	29
00082		外国文学	宮谷 尚実	火2	1-404	4	1	経・法	32
00124		外国文学	野々山 ミチコ	水3	4-305	4	1	経・法	31
00198		歴史学(日本史)	丸浜 昭	木4	3-402	4	1	言・経・法	34
00217		歴史学(日本史)	新井 孝重	土1	2-404	4	1	経・法	33
00188		歴史学(東洋史)	熊谷 哲也	木3	4-403	4	1	経・法	35
00001		歴史学(東洋史)	張 士陽	木4	3-404	4	1	経・法	36
07372		歴史学(西洋史)	増谷 英樹	火2	1-302	4	1	経・法	37
00246		歴史学(西洋史)	佐藤 唯行	金3	1-402	4	1	経・法	40
00159		人文科学特殊講義A(現代文化論)	柴崎 信三	水3	1-301	4	1	経	42
		人文科学特殊講義B							
00037	春	(西洋哲学史)	谷口 郁夫	月3	2-402	2	1		61
00038	秋	(哲学思想史)	谷口 郁夫	月3	2-402	2	1		61
00084	秋	(通訳文化論)	永田 小絵	火3	3-205	2	1		65
09058	秋	(西洋美術史)	前川 久美子	火3	6-101	2	1		71
00169	春	(イタリア音楽史)	園田 みどり	木3	2-404	2	1		77
00312	秋	(イタリアの声楽曲)	園田 みどり	木3	2-404	2	1		77
07373	春	(英語通訳の仕事)	福井 星一	土1	6-405	2	1		98
07374	秋	(英語通訳の仕事)	福井 星一	土1	6-405	2	1		98

時間割 コード	※ 開講期 抽選 有無	科目名	担当教員	曜時	教室	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
------------	----------------------	-----	------	----	----	-----	----------	----------	-----

「社会科学」部門

00101		経済学	片岡 晴雄	火1	4-403	4	1	経・法	44
00147		経済学	浜本 光紹	水2	1-401	4	1	経・法	45
00086		経済原論	野村 容康	火1	2-404	4	1	経・法	212
00125		政治学	雨宮 昭一	火2	1-402	4	1	経・法	49
00083		日本国憲法	加藤 一彦	火2	3-403	4	1	経・法	213
00233		教育法	市川 須美子	金1	3-402	4	1	法	86
00121		国際法	廣部 和也	火3	2-201	4	1	経・法	48
00267		国際関係論	阿部 純一	土1	3-204	4	1	法	88
00180		社会学	岡村 圭子	土1	4-403	4	1	経・法	50
00085		社会学	岡村 圭子	土2	4-403	4	1	経・法	50
00119		社会思想史	市川 達人	火4	6-201	4	1	法	23
00054	無し	社会心理学	田口 雅徳	火4	3-202	4	1		214
00089		文化人類学	井上 兼行	火2	4-407	4	1	経・法	41
00107		文化人類学	井上 兼行	火3	4-407	4	1	経・法	41
社会科学特殊講義A									
00004		(イスラム(原理)主義過激思想)	藤原 和彦	月1	6-201	4	1		81
00039		(文化人類学特殊講義)	井上 兼行	月2	2-404	4	1		75
00012		(生活に役立つ経理(B))	橋口 徹	月2	1-108	4	1		102
00015		(異文化との触れ合い)	水口 章	月2	5-403	4	1		74
00090		(現代中国論)	辻 康吾	月3	1-309	4	1		82
00034		(生活に役立つ経理(A))	橋口 徹	月3	3-203	4	1		101
00190		(現代英米社会研究)	有吉 広介	火2	1-206	4	1		79
00228		(教育の現場:教師と語る)	川村 肇	水1	2-111	4	1		99
00148		(女性学)	井上 たか子	水2	2-301	4	1		53
00071		(社会科学概論)	杉田 孝夫	木1	1-201	4	1	法	85
00216		(マスコミュニケーション論)	柴崎 信三	木4	1-404	4	2		83
00145		(広告論)	川又 祥平	土2	5-128	4	2	経	84
07753	秋	社会科学特殊講義B (日本事情とコミュニケーション教育)	小山 慎治	木4	2-404	2	1		70

「自然科学」部門

00040		数学	福井 尚生	月3	4-401	4	1	経	54
00077		物理学	東 孝博	金4	2-201	4	1		55
00127		地学	福井 尚生	水1	5-403	4	1		58
00072		生物学A	加藤 僖重	火1	2-402	4	1	経・法	57
09597		生物学A	加藤 僖重	火3	2-402	4	1	経・法	57
10139		生物学B	加藤 僖重	木3	2-206	4	1	経・法	108
10140		生物学B	加藤 僖重	木4	2-206	4	1	経・法	108
00005		自然科学概論	福井 尚生	月1	5-403	4	1	経・法	92
自然科学特殊講義A									
00271		(地球環境論)	鈴木 滋	火2	5-128	4	1	経	90
00135		(自然環境と文化)	秋本 弘章	水2	5-407	4	1	経	51
00229		(宇宙論)	福井 尚生	金3	5-403	4	1	法	91
00120	秋	自然科学特殊講義B(化学)	和田 浩志	火4	2-201	2	1		56

時間割コード ※開講期 抽選科目名 有無 担当教員 曜日 教室 単位数 開始学年 履修不可 ページ

「情報科学」部門

コンピュータ入門		各担当教員			2	1	経・法	215
00041	春	東 孝博	月3	5-207				
00137	春	長崎 等	月3	5-201				
00057	春	金子 憲一	月4	5-207				
00067	春	金子 憲一	月5	5-207				
00073	春	田中 雅英	火1	5-207				
00092	春	田中 雅英	火2	5-207				
00207	春	内田 俊郎	木4	5-207				
00252	春	松山 恵美子	金2	5-207				
00219	情報科学概論	呉 浩東	金1	1-206	4	1	経・法	216
00139	言語学	(春)浅山 佳郎 (秋)二宮 哲	月3	(春)2-301 (秋)2-403	4	1		26
00094	言語学	伊豆山 敦子	火2	6-403	4	1		66
情報科学各論(初級—表計算入門)		各担当教員			2	1	経・法	217
00140	秋	長崎 等	月2	5-207				
00043	春	金子 憲一	月3	5-101				
00069	秋	金子 憲一	月5	5-207				
00075	秋	田中 雅英	火1	5-207				
00108	春	田中 雅英	火3	5-100				
09039	春	二宮 哲	水1	5-201				
00018	秋	呉 浩東	水2	5-208				
00183	春	内田 俊郎	木2	5-207				
00192	秋	内田 俊郎	木2	5-201				
09036	秋	内田 俊郎	木3	5-207				
00230	秋	松山 恵美子	金2	5-207				
00254	春	松山 恵美子	金3	5-201				
00199	春	情報科学各論(初級—プレゼンテーション)	金井 満	火2 5-100	2	1	経・法	218
00200	秋	情報科学各論(初級—プレゼンテーション)	金井 満	火2 5-100	2	1	経・法	218
情報科学各論(初級—HTML入門)		各担当教員			2	1	経・法	219
00045	秋	東 孝博	月3	5-207				
00059	秋	金子 憲一	月4	5-207				
00095	秋	田中 雅英	火2	5-207				
00130	秋	二宮 哲	水1	5-201				
00020	春	呉 浩東	水2	5-208				
00194	春	内田 俊郎	木3	5-207				
00209	秋	内田 俊郎	木4	5-207				
09306	秋	情報科学各論(中級—表計算応用1)	松山 恵美子	金3 5-203	2	1	経・法	220
09305	春	情報科学各論(中級—表計算応用1)	松山 恵美子	金4 5-207	2	1	経・法	220
09307	秋	情報科学各論(中級—表計算応用2)	松山 恵美子	金4 5-203	2	1	経・法	221
00016	春	情報科学各論(中級—HTML応用1)	東 孝博	月2 5-203	2	1		222
00047	秋	情報科学各論(中級—HTML応用1)	金子 憲一	月3 5-101	2	1		223
00110	秋	情報科学各論(中級—HTML応用1)	田中 雅英	火3 5-100	2	1		224
00024	秋	情報科学各論(中級—HTML応用2)	東 孝博	月2 5-203	2	1		222

時間割 コード	※ 開講期 抽選 有無	科目名	担当教員	曜時	教室	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
00155	春	情報科学各論(中級—データベース1)	長崎 等	月2	5-207	2	1		225
00157	秋	情報科学各論(中級—データベース2)	長崎 等	月3	5-209	2	1		225
00142	春	情報科学各論(中級—プログラミング論1)	呉 浩東	月2	5-210	2	1	言・経・法	226
00143	秋	情報科学各論(中級—プログラミング論2)	呉 浩東	月2	5-210	2	1		226

「日本語教育」部門

00049		日本語学概論	城田 俊	金3	1-404	4	1		67
00196	秋	日本語教育概論	中西 家栄子	火4	1-206	2	1		64
07375	無し	日本語学特殊講義A	中西 家栄子	火2	1-102	4	1		227

「第三外国語」部門

基礎ドイツ語 I		各担当教員		2	2	162			
08837		鳥谷部 平四郎	月1	3-310					
08838		永岡 敦	火4	2-210					
07439		林部 圭一	火4	3-310					
07441		金井 満	木2	3-303					
07442		本橋 右京	木2	2-203					
08839		大重 光太郎	金4	6-405					
10824		柿沼 義孝	土2	6-206					
基礎ドイツ語 II		各担当教員		2	2	165			
08840		井村 行子	火3	6-405					
08841		桜井 より子	火4	3-109					
07450		前田 智	木2	5-409					
基礎フランス語 I		各担当教員		2	2	169			
07428		佐藤 領時	月3	6-205					
08976		富田 正二	火4	5-406					
08977		田中 成和	金4	6-305					
07432		松橋 麻利	土2	6-203					
基礎フランス語 II		各担当教員		2	2	172			
08978		大原 知子	月3	国2-1					
08979		渡沼 英二	金3	3-308					
07433		R. サクマ	土2	6-304					
基礎スペイン語 I		各担当教員		2	2	178			
00213		北岸 団	月2	6-307					
00122		兒島 峰	火4	4-306					
基礎スペイン語 II		各担当教員		2	2	181			
00310		北岸 団	月4	6-309					
00311		坂野 鉄也	金2	6-405					
00243		基礎ポルトガル語 I	牧野 真也	木5	4-311	2	2		195
00144		基礎ロシア語 I	齊藤 毅	水4	6-204	2	2		196
00261		基礎ロシア語 I	佐藤 千登勢	金4	6-204	2	2		167
00160		基礎ロシア語 II	齊藤 毅	水3	6-207	2	2		199
00244		基礎ロシア語 II	佐藤 千登勢	金3	6-207	2	2		198
基礎中国語 I		各担当教員		2	2	186			
09511		陳 順益	月1	3-309					
00008		張 亜紅	月2	4-314					
00009		張 亜紅	金4	5-301					

時間割 コード	※ 開講期 抽選 有無	科目名	担当教員	曜時	教室	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
		基礎中国語Ⅱ	各担当教員			2	2		189
00197			劉 岸麗	月2	4-305				
09514			張 継	金4	3-207				
00266		基礎朝鮮語Ⅰ	朴 勇俊	土1	6-305	2	2		200
00269		基礎朝鮮語Ⅰ	李 貞美	土2	6-404	2	2		201
00265		基礎朝鮮語Ⅱ	李 貞美	土1	6-202	2	2		202
00270		基礎朝鮮語Ⅱ	朴 勇俊	土2	6-305	2	2		203
00112		基礎タイ語Ⅰ	江藤 双恵	火3	3-309	2	2		204
00098		基礎タイ語Ⅱ	江藤 双恵	火2	6-309	2	2		205
00050		基礎アラビア語Ⅰ	講師 カリーマ エルサムニー	月3	6-405	2	2		206
00022		基礎アラビア語Ⅱ	講師 カリーマ エルサムニー	月2	6-206	2	2		207
00061		現代ヘブライ語Ⅰ	高橋 正男	月3	6-408	2	2		208
00211		古典ギリシア語Ⅰ	(春)櫻井 悠美 (秋)古川 堅治	木4	6-405	4	2		209
00031		ラテン語Ⅰ	松田 治	月2	4-310	4	2		210

「総合」部門

07693	春	無し	総合講座B	加藤 億重	水3	5-128	2	3	228
07692	秋	無し	総合講座B	加藤 億重	水3	5-128	2	3	228

「保健体育」部門

体育Ⅰ・Ⅱ

00032	通年	バレーボール	小川 又八朗	月1		2	1	132
00007	通年	卓球	奥野 忠枝	月1		2	1	126
00011	通年	ゴルフ	山中 邦夫	月1		2	1	117
00023	通年	卓球	奥野 忠枝	月2		2	1	126
00028	通年	サッカー	松本 光弘	月2		2	1	121
00029	通年	ゴルフ	山中 邦夫	月2		2	1	117
00053	通年	バレーボール	小川 又八朗	月3		2	1	132
00051	通年	サッカー	松本 光弘	月3		2	1	121
00078	通年	ソフトボール	池垣 功一	火1		2	1	123
00102	通年	バドミントン	梶野 克之	火1		2	1	131
00079	通年	硬式テニス	松原 裕	火1		2	1	116
00262	通年	ボールルームダンス	青柳 多恵子	火2		2	1	137
00080	通年	ソフトボール	池垣 功一	火2		2	1	123
00114	通年	硬式テニス	松原 裕	火2		2	1	116
00103	通年	バドミントン	梶野 克之	火3		2	1	131
00104	通年	硬式テニス	松原 裕	火3		2	1	116
00146	通年	バスケットボール	蓬郷 尚代	水1		2	1	129
00113	通年	インラインスケート	和田 智	水1		2	1	113
00132	通年	ボールルームダンス	青柳 多恵子	水2		2	1	137
00115	通年	スポーツエクササイズ	梶野 克之	水2		2	1	122
00133	通年	バスケットボール	蓬郷 尚代	水2		2	1	129
00150	通年	硬式テニス	田中 茂宏	木1		2	1	115
00151	通年	ソフトボール	萩野 元祐	木1		2	1	125
00161	通年	フットサル	松原 裕	木1		2	1	135
00164	通年	ボールルームダンス	青柳 多恵子	木2		2	1	137
00171	通年	ソフトボール	萩野 元祐	木2		2	1	125
00263	通年	フットサル	桧山 康	木2		2	1	134
00177	通年	バドミントン	梶野 克之	木3		2	1	131
00178	通年	硬式テニス	田中 茂宏	木3		2	1	115
00272	通年	サッカー	桧山 康	木3		2	1	119
00185	通年	バスケットボール	勝瀬 武	金1		2	1	128
00189	通年	卓球	本田 稔祐	金1		2	1	127
00223	通年	ゴルフ	吉田 卓司	金1		2	1	118

時間割 コード	開講期	※ 抽選 有無	科目名	担当教員	曜時	教室	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
00225	通年		フリスビー	和田 智	金1		2	1		136
00227	通年		ソフトボール	太田 朝博	金2		2	1		124
00234	通年		バスケットボール	勝瀬 武	金2		2	1		128
00222	通年		卓球	本田 稔祐	金2		2	1		127
00235	通年		ゴルフ	吉田 卓司	金2		2	1		118
00238	通年		バドミントン	太田 朝博	金3		2	1		130
00264	通年		バレーボール	小山 さなえ	土1		2	1		133
00268	通年		卓球	本田 稔祐	土1		2	1		127
00273	通年		バレーボール	小山 さなえ	土2		2	1		133
00275	通年		卓球	本田 稔祐	土2		2	1		127
00175	通年		サッカー	松原 裕	土2		2	1		120
00276	通年		インラインスケート	和田 智	土2		2	1		113
体育 I・II 集中授業										
00274	春		アウトドアレクリエーション (夏季集中:アウトドア山岳)	青柳 多恵子	火3		2	1		110
00152	春		アウトドアレクリエーション (夏季集中:アウトドア海浜・ウインドサーフィ)	和田 智	水2		2	1		111
00236	春		アウトドアレクリエーション (夏季集中:アウトドア海浜・ウインドサーフィ)	和田 智	金2		2	1		111
00105	秋		アウトドアレクリエーション (冬季集中:スケートトレーニング)	和田 智	火2		2	1		112
00179	秋		インラインスケート (冬季集中:スノースポーツ)	松原 裕	土1		2	1		114
保健体育講義										
00173	春		保健体育講義	青柳 多恵子	木1	3-401	2	1	経・法	109
00174	秋		保健体育講義	青柳 多恵子	木1	3-401	2	1	経・法	109
00099	春		保健体育講義	梶野 克之	木2	5-407	2	1	経・法	59
00100	秋		保健体育講義	梶野 克之	木2	5-407	2	1	経・法	59
00248	春		保健体育講義	和田 智	金3	3-402	2	1	経・法	60
00249	秋		保健体育講義	和田 智	金3	3-402	2	1	経・法	60

全カリ (秋)	全学総合講座 (現代世界論) (秋学期)	担当者	佐藤 勘治
講義目標		授業計画	
<p>この講義は、現代世界が抱える諸問題を各担当教員およびゲストスピーカーが提示する身近な具体的テーマに沿って受講生とともに深く考える場とし、専門研究への足がかりとなることを目的とする。</p> <p>現代世界は、受講者や担当教員もその構成員であることを忘れてはならない。現代世界の問題は、ほかでもない、われわれ自身の問題であることを講義を通して明らかにしたいと考えている。したがって、ここでいう現代世界は、日本以外の世界という意味ではない。</p>		<p>1 佐藤勘治 総論：</p> <p>2 岡村圭子： <u>ローカル文化とグローバル文化を結ぶもの</u></p> <p>3 永田小絵： <u>通訳／翻訳におけるディスコミュニケーション</u></p> <p>4 工藤律子 (ゲストスピーカー)：ジャーナリスト、 「ストリートチルドレンを考える会」代表 <u>第三世界の子どもたち：ストリートチルドレン・人身売買</u></p> <p>5 上村幸治 <u>日中関係の今後</u></p> <p>6 浅山佳郎 <u>外国人が日本語を学ぶ理由：「日本語の値段」をめぐって</u></p> <p>7 二宮哲 <u>「言語の死」</u></p> <p>8 佐藤勘治 <u>タイガーウッズは黒人か？人種／民族／先住民概念をめぐって</u></p> <p>9 有吉広介 <u>日・中・韓、儒教世界の現代親子関係</u></p> <p>10 田口雅徳 <u>E-mail はコミュニケーションを豊かにするか？</u></p> <p>11 浦部浩之 <u>民主主義は世界に定着するか？ 国連選挙監視団の一員として</u></p> <p>12 松丸壽雄 <u>現代世界とわたしたち</u></p>	
講義概要			
<p>言語文化学科所属教員に、それぞれの研究分野との関連から現代世界の抱える諸問題に切り込んでもらう。担当教員の専門分野は、哲学、言語学、歴史、社会学、地域研究、政治学、心理学などである。第4回目では、ジャーナリスト工藤律子氏を招いて、子どもたちをとりまく状況について講演していただく。工藤氏は、メキシコを中心にしてストリートチルドレン支援運動をおこなっているほか、アジアの人身売買問題などについても広く取材執筆活動をおこなっている。</p>			
受講生への要望			
<p>各授業の最後に、必ず質問の時間をとるようにしたい。積極的な発言を期待している。</p>			
評価方法			
<p>各担当者ごとに、小テストあるいはレポート課題が出される。評価は、それらを総合的に判断してだす。</p>			
テキスト、参考文献			
<p>各担当者が指示する。 参考文献： 工藤律子『ストリートチルドレン：メキシコシティの路上に生きる』(岩波ジュニア新書)</p>			

全カリ (春)	全学総合講座 (日本文化を考えるーことばとところ) (春学期)	担当者	飯島 一彦
講義目標		授業計画	
<p>日本文化と言った時の「日本」とは一体何を指しているのだろうか？ どういう範囲を意味して「日本」と言うのだろうか？「文化」とは何を意味しているのだろうか？ 実は分かっているようでよく分からないのだ。</p> <p>明治維新後、civilisation の訳語として「文明開化」という語が使われ、それが明治末年からつづめられて「文化」という語として使われるようになった。しかし現在では「文化」とはある特定の人間集団が重要視し、共通して持つ<u>価値観や行動の結果の総体</u>として捉えることが当然となっている。</p> <p>では我々は、我々自身の総体をどう捉えるのか？</p> <p>そのような命題を根底において、「日本語」という言葉とそれが表現する「ところ」という側面から「日本」の「文化」を考え直してみる、というのが本講座の目的である。</p>		<p>1 オリエンテーション・導入 本学教授 飯島一彦 「日本」とは何か？「文化」とは何か？</p> <p>2 日本語は特殊な言語か？ 本学教授 中西家栄子 世界の中の日本語</p> <p>3 情緒的な日本語、論理的な日本語 本学教授 飯島一彦 「随筆」と「論説文」 「情」の表現と「知」の表現</p> <p>4 日本語の表現の力Ⅰ 未定 「カタリ」の力</p> <p>5 日本語の表現の力Ⅱ 未定 「ウタ」の力</p>	
講義概要		6 日本語の表現の力Ⅲ 未定 方言の力	
<p>日本文化の基本を形成する「日本語」が、日本文化の「ところ」をどう表現してきたかを中心に、具体例を目前にして実感することを設定して、日本語を用いて生きる人間を多面的に捉えようとする試みである。</p> <p>国際化社会を迎えた我々が現実にと向き合って直面するのは、「あなたの国の文化はどんなもの？」という問い掛けである。留学経験者でそのような問い掛けを受けて返答に窮した日本人は多い。これでは国際社会で日本人は対等に交際していくことは出来まい。しかしそのような状況を「日本語は曖昧だから」とか「日本語は非論理的な言語だから」と言って、日本語を特殊で世界に通用しない言語だとおとしめることで納得していないだろうか？</p> <p>そんなことはないのだ。それを明らかにする内容で諸君に刺激を与えていく。</p>		<p>7 日本語の構造 本学教授 城田 俊 日本語の組み立て方</p> <p>8 日本語の表現と中国語の表現 本学教授 辻 康吾 諺・標語から</p> <p>9 日本語を教えるということ 本学教授 浅山佳郎 文化の衝突の中の日本語</p> <p>10 日本語の「ものの名前」 本学教授 加藤僖重 植物名が示す「ところ」</p> <p>11 歴史の中の日本語 本学教授 新井孝重 「声」の重さ</p>	
受講生への要望		12 まとめ 本学教授 飯島一彦 (題目の順番は前後する可能性があります)	
評価方法			
定期試験の成績。定期試験は各回のゲストスピーカーが採り上げた具体的なテーマをキーワードで示し、それに対する論述で行う。誤字脱字、不真面目な答案などは大幅な減点対象とする。			
テキスト、参考文献			
各回のゲストスピーカーの指定があればあらかじめ示す。			

全カリ (春・秋)	全学総合講座 (キャンパスライフと仕事) (春学期・秋学期)	担当者	伊藤 爲一郎
講義目標		授業計画	
<p>「生きる力」を強くすることがねらいです。「自分らしい生き方」を発見するにはどうしたらよいか考える時間です。国際競争の激化、情報化の進展、産業構造の変化など、日本の経済・社会をとりまく環境の変貌によって、就職・雇用情勢は大きく変わり、大学に求められる人材についても変化が起きています。社会は広く深い教養基盤の上に専門を持った人材を求めています。一方ではせっかく就職したのに、3年以内に離職する若者が3割にも達するという結果がでています。その主な理由は学生の職業意識の未熟さにあります。就職という人生で最も重要な選択を適切に行うには冷静な「自己分析」が必要です。「キャンパスライフ」の内容を問われるのです。この講義は、皆さんが個性にあった生き方をデザインし充実した学生生活をおくれるよう支援するものです。</p>		<p>第1回 オリエンテーション 講義の目的、進め方などの説明 担当：伊藤 爲一郎</p> <p>第2回 企業で働く (企業が学生に求めるもの) 担当：小室 晃 (日本IBM㈱)</p> <p>第3回 公共部門 (教員・公務員・公益法人・NPO) で働く 担当：阿部 正浩 (経済学部助教授)</p> <p>第4回 男女共同参画社会 (男女共同参画社会を推進する) 担当：草加市役所</p> <p>第5回 労働市場と雇用はどのように変化してきたか 担当：山越 徳 (経済学部教授)</p> <p>第6回 ベンチャー企業を起業する (起業を意識して働く) 担当：上中 康司 (エフエーストック㈱)</p>	
講義概要		第7回 正社員とフリーター 担当：小杉 礼子 (労働政策研究・研修機構)	
<p>講義は、伊藤爲一郎がコーディネーターを担当します。生きるためにはなにかの仕事に就かなければなりません。どのような生き方をしたいかによって選択する職業も違ってきます。どのような生き方が考えられるか、具体的な職業を例にとりながら多様な生き方があることを示します。選択のヒントを与えます。目標を達成するために何が必要か、その手順を実践的に考えてみます。目標をもってキャンパスライフをおくるためのスキルを磨くことができるように工夫されています。</p>		<p>第8回 仕事と適性 (仕事をどのように選ぶか) 担当：木村 周 (東京成徳大学院客員教授)</p> <p>第9回 自己理解・自己表現 担当：津久井 洋 (㈱時事通信出版局)</p> <p>第10回 社会の求める人材とは 担当：未定</p> <p>第11回 活躍するOB・OG 担当：藤澤 廣一 (㈱日本証券クリアリング機構)</p> <p>第12回 キャンパスライフと仕事 パネルディスカッションによる授業を予定</p>	
受講生への要望		* 講義の順番が変更になる可能性あり。	
<p>将来どのように生きていくかイメージしてみましょう。最初はぼんやりとしたものしか浮かばないかもしれませんが。キャンパスライフの目標を見つけるために、辛抱して講義に出席しているとだんだんはっきりとしてくるでしょう。卒業時の明瞭な将来像が楽しみです。</p>			
評価方法			
<p>レポートは必要に応じて提出してもらいます。レポートと出席状況 (10回以上出席のこと) を総合して評価します。</p>			
テキスト、参考文献			
<p>テキストは使用しません。必要に応じて資料を配布します。 講義の中で参考文献を紹介します。</p>			

全カリ (秋)	全学総合講座 (子どもの人権と子どもの権利条約) (秋学期)	担当者	市川 須美子
講義目標		授業計画	
<p>子どもの権利条約がわが国で批准されて 10 年が過ぎましたが、この国の子どもの人権状況は一向に改善されていないように見えます。毎日のように伝えられる子どもの虐待死、子どもから学習ばなれ、学校ばなれが起きている学校教育、体罰やいじめ、差別的な評価・指導など、学校における子どもの人権侵害状況も深刻です。さらに、一連の突出した事件を契機に厳罰化傾向をいっそう強めようとされている少年法など、問題は広域化しています。子どもの人権をめぐる現在のリアルタイムの動きを、できる限り第一線で問題と向き合っている関係者、福祉担当者や教師、弁護士などを講師に探っていきたいと思います。</p>			
講義概要			
<p>虐待に取り組んでいる児童福祉司や、民間の虐待センター関係者、学校関係の事件では担当弁護士や当事者原告、少年事件についても担当弁護士などを呼んで、チェーンレクチャーをコーディネートしたいと思っていますが、講義担当者が海外研修中のため、企画確定は3月末帰国後になります。</p>			
受講生への要望			
評価方法			
テキスト、参考文献			

全カリ (春)	全学総合講座 (獨協学) (春学期)	担当者	新井 孝重
講義目標		授業計画	
<p>「獨協学」は、新入生諸君が獨協学園の歴史を学ぶ講座である。学園と獨協大学は幾多の試練を経過しながら、創立以来今日に至るまでの120年間、総じて教育の大道を歩んできた。</p> <p>諸君がこの学園で学ぶことの意味と、未来への自己の可能性を切り開く契機となることをめざしている。</p>		<p>I、獨協の歴史を考える</p> <p>1、ミニ・シンポジウム 司会：新井孝重 パネリスト：酒井 府 湯田雅夫 新宮讓治</p> <p>II、獨逸学協会学校の創設事情と変質</p> <p>担当：新井孝重</p> <p>2、法律学校としての獨協の占める位置 3、専修科廃止から医学予備門へ 4、校長大村仁太郎の先駆的教育論</p> <p>III、戦争と平和</p> <p>—獨協のアイデンティティーを考える 担当：新宮讓治</p> <p>5、初代校長西周の軍人勅諭と平和論 6、第一次・第二次世界大戦と獨協 7、戦後・天野貞祐の校長就任から 獨協大学創設</p> <p>IV、天野貞祐の教育理念</p> <p>担当：新井孝重・新宮讓治</p> <p>8、京大教授時代 9、獨協大学創立時代</p> <p>V、特別講義</p> <p>10、「獨協大学創立期の回顧」 講師：下川 浩</p> <p>VI、特別講演</p> <p>11、「日本近代の私学 ——獨協を中心に」 講師：寺崎昌男(東京大学名誉教授)</p> <p>VII、獨協大学のあり方を考える</p> <p>12、ミニ・シンポジウム 司会：新井孝重 パネリスト：酒井 府 湯田雅夫 下川 浩 新宮讓治</p>	
講義概要			
<p>獨協の歴史は、1883 (明治 16) 年、創立された獨逸学協会学校にはじまる。当時の明治政府は、ドイツ学 (主として法律学・医学) の普及を意図していたから、獨協は政府の手厚い保護を受け、初期の専修科卒業生から司法官・行政官が輩出した。</p> <p>東京帝国大学による官僚養成が確立するに及び、政府との関連は絶たれ、第一次世界大戦後には、経営的にも府立学校へ転身が考えられるほど困窮した。第二次大戦中、ヒトラー・ユーゲント来校など国際情勢もあって、勢いを盛り返したが、戦争は学園を荒廃させた。戦後、先輩の天野貞祐が校長に就任し、人間尊重を掲げて学校を再建。</p> <p>獨協大学は、その発展・軌道の上に「大学とは学問を通しての人間形成の場である」との理念のもとに建学された。本講座では、学園の歴史を再検証することによって、将来的展望を探りたい。</p>			
受講生への要望			
講義・シンポジウムの時間を問わず積極的な質問、発言を望む。			
評価方法			
3つの大きい講義目 (II、獨逸学協会学校の創設事情と変質・III、戦争と平和・IV、天野貞祐の教育理念) の課題レポートによる。			
テキスト、参考文献			
<p>『目で見える獨協百年』(獨協学園)。 『獨協学園史 (1881-2000) (資料集成)』(獨協学園)。 堅田剛『獨逸学協会と明治法制』(木鐸社)。 いずれも獨協大学図書館にあり。 その他は講義中紹介する。</p>		◆レポートの量、書き方、提出方法等は講義中指示する。	

全カリ (春)	全学総合講座 (グローバル社会のなかの「ニッポン」) (春学期)	担当者	岡村 圭子
講義目標		授業計画	
<p>Think globally, Act locally というフレーズに、あなたはピン!ときますか? 「グローバル化する社会」と聞いて、どこか遠いところの話だと思っていまいませんか?</p> <p>わたしたちが何気なく生きる日常のなかに、「グローバル化」を考える鍵はたくさん見つかります。幸か不幸か、この日本社会に住む私たちは、もはやグローバルな繋がり/広がりとは無関係ではられないのです。</p> <p>本講義では、いくつかのトピックを挙げてグローバル化する世界のなかの「ニッポン」を考えていきます。そして、講師が提起した問題をまさに「自分自身の問題」として考えるのが到達目標です。講師が語る言葉のひとつひとつから、さまざまな世界や文化を感じ取ってください。</p>		<p>1. インTRODクシヨン——グローバル社会とはなにか 岡村圭子 (4/14)</p> <p>2. グローバル化のなかの滞日外国人 (1) ——草加市の場合 草加市役所 ジェフ・ピーターズ (4/21)</p> <p>3. グローバル化のなかの滞日外国人 (2) ——現実と今後のヴィジョン 弁護士 土井香苗 (4/28)</p> <p>4. グローバル化のなかの滞日外国人 (3) ——外国人の子どもをめぐる現状 可児市まちづくり推進課 小島祥美 (5/12)</p> <p>5. 「危機の連鎖」と金融工学 ——内在されたリスク・リンク 日立製作所 土方 薫 (5/19)</p>	
講義概要		6. 国際協力と異文化——NPOの理想と現実 東京大学助教授 田中弥生 (5/26)	
<p>毎回、さまざまな分野で活躍している方をゲスト講師として迎え、それぞれの視点からグローバル社会のなかの「ニッポン」をテーマにお話をうかがいます。</p> <p>第2～4回では、近年の滞日外国人をとりまく状況について詳しい方々のお話を聴きながら、多文化が共生する社会とはどのようなものかを考えます。第6～7回では、国際協力と医療の分野ではなにかが問題となっているのか、またどのような活動が行われているのかについて知り、第8～11回では、「ローカルな」文化活動のグローバル化について、生け花、J-pop、インターネット、著作権といったキーワードから考えます。</p> <p>第5回と12回は、金融工学と電力の自由化を例に、経済効率性や資本配分の最適化を極めたグローバル社会が孕むリスクとその連鎖をテーマしたお話です。</p>		<p>7. グローバル化と医療問題 InforMED-icis 代表 西澤光義 (6/2)</p> <p>8. 越境するローカル文化 (1) ——生け花 (IKEBANA) の世界と翻訳 (財) 草月会 福島光加 (6/9)</p> <p>9. 越境するローカル文化 (2) ——新たな「伝統」の創造 音楽プロデューサー シライシ沙トリ (6/16)</p> <p>10. 越境するローカル文化 (3) ——グローバル化とネットワーク・セキュリティ (株) 網屋 柴崎正道 (6/23)</p>	
受講生への要望		11. 越境するローカル文化 (4) ——知的財産所有権とデジタル化 (社) 日本民間放送連盟 砂川浩慶 (6/30)	
なぜ? どうして? もっと知りたい! という好奇心と向学心を持った学生の履修を強く希望します。		12. グローバル経済の光と影 ——なぜ市場は失敗するのか 学習院大学客員教授 巽 直樹 (7/7)	
評価方法			
出席とレポート		* 講師の意向や講義内容によって、講義の進め方やスタイルが各回で多少異なる場合があります。 * 講師の仕事の都合で予定を変更することもあります。	
テキスト、参考文献			
その都度指定します			

全カリ (秋)	全学総合講座 (多文化社会のビジネスとリスク・マネジメント) (秋学期)	担当者	岡村 圭子
講義目標		授業計画	
<p>本講義では、文化が異なる社会間において展開される経済活動において生じるビジネスリスクを、海外駐在経験のある講師による講義をとおして考えます。</p> <p>経済活動のグローバル化は、どのようなリスクを生み、それはどう処理されている/いないのか、またどのようなリスクがそこから新たに生まれるのか、こういった問題関心をふまえて受講するとよりよく理解できるでしょう。</p> <p>さらに、今後わたしたちの経済活動はどうなっていくのか、どこに向かうのか、そこにはどのような「リスク」が待ち受けているのか、各講師の話から予想してみるのもおもしろいかもしれません。本講義をとおして、わたしたちが日々あたりまえのように行っている経済活動も、複雑なリスク・マネジメントの上に成り立っていることを感じてください。</p>		<p>1. 異文化接触と経済活動：はじめに ——岡村圭子 (9/29)</p> <p>2. 韓国 —— 森岳三 (10/6)</p> <p>3. 台湾 —— 矢野清一 (10/13)</p> <p>4. 中国 —— 白土茂雄 (10/20)</p> <p>5. タイの華人社会 —— 養安昭彦 (10/27)</p> <p>6. 東南アジア —— 恩田英治 (11/10)</p>	
講義概要		7. インド —— 翠 政之 (11/17)	
<p>NPO法人国際貢献センターから派遣される11人の講師が、各週ごとに、各地域・国をテーマにして講義します。いずれの講師も海外駐在の経験があり、それぞれの立場から現地駐在をとおして学んだことや経験した仕事、現地での生活の様子などを紹介する予定です。</p> <p>現地の文化や民族性、商売のやり方が、日本社会のそれと具体的にどう違うのか/類似しているのか、といったことを学ぶなかから、さまざまな文化的背景のもとに展開される経済活動を知り、日本と諸外国との経済関係の将来について考えていきます。</p>		<p>8. 中近東Ⅰ：中東非産油国 (エジプトなど) でのビジネス慣習とリスクマネジメント ——鈴木絃司 (11/24)</p> <p>9. 中近東Ⅱ：サウジアラビア・クウェートでの投資プロジェクトとリスクマネジメント ——牧村恢臣 (12/1)</p> <p>10. 中央アジア (ウズベキスタン) ——川西勇夫 (12/8)</p>	
受講生への要望		11. ロシア：プーチンが分かればロシアが分かる	
積極的に質問ができ、講師の話をも自分なりに展開できる学生を希望します。		——西垣 護 (12/15)	
評価方法		12. ブラジル —— 南 正紀 (12/22)	
出席とレポート			
テキスト、参考文献			
その都度指定します			

全カリ (春)	全学総合講座 (21 世紀を探る I) (春学期)	担当者	辻 康吾
講義目標		授業計画	
<p>「イスラームのすべて」</p> <p>1989 年の冷戦終結後の世界で発生した重大事件の多くがイスラーム問題に関わっている。湾岸戦争 (1991 年)、アフガン戦争、ニューヨーク国際貿易センタービルに対する自爆テロなど世界各地でのテロ事件、そしてイラク戦争など、イスラームという言葉はいまやテロ、紛争、戦争という言葉に結びついている。おそらく 21 世紀の世界はイスラーム問題と取り組み続けることになるであろう。</p> <p>だが 7 世紀初頭のムハンマドに始まるイスラームの歴史は世界史の上に巨大な足跡を残している。今後のイスラーム問題を考える上でも、その壮大な歴史、信仰、哲学、文化を理解することが不可欠である。とりわけ日本は歴史的にイスラーム圏との直接の関係が薄かった。「21 世紀を探る」ためにもイスラームに関する基礎的知識を身に付け、理解を深めることが重要な課題になっている。</p> <p>本科目では多岐にわたるイスラーム世界について各分野から第一線の研究者、記者を招き、イスラームとはなにかを探っていききたい。</p>		<p>(講義タイトルはすべて仮題・また事情により講師・順序が変動することもある)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 沙漠の神 高橋正男 (本学名誉教授) ユダヤ教・キリスト教・イスラーム教 2 イスラームの歴史 青山弘之 (アジア経済研究所研究員) 西洋と中東世界 3 現代イスラーム国家 布施広 (毎日新聞論説委員) モスクの世界 4 イスラームの文化 師岡カリマ・エルサムニー (本学非常勤講師) アラビアンナイトの世界 5 イスラーム偉人伝 青山弘之 (同) イスラーム人物プロフィール 6 イスラーム国家論 藤原和彦 (本学非常勤講師) ウンマ・イスラーム 7 国際政治におけるイスラーム 西川恵 (毎日新聞専門編集委員) 世界を動かす国々 8 中東社会の構造変化 脇祐三 (日経新聞国際部長) 人口爆発とグローバル化の衝撃 9 イスラームの富 最首公司 (元東京新聞編集委員) オイルとドルは流れる 10 パレスチナ問題 平山健太郎 (元 NHK 解説委員) 果てしなき戦い 11 イスラーム過激派 藤原和彦 (同) テロと殉教 12 イスラームを考える 高橋正男 (同) 終わりにあたって 	
講義概要			
上記と同じ			
受講生への要望			
新聞、テレビ、雑誌、出版物などイスラームに関するニュースは少なくない。日常的にこの分野の情報に注意しておくこと。			
評価方法			
毎回講義後に小テストを実施する (マークシート方式)、期末テストは同じくマークシートによるテストと、小論文を出題する。			
テキスト、参考文献			
立山良司『中東』(第三版) 自由国民社			
藤原和彦『イスラーム過激原理主義』 中公新書			

全カリ (秋)	全学総合講座 (21世紀を探るⅡ)	(秋学期)	担当者	辻 康吾
講義目標		授業計画		
未定				
講義概要				
受講生への要望				
評価方法				
テキスト、参考文献				

全カリ (春・秋)	全学総合講座 (国家と国境を考える: 地域・民族・国家) (春学期・秋学期)	担当者	佐藤 勘治 (春学期) 古川 堅治 (秋学期)
講義目標		授業計画	
<p>この講義では、これまで、あたりまえのように思われてきた「国民国家の集合体としての世界」が揺らぎの中にあること、多文化主義の進展に伴い国家像もまた変化をみせていることを、さまざまな地域と視点から具体的に考えてみたいとおもう。</p> <p>国民国家として成功しているかに見える日本においても、国家の範囲は自明のものではなかったのは歴史が示す通りだ。現在日本では、それまでの定住外国人に加えて、他の多くの国家と同じように、さまざまな地域から、労働者として、留学生として、国際結婚のパートナーなどとして多くの外国人が訪れ、隣人として暮らしている。今、日本においても多文化共生社会の建設が求められている。</p> <p>履修学生には、自らの問題として、国家と国境をめぐる諸問題を考えてもらいたいと思う。</p>		<p>(春学期)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 佐藤勘治 問題提起 : 米メキシコ国境地域から 2 大西健夫 EUの理念と成立過程 3 大西健夫 EUの現状 4 櫻井悠美 多文化共生社会カナダ 1 5 櫻井悠美 多文化共生社会カナダ 2 6 上野直子 国境を越える文学 1 7 上野直子 国境を越える文学 2 8 上村幸治 中国における民族と国境 1 9 上村幸治 中国における民族と国境 2 10 戸邊秀明 沖縄人の南洋経験 11 戸邊秀明 戦後沖縄の境界 12 佐藤勘治 まとめ 	
講義概要		(秋学期)	
<p>各担当者に右のようなテーマで、二回ずつ講義をおねがいしている。個別テーマの変更はありうるが、それについては、第一回目で説明する。</p> <p>EUの成立と拡大からわかるのは、国境の相対的弱まりであるように思える。だが、トルコ加盟問題にゆれているように、ヨーロッパとしての地域性は明らかだ。</p> <p>一方で、カナダ、オーストラリアのように多文化主義を国是にする国家もあり、そこでは民族共存の新たな国家像が提示されつつある。後者の場合、国境線の役割は必ずしも弱まることにはならない。特に米国とメキシコとの関係では、経済統合とともに人の移動を妨げる壁として国境線の役割は強化されている。</p> <p>国家という枠組みが問題になるのは、政治や経済という分野だけではない。今回は、文学における越境性についても論題とした。</p> <p>中国内の民族間関係や台湾問題などからは、独自の国家像を伺うことができるだろう。最後に、戸邊氏に沖縄からの視点から日本を論じてもらう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 古川堅治 問題提起 : ヨーロッパの辺境から 2 佐藤勘治 プエルトリコ 3 佐藤勘治 米メキシコ国境の今 4 櫻井悠美 多文化共生社会カナダ 1 5 櫻井悠美 多文化共生社会カナダ 2 6 上野直子 国境を越える文学 1 7 上野直子 国境を越える文学 2 8 上村幸治 中国における民族と国境 1 9 上村幸治 中国における民族と国境 2 10 戸邊秀明 沖縄人の南洋経験 11 戸邊秀明 戦後沖縄の境界 12 古川堅治 まとめ 	
受講生への要望			
各授業の最後に、必ず質問の時間をとるようにしたい。積極的な発言を期待している。			
評価方法			
各担当者ごとに、小テストあるいはレポート課題が出される。評価は、それらを総合的に判断してだす。			
テキスト、参考文献			
各担当者が指示する。			

全カリ (春・秋)	全学総合講座 (スポーツ・健康の世界) (春学期・秋学期)	担当者	松原 裕
講義目標		授業計画	
<p>大学入学以前には、いろいろと大学生生活を想像していたことでしょう。それは正確に捉えていたかもしれないし、捉えていなかったかもしれません。</p> <p>この講義における目標は知的刺激を与えることです。正しいかどうか、という結論は少なく、今後の皆さんの生き方の決定に参考になる事柄があれば十分です。</p> <p>健康に関すること、スポーツに関すること、世界を考えることの3つがテーマです。各々が大きな事柄ですから、とてもとても講義の時間だけで全てに触れることは無理でしょうが、各ゲストの方の人間性を垣間見てもらえれば十分です。</p>		<p>I. 健康 (松原・音海・今野)</p> <p>第1週 オリエンテーション (松原) 講義予定の紹介 骨盤調整法の紹介</p> <p>第2週 応急処置理論 (音海)</p> <p>第3週 応急処置・骨盤調整実技 (音海・松原)</p> <p>第4週 応急処置・骨盤調整実技 (音海・松原)</p> <p>第5週 実践健康生活 (今野)</p> <p>II. スポーツ (河本・田口・中塚)</p> <p>第1週 W杯サッカー2002 (河本)</p> <p>第2週 スポーツと社会の関わり (田口)</p> <p>第3週 総合型クラブの可能性 (中塚)</p> <p>III. 世界 (吉田・今)</p> <p>第1週 平和を考えるーヒッピー文化ー (吉田)</p> <p>第2週 戦争を考えるーパレスチナー (今)</p> <p>第3週 平和と戦争を考える (吉田)</p>	
講義概要		IV. 大座談会	
<p>講義は、健康、スポーツ、世界、の3つのテーマについてゲストをお願いして行います。</p> <p>健康に関しては、腰痛など体調について、応急処置について、健康生活について、理論と実技を行います。実技には、三角巾が必要です。</p> <p>スポーツに関しては、クラブの在り方、スポーツビジネス、イベントなど、社会的なところで活躍中のゲストを迎えて、講義をお願いします。</p> <p>世界に関しては、平和と戦争を中心として、ジャーナリストの方を迎え、アメリカ取材、パレスチナ取材の経験から伝えてもらいます。</p>		<p>松原・吉田・今・音海・中塚で座談会</p> <p>以上、全12回の講義の予定です。この原稿を作成しているのが1月末のため、ゲストの都合により順番が入れ替わったり、ゲストが変わる可能性があります。</p>	
受講生への要望			
<p>すでに生き方の決まっている人が聞いても面白くないでしょう。</p> <p>集中できるように体調を整えて参加してください。</p>			
評価方法			
<p>毎時間提出のコメント、3回のレポート提出、コーディネーター・ゲストとのコミュニケーション、以上を総合して評価します。</p>			
テキスト、参考文献			
<p>資料は、必要に応じて配布します。参考文献は、第1週にまとめて紹介し、必要に応じてさらに紹介します。</p>			

全カリ（春・秋）	全学総合講座（環境学）（春学期・秋学期）	担当者	湯田 雅夫
講義目標		授業計画	
<p>「環境学」は、自然科学、人文科学、社会科学すべてにわたる学際的学問です。この授業は、「環境」に関わる本学の諸先生に担当していただくとともに、各界で活躍されておられる方々をお招きして、「環境」領域についての多様な考え方、アプローチ方法を学習します。「環境学」は、単に知識を身に付ける場ではありません。入手した新たな知識を学生諸君の生活の場に生かしていくことも大切です。授業に参加するだけでなく、各回の授業テーマについて各自問題意識を持ち、自分の考えを纏めるよう努めてください。</p>		<p>1 オリエンテーション 担当：湯田雅夫 経済学部教授</p> <p>2 環境問題を考える前に知っておくべきこと 担当：加藤僖重 外国語学部教授</p> <p>3 環境資源について 担当：秋本弘章 経済学部助教授</p> <p>4 江戸に学ぶ リサイクル社会 担当：新宮譲治 元本学非常勤講師</p> <p>5 都市と環境 担当：鈴木 隆 外国語学部教授</p> <p>6 環境リスク 担当：大内 功 ㈱損保ジャパン・リスクマネジメント 主任コンサルタント</p> <p>7 環境問題と法 担当：一之瀬高博 法学部教授</p> <p>8 環境と管理会計 担当：香取 徹 経済学部教授</p> <p>9 地方自治と環境 担当：伊藤爲一郎 経済学部教授</p> <p>10 環境経済 担当：浜本光紹 経済学部助教授</p> <p>11 環境政策 担当：塩田尚樹 経済学部助教授</p> <p>12 持続可能な社会を目指してシンポジウム 担当：未定</p>	
講義概要			
<p>講義のコーディネーターは湯田（経済学部）が担当します。今年度は、数多くの環境諸課題を取り上げました。1回目は、「環境学」のオリエンテーションとして地球環境問題全般に触れます。4回目の人文科学の領域を除き、2回目から6回目までは、主として自然科学の領域に関するものです。8回目から11回目までは、主として社会科学の領域に関するものです。最終12回目は、「持続可能な社会を目指して」をテーマに、受講生を含めた質疑応答をしたいと思います。</p>			
受講生への要望			
<p>地球環境問題は、今日的テーマです。今回の授業で取り上げたテーマは、それぞれ1回の授業で完結していますが、十分な時間ではありません。この授業をきっかけに環境問題を深く学習する機会を是非持つてください。</p>			
評価方法			
<p>定期試験の成績に出席状況を加味した総合評価です。なお、定期試験は、授業のテーマをいくつかのグループに分類して、グループごとにひとつずつ問題を作成します。受講生は、複数問題の中から選択して解答します。</p>			
テキスト、参考文献			
<p>テキストは使用しません。必要に応じて資料を配布します。なお、授業のとき、ときどき参考書の一覧を配ります。一覧に挙げられた書物は読むように努めてください。オリエンテーション時および毎回の授業のときに参考書を示します。</p>			

全カリ（春・秋）	全学総合講座（教えるという仕事）（春学期・秋学期）	担当者	川村 肇
講義目標		授業計画	
<p>教えるということはどういうことか、子ども（あるいは人間）というものをどう見るのか、学校とは何か、学校という職場にはどのような問題があるのか、など教育をめぐる問題について様々な角度から考え、自分たちの受けてきた教育を相対化する視点を得るとともに、教育に関しての見方を深めていくことを目標にします。</p>		<p>春学期・秋学期</p> <p>第1回 導入／『星空の中学生とともに』鑑賞（川村）</p> <p>第2回 中学校という職場</p> <p>第3回 現代の中学生</p> <p>第4回 小学校という職場</p> <p>第5回 現代の小学生</p> <p>第6回 ことばを教える1</p> <p>第7回 ことばを教える2</p> <p>第8回 社会科を教える1</p> <p>第9回 社会科を教える2</p> <p>第10回 教えるという仕事1</p> <p>第11回 教えるという仕事2</p> <p>第12回 まとめ（川村）</p>	
講義概要			
<p>教えるという仕事を、学校現場の先生方に、その経験を生かして語っていただきます。</p> <p>お招きするのは、埼玉県の小中学校の現役の先生方および、さいたま教育研究所の先生です。総勢9名の先生方を予定しています。</p> <p>それぞれ、右の授業計画にあるようなテーマ（仮題）でお話しいただく予定です。模擬授業や、ビデオ観賞なども予定しています（ただし、先生方の都合で、順番や内容が変わることがあります。ご了承ください）。</p> <p>みなさんの考える素材を提供する科目にしたいと考えています。</p>			
受講生への要望			
<p>教えるということは、教師だけが行うことではありませんから、教職をめざしてはいない学生の参加も歓迎しますし、この授業はそういう諸君にも役立ちます。</p> <p>積極的、意欲的に参加してください。</p>			
評価方法			
<p>毎回の授業レポート（学んだこと、10行程度）の提出をもって出席点とし、最終レポート（A4判用紙で2～4枚）と併せて評価します。</p>			
テキスト、参考文献			
<p>テキストは使用しません。代わりに毎回、資料を配付します。</p> <p>参考文献は授業中に適宜紹介します。</p>			

全カリ（春・秋）	全学総合講座（ものづくりの現場から） （春学期・秋学期）	担当者	上坂 卓郎
講義目標		授業計画	
<p>この講座は、企業のトップマネジメント経験者による生きた企業経営の現場を講義するものである。「ものづくりの現場」というテーマにしているが、製造業だけではなく、広範な業種の企業に関する話題が取り上げられる。この講義の受講を通じて、学生諸君が「企業とはなにか」を考えたり、本学で専門知識を深く学ぶ契機としてもらうと同時に、大学を出て働くことを通じて社会に貢献することとは何かをつかんでもらうことも意図している。</p>		<p>第1回 科目ガイダンス</p> <p>第2回 会社のしくみー組織、予算、取締役の責任</p> <p>第3回 トヨタの強みーカンバン方式とは</p> <p>第4回 原料の確保ー企業意思決定</p> <p>第5回 医療産業の難しさ・面白さー日本製薬企業のビジョンと課題</p> <p>第6回 ファッションビジネスとはーアパレル産業の周辺</p> <p>第7回 財務諸表で会社をみるー企業会計の基礎知識</p> <p>第8回 IT産業の現状と課題ーその課題と展望</p> <p>第9回 総合スーパーの勝ち組ーイトーヨーカ堂の強さ</p>	
講義概要		第10回 ツーリズム産業のすべてー航空・ホテル・旅行代理店	
<p>講師陣は、日本を代表する大企業の元経営者である。毎回多様な業種（製造業、非製造業）出身の講師がオムニバス形式で、企業の経営戦略や意思決定の実際について講義を行う。また社会に出て働くことについて講師ご自身の豊富な経験から貴重なアドバイスも与えてくれると思われる。受講者には経営の基本知識を前提としたいが、1年生でも理解できるように平易な説明が行われる。講義と平行して企業経営に関する知識を独習し理解を深めることを期待する。</p> <p>毎回の講義を一般の講演のように聞き流す学生がいるが、講演会ではないので毎回講義の中から自ら知識を掴み取る努力が必要である。</p> <p>講師は実務経験豊富な慧眼の元企業経営者である。講師から学生諸君が社会人候補として見られていることも忘れないようにしてほしい。</p>		<p>第11回 外食産業の動向ーレストランビジネス</p> <p>第12回 リース業と不動産ビジネスの概要</p>	
受講生への要望			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 受講については真摯な態度で臨むこと ・ 15分以上の遅刻は認めない ・ ノートを必ずとること。試験に不可欠である ・ 他の講義同様講義中の携帯利用は禁止する 			
評価方法			
出席状況と試験を総合して行う			
テキスト、参考文献			
講義の中でハンドアウトが配布される。またテキストは特に定めませんが、企業経営の基本書を並行して読むことが講義の理解を深めることは言うまでもない。			

全カリ（春）	全学総合講座（働くための基礎知識－知って得する労働問題）（春学期）	担当者	齊藤 美彦
講義目標		授業計画	
<p>近年の働くことをめぐる話題としては、リストラや失業率の上昇、フリーター・パート労働者等の非正規労働者の増加など働く側からすると厳しいものが多い。最近ではニート、働こうとしない、教育・訓練を受けているわけでもない、英語の“Not in Education, Employment, or Training”の頭文字をとって呼ばれる若者たちの急増が話題となっているが、これも厳しい労働環境と無縁ではないだろう。弱い立場の労働者を守る労働組合もその組織率は低下し続けている。本講義では、労働問題の基礎を色々な切り口から検討することを通じて、私たちの暮らしと労働がどのようにかかわっているかについて考えることとする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 「働くための基礎知識」とは何か？ 齊藤 美彦 2. 日本の雇用の仕組み 全労済理事長 鷺尾 悦也 3. 賃金の基礎知識 全労済理事長 鷺尾 悦也 4. 日本の社会保障制度 連合生活福祉局長 小島 茂 5. 労働法の基礎知識（Ⅰ）労働基準法 上智大学名誉教授 花見 忠 6. 労働法の基礎知識（Ⅱ）労働組合法 他 上智大学名誉教授 花見 忠 7. 労使関係論：労働組合の立場から 連合事務局長 草野 忠義 8. 労使関係論：経営の立場から 日本経団連専務理事 矢野 弘典 9. 国際労働基準と ILO 厚生労働省審議官 恒川 謙司 10. 労働組合の役割：労働運動の歴史 全労済理事長 鷺尾 悦也 11. 労働時間と生活時間 全労済理事長 鷺尾 悦也 12. 労働安全衛生（含むメンタルヘルス） 厚生労働省審議官 恒川 謙司 <p>*講義の順番は変更になる場合がある。</p>	
講義概要			
<p>講義は、授業計画のとおり毎回多彩なゲストスピーカーを招き行うこととする。労働組合関係の講師が多くなっているが、経営者団体・官庁からも講師を招き、「働くための基礎知識」を習得できるようにする。</p>			
受講生への要望			
<p>労働問題に関する新聞記事を読んだりテレビニュースを見て、今何が問題となっているかを自分練りに把握しておくこと。また、わからない用語は自分で調べる程度のことには心がけること。</p>			
評価方法			
<p>レポートによる。</p>			
テキスト、参考文献			
<p>各回の講義において指示する。</p>			

全カリ(春)	全学総合講座(心と体の健康)(春学期)	担当者	田口 雅徳
講義目標		授業計画	
<p>今日、科学の進歩はめざましいものがあります。それらは、理学や工学などの自然科学に限定されるものではありません。人文科学や社会科学などあらゆる分野において、日々、あらたな知識が生み出されています。そして、そうした研究成果は、わたしたちの生活に還元され、直接・間接にわたしたちの暮らしに影響を与えています。本講義では、日常生活のなかの身近な問題を取り上げて、それがいかに研究され、どのような研究成果があげられているのかを紹介していきたいとおもいます。そうした講義を通して、身近なものごとを深く考え、探求することのおもしろさを知ってほしいとおもいます。本講義では、とくに、「心と体の健康」というテーマを取り上げます。本講義を通して、大学生活をよりよく過ごすための基礎知識も身につけてください。</p>		<p>今期の授業計画は以下のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンス(大学生のこことからだ) 担当: 田口雅徳 2. 大学生生活とこころの揺らぎ① 担当: 未定 3. 大学生生活とこころの揺らぎ②(アルコール依存) 担当: 大塚秀高(星槎大学助教授) 4. 大学生生活とこころの揺らぎ③ 担当: 未定 5. 大学生生活とこころの揺らぎ④ 担当: 未定 6. 食と健康の科学 担当: 赤松利恵先生(お茶の水女子大学講師) 7. 青少年のメディア・ライフ① 担当: 木村文香(お茶の水女子大学研究員) 8. 青少年のメディア・ライフ② 担当: 木村文香(お茶の水女子大学研究員) 9. 青少年の精神衛生 担当: 中野隆史先生(本学経済学部教授) 10. 宗教とこころのやすらぎ 担当: 鈴木晋怜先生(智山伝法院現代宗教研究室教授) 11. 長寿社会の生きがいと健康 担当: 有吉広介先生(本学名誉教授) 12. まとめ(こころとからだの健康を考える) 担当: 田口雅徳 <p>※ 講義の順序は都合により入れ替わることがあります</p>	
講義概要			
<p>上述しましたように、「心と体の健康」というテーマに沿って、さまざまなゲストをお招きし、講義をしてもらう予定です。ゲストスピーカーは医学、家政学、社会学、宗教学、心理学などの分野でご活躍されている方々であり、それぞれのゲストスピーカーにご自身の研究内容、あるいは、実践活動をお話していただき、それらの講義をもとにして「こころと体の健康」についてみなさんと議論し、一緒に考えていきたいとおもいます。</p>			
受講生への要望			
<p>遅刻、および、授業での私語は厳禁です。授業における意見発表や質問は大いに歓迎します。授業に積極的に参加してくれることを期待します。</p>			
評価方法			
<p>毎回出席を確認します。また、必要に応じてレポートの提出を求めます。それらを総合的に評価して最終評価を出します。不真面目なレポートは大幅に減点します。</p>			
テキスト、参考文献			
<p>テキストはとくに使用しません。必要な資料などは配付する予定です。参考文献は適宜紹介していきます。</p>			

全カリ (秋)	全学総合講座 (自由時間設計) (秋学期)	担当者	和田 智
講義目標		授業計画	
<p>ー レジャーとは何か ー</p> <p>レジャーとは何かについて考える機会を持ってもらう。 レジャーの重要性は学生時代だけではなく、生涯を通じて考えなければならないほどの価値を持つ。 実践としてのレジャーを知り、学問としてのレジャーを学ぶことによって、自分の現在、将来へ向けてのレジャーライフをデザインし、クオリティライフを実践していくことが可能になるだろう。 レジャーを知ることにより、個々の学生が現在を充実させ、将来の目標をたてる助けになることを目標とする。</p>		<p>1 オリエンテーション 自由時間とレジャーの現状と課題 和田 智 獨協大学助教授</p> <p>2 レジャーの現場から レジャーをサポートする 身障者のための義手・義足を作る 濱田美穂 株式会社啓愛研究開発部</p> <p>3 レジャーの現場から レジャーをサポートする 身障者のための義手・義足を作る 濱田美穂 株式会社啓愛研究開発部</p> <p>4 レジャーの現場から レジャーをサポートする 身障者のためのスクーバダイビング 椎名克巳 東京ダイバーズ代表取締役</p> <p>5 レジャーの現場から レジャーをサポートする 身障者のためのスクーバダイビング 椎名克巳 東京ダイバーズ代表</p> <p>6 レジャーの現場から レジャーをサポートする 高齢者のためのレジャー 山崎律子 (株) 余暇問題研究所代表取締役</p> <p>7 レジャーの現場から レジャーをサポートする 高齢者のためのレジャー 山崎律子 (株) 余暇問題研究所代表取締役</p> <p>8 私のレジャー実践 先輩から後輩へパワーを伝える 田中勝之・千恵 ネイチャーライター (本学卒業生)</p> <p>9 私のレジャー実践 先輩から後輩へパワーを伝える 多胡光純 エアーフォトグラファー (本学卒業生)</p> <p>10 レジャーとは何か レジャーの本質を探る 松田義行 実践女子大学教授</p> <p>11 レジャーとは何か古典から探るレジャー 松田義行 実践女子大学教授</p> <p>12 まとめ あなたの自由時間設計は？ アンケート 和田 智 獨協大学助教授</p>	
講義概要			
<p>「レジャーの現場から」では、レジャーをサポートする仕事についている方々のうち、特に私たちの目に触れにくい分野から講師を招き、講師の方の情熱、またその実践がどのように行われているのかについてお話を聞く。</p> <p>「私のレジャー実践」では、本学卒業生で自分の夢を達成するために現在発展途上にある方々の実践を、そこに至るまでの経緯を本学在学中のことから語ってもらう。</p> <p>「レジャーとは何か」では、学問としてのレジャーを学ぶなかで、これまで見てきた実践がどのような意味を持っているかを考えてもらい、整理するための機会となる。</p> <p>以上の授業を経て、まとめとして個々の学生が自分の現在から将来にわたる自由時間設計についてレポートしてもらう。</p> <p>講義支援システムを積極的に利用するため、利用方法について調べておくこと。</p>			
受講生への要望			
<p>授業への参加意識を向上させるため、質問意見、アンケートは携帯電話を利用し、授業にリアルタイムに反映させる。そのための携帯電話のWebアクセスにかかわる通信料は個々の学生に負担してもらう。</p>			
評価方法			
<p>授業での小レポート、クイズ、学期末レポート、出席状況等、総合的に評価する。</p>			
テキスト、参考文献			
<p>授業で紹介する。</p>			

全カリ (春)	全学総合講座 (NPO 論 人を変える・地域を変える・世界を変える) (春学期)	担当者	高松 和幸
講義目標 <p>「新しい時代の日本の型」を共通のテーマに掲げ、本年は民主主義の根幹にかかわる地域や会社のコミュニティによる社会参加について、NPO 活動を中心に、各分野 (NPO 団体・行政・マスコミ・企業など) での取り組みを学び、自らが社会でどのような役割を演じることができるかを共に考え、自分自身を変えることで地域や社会を、そして世界を変えることを各界を代表する講師陣から学びたいと思います。</p>		授業計画 <p>第 1 回(4/13) 新しい時代の日本の型 東洋の奇跡・日本の高度経済成長、そしてバブル経済で見て来た日本の進むべき道 田中 克人 福祉社会研究所理事長</p> <p>第 2 回(4/20) 行政の位置付けと役割 戦後の荒廃した日本を世界のトップに押しあげた行政の功績と今後の役割 石田 寛人 元科学技術庁事務次官 チェコ大使</p> <p>第 3 回(4/27) NPO・NGO の誕生とフィランソロピー NPO(民間非営利組織)、NGO(非政府非営利活動)の誕生の背景と今日的課題 高橋 陽子 日本フィランソロピー協会 理事長</p> <p>第 4 回(5/11) 我が社の社会貢献活動の視点 会社の社会貢献活動への理念とそれを支える社員の思い、それを形にして来た活動の源 清水 あつ子 富士ゼロックス社会貢献担当</p> <p>第 5 回(5/18) 中小企業における社会貢献活動の現状と展望 中小企業の社会貢献活動を阻害している税制と其中で工夫して地域社会を変えている企業の紹介 高橋 陽子 日本フィランソロピー協会 理事長</p>	
講義概要 <p>講師陣は、NPO 団体・行政・マスコミ・企業にあって日本社会の推移と変化を現場で体験し、また、自らそれに影響を与えてきた方々です。</p> <p>授業はオムニバス形式で行われます。受講者は生き物としての社会に接し、直接そこで関わっている方々に疑問をぶつけ自らの考え方を確立する意気込みで受講して下さい。</p> <p>今回は、民主主義の根幹の問題である、国民の社会参加を NPO 活動を中心に各分野での取り組みを勉強し、人が地域が世界が動き出している感覚をつかみ、自分がどんな役割を演じることができるかを考えていただきます。</p>		<p>第 6 回(5/25) 福祉の現場から見た NPO と行政 障害者施設運営に永く携わった経験の中から見た行政の問題点と NPO 活動への要望を現場の声として語る 滝沢 浄 文京区本郷福祉センター施設長</p> <p>第 7 回(6/1) マスコミから見た社会の変化と NPO 社会部記者として公害問題を始め社会問題を追及する中での行政と企業と国民の変化を検証し、今後の社会を考える 清水 光雄 毎日新聞 元編集局次長</p> <p>第 8 回(6/8) 教育の現場から見た教育の将来 記者としての教育の現場、政策立案の現場を取材し、関係者の思い、悩みを通して見た教育の現状と課題 早川 信夫 NHK 解説委員</p> <p>第 9 回(6/15) こどもをどう守り育てるか 学校、家庭、いずれにも居場所が無くなっている子供達に手を差し伸べ読書を通して自ら考え行動する子供を育てようとする NPO 土門 康男 講談社 児童局長</p>	
受講生への要望 <ul style="list-style-type: none"> 積極的に質問することと真摯な態度で臨むこと。 15 分以上の遅刻は認めない。 <p>ノートを必ずとること。他の講義同様講義中の携帯利用は禁止する。</p>		<p>第 10 回(6/22) 政治の現状と国民の政治参加 政治部次長・論説委員として接してきた政治家、政党の現状と問題点それを改革するための国民の政治参加の必要性 薬師寺 克行 朝日新聞 月刊「論座」編集長</p>	
評価方法 <p>平常点(出席・質問など) 30%</p> <p>レポート 40%</p> <p>その他(ノートなど) 30%</p>		<p>第 11 回(6/29) 国際社会の変化と NGO 活動の役割 外報部記者として海外から見た日本の姿。激変する国際社会にあって政府間交渉でなしえないことを民間レベルで解決可能に 田所 竹彦 朝日新聞 元論説副主幹</p>	
テキスト、参考文献 <p>その都度、指示する。</p>		<p>第 12 回(7/6) 国民の国民による国民のための社会づくり 戦後、行政と企業主導の日本社会に大きな変化が出て来た。これに取り組むシナリオとその概念を実行する主役としての国民はどうあるべきか 田中 克人 福祉社会研究所理事長</p>	

全カリ (春) 外共	哲学 a (哲学の諸問題) 哲学 (通年)	担当者	谷口 郁夫
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>哲学は、哲学とは何かの問題になるというちょっと変わった学問です。そこで、このことから話し始める予定です。ほとんどの学生にとって、哲学は未知の学問でしょうかから、この学期では、哲学では何が論じられているのか紹介するとともに、それらの問題がわれわれにとって無縁のものではないことを皆さんに知っていただくことが第一の課題となります。できるだけ親しみやすい文献をいくつか選び、それらの一部を読みながら、ともに考えていただきたいと思います。</p> <p>主なテーマとして、二元論、歴史、自由などを取り上げます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. プラトンのイデア論とエロス論を取り上げます。分権としてはプラトンの著作の中でも最も読みやすい『饗宴』を取り上げます。 2. 前回の続き。 3. 典型的に二元論的思考としてデカルトを取り上げます。文献としては『方法序説』を読みます。 4. 前回の続き。 5. カントの『啓蒙とは何か』を取り上げます。特に、時代背景の関連に留意する予定です。 6. 前回の続き。 7. ヘーゲルの『歴史哲学講義』を取り上げます。この回から4回連続で歴史哲学について考える予定です。 8. 前回の続き。 9. マルクス&エンゲルスの『共産党宣言』と『空想から科学へ』を取り上げ、彼らが歴史の原動力と考えたものについて考察します。 10. 前回の続き。 11. サルトルの『実存主義とは何か』 12. 人間における『自由』について考えます。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
web site から講義で使用する資料 (pdf 形式) を配布します。		学期終了後にテストを行います。	

全カリ (秋) 外共	哲学 b (死を哲学する) 哲学 (通年)	担当者	谷口 郁夫
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ソクラテスは「哲学を究めるとは死の準備をすることに他ならない」と言いました。なぜ哲学を究めることが死の準備となるのでしょうか。彼によれば、死とは肉体と靈魂の分離であり、哲学することはもっぱら魂の事柄に専心することを意味します。ですから肉体から離れて魂そのものとなる死は、哲学者にとってはむしろ喜ぶべきことであって、この世の生はかりそめのものだけということになります。</p> <p>もちろんわれわれはこのように考えることはできないでしょう。では、死は、あるいはこの世の生は、われわれにとってどのような意味を持つでしょう。この時間は、死から生を考察する予定です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ソクラテスは従容と処刑されました。死を前にした彼の言葉にまず耳を傾けたいと思います。 2. 一部分ですが、『ソクラテスの弁明』、『クリトン』、『パイドン』をできるだけ読みたいと考えています。 3. 前回の続き。 4. アウグスティヌスの『告白』と『神の国』における、死、時間の問題を取り上げます。 5. 前回の続き。 6. バスカル『パンセ』における人間の運命と人間的営みについて。 7. 前回の続き。 8. ショーペンハウアーの悲観論的哲学を取り上げます。 9. ショーペンハウアーの『自殺について』を取り上げます。 10. アーネスト・ベッカーの『死の拒絶』を取り上げます。 11. ベッカーは人間のヒロイックな行為の源泉を「死の拒絶」に見ています。彼の見方の当否を考えます。 12. 前回の続き。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
web site から講義で使用する資料 (pdf 形式) を配布します。		学期終了後にテストを行います。	

全カリ (春)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

全カリ (秋)	哲学b (生きる意味)	担当者	松丸 壽雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目標】 実地に現代の諸問題の根元を把握し、これらの諸問題に対処する立場と方法を検討し、解決の可能性をディスカッションを通して思索する。実践的な応用哲学を学習する。みずから問題の根源を見つけだし、みずから考究する態度を身につけるべく、課題が与えられて、それを小グループで討議し、解決の方向を検討する講義である。</p> <p>【講義概要】 後期はさまざまな角度から、生死の問題を扱う。ディスカッションにまじめに参加する気のない学生はこの授業を登録しても無意味である。したがって、ディスカッションができる範囲の学生数に止めるために、初回に人数制限を行う。</p> <p>【受講者への要望】 これは単なる講義ではなく、ディスカッションをまじめに行う限り成立するものである。ただ単位をとるために参加することは意味がないので、真剣にものを考え、しかも他の参加者とそれを共有するつもりのある人だけが参加できる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 概要説明 2 グループ分け 3 「生きる」についてのビデオ (1) と説明 4 小グループディスカッション 5 全体ディスカッション 6 「生きる」についてのビデオ (2) と説明 7 小グループディスカッション 8 全体ディスカッション 9 「生きる」についてのビデオ (3) と説明 10 小グループディスカッション 11 全体ディスカッション 12 調整日 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示		ディスカッションへの出席点。および、レポートの内容。レポートは、真剣に考えたかどうかを、私の判断によって評価する。	

全カリ (春) 外共	倫理学 a (倫理の基本について考える) 倫理学 (通年)	担当者	市川 達人
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>私たちの社会には「して善いこと」と「して悪いこと」がある。私たちは普段、この二つを良識のレベルで割り切っており、それに対して「なぜ」などと問うことはあまりしない。しかし、この良識が揺らぎだしたり、この良識に対立する良識が出てきたりしたとき、この「なぜ」がでてくる。倫理に対する学問的問いかけが生まれるのである。講義では、倫理についての「なぜ」を扱いたい。私たちが倫理的な判断を下すとき、そこにいかなる思考のメカニズム、あるいは論理が働いているかを考えるということである。その上で、倫理思想の歴史を簡単にたどり、現代倫理を代表する自由主義と功利主義をとりあげる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1)非倫理の時代 2)倫理の概念 3)規範としての倫理(1) 行為の分析と倫理的判断 4)規範としての倫理(2) 習俗と法と倫理 5)価値としての倫理(1) 事実と価値 6)価値としての倫理(2) 倫理的価値とは？ 7)価値としての倫理(3) 人格と人間性の価値 9)倫理的問題状況と倫理思想の歴史(1) 10)倫理的問題状況と倫理思想の歴史(2) 11)現代倫理 (1) 功利主義 12)現代倫理 (2) 自由主義 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使わない。参考書は講義で指示		学期末の試験による	

全カリ (秋) 外共	倫理学 b (環境と生命の倫理) 倫理学 (通年)	担当者	市川 達人
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>21世紀は生命と環境の時代だといわれる。一方では人間を好きなように誕生させ、生きさせ、あるいは殺す技術が生まれてきている。他方で、地球規模での環境汚染、資源の枯渇が懸念され、人類の存続が危ぶまれている。この両者を見据えながら、伝統的な人間観や自然観を考え直していくこと、これが講義の課題である。生命倫理学とか環境倫理学という新しい学問分野が関心を集めているが、そこで議論を踏まえて進めていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1)倫理とは何か 2)健康ブームと医療化社会 3)生命倫理の前線(1) 医療倫理から生命倫理へ 4)生命倫理の前線(2) 中絶、生殖医療の問題 5)生命倫理の前線(3) 安楽死問題 6)生命倫理の前線(4) 臓器移植の問題 7)ケアの倫理 8)土地倫理とディープ・エコロジー 9)動物の権利から樹木の権利へ 10)マルサス主義と環境的公正の倫理 11)風土の理論と環境倫理 12)まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使わない。参考書は講義で指示		期末の試験で評価	

全カリ (春)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

全カリ (秋)	社会思想史 b (錬金術と現代)	担当者	松丸 壽雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義目的]それぞれの時代の社会には、歴史的状況、文化的背景などにより、異なったものの考え方が生じる。それは社会をどう考えるかという思想までに展開することもあるし、時代の単なる風潮として表層的な現象にとどまることもある。そのような現象をどう見るか、自分なりの見方ができるようになることが目標である。</p> <p>[講義概要]これらの現象を掘り下げ、社会に対する思想とその底にある自我意識の形成を西洋中世から近世の錬金術思想において分析する。さらに、これを日本の江戸時代から明治にかけての絵画と西洋の絵画等との比較を通して、日本人の社会思想と自我意識を検討する。</p> <p>[受講生への要望]これは単なる講義形式の授業ではない。質問をされて、自分でも考えることが要求されるので、その覚悟で受講すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義概要の説明。 2. 錬金術思想と哲学 3. 中世ヨーロッパの錬金術とその時代背景。 4. 中世ヨーロッパの錬金術とその時代背景。 5. 中世ヨーロッパの錬金術とその時代背景。 6. 中世ヨーロッパの錬金術とその時代背景。 7. 中世ヨーロッパの錬金術とその時代背景。 8. 錬金術と現代の問題。 9. ルネッサンス期以降の遠近法と近代科学。 10. 芸術作品に見られる世界観と自我意識 (1) 11. 芸術作品に見られる世界観と自我意識 (2) 12. できれば、自我意識についてのディスカッション。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示		試験と授業貢献度	

全カリ (春) 外共	社会思想史 a (市民的社会像の黎明期) 社会思想史 (通年)	担当者	市川 達人
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>私たちの政治や経済に関する見方・考え方を支配している近代的社会観の形成を西欧を舞台に歴史的にたどる。講義は通年で完結する形をとる。前期 (a) では、最近リアリティを失ってきたかにみえる「社会」という観念を改めて分析してみることから始め、その「社会」を学問的に対象化する動きがはじまったルネッサンスから宗教改革の時期を取り上げる。キリスト教的な世界観との対抗、またその変革のなかで社会認識の新しい軸が形成される時期である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1)社会という観念と概念。 2)近代市民社会とは。西欧的社會観の原型にさかのぼって 3)ルネッサンスと都市 4)マキャベリと『君主論』 5)ユートピア思想とは 6)トマス・モアと『ユートピア』 7)中世の教会改革運動、千年王国説、後期スコラ学派 8)ルターの改革運動と神学 9)ルターの経済思想。 10)カルヴィニズムの宗教思想 11)カルヴィニズムと近代的エートス 12)まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト 「社会思想の歴史」 渋谷一郎編 八千代出版 参考文献 講義中に指示</p>		<p>学期末の試験によって評価</p>	

全カリ (秋) 外共	社会思想史 b (市民的社会像の確立期) 社会思想史 (通年)	担当者	市川 達人
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>西欧では 17 世紀から近代市民社会の見取り図を描く作業が思想家達によってはじまる。伝統的な自然法思想を手がかりにして社会契約という考え方が生まれ、社会は個人の自然権を守るための装置として認識されることとなる。同時に、その自然な人間の活動が経済のレベルでとらえられ、国家とは区別される市民社会という観念が生まれてくる。このあたりの展開をホッブズから初めて 19 世紀のマルクスまでたどってみる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1) 西欧自然法思想の流れ 2) ホッブズの人間観と自然権思想 3) ホッブズの国家観 4) ロックの市民社会論 5) ロックの所有権理論と自由主義 6) フランス啓蒙思想 (ヴォルテール、ディドロ) 7) ルソーの啓蒙批判とデモクラシー 8) スミスと経済的自由主義 9) 社会主義思想の諸潮流 10) マルクスの思想 (1) 11) マルクスの思想 (2) 12) まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト 「社会思想の歴史」 渋谷一郎編 八千代出版 参考文献 講義中に指示</p>		<p>学期末の試験によって評価</p>	

全カリ (春) 外共	心理学 a (知覚・認知) 心理学 (通年)	担当者	増田 直衛
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>心理学とはどんな学問なのでしょう。おそらく多くの人々にとっては、心理学というと TV や雑誌に登場してくる性格診断やフロイトの精神分析学を思い起こすかもしれませんが、勿論、このような分野も心理学の一部ではありますが、それらはほんの一部分でしかありません。</p> <p>心理学は人間や動物の行動を科学的に研究することで「心」を理解しようとしてきました。そして行動を個体と環境との相互作用としてとらえようとしています。ここでは個体がいかに環境からの情報を得て行動しているのか、知覚・認知を中心に講義をします。</p> <p>VTR など AV 資料を使って具体的に理解できるようにここがけます。</p> <p>心理学 a (知覚・認知) のみでも完結した講義スタイルをとりますが、心理学 b (行動・個性) とあわせて受講すると理解は一層深まります。</p>		<p>1 ガイダンス 心理学では心をどのように理解しようとしたか</p> <p>2 固体と環境 心理学のものとのとらえ方</p> <p>3 物理的世界と心理的環境</p> <p>4 感覚の世界</p> <p>5 主観のものさし</p> <p>6 まとまりのある知覚世界 (1)</p> <p>7 まとまりのある知覚世界 (2)</p> <p>8 認知と判断過程</p> <p>9 判断と意思決定</p> <p>10 態度の形成とダイナミクス</p> <p>11 社会的現実の構築</p> <p>12 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは特に指定しません。</p> <p>講義中に参考になる図書をそのつど紹介します。</p>		<p>定期テストと、随時行う出席調査をかねる小レポートなどによります。</p>	

全カリ (秋) 外共	心理学 b (行動・個性) 心理学 (通年)	担当者	増田 直衛
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>心理学とはどんな学問なのでしょう。おそらく多くの人々にとっては、心理学というと TV や雑誌に登場してくる性格診断やフロイトの精神分析学を思い起こすかもしれませんが、勿論、このような分野も心理学の一部ではありますが、それらはほんの一部分でしかありません。</p> <p>心理学は人間や動物の行動を科学的に研究することで「心」を理解しようとしてきました。そして行動を個体と環境との相互作用としてとらえようとしています。ここでは個体が環境に適應して生きていくためにどのような行動をとるか、動物も含めて行動変容のダイナミクスを講義します。心理学では個性をどのように理解し、それはどのように形成されてくるのか講義をします。</p> <p>VTR など AV 資料を使って具体的に理解できるようにここがけます。</p> <p>心理学 b (行動・個性) のみでも完結した講義スタイルをとりますが、心理学 a (知覚・認知) とあわせて受講すると理解は一層深まります。</p>		<p>1 ガイダンス 行動を理解するために</p> <p>2 環境への適応様式</p> <p>3 生得的行動・獲得的行動</p> <p>4 種に固有の固定的行動</p> <p>5 行動の変容 (1) レスポンデント条件づけ</p> <p>6 行動の変容 (2) オペラント条件づけ</p> <p>7 行動分析学とその応用</p> <p>8 個性をどのように理解するか</p> <p>9 個性をいかに測定するか</p> <p>10 パーソナリティのダイナミクス</p> <p>11 個性はどのように発達するのか</p> <p>12 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは特に指定しません。</p> <p>講義中に参考になる図書をそのつど紹介します。</p>		<p>定期テストと、随時行う出席調査をかねる小レポートなどによります。</p>	

全カリ (春) 外共	心理学 a (人間の行動・認知・感情の共通法則) 心理学 (通年)	担当者	杉山 憲司
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、なるべく広範囲なテーマを選び、心理学の課題と研究方法、研究成果について紹介する。心理学の視点から大学生を見ていると、第1に、自己の価値と個性を認め、自分に自信を持つこと。第2に、友人関係をお互い大切にするスキル（心理学ではソーシャル・スキルと言います）を身につける必要があることを、先ず言いたいと思います。また、心理学は自己を知ることが研究目的の1つであり、且つ、自己が研究対象でもあるという、学問としての特色があります。</p> <p>この授業では、1) 自己の特徴や日常的な人との関わりについて学ぶこと、2) 自己の専攻領域（所属する学科の学問）を心理学の視点からとらえ直すこと、3) 心理学から見た将来の職業（仕事）との関わりについて学ぶこと。以上が、講義の最終的な目的です。</p> <p>前期である a では、認知、行動、モチベーションの人間性の3側面に焦点を当てる予定です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ヒューマン・サイエンスとしての心理学：心理学への導入。歴史、研究対象と方法、動向など。 2. 感覚と知覚・認知（感じる／考える）：人間の感覚受容器や脳、感覚と知覚の仕組みや特徴について。 3. 感覚と知覚・認知：顔や原因の認知（原因帰属）、認知や記憶の情報処理モデルなど。 4. 感覚と知覚・認知、技能知・技術知、環境心理学、工業デザインなどについて。 5. 行動と行動獲得・変容（動く／変わる）：学習の基礎、例えば、条件づけ、強化の随伴性、モデルを媒介とした観察学習。 6. 進化と人間行動。例えば、利他行動や協力、殺人と自殺等について。 7. 教わることと学ぶことの違い。自律・協同学習と大学における学習環境デザイン。熟達化とコーチングなどについて。 8. モチベーション（もえる／動かす）：動機づけの基礎概念、例えば、生理的ホメオスタシス、学習動機について。 9. 達成動機と対人社会性動機。対人行動／責任行動などについて。 10. 欲求不満、葛藤、ストレス。無気力（学習性無力感）。 11. 1. 内発的動機づけと意欲を高める自己原因性と有能感などについて。 12. 2. まとめと残された問題。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
杉山憲司・青柳肇（編）『ヒューマン・サイエンスー心理学アプローチ』ナカニシヤ出版		試験で評価する。出席は前提だが、授業出席は学生の権利であり、従って、出欠は取らない。	

全カリ (秋) 外共	心理学 b (人間の個性・多様性理解) 心理学 (通年)	担当者	杉山 憲司
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、なるべく広範囲なテーマを選び、心理学の課題と研究方法、研究成果について紹介する。心理学の視点から大学生を見ていると、第1に、自己の価値と個性を認め、自分に自信を持つこと。第2に、友人関係をお互い大切にするスキル（心理学ではソーシャル・スキルと言います）を身につける必要があることを、先ず言いたいと思います。また、心理学は自己を知ることが研究目的の1つであり、且つ、自己が研究対象でもあるという、学問としての特色があります。</p> <p>この授業では、1) 自己の特徴や日常的な人との関わりについて学ぶこと、2) 自己の専攻領域（所属する学科の学問）を心理学の視点からとらえ直すこと、3) 心理学から見た将来の職業（仕事）との関わりについて学ぶこと。以上が、講義の最終的な目的です。</p> <p>後期の b では、パーソナリティ、発達、社会心理学の3領域を通して人間の多様性とその形成発達過程、形成要因に焦点を当てる予定です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 後半の導入：前期のまとめと、後期の視点について。多様性とは。 2. パーソナリティ（きわだつ／できる）：性格検査から何が言えるのか、何故そう言えるのか。 3. パーソナリティ理論は多様な人間性のモデルである。 4. 知能とは。知能と創造性の違い、創造性を活性化させる条件。対人関係を円滑にするソーシャル・スキルなどについて。 5. 発達（育つ／育てる）：ビッグネームの多様な発達理論。 6. 生育初期の重要性：やり取りや親子・仲間関係の大切さ（アタッチメント）。 7. 青年期のアイデンティティ。発達支援、世代間伝達などについて。 8. 高齢化社会。生き甲斐と有能感。well-being とは何か。 9. 社会（かかわる／競う）：社会的自己、自己開示／自己提示。 10. 集団と個人、例えば、変革期のリーダーシップとは何か。 11. 1. 態度と態度変化。説得的コミュニケーションなどについて。 12. 2. まとめ：各人の違いを認めたくうえで、1人ひとりが、精神的に健康で、幸福なサクセスライフを生きるために、心理学から何が言えるか、どんな課題が残されているか。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
杉山憲司・青柳肇（編）『ヒューマン・サイエンスー心理学アプローチ』ナカニシヤ出版		試験で評価する。出席は前提だが、授業出席は学生の権利であり、従って、出欠は取らない。	

全カリ (春) 外共	言語学 a (一般言語学) 言語学 (通年)	担当者	浅山 佳郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日本で「言語学」を履修する際、その材料として最も一般的な言語は英語あるいは日本語である。この講義では言語学の基本概念を確認しつつ、主な対象言語として中国語・スペイン語・日本語を取り上げる。</p> <p>授業は浅山と二宮の2人が交替または同時に担当して議論を交わしていく。</p> <p>授業は3回を1セットとし、1回目と2回目では、それぞれ担当教員がそれぞれの言語を材料として、当該の問題をあつかう。そして、3回目は、前2回の授業を材料として、教員間の議論を整理するとともに、学生諸君からの質問をとりあげ、それぞれの個別の問題を議論していく。</p> <p>教員はできるだけさまざまな言語資料を提供したいとかがえている。学生諸君には、質問や議論など、授業に積極的に参加されることが望まれる。</p>		<p>1 ガイダンス</p> <p>2 音声音韻論その1～スペインや英語など</p> <p>3 音声音韻論その2～日本語や中国語など</p> <p>4 音声音韻論その3～比較検討・質問と議論</p> <p>5 形態論その1～スペイン語・英語など</p> <p>6 形態論その2～「形態」論は必要か !?</p> <p>7 形態論その3～比較検討・質問と議論</p> <p>8 統語論その1～スペイン語や英語など</p> <p>9 統語論その2～日本語や中国語など</p> <p>10 統語論その3～比較検討・質問と議論</p> <p>11 春学期のまとめ・その1</p> <p>12 春学期のまとめ・その2</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要なものについては、授業中に指示する。		期末試験によって評価する。	

全カリ (秋) 外共	言語学 b (一般言語学) 言語学 (通年)	担当者	二宮 哲
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>言語学aにひきつづき、一般言語学として各種の問題をとりあげる。</p> <p>基本的な授業の方法は春学期の「言語学 a」に準ずる。すなわち、授業は浅山と二宮の2人が交替または同時に担当して議論を交わしていく。</p> <p>授業は3回を1セットとし、1回目と2回目では、それぞれ担当教員がそれぞれの言語を材料として、当該の問題をあつかう。そして、3回目は、前2回の授業を材料として、教員間の議論を整理するとともに、学生諸君からの質問をとりあげ、それぞれの個別の問題を議論していく。</p> <p>教員はできるだけさまざまな言語資料を提供したいとかがえている。学生諸君には、質問や議論など、授業に積極的に参加されることが望まれる。</p>		<p>1 ガイダンス</p> <p>2 意味論語用論その1～スペインや英語など</p> <p>3 意味論語用論その2～日本語や中国語など</p> <p>4 意味論語用論その3～比較検討・質問と議論</p> <p>5 社会言語学その1～スペイン語・英語の言語社会</p> <p>6 社会言語学その2～中国語・日本語の言語社会</p> <p>7 社会言語学その3～比較検討・質問と議論</p> <p>8 比較言語学その1～欧印語族とフィン・ウゴル語族</p> <p>9 比較言語学その2～シナ・チベット諸語とアルタイ語族</p> <p>10 比較言語学その3～比較検討・質問と議論</p> <p>11 秋学期のまとめ・その1</p> <p>12 秋学期のまとめ・その2</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要なものについては、授業中に指示する。		期末試験によって評価する。	

全カリ (春) 外共	言語学 a (日本語とはどのような言語か) 国語学 (通年)	担当者	小島 幸枝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日本民族の地理的環境をふまえた重層文化に根ざす日本語に関する基本的知識の修得を目的とする。国語学とはどのような内容をもつ学問なのか。国語学の分野を音声・音韻、文字、文法の領域に分けて講述する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本語の特徴 2. 国語学とはどのような学問か。その周辺領域の学について 3. 国語の音韻—音声と音韻 4. 古代語と現代語のちがい 5. アクセント 6. 文字・表記—漢字、国字、万葉仮名、カタカナ、ひらがな、反切 7. 仮名遣い—定家仮名遣、歴史的仮名遣 8. 百人一首の世界 9. ローマ字—外国人の日本語研究 10. 文法—単語と品詞分類 11. 文の構造と文の種類 12. 文体—文章と文体 	
テキスト、参考文献		評価方法	
福島邦道著『国語学要論』(笠間書院)		レポート	

全カリ (秋) 外共	言語学 b (辞書を読む) 国語学 (通年)	担当者	小島 幸枝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日本語の辞書には、いわゆる国語辞書、対訳辞書(漢和辞典、英和辞典など)のほかに古語辞典、時代別国語辞典、類語辞典、平仄辞典、アクセント辞典、外来語辞典、隠語辞典、逆引辞典等々、必要に応じて幾種類もの辞書が作られてきた。これらの辞書の特徴を知り、実際に利用して、その背景にどのような切り口で、日本語を説明しているかを学び、日本語の基本語、位相語などから日本語の特徴、及び日本人の考え方を読み取ってみたい。加えて、日本語は今後、どのように変化していくか、を辞書の改訂を通して、読み取っていく。日本語の系統論についても言及したい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 国語辞書の歴史—日本の辞書には意味が書かれていなかった 2~3 辞書の種類 4. 日ボ辞書—外国人の作った日本語辞書 5~7 節用集—日本人の生活が見える 8. 下学集を読む 9~10 和英語林集成—ヘボンの辞書 11. 言海—初めての日本語普通辞書—大槻文彦という人物 12. 日本語のルーツ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
福島邦道著『国語学要論』(笠間書院)		レポート	

全カリ (春) 外共	言語学 a (母語の習得と日本人) 国語学 (通年)	担当者	桂 千佳子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>無意識に使っている母語と向き合い、コトバの本質について考える。</p> <p>また、日本語話者としての自分を見つめ、その特徴を客観的に捉えられるようにする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. コトバはなぜ通じるのか —表現と理解 2. コトバが通じるのは本能か —本能だ! 3. コトバが通じるのは本能か —赤ちゃんとお母さんのコミュニケーション① 4. コトバが通じるのは本能か —赤ちゃんとお母さんのコミュニケーション② 5. ソシユールの言語理論① 6. ソシユールの言語理論② 7. ソシユールの言語理論③ 8. 自分のコトバを見つめる —日本人の母語意識 9. コトバと文化① 10. コトバと文化② 11. コトバと文化③ 12. まとめと質疑応答 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業時に指示		テストおよび出席率	

全カリ (秋) 外共	言語学 b (コトバの構造と文法観) 国語学 (通年)	担当者	桂 千佳子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>普段意識していない日本語のルールについて、自分なりの分析ができるようにする。</p> <p>いくつかの方法論について、実際に例文を作って自分で検証していく。</p> <p>一つ一つについて、文の意味、用いているルール、その文が発話された意図について考えられるようにする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 頭の中の文法 —日本語学習者の誤用例から 2. 日本語の「時」の表現① —絶対テンス 3. 日本語の「時」の表現② —相対テンス 4. 日本語の文の構造① —文の構成 5. 日本語の文の構造② —コトとムード 6. 日本語の文の構造③ —文と句 7. 日本語の文の階層構造 —南不二男による4つの分類① 8. 日本語の文の階層構造 —南不二男による4つの分類② 9. 日本語の文の階層構造 —陳述論争 10. アスペクト 11. アスペクト 12. まとめと質疑応答 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業時に指示		テストおよび出席率	

全カリ (春) 外共	文学 a (恐怖の日本文学) 日本文学 (通年)	担当者	佐藤 毅
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義目標] 現代日本におけるベストセラーの特色を分析することにより、現代人がどのような世界に住み、どのような世界を望んでいるのかを考察する。</p> <p>[講義概要] 現代文学のベストセラーを詳細に分析する。春学期は「恐怖の現代文学」と題して、恐怖や苦痛を扱ったベストセラーの数々をブックレビュー的に紹介しながら、その本質に迫る。</p> <p>[受講生への要望] 講義で紹介した作品は、できるだけ読破して欲しい。読書の必要性とか重要性ではなく、読書の楽しみを伝えて行くことが目的なので、楽しんでもらいたい。</p>		<p>恐怖の現代文学</p> <p>① 日本文学における代表的恐怖 『古事記』『今昔物語集』『平家物語』『牡丹灯籠』『雨月物語』『東海道四谷怪談』</p> <p>② 現代文学における恐怖の端緒 江戸川乱歩、横溝正史の登場</p> <p>③ 現代恐怖文学のベストセラー分析</p> <p>(1) 古典的な題材を含んだ作品 荒俣宏の『帝都物語』 坂東眞砂子の『死国』『狗神』ほか 京極夏彦の世界</p> <p>(2) 超自然的事象の題材を含んだ作品 梅原克文の『ソリトンの悪魔』ほか 瀬名秀明の『パラサイト・イヴ』ほか 鈴木光司の『リング』ほか</p> <p>(3) 心理学的な題材を含んだ作品 貴志祐介の『黒い家』ほか 桐野夏生の『I.O.U.T.』ほか</p> <p>(4) 社会派ミステリー 宮部みゆきの『理由』ほか</p> <p>(5) スプラッター的ホラー 綾辻行人の『殺人鬼』における実験</p> <p>(6) その他</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
その都度紹介する。		出席・レポート・定期試験による。	

全カリ (秋) 外共	文学 b (癒しの日本文学) 日本文学 (通年)	担当者	佐藤 毅
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義目標] 現代日本におけるベストセラーの特色を分析することにより、現代人がどのような世界に住み、どのような世界を望んでいるのかを考察する。</p> <p>[講義概要] 現代文学のベストセラーを詳細に分析する。秋学期は「癒しの現代文学」と題して、癒しややさしさを扱ったベストセラーの数々をブックレビュー的に紹介しながら、その本質に迫る。</p> <p>[受講生への要望] 講義で紹介した作品は、できるだけ読破して欲しい。読書の必要性とか重要性ではなく、読書の楽しみを伝えて行くことが目的なので、楽しんでもらいたい。</p>		<p>癒しの現代文学</p> <p>① 近代文学に見るやさしさの文学 芥川龍之介の『蜜柑』ほか 川端康成の『伊豆の踊子』ほか 太宰治の『お伽草紙』ほか</p> <p>② 現代文学に見るやさしさの文学 宮本輝の世界 浅田次郎の世界 重松清の世界 村上春樹の世界 北村薫の世界 現代児童文学の現状 宮崎駿の目指す世界 ほか</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
その都度紹介する。		出席・レポート・定期試験による。	

全カリ (春) 外共	文学 a (日本文学—上代から中古前期) 日本文学 (通年)	担当者	福沢 健
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・講義内容 日本の古典文学を取り上げ、その魅力に触れることを目標とする。この講義では上代から中古前期を取り扱うことを目標としているが、場合によっては、上代 (奈良時代以前) のみを取り扱うこともある。 プリントを配布して、そのプリントに基づくかたちで講義を進める。試験はそのプリントをまとめるものとなるので、授業を通して全体の流れをよく把握してほしい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 2 八岐大蛇退治神話の紹介 (古事記) 3 八岐大蛇神話と海外の神話 (古事記) 4 神としての天皇 (万葉集) 5 古代都市の文学 (万葉集) 4 浦島太郎と蓬莱山 (丹後国風土記) 5 浦島太郎と風流 (丹後国風土記) 6 異境訪問譚について 7 春の孤独 (万葉集) 8 平和の帝国 (文華秀麗集) 9 いちはやきみやび (伊勢物語) 10 怨霊と秩序 (古今和歌集) 11 一人子の死 (土佐日記) 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
なし (プリント配布) 参考図書は授業時に随時紹介する。		期末試験	

全カリ (秋) 外共	文学 b (中古後期から現代) 日本文学 (通年)	担当者	福沢 健
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・講義内容 日本の古典文学を取り上げ、その魅力に触れることを目標とする。この講義では中古後期以降のテキストを取り扱う。 授業は、プリントを配布して、そのプリントに基づくかたちで講義を進める。試験はそのプリントをまとめるものとなるので、授業を通して全体の流れをよく把握してほしい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 2 真実の物語 (蜻蛉日記) 3 作られた笑い (枕草子) 4 源氏物語のストーリー 5 源氏物語のストーリー 6 天女の末裔 (源氏物語) 7 方便としての物語 (源氏物語) 8 菩提講の鎮魂 (大鏡) 9 衰弱する天皇 (讃岐典侍日記) 10 華麗なる滅亡 (平家物語) 11 この世の終わり (方丈記・徒然草) 12 現代と古典文学 	
テキスト、参考文献		評価方法	
なし (プリント配布) 参考図書は授業時に随時紹介する。		期末試験	

全カリ (春) 外共	文学 a (スペイン文学) 外国文学 (通年)	担当者	野々山 ミチコ
講義目的、講義概要		授業計画	
近代スペイン文学の名作を解説する。 最後にドン・キホーテも解説する。		1 短篇集 「イワシの埋葬から」 ベッケル 2 アソリン 3 アソリン 4 アソリン 5 クラリン 6 クラリン 7 ロルカ 8 ロルカ 9 ドン・キホーテ 10 ドン・キホーテ 11 " " 12 " "	
テキスト、参考文献		評価方法	
野々山 真輝帆編「イワシの埋葬」 ロルカはプリントを用いる。 セルバンテス「ドン・キホーテ」前篇 (岩波文庫)		出席とレポートによる。	

全カリ (秋) 外共	文学 b (ラテンアメリカ文学) 外国文学 (通年)	担当者	野々山 ミチコ
講義目的、講義概要		授業計画	
ラテンアメリカ文学の二つの大きな流れ、モデルニズモと魔術的リアリズムの生んだ名作を解説する。		1 短篇集から ルベン・ダリオ 2 アマード・ネルボ 3 クレメンテ・パルマ 4 バレット 5 キローガ 6 キローガ 7 キローガ 8 オネッティ 9 アレオラ 10 カルペンティエール・コルタサル (プリント) 11 ボルヘス (岩波文庫) 12 ボルヘス (")	
テキスト、参考文献		評価方法	
野々山 真輝帆編「ラテンアメリカ短篇集」 ボルヘス「伝奇集」		出席とレポートによる。	

全カリ (春) 外共	文学 a (文学としての聖書) 外国文学 (通年)	担当者	宮谷 尚実
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>『聖書』は、欧米の文化のみならず、近代以降の日本文学にも大きな影響を及ぼした書物であり、現代に生きる私たちもさまざまな形でこの聖書に接しているはずである。</p> <p>この講義の目的は、キリスト教など特定の宗教の信仰を前提とせず、あくまでも文学として聖書を扱い、1) 大学の勉強のなかで聖書を背景とした文化圏に関わる際に必要とされる基本情報を学ぶこと、2) 聖書を題材とした文学作品や図像の読み方の基礎を学ぶこと、である。</p> <p>旧約聖書と新約聖書の有名な話を中心に、それらの解釈である文学作品や絵画、できればさらには音楽や映画を紹介したい。</p> <p>受講者は、第1回で配布する詳しいリストを参考に、指定された箇所を毎回あらかじめ読んでから出席すること。そのため、初回の授業には必ず出席すること。</p> <p>さらに、授業で指定されていない文献や作品を自ら「発掘」して授業と関連づける知的好奇心と行動力を受講者に求める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 旧約聖書の世界 (1) 3 旧約聖書の世界 (2) 4 旧約聖書の世界 (3) 5 旧約聖書の世界 (4) 6 旧約聖書の世界 (5) 7 新約聖書の世界 (1) 8 新約聖書の世界 (2) 9 新約聖書の世界 (3) 10 新約聖書の世界 (4) 11 新約聖書の世界 (5) 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：『聖書 新共同訳』（日本聖書協会） 文語または口語訳でもかまわない。</p> <p>参考文献：『アートバイブル』（日本聖書協会）2003年</p>		<p>毎回の小レポート・期末試験</p> <p>授業中に迷惑行為（私語等）を行った場合は欠席とみなし、程度によっては単位を認めないこともある。</p>	

全カリ (秋) 外共	文学 b (文学とそのリメイク) 外国文学 (通年)	担当者	宮谷 尚実
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現代において、文学は活字メディアにとどまらず、映画化によって「読まれ」ることが多い。出版からわずかの間に映画化される『ハリリー・ポッター』を例に出すまでもなく、映画というメディアの発展とともにさまざまな文学作品が映画化されてきた。</p> <p>この講義では、20世紀ドイツの児童文学作家ケストナーの作品を3つ読み、その映画化された作品と比較する。たとえば、2003年冬に日本でも公開された『飛ぶ教室』はライブチヒの聖トーマス教会付属学校を舞台としているが、これはケストナーによる原作にはない設定である。映画を原作と比較し、社会的背景もふまえて、そうした改変の原因と効果を考えたい。</p> <p>講義の目的は、活字メディアの原作をきちんと読み、映画と比較する目を養うことである。そのため、受講希望者は、扱われる作品を必ず自分で読んで講義に臨むこと。また、映画化された作品もあらかじめ観ておくことが望ましい。</p> <p>期末試験では授業で扱わない作品を課題とするため、主体的な授業参加が普段から不可欠である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 ケストナーとその時代 3 『ふたりのロッテ』(1) 4 『ふたりのロッテ』(2) 5 『ふたりのロッテ』(3) 6 『点子ちゃんとアントン』(1) 7 『点子ちゃんとアントン』(2) 8 『点子ちゃんとアントン』(3) 9 『飛ぶ教室』(1) 10 『飛ぶ教室』(2) 11 『飛ぶ教室』(3) 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>講義第1回目に指示するため、欠席しないこと。</p>		<p>毎回の小レポート・期末試験</p> <p>授業中に迷惑行為（私語等）を行った場合は欠席とみなし、程度によっては単位を認めないこともある。</p>	

全カリ (春) 外共	歴史学 a (日本中世社会における「悪党」) 歴史学 (日本史) (通年)	担当者	新井 孝重
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>◎ 「悪党の世紀」ともいわれた十三・四世紀内乱時代の社会のありさまを、人間の行動と意識を通して観察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中世民間社会の武装慣行 ・ 異形としての甲冑の姿 ・ 悪党の武装 ・ 武勇にたいする価値の変化 		<ol style="list-style-type: none"> 1 ある相論 2 「悪」のすがた 3 見せるための武装 4 祭りと武装と闘争 5 元弘二年の祇園御霊会 6 武器を持つ芸能 7 「武」の禁忌を破る 8 ならずものので立ち 9 甲冑を脱ぎ捨てる 10 誇り高き「悪」から 11 公権力による武力の独占 12 「武勇」の増殖 	
テキスト		評価方法	
新井孝重『悪党の世紀』(吉川弘文館、1997年)		出席状態 試験成績	

全カリ (秋) 外共	歴史学 b (中世「悪党」の諸相) 歴史学 (日本史) (通年)	担当者	新井 孝重
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>◎ 鎌倉幕府崩壊から始まる日本社会未曾有の内戦を、戦闘に参加する武士たちの意識を通して観察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 楠木の勢力 ・ 金剛山の攻防 ・ 移動する大軍 ・ 戦いの日々 		<ol style="list-style-type: none"> 1 土豪の住宅と城郭 2 河内と伊賀の関係 3 平場の戦い・山の戦い 4 「尋常(よのつね)ならぬ」合戦 5 金剛山の周囲 6 西へ向かう大軍 美濃国でのいくさ 7 奥州軍は快進撃したのか 8 たえざる掠奪 崩壊する大軍 9 ある武士の思い 10 雇われる凡下の輩 11 戦争に疲れて 12 領主制の再構築 	
テキスト		評価方法	
新井孝重『悪党の世紀』(吉川弘文館、1997年)		出席状態 試験成績	

全カリ (春) 外共	歴史学 a (「15 年戦争」をどうとらえるか) 歴史学 (日本史) (通年)	担当者	丸浜 昭
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1945.8.15 に終わった戦争で、日本はどこに敗けたと認識しているか。この戦争のことを、普通、何と呼ぶか。そもそもこの戦争は、いつ、どこで始まったのか。これらの問い返ってくる答えをみると、日本人がこの戦争をどうとらえているか、さまざまな問題が浮かび上がってくる。戦後 60 年になろうとしているが、日本人のこの戦争への認識は多くの課題をかかえており、政治的な争点にもなっている。</p> <p>この戦争をとらえるために、被害や加害の事実をしっかりとみたい。見るのがつらいところもあるが、ビデオをいくつか使う。その上で、教育や社会の状況も含めて、この戦争の全体像を考えてみたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 8.15 に終わった戦争の呼称・相手をめぐって 2 真珠湾からか、コタバルからか 3 被害の問題①—空襲は何を示すか 4 被害の問題②—原爆投下をどうとらえるか 5 加害の問題①—731 部隊とは何か 6 加害の問題②—南京事件をどうとらえるか 7 加害の問題③—強制連行と従軍慰安婦 8 兵士と民衆①—日本軍隊の特徴をみる 10 兵士と民衆②—教育でどう兵士が育てられたか 11 兵士と民衆③—荷担と抵抗をめぐって 12 まとめとして—戦争の全体像を考える 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業の中で紹介する		定期試験の時間の中で、基本的に論述の形式で試験を実施する	

全カリ (秋) 外共	歴史学 b (戦後史の中の「15 年戦争」) 歴史学 (日本史) (通年)	担当者	丸浜 昭
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「15 年戦争」は、戦後 60 年になろうとする今日でも、日中間で問題になっているように、日本の社会に大きな影響を与えている。そこには、この戦争そのものの問題だけでなく、戦後史のさまざまな局面の中でこの戦争がどうとらえられ、どう処理されてきたか、という問題がからんでいる。たとえば、戦後の日米関係が、この戦争の処理や日本人の戦争認識に大きな影響を与えてきた事実がある。中国や韓国の人々から戦後補償が、今、求められる背景には、この戦後の歴史がある。日本の政府が、また民衆が、戦後史の中でこの戦争をどうとらえどう対処し、どのような課題を残してきたのか考えてみたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 沖縄戦・本土決戦と戦争の終わり方の特徴 2 一億総ざんげ論から日本国憲法まで 3 東京裁判をめぐって 4 サンフランシスコ講和のもった問題 5 内外での補償・賠償をめぐって 6 日本とドイツの戦後補償 7 日韓条約はなぜ 1965 年に結ばれたか 8 日中国交回復への道のり 9 ベトナム戦争と国民の戦争認識の変化 10 アジアの民衆からの戦後補償要求 11 戦後 50 年の国会決議をめぐって 12 過去の戦争と現代の戦争 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業の中で紹介する		定期試験の時間の中で、基本的に論述の形式で試験を実施する	

全カリ (春) 外共	歴史学 a (イスラーム世界の成立と拡大) 歴史学 (東洋史) (通年)	担当者	熊谷 哲也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(講義の目的) 西アジアの歴史について講述する。イスラーム世界の歴史を知ることにより、彼らが何を規範とし、何に価値を置き、何を理想として求めてきたかを考えてみたい。</p> <p>(講義概要) 7世紀における預言者ムハンマドの出現から16世紀にいたるまでの歴史を概観し、イスラーム教が拡大して広大なイスラーム世界が形成されるまでを理解する。宗教、社会、文化についての基本的な知識も学ぶ。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 イスラームにかんする基本事項について説明する。オリエンテーションをかねる。 2 イスラーム教の誕生以前の世界について考える。 3 預言者ムハンマド(マホメット)の出現と、その時代背景について考える。 4 最初の4人のカリフ(正統カリフ)の時代について。第一次内乱、シーア派の出現を理解。 5 ウマイヤ朝の歴史。ヴェルハウゼンの古典理論における「アラブ帝国」の意味を検討する。 6 アッバース朝の歴史。「アラブ帝国」から「イスラーム帝国」への移行の意味を検討する。 7 啓示の書であるコーラン、預言者の言行録であるハディース、それらの解釈をめぐって。 8 アッバース朝時代から発達したアラビア科学と、中世におけるイスラーム神秘主義。 9 アッバース朝の弱体化に伴い、各地に出現した軍事政権とその展開について概観する。 10 マムルーク朝について。とくにイクター制が西欧の封建制と比較される点を検討する。 11 ヨーロッパ世界とイスラーム世界との関係。レコンキスタ、十字軍、大航海時代など。 12 同 その2 	
テキスト、参考文献		評価方法	
とくにさだめない。必要に応じて授業で指示する。		毎回出席をとる。期末にレポート。	

全カリ (秋) 外共	歴史学 b (イスラーム世界の近代化とその後) 歴史学 (東洋史) (通年)	担当者	熊谷 哲也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(講義の目的) イスラームは今日の国際情勢を読むための主要なキーワードであるが、その鍵を解くためにも、彼らの歴史を理解することはとても大切である。皆さんの視野が広がることを目標とする。</p> <p>(講義概要) 後期はイスラーム世界の近代化の歴史を地域別・テーマ別に考察する。今日イスラームがかかわるさまざまな国際関係についても、理解が深められるよう留意したい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オスマン朝の成立と発展について。「完成されたイスラーム国家」の定義も検討する。 2 欧米列強による帝国主義とイスラーム世界とのさまざまな関係について概説する。 3 西洋の衝撃によってイスラーム世界の内部にあらわれた改革運動の起こりとその内容。 4 さまざまなイスラーム改革運動、ネオ・スーフイズムなどの問題について考える。 5 エジプトの近代化とその過程について。考える。 6 トルコの近代化とその過程について。トルコナショナリズムとパン・イスラミズムの理解。 7 近代化がイスラーム世界の人々の生活と信仰におよぼした影響とゆくえについて考察する。 8 知識人階層であるウラマー、宗教的寄進であるワクフなど、イスラーム社会について検討。 9 近・現代のアラブ世界の文化について考える。 10 今世紀のイスラーム世界について考える。マイノリティーの問題もとりあげる。 11 現在のアラブ諸国のかかえる問題、東西冷戦終結後における欧米諸国との関係を考える。 12 まとめをおこなう 	
テキスト、参考文献		評価方法	
とくにさだめない。必要に応じて授業で指示する。		毎回出席をとる。期末にレポート。	

全カリ (春) 外共	歴史学 a (中国近代史概説 - 清朝国家の黄昏) 歴史学 (東洋史) (通年)	担当者	張 士陽
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現代の東アジア世界をより深く理解するために、その成立の背景となる中国近代史について講義します。</p> <p>19世紀前半、中国は内外の諸要因から激動の時代を迎えます。2000年間、王朝交替を繰り返しながら存続してきた皇帝支配体制は最大の危機に直面します。</p> <p>清朝国家は体制存続のために様々な改革を実施します。講義ではこの時期の社会秩序や経済活動の変動に対して、当時の人々がどのように対応したかを中心に考えていきたいと思います。</p> <p>中国近代史では政治経済の短期的変動に関心が向きがちですが、伝統中国社会の特質の変容と再編という点にも焦点をあてる予定です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 清代の国家と社会 2 18世紀中国の負の遺産 3 アヘン戦争 4 冊封・朝貢体制の動揺 5 太平天国 6 清朝体制の反撃 7 洋務運動 8 中体西用の諸相 9 開港場の社会と経済 10 農村社会の変容 11 周辺地域宗主権の喪失 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
並木頼寿・井上裕正『世界の歴史 19 中華帝国の危機』中央公論新社 1997年。		試験による。	

全カリ (秋) 外共	歴史学 b (中国近代史概説 - 変革の諸相) 歴史学 (東洋史) (通年)	担当者	張 士陽
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現代の東アジア世界をより深く理解するために、その成立の背景となる中国近代史について講義します。</p> <p>日清戦争の敗北によって清朝体制は危機的状況に陥ります。この時代に伝統の創造により中国の変革を目指した人々、さらなる変革を求めて「革命」を選んだ人々などの思想と行動を検討し、また地方自治改革と地域社会の対応の軌跡をたどります。</p> <p>中国近代史では政治経済の短期的変動に関心が向きがちですが、伝統中国社会の特質の変容と再編という点にも焦点をあてる予定です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 光緒親政 2 日清戦争 3 変法改革 4 戊戌の政変 5 義和団の蜂起 6 革命派の台頭 7 地方自治の試み 8 王朝体制の崩壊 9 民国の混迷 10 五四運動 11 未完の革命 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
並木頼寿・井上裕正『世界の歴史 19 中華帝国の危機』中央公論新社 1997年。		試験による。	

全カリ (春) 外共	歴史学 a (「ヨーロッパ時代」のユダヤの歴史 (1)) 歴史学 (西洋史) (通年)	担当者	増谷 英樹
講義目的、講義概要		授業計画	
ヨーロッパ近代以降のユダヤの歴史を見ることによってヨーロッパの歴史について学ぶ。今年度はビデオ教材を多用する。		近代以降のユダヤの歴史を概観し、以下のようなビデオを見て、それぞれの問題を考えていく。 「独裁者」 「さよなら子供たち」 「コルチャック先生」 「シンドラーのリスト」 「サウンド・オブ・ミュージック」 「聖週間」	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に配布		小レポート、レポート	

全カリ (秋) 外共	歴史学 b (「ヨーロッパ時代」のユダヤの歴史 (2)) 歴史学 (西洋史) (通年)	担当者	増谷 英樹
講義目的、講義概要		授業計画	
同上		同上	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に配布		小レポート、レポート	

全カリ (春)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

全カリ (秋)	歴史学 a (ヨーロッパの歴史—統合と分裂の視点から)	担当者	古川 堅治
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><講義目的> 21世紀の人間社会は一体どのような道を歩もうとしているのか？また、国家という枠組みはどうなっていくのか？本講義は、そのような問題意識のもとに、副題として「ヨーロッパの歴史」と銘打ち、分裂と統合の視点からその歴史を通観し、今日のヨーロッパ連合 (EU) がどのような思想的系譜から生み出され、かつまた、いかなる発展の可能性を秘めているのかを考えることを主目的とする。</p> <p><講義概要> 講義は概説的に進めていくが、関連するテーマをビデオや映画、LDなどもできるだけ使って理解を深めるのに役立つ。授業では、細かな年代や事項を暗記してもらおうというのではなく、各テーマごとに問題を提起し、それについて考えてもらうことを主眼においているので、積極的かつ活発な質問、疑問、意見が出ることを期待されている。なお、春学期に少なくとも1回の討論会を催す予定にしている。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 歴史を学ぶことの意味、今なぜヨーロッパか？ 2 ヨーロッパとは何か？ 「エウロパ神話」、「ヨーロッパ」の概念規定 3 古代地中海世界とヨーロッパ (1) 古典文明とヨーロッパ人の意識 4 古代地中海世界とヨーロッパ (2) 民主主義理念の系譜 5 古代地中海世界とヨーロッパ (3) ヨーロッパにおける古代ローマの遺産 6 統一ヨーロッパ構想の起点 「ヨーロッパ合衆国」の原型とフランク王国 7 最初のヨーロッパ統合 中世ヨーロッパをとらえる視点 8 討論会 (テーマや開催の仕方は授業中に指示する) 9 第二のヨーロッパ統合 (1) ヨーロッパ統合の思想的系譜 (1) 10 第二のヨーロッパ統合 (2) ヨーロッパ統合の思想的系譜 (2) 11 ヨーロッパ統合の歴史的意義 人間の共存の新しい枠組み？ 12 まとめ ヨーロッパ統合と日本 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使用せず、参考文献は初回の授業で「参考文献一覧表」を配布する。		学期末の定期レポートと1～2回の小レポート、討論会の参加度、出席点を加味して評価する。	

全カリ (春)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

全カリ (秋)	歴史学 b (バルカン情勢の現在—地域・国家・民族の視点から)	担当者	古川 堅治
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><講義目的> 21世紀になって、人間社会はどのような道を歩もうとしているのか。また、国家という枠組みはどうなっていくのか。本講座はそのような問題関心から、副題に「バルカン情勢の現在」と銘打ち、ヨーロッパの不安定要因の一つであるバルカン地域を取り上げ、そこにおける諸国家、諸民族、地域協力のあり方を考えることにより、新しい共存の可能性を探ることを目標とする。</p> <p><講義概要> 講義は概説的に進めていくが、関連するテーマのビデオや映画、LDなどのできるだけ使って理解を深めるのに役立てたい。授業では、細かな年代や事項を暗記してもらおうというのではなく、各テーマ毎に問題を提示し、それについて考えてもらうことを主眼においているので、積極的かつ活発な質問・疑問・意見が出ることを期待されている。なお、秋学期に少なくとも1回の討論会を催す予定にしている。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 地域研究の意義と方法 2 オスマン帝国の支配と民族問題 (1) バルカン前史とオスマン帝国の進出 3 オスマン帝国の支配と民族問題 (2) フランス革命思想とバルカン民族意識の形成 4 バルカン地域における民族運動の展開 (1) 民族的統合の諸契機 5 バルカン地域における民族運動の展開 (2) バルカン諸民族の独立と対立 6 討論会 テーマや開催の仕方については授業中に指示 7 バルカン地域の民族問題の諸類型 国内民族対立、分割の再統合、少数民族 8 バルカン地域の諸問題の現状 (1) 旧ユーゴ・マケドニア共和国をめぐる問題 9 バルカン地域の諸問題の現状 (2) 新ユーゴ・セルビア共和国とコソボ問題 10 バルカン地域の諸問題の現状 (3) キプロス島の「再統合」問題 11 バルカン諸国の将来 バルカン連邦構想の系譜と地域協力の動き 12 まとめ 現代世界の課題 (世界の地域協力・統合構想) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使用せず、参考文献は初回の授業で「参考文献一覧表」を配布する。		学期末の定期レポートと1~2回の小レポート、討論会の参加度、出席点を加味して評価する。	

全カリ (春) 外共	文化人類学 a (未開文化の理解へ) 文化人類学 (通年)	担当者	井上 兼行
講義目的、講義概要		授業計画	
文化人類学は、現在消えつつある「未開」社会と呼ばれる社会の文化を、異文化として理解しようとする学問である。aにおいては、この学問の形成の歴史、対象、方法などを学ぶ。		1 どんな学問か 2 概説書の紹介 3 文化人類学前史(1) 4 同上 (2) 5 同上 (3) 6 文化人類学の誕生へ 7 対象としての「文化」の概念(1) 8 同上 (2) 9 初期の視点——歴史的視点 10 視点の転換——現在の視点へ 11 方法としての実地調査(1) 12 同上 (2)	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはない。参考文献は随時紹介する。		定期試験期間中の試験による。	

全カリ (秋) 外共	文化人類学 b (未開文化の理解へ) 文化人類学 (通年)	担当者	井上 兼行
講義目的、講義概要		授業計画	
aで学んだことを基礎に、「未開」文化の事例を具体的に示し、それをどのように理解するかを学び、またそれを通してわれわれの文化について意識化し、検討を加えることを学ぶ。		事例としては、「経済」「婚姻・家族・親族」「宗教・儀礼」などを考えているが、話のつながり具合によって決める。ビデオを見てもらう機会もある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはない。参考文献は随時紹介する。		定期試験期間中の試験による。	

全カリ (春) 外共	現代文化論 a (グローバリゼーションを巡って) 人文科学特殊講義 A (現代文化論) (通年)	担当者	柴崎 信三
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「文化」というと頭に浮かぶのは文学や芸術をはじめ、その時代の表現と人々が生み出す創作物というのが一般的かもしれない。この授業ではそれをもっと幅広く、同時に深くとらえてその時代と社会をリードするルールやモラルの源泉、あるいは価値観にまで広げ、現代社会を動かす原理を探って行きたい。</p> <p>春学期の「グローバリゼーションを巡って」では、米国という巨大な「帝国」が世界の秩序と文化をすみずみまで支配する一方で、その統合に反発する地域、民族、宗教的なパワーとの対立や抗争をとらえて、国境を超える文化統合とその反発の意味をさまざまな領域に探してみたい。</p> <p>歴史的に見ても、大英帝国をはじめ世界への強大な支配力を誇った文化は価値やルールの普遍化というかたちで影響力を高めてきた。とくに冷戦後の現代において、文化の力はそれまでの軍事力や経済力に代わって世界の秩序をリードするきわめて重要な要素になりつつあることを、ジョセフ・ナイは「ソフトパワー」という概念を通して説明している。ここでは米国というモデルを中心に据えて、そのビジネスや消費を支えるルールや価値観、社会システムやモラルの普遍性と特殊性を考察する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 2 「帝国」の様式 3 米国型民主主義の特殊性 4 フランクリンの人間像 5 フォーディズム 6 大量消費社会の影 7 「信頼」と社会的資本 8 ビジネス倫理と世界標準 9 グローバル化と覇権 10 ハリウッドと大衆文化 11 冷戦後から 9/11 へ 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
佐伯啓思著『新「帝国」アメリカを解剖する』(ちくま新書)を参考文献とする。		定時試験の成績に平常の授業で課すりポートの実績を勘案して評価する。	

全カリ (秋) 外共	現代文化論 b (日本の表象と世界) 人文科学特殊講義 A (現代文化論) (通年)	担当者	柴崎 信三
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>秋学期の「日本の表象と世界」ではグローバリゼーションのもとで「日本」という文化モデルがどんな存在として意味づけられてきたかをさまざまな観点から検証する。</p> <p>日本は中国文明に接する列島という地勢的な条件の下、アジアの先頭に立つ近代国家として欧米列強に対抗しようとした歴史的な歩みが、近代以降の「文化」のありように大きな影響を及ぼしてきたといえる。</p> <p>「ジャポニズム」に象徴される欧米からのまなざしや「脱亜入欧」をスローガンにした近代化がそうであり、後発資本主義国としての歩みが固有の「日本型システム」を生み出した。それは普遍文化に対する特殊性として位置づけられるが、戦後の経済的復興と再生の過程で優れたパフォーマンスをもたらしたことにも留意すべきだろう。</p> <p>集団主義や終身雇用制度など、欧米の競争システムとは異質に見える社会の仕組みと、自動車産業やエレクトロニクスなどものづくりにみる世界的な洗練性はどこから生まれたのか。アニメーションやファッションなど大衆文化の市場における高い評価など、「日本モデル」の価値形成の検証を通して、ローカルとグローバルを結ぶ文化のダイナミズムを学んで行きたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 2 脱亜入欧とジャポニズム 3 日本型システムの起源 4 集団主義と天皇制 5 アメリカニズムの受容 6 ものづくり 7 高度成長と総中流社会 8 日本礼賛と日本たたき 9 日本的経営 10 Social capital (社会的資本) 11 ジャパニーズ・クール 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献として夏目漱石『三四郎』(新潮文庫) 同 荒井一博『文化の経済学』(文春新書)など		定時試験の成績に平常授業で課すりポートの実績を加味して評価する。	

全カリ (春)	比較文化論 a (東西の文化を結ぶもの)	担当者	熊谷 哲也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(講義の目的) 西アジア地域、とくにイスラーム勃興以降の時代について、歴史と社会を考察しながら、「西洋」と「東洋」のつながりに目を向けたい</p> <p>今日の「東洋」という概念は、「西洋」の主観が生み出した産物だが、ひとまずそこに気付いていただくことが目的である。</p> <p>(講義概要) 授業計画に示したように4つのテーマを設定し、ひとつのトピックにほぼ3回ずつかけながら進んでゆく。そのなかでは必要に応じて、テーマの背景となる歴史、宗教、文化への説明を加えてゆく。みなさんには、どれかひとつを選んで知識を深め、レポートにして提出していただく。なお、必要に応じて順序を入れ替えることがある。</p>		<p>1 A ; キリスト教の広がりとはアジア世界。 その1</p> <p>2 同 その2</p> <p>3 同 その3</p> <p>4 B ; イスラーム教の広がり。イスラーム世界におけるさまざまな文化の融合のあり方。 その1</p> <p>5 同 その2</p> <p>6 同 その3</p> <p>7 C ; 十字軍・レコンキスタとその時代。 その1</p> <p>8 同 その2</p> <p>9 同 その3</p> <p>10 D ; 2つの旅行記 (マルコ・ポーロとイブン・バットゥータ) と当時の世界。 その1</p> <p>11 同 その2</p> <p>12 同 その3</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
とくにさだめない。必要に応じて授業で指示する。		レポートによる	

全カリ (秋)	比較文化論 b (東西文化と近代化)	担当者	熊谷 哲也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(講義の目的) 比較文化論 a と同じ。b ではとくに「西洋化」が「東洋」における近代化である点と、それが生み出すさまざまな問題点を検討していくことが目的である。</p> <p>(講義概要) 授業計画に示したように4つのテーマを設定し、ひとつのトピックにほぼ3回ずつかけながら進んでゆく。そのなかでは必要に応じて、テーマの背景となる歴史、宗教、文化への説明を加えてゆく。みなさんには、どれかひとつを選んで知識を深め、レポートにして提出していただく。なお、必要に応じて順序を入れ替えることがある。</p>		<p>1 E ; 大航海時代とその後。アジアと近代ヨーロッパの出会い。 その1</p> <p>2 同 その2</p> <p>3 同 その3</p> <p>4 F ; 西アジアにおけるさまざまな近代化。 その1</p> <p>5 同 その2</p> <p>6 同 その3</p> <p>7 G ; 帝国主義とイスラーム世界。パレスチナ問題。 その1</p> <p>8 同 その2</p> <p>9 同 その3</p> <p>10 H ; 旧ソ連諸国や旧ユーゴスラビア諸国における民族・宗教意識。 その1</p> <p>11 同 その2</p> <p>12 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
とくにさだめない。必要に応じて授業で指示する。		レポートによる	

全カリ (春) 外共	経済学 a (理論経済学の基礎的理解) 経済学 (通年)	担当者	片岡 晴雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>近代経済学の一の方の柱であるマイクロ経済学について講義する。マイクロ経済学は市場経済下における個々人の合理的な経済行動を体系化した学問である。このような個々人の合理的な経済行動を通じて形成される経済秩序は優れた経済効率を達成している。その経済効率とは如何なるものかについて述べる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 経済学の目的と役割 2 近代経済学誕生までの経済学の流れ 3 市場と価格 4 需要と供給の基礎理論 5 家計の行動 6 企業行動の理論 7 完全競争市場と経済効率 8 所得分配 9 市場機構の限界 10 不完全競争の理論 I 11 不完全競争の理論 II 12 ミクロ経済学の応用 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト 小野俊夫編『現代経済学の基礎』 (学文社)</p>		<p>出席とテストの結果を見て総合的に判断する。</p>	

全カリ (秋) 外共	経済学 b (理論経済学の基礎的理解) 経済学 (通年)	担当者	片岡 晴雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>マクロ経済学について講義する。 マクロ経済学は、集計量と呼ばれる操作可能な戦略的に重要な少数の変数を用いて一国全体の経済の動きを明らかにすることを目的としている。 そのような重要な集計量とは、GNP、国民所得、消費、投資、貯蓄、貨幣量、物価、利子率、国際収支、雇用量等々である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 マクロ経済循環 2 経済学の危機とケインズ革命 3 国民所得の決定 4 投資乗数の理論 5 投資の決定 6 政府活動と国民所得 7 貨幣市場 8 生産物市場と貨幣市場の同時均衡 9 経済のマクロ的一般均衡体系 10 インフレーション 11 経済の変動と成長 12 開放体系のマクロ経済学 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト 小野俊夫編『現代経済学の基礎』 (学文社)</p>		<p>出席とテストの結果を見て総合的に判断する。</p>	

全カリ (春) 外共	経済学 a (国民所得の概念と決定メカニズム) 経済学 (通年)	担当者	浜本 光紹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、現実の経済の仕組みを理解し、理論的に考察するうえで必要な分析道具であるマクロ経済学およびミクロ経済学の基礎を習得し、経済理論を用いながら現実の経済問題の本質的要因を探り処方箋を考える力を養うことを目標とする。</p> <p>経済学 a では、国民所得の決定メカニズムおよびマクロ経済における家計・企業・政府の各部門の関係について解説する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 経済学という学問について 2 マクロ経済学の課題について 3 家計の消費・貯蓄行動 4 企業の投資行動 5 企業の資金調達と株価市場 6 貨幣と経済活動 7 マクロ経済モデル 	
テキスト、参考文献		評価方法	
福田・照山『マクロ経済学・入門』有斐閣		定期試験の結果に出席状況を加味して評価する。	

全カリ (秋) 外共	経済学 b (経済政策の基礎理論と課題) 経済学 (通年)	担当者	浜本 光紹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>経済学 b では、経済学 a の講義内容を踏まえて、マクロ経済政策の効果や失業問題、および為替レートの決定メカニズムなどについて解説する。続いて、ミクロ経済学を取り上げ、需要と供給および経済厚生について解説し、規制緩和や環境税などの経済政策・公共政策の基礎理論について講義を行なう。</p> <p>受講を希望する学生は、経済学 a を既習であることが望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 マクロ経済政策 2 労働市場と失業 3 開放マクロ経済 4 ミクロ経済学の課題について 5 需要曲線と供給曲線 6 社会的余剰の考え方 7 競争市場と独占 8 市場の失敗と公共政策 9 環境政策の理論と実際 	
テキスト、参考文献		評価方法	
経済学 a で用いたものを引き続き使用するほか、ミクロ経済学についてはプリントを配布する予定である。		定期試験の結果に出席状況を加味して評価する。	

全カリ (春)	日本国憲法 (憲法と私たち)	担当者	高佐 智美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(1) 講義目的</p> <p>① 日本国憲法の理念を理解する</p> <p>② 憲法の理念と日本における実際の問題との間のギャップについて考察する</p> <p>(2) 講義概要</p> <p>http://www2.dokkyo.ac.jp/~less0061/jcon/index2.html</p> <p>毎回講義で使用するプリントをこのサイトの「menu」からDLして各自印刷して持ってくるように。 火曜日が講義日なので、なるべく週末までにはupするようにします。</p>		<p>1 第1章・基本的人権</p> <p>2 第2章・平等－1</p> <p>3 第2章・平等－2</p> <p>4 第3章・思想の自由</p> <p>5 第4章・表現の自由</p> <p>6 第6章・社会権</p> <p>7 第7章・刑事手続</p> <p>8 第8章・子どもの権利</p> <p>9 第9章・マイノリティ</p> <p>10 第10、11章・国会と内閣</p> <p>11 第12、13章・裁判所</p> <p>12 第15章・平和主義</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：長谷川、大津、大藤、高佐『憲法四重奏』(有信堂、2002年)</p>		<p>定期試験+2～3回の小テストの合計点</p>	

全カリ (秋)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

全カリ (春)	日本国憲法 (憲法と私たち)	担当者	大藤 紀子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目的】 半期の授業なので、扱える内容は限られているが、教科書に基づき、日本国憲法の概要を講義することを目標とする。</p> <p>教科書をよく読み、また日ごろから、関連の新聞記事等にも興味をもってほしい。</p> <p>【講義概要】 人権と統治機構の問題をそれぞれ教科書から拾う形で話したい。</p> <p>【受講生への要望】 予習・復習を通じて、ノートをよく整理すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 憲法とは何か 2. 憲法の特質 3. 日本国憲法の基本原理 4. 生命・自由・幸福追求権 5. 法の下での平等 6. 思想・良心の自由 7. 表現の自由 8. 人身の自由と刑事手続上の人権 9. 生存権 10. 子どもの権利 11. マイノリティーの権利 12. おわりに 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>大津浩他『憲法四重奏』(有信堂高文社)</p> <p>山内敏弘篇『新現代憲法入門』(法律文化社)</p>		試験期間中の論述試験の結果による評価。	

全カリ (秋)	日本国憲法 (憲法と私たち)	担当者	大藤 紀子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目的】 半期の授業なので、扱える内容は限られているが、教科書に基づき、日本国憲法の概要を講義することを目標とする。</p> <p>教科書をよく読み、また日ごろから、関連の新聞記事等にも興味をもってほしい。</p> <p>【講義概要】 人権と統治機構の問題をそれぞれ教科書から拾う形で話したい。</p> <p>【受講生への要望】 予習・復習を通じて、ノートをよく整理すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 憲法とは何か 2. 憲法の特質 3. 日本国憲法の基本原理 4. 生命・自由・幸福追求権 5. 法の下での平等 6. 思想・良心の自由 7. 表現の自由 8. 人身の自由と刑事手続上の人権 9. 生存権 10. 子どもの権利 11. マイノリティーの権利 12. おわりに 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>大津浩他『憲法四重奏』(有信堂高文社)</p> <p>山内敏弘篇『新現代憲法入門』(法律文化社)</p>		試験期間中の論述試験の結果による評価。	

全カリ (春) 外共	国際法 a (国際社会と私たち) 国際法 (通年)	担当者	廣部 和也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(講義目的) 国際社会の法である国際法の基礎的知識を学び、国際社会において法がどのように機能しているかを考察する。</p> <p>(講義概要) 国際法の基本に当るテキストの第 I 部「国際法の特質と国際社会における法の支配」、及び、国際社会における行為者について説明する第 II 部「国際法における行為主体」を学ぶ。 法律の基本的知識が必要な場合には、説明を加える。</p> <p>(受講生への要望) 国際社会の現象に関心がありかつ法律に興味のある者が選択すると良いと思われる。 予習をすることを薦めたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義全般に関する説明・国際法の意義 2. 国際法の歴史(国際法はどのように成立し、どのように発展してきたか。) 3. 国際法の法源(国際法はどのような形式で存在するか、どのように形成されるのか) 4. 国際法と国内法(両者の法はどのように異なり、どのような関係にあるのか) 5. 国家の成立(国際法上、国家はどのように定義され、如何にして国際法上の存在となるのか) 6. 国家の基本権(国際法上、国家はどのような権利を持つのか、特にその基本となる主権とはどのような権利か) 7. 外交使節(国家の対外関係はどのように維持されるのか、外交官および領事の地位・職務) 8. 国家責任(国家も違法行為を侵せば責任をとらなければならない) 9. 国際組織(国際組織はどのように形成されるか、どのような役割を果たしているのか) 10. 個人の地位(国際関係において国家と個人はどのように関連づけられているか) 11. 人権の国際的保護(国際社会において人権はどのように保護されているか) 12. 国際犯罪(個人の国際犯罪とその処罰、犯罪人引き渡し制度) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
「導入対話による国際法講義・第2版」(広部和也・荒木教夫著) 不磨書房 「解説条約集・第10版」三省堂 2005年版		試験による。出席等平常点も考慮する。	

全カリ (秋) 外共	国際法 b (国際紛争を考える) 国際法 (通年)	担当者	廣部 和也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(講義目的) 国際社会の法である国際法の基本的知識、及び国際社会において法がどのように機能しているかを学ぶ。</p> <p>(講義概要) 国際法の基本的部分である領域に関するテキストの第 III 部「知的管轄権の配分」、及び国際社会に生じる紛争の解決を扱う第 IV 部「国際紛争」を対象とする。</p> <p>(受講生への要望) 国際社会に関心のある者 予習をすること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 国家領域 (国家が支配する領域の法的地位はどのようなものか) 2. 日本の領土問題 (北方領土、尖閣諸島、竹島) 3. 海洋の国際法制度 (海洋法の成立と発展過程) 4. 領海制度 (国家が支配する沿岸海域の法的地位と船舶の通航) 5. 公海制度 (いずれの国の支配にも服しない海域の法的地位と船舶の地位・通航) 6. 海洋の資源 1 (排他的経済水域の法的地位) 7. 海洋の資源 2 (大陸棚・深海底) 8. 領空・航空機の地位 9. 宇宙法 (宇宙の法的地位・人工衛星) 10. 国際環境法 (環境の国際的保護に関する法制度はどうなっているか) 11. 国際紛争の平和的解決 (国際紛争の解決方法・国際裁判) 12. 国際安全保障制度 	
テキスト、参考文献		評価方法	
「導入対話による国際法講義・第2版」(広部和也・荒木教夫著) 不磨書房 「解説条約集・第10版」三省堂 2005年版		試験による。出席等平常点も考慮の予定。	

全カリ (春) 外共	政治学 a (身近な政治学) 政治学(通年)	担当者	雨宮 昭一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現代社会における複雑な政治の動きを理解するために、身近な日本政治を例にあげながら、その分析の仕方や評価を紹介する。それを通して自分なりの判断の材料を持ってもらいたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 政治を見る－現代社会の現場から 2. 「鉄の三角同盟」 3. 官か民か－規制緩和 4. 企業は政治を動かしているか 5. 選挙－何で選ぶか 6. 国と地方 7. マスコミと政治 8. 国会は機能しているか 9. 行政－内閣と総理大臣 10. 日本政治の国際環境 11. 国際政治 12. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
真淵勝・久米郁男・北山俊哉『はじめて出会う政治学』有斐閣 1997年		平常のテストないしレポート 50 点、定期試験 50 点。	

全カリ (秋) 外共	政治学 b (参加する政治学) 政治学 (通年)	担当者	雨宮 昭一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、各自が、政治にかかわるテーマを見つけ、その調査の発表、討論を中心に行いたい。そのために政治学 a を受講していることが望ましい。</p>		<p>政治学にかかわるテーマを各自、見つけて発表形式で進める。 講義の内容・運営方法は受講する学生諸君と検討して決定する。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜、参考文献を示す		出席点、レポートの総合点。	

全カリ (春) 外共	社会学 a (他者と自己) 社会学 (通年)	担当者	岡村 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>私たちのまわりには、さまざまな他者がいる。電車で隣に座った人も他者であり、家族や親しい友人も、ある意味では他者である。たいていの場合、他者は自分の思い通りに動いてはくれない。しかし、多少なりともそういった他者と社会的関係を持たなくては、私たちは生活できない。</p> <p>社会は、他者とともに生きる世界である。それゆえ、社会を扱う学問である社会学では、「他者 other(s)」が重要なキー概念のひとつとなっている。さらに言えば、他者について考えることは、「自己 (わたし)」について考えることでもある。</p> <p>本講義では、社会学の基礎的な概念のなかからとくに重要なものを取りあげ、それを現代的な文脈で考える。そのなかから、他者と自己との関係について、また社会的な視点とはどういったものなのかを学ぶ。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション——社会学的な視座とは 2. 社会学の歴史 (1) ——A.コント、H.スペンサー 3. 社会学の歴史 (2) ——E.デュルケム 4. 社会学の歴史 (3) ——M.ウェーバー 5. 社会の種類 (1) ——コミュニティとアソシエーション 6. 社会の種類 (2) ——ゲマインシャフトとゲゼルシャフト 7. 社会の種類 (3) ——第一次集団 8. アイデンティティ形成と社会 (1) ——鏡に映った自己 9. アイデンティティ形成と社会 (2) ——重要な他者 10. アイデンティティ形成と社会 (3) ——役割取得 11. アイデンティティ形成と社会 (4) ——マージナル・マン 12. 補完的アイデンティティについて 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業のなかでその都度指示する		出席とレポート	

全カリ (秋) 外共	社会学 b (現代社会の諸問題) 社会学 (通年)	担当者	岡村 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>わたしたちは、つねに安穏とした平和な社会だけに生きているわけではない。他者と共に生きる社会は、大小問わずさまざまな問題を抱えている。そういった問題を社会学では、どのように研究してきたのだろうか。</p> <p>まず本講義の前半では、何人かの社会学者の研究業績を紹介しながら、近代社会が抱える問題について講義する。つづく後半では、できるだけ身近な例を挙げて、ある事象が「社会問題化する」とはどういうことか、そして社会学が射程におく現代的課題にはどういったものがあるかを考えてみたい。</p> <p>本講義は「社会学 a」の応用編でもあるため、受講にあたっては、春学期の「社会学 a」も合わせて受講することとを強く推奨する。(なお、履修登録が抽選になった場合、「社会学 a」を習得した学生が優先される。)</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 社会的性格と「自由からの逃走」——E.フロム 3. 同調様式の3類型——D.リースマン 4. 都市化と移民——W.I.トマスとF.W.ズナニエツキ 5. 同心円地帯説——E.パーゼス 6. シカゴ学派と都市問題——R.パーク 7. 社会問題と社会学 (1) 8. 社会問題化するということ (2) 9. 現代社会の諸問題 (1) ——移民と日本社会 10. 現代社会の諸問題 (2) ——未定 11. 社会学の現在 (1) 12. 社会学の現在 (2) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業のなかでその都度指示する		出席とレポート	

全カリ (春) 外共	地理学 a (自然環境と文化) 自然科学特殊講義 A (自然環境と文化) (通年)	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>地理学の扱う内容は多岐にわたるが、本講義では、人間の居住環境が人間にとってどのような意義をもっているのかという視点から、世界の地理を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。まず、地理学における主要な概念や方法を説明する。その上で、人間の活動の舞台である自然環境について学習する。自然環境にもとづいて地域区分を行い、地域ごとに自然的基盤とそこで繰り広げられている人々の生活様式を説明する。まとめとして、世界の環境問題について、具体的な問題をとりあげ、地球的視点から検討する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 自然と人間とのかかわり 3 環境の諸要素 (1) 4 環境の諸要素 (2) 5 環境の諸要素 (3) 6 熱帯地域 (1) — 自然的特質と伝統的農業 7 熱帯地域 (2) — アジアの稲作 8 熱帯地域 (3) — 熱帯の開発と問題 (1) 9 熱帯地域 (4) — 熱帯の開発と問題 (2) 10 砂漠地域 (1) — 自然的特質とイスラム 11 砂漠地域 (2) — 石油資源と近代化 12 前期のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
山本正三 (他) 著『自然環境と文化』原書房 参考文献は授業中に示す		定期試験および出席状況	

全カリ (秋) 外共	地理学 b (自然環境と文化) 自然科学特殊講義 A (自然環境と文化) (通年)	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>地理学の扱う内容は多岐にわたるが、本講義では、人間の居住環境が人間にとってどのような意義をもっているのかという視点から、世界の地理を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。まず、地理学における主要な概念や方法を説明する。その上で、人間の活動の舞台である自然環境について学習する。自然環境にもとづいて地域区分を行い、地域ごとに自然的基盤とそこで繰り広げられている人々の生活様式を説明する。まとめとして、世界の環境問題について、具体的な問題をとりあげ、地球的視点から検討する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 温帯地域 (1) 自然的特質 2 温帯地域 (2) 地中海森林地域 3 温帯地域 (3) 温帯混交林地域 (ヨーロッパ) 4 温帯地域 (4) 温帯混交林地域 (アジア) 5 温帯地域 (5) 新大陸 6 冷帯地域 7 冷帯地域・寒帯地域 8 山地地域 9 世界の環境問題 (1) 人口 10 世界の環境問題 (2) 食料 11 世界の環境問題 (3) 温暖化と砂漠化 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
山本正三 (他) 著『自然環境と文化』大明堂 参考文献は授業中に示す		定期試験および出席状況	

全カリ (春)	地理学 a (世界の自然環境と文化)	担当者	犬井 正
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>地理学の扱う内容は多岐にわたるが、本講義では、人間の居住環境が人間にとってどのような意義をもっているのかという視点から、世界の諸地域を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。まず、環境の諸要素を概観し、熱帯地域、沙漠地域、亜寒帯針葉樹林地帯を取り上げ、人間の活動の舞台である自然環境と、そこで繰り広げられている人々の生活様式を説明する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーションー地理学とは 2. 環境の諸要素(1) 気候環境 3. 環境の諸要素(2) 緯度帯別降水量・蒸発量・気温 4. 環境の諸要素(3) 植生 5. 熱帯地域(1) 熱帯林と伝統的生活様式 6. 熱帯地域(2) 熱帯林の開発と環境問題 7. 熱帯地域(3) 熱帯林の保全 8. 沙漠地域(1) 自然的・文化的特色と伝統的経済活動 9. 沙漠地域(2) 石油資源と近代化、沙漠の開発 10. 亜寒帯森林地域(1) タイガの中の生活 11. 亜寒帯森林地域(2) タイガの開発と保全 12. まとめ 	
テキスト			
山本正三他著『自然環境と文化ー改訂版』原書房		定期試験等	

全カリ (秋)	地理学 b (世界の自然環境と文化)	担当者	犬井 正
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>地理学の扱う内容は多岐にわたるが、本講義では、人間の居住環境が人間にとってどのような意義をもっているのかという視点から、世界の諸地域を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。まず、地形環境を概観し、山地地域、地中海森林地域、温帯草原地域、温帯混合林地帯を取り上げ、人間の活動の舞台である自然環境と、そこで繰り広げられている人々の生活様式を説明し、自然生態系と社会生態系の枠組みを理解する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境の諸要素ー地形環境 2. 山地地域(1) 山地の自然環境 3. 山地地域(2) 高度帯の利用と伝統的生業 4. 山地地域(3) 山地資源の開発と観光化 5. 地中海森林地域の特性 6. 地中海地域の生活様式ー西欧文化の原点 7. 温帯草原地域の自然特性 8. 温帯草原地域の開発と環境問題 9. 温帯混合林地帯(1) 高密度都市化地域の特性 10. 温帯混合林地帯(2) 産業革命と都市域の拡大 11. 世界の環境問題ー自然生態系と社会生態系概念 12. まとめ 自然環境の保全と保護 	
テキスト		評価方法	
山本正三他著『自然環境と文化ー改訂版』原書房		定期試験等	

全カリ (春) 外共	女性学 a (女性学と女性の歴史) 社会科学特殊講義 A (女性学) (通年)	担当者	井上 たか子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日本で女性学が市民権を得たのは四半世紀前の 1978 年である。女性学はどのようにして誕生したのだろうか。また、その前後で女性の状況はどのように変化したのだろうか。</p> <p>女性学とは、簡単に言えば、社会が女性についてかたちづくっているイメージや社会において女性が占める位置について検証し、女性が自分らしく生きていくための妨げになっているものを明らかにして、社会の変革をめざす学問である。</p> <p>したがって、女性学は机上の空論ではなく、個人の具体的な生き方に密接に関係する。一人ひとりが自分で自分の生き方や男女の関係について考えなければ意味がない。</p> <p>登録人数にもよるが、できるだけ皆の考えを発表してもらいながら、進めたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. ジェンダーとはなにか (1) 3. ジェンダーとはなにか (2) 4. 女性運動/女性学の誕生と歴史 (1) 5. 女性運動/女性学の誕生と歴史 (2) 6. 女性の政治参画 (1) 7. 女性の政治参画 (2) 8. 女性の政治参画 (3) 9. 女性と労働 (1) 10. 女性と労働 (2) 11. 女性と労働 (3) 12. まとめ <p>毎回の授業の流れについては、1 回目の授業で説明する。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>毎回資料を配布する。また、適宜、ビデオを使用する。参考文献は、その都度指示する。</p>		<p>毎回提出してもらい短い感想と学期末のテストによる。</p>	

全カリ (秋) 外共	女性学 b (女性学と女性の現状) 社会科学特殊講義 A (女性学) (通年)	担当者	井上 たか子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>女性学とは、簡単に言えば、社会が女性についてかたちづくっているイメージや社会において女性が占める位置について検証し、女性が自分らしく生きていくための妨げになっているものを明らかにして、社会の変革をめざす学問である。</p> <p>その意味で、女性の現状を知ることが重要である。身近な問題点を検証し、これからの社会のあり方を自分の問題として考えてもらいたい。</p> <p>女性と社会の関係が変われば、必然的に男性と社会の関係も変わるので、男性にとっても無関係ではありえない。</p> <p>登録人数にもよるが、できるだけ皆の考えを発表してもらいながら、進めたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. 女性と家族 (1) 3. 女性と家族 (2) 4. 女性と家族 (3) 5. 女性と身体 (1) 6. 女性と身体 (2) 7. 女性への暴力 (1) 8. 女性への暴力 (2) 9. 女性への暴力 (3) 10. 世界の女性たち (1) 11. 世界の女性たち (2) 12. まとめ <p>毎回の授業の流れについては、1 回目の授業で説明する。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>毎回資料を配布する。また、適宜、ビデオを使用する。参考文献は、その都度指示する。</p>		<p>毎回提出してもらい短い感想と学期末のテストによる。</p>	

全カリ (春) 外共	数学 a (微分学) 数学 (通年)	担当者	福井 尚生
講義目的	講義概要		
<p>⊖ 数学は、現象を客観的に解析する際に威力を発揮します。</p> <p>⊖ 『数学 a』では、現象の変化を解析する際に登場する微分学を学びます。「微分学」は現象の変化のうち、特に山頂・丘・窪み・谷底等を扱うことを得意とします。</p> <p>⊖ 身近な現象を関数に対応させて解析し、この関数の変化の様子から、対応する身近な現象の変化の様子を逆に探ります。</p> <p>⊖ 微分学を実際の現象解析に使えるようになればと思います。</p> <p>⊖ 主体的に勉強して得た知識をもとに、出来るだけ多くの問題を解き、身の回りの現象に実際に応用する努力をして下さい。</p>	<pre> graph TD A[微分学] --> B[関数・逆関数 y = f^{-1}(x)] A --> C[極限 lim_{x \to a} f(x)] A --> D[微分 \frac{\partial z}{\partial x}, \frac{\partial z}{\partial y}] B --> E[有理関数・無理関数 指数関数・対数関数 三角関数・逆三角関数] C --> F[極限值 Achilles と 亀 0.9 = 1] D --> G[常微分・偏微分 極値 最小二乗法] </br></pre>		
(テキスト)・(参考文献)	評価方法		
⊖ (テキスト/ 配布するプリント)・(参考文献/ 『数学読本』松坂和夫 著・岩波書店)	⊖ 主たる評価資料は、授業時間中に提出してもらう 評価用紙 (宿題・Quiz) の中身 です。		

全カリ (秋) 外共	数学 b (積分学) 数学 (通年)	担当者	福井 尚生
講義目的	講義概要		
<p>⊕ 『数学 b』は上記『数学 a』の知識を前提として講義します。</p> <p>⊕ 『数学 b』では、現象の奥底に潜む法則のモデル作りに威力を発揮する「積分・微分方程式」を学びます。</p> <p>⊕ 応用として、身近な現象の数学モデルに登場する変数の発展を辿り、対応する現象の具体的な行動・未来予測などにも挑戦します。</p> <p>⊕ 微分方程式を実際の現象解析に使えるようになればと思います。</p> <p>⊕ 主体的に勉強して得た知識をもとに、出来るだけ多くの問題を解き、身の回りの現象に実際に応用する努力をして下さい。</p>	<pre> graph TD A[積分学] --> B[積分 \int f(x) dx] A --> C[微分方程式 f(x, y, y', y'', \dots, y^{(n)}) = 0] B --> D[不定積分 初期条件 部分積分法] C --> E[変数分離形 (人口問題) 1 階線形 (美術品の贋作) 2 階線形 (ロケットの飛行)] </br></pre>		
(テキスト)・(参考文献)	評価方法		
⊕ (テキスト/ 配布プリント)・(参考文献/ 『微分方程式で数学モデルを作ろう』垣田高夫、大町比佐栄 訳・日本評論社)	⊕ 主たる評価資料は、授業時間中に提出してもらう 評価用紙 (宿題・Quiz) の中身 です。		

全カリ (春) 外共	物理学 a (特殊相対論の世界) 物理学 (通年)	担当者	東 孝博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現代物理学の基礎の一つである相対性理論を通して、人間の自然に対する認識の方法について考える。とくに、科学と非科学の違いに留意し、「科学的」ということはどういうことなのかについて考えていきたい。</p> <p>「物理学 a」(春学期)では、特殊相対論の内容である光の速度、同時概念の相対性、時間・空間概念の変更等を取りあげる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 2 相対性原理 3 電磁気と光速度 4 光速一定の原理 5 「光とアインシュタイン」 6 同時概念の相対性 7 時間概念の相対性 8 空間概念の相対性 9 「時を刻む」 10 浦島効果と双子のパラドックス 11 ローレンツ変換 12 4次元不変量 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはとくになし。参考書は適宜紹介する。		日常の授業への参加態度、毎回の「授業レポート」で評価をつける予定。	

全カリ (秋) 外共	物理学 b (一般相対論の世界) 物理学 (通年)	担当者	東 孝博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現代物理学の基礎の一つである相対性理論を通して、人間の自然に対する認識の方法について考える。とくに、科学と非科学の違いに留意し、「科学的」ということはどういうことなのかについて考えていきたい。</p> <p>「物理学 b」(秋学期)では、一般相対論の内容である等価原理、重力の幾何学化、ブラックホール、宇宙論等を取りあげる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 等価原理 2 一般相対性原理 3 重力の幾何学化 4 Einstein 方程式 5 時空の歪み 6 Schwarzschild 解 7 「ブラックホールを探る」 8 Friedmann 解 9 宇宙の空間的時間的広がり 10 ビッグバン宇宙 11 宇宙論上の諸問題 12 地球外文明 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはとくになし。参考書は適宜紹介する。		日常の授業への参加態度、毎回の「授業レポート」で評価をつける予定。	

全カリ (春)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

全カリ (秋) 外共	化学 b (生命と健康の化学) 自然科学特殊講義 B (化学) (秋学期)	担当者	和田 浩志
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目的】 人間の体に直接関係するさまざまな物質について、その役割や有用性・有害性を正しく理解し、日常生活において適切な判断ができる力を養う。</p> <p>【講義概要】 栄養物、嗜好品、味・香り・色に関する食品中の物質、医薬品や毒物などの生命に関する物質について、サンプルや商品の表示ラベルを提示しながら、それらの特徴、共通性・特殊性を構造式を交えて具体的に講義する。 また、新聞や雑誌などで話題になっている健康に関する物質についても適宜取り上げる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに：講義方針の説明と受講上の注意 2. 栄養の化学 (1)：糖質 3. 栄養の化学 (2)：脂質とタンパク質 4. 味の化学 (1)：天然甘味料 5. 味の化学 (2)：人工甘味料、その他の味覚物質 6. 香料・香辛料の化学 7. お茶とポリフェノールの化学 8. 着色料の化学 9. 毒と薬の化学 (1)：天然毒と人工毒 10. 毒と薬の化学 (2)：麻薬・覚せい剤、幻覚剤など 11. 毒と薬の化学 (3)：漢方薬・民間薬と現代薬 12. まとめ：化学的なものの見方と考え方 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは、資料プリントを講義中に配布する。 参考文献は、講義中に適宜紹介する。		出席回数、各種受講態度、レポート、定期試験の結果を総合して判断する。	

全カリ (春) 外共	生物学 a (植物の特性と自然の仕組み) 生物学 A (通年)	担当者	加藤 僊重
講義目的、講義概要		授業計画	
講義の目的 <ul style="list-style-type: none"> 生物学の基礎は材料となる種 (種類) の認識である。種の認識は時代、民族によって大きく異なる。その違いを知り、植物(種)の多様性を知ることが目標とする。 履修資格 <ul style="list-style-type: none"> 植物名に関心があること。 普通の植物取りあえず 100 種を認識できること (最初の講義で試験を行なう)。 		以下の内容をそれぞれ数回にわたって講義する。 1 種々の植物観察 2 学名と地方名の暗記 (基礎ラテン語の理解) 3 標本の役割と作成 4 Taxon(Taxa)の概念 第一回目の講義で詳細な説明と基礎テストを行なうので、必ず出席すること。	
テキスト、参考文献		評価方法	
		随時提出してもらった標本、数回のレポートの出来具合、講義中に行なう何度かのテストの結果、その他を総合して評価する。	

全カリ (秋) 外共	生物学 b (植物の分布) 生物学 A (通年)	担当者	加藤 僊重
講義目的、講義概要		授業計画	
講義の目標 <ul style="list-style-type: none"> 日本の地域によって異なる植物相を理解し、日本の自然環境の特質を知ることが目標とする。 講義の目的 <ul style="list-style-type: none"> 地域によって生物型が定まっている。その共通点と相違点を知ることが目標とする。 履修資格 <ul style="list-style-type: none"> 植物に興味があり、地理が好きであること。 普通の植物、取りあえず 100 種を認識できること (最初の講義で試験を行なう)。 		以下の内容をそれぞれ数回にわたって講義する。 1 種々の植物観察 2 産業革命と資源調査 3 植物の分布 4 生態学的大国「日本」 第一回目の講義で詳細な説明と基礎テストを行なうので、必ず出席すること。	
テキスト、参考文献		評価方法	
		随時提出してもらった標本、数回のレポートの出来具合、講義中に行なう何度かのテストの結果、その他を総合して評価する。	

全カリ (春) 外共	地球科学 a (恒星天文学) 地学 (通年)	担当者	福井 尚生
講義目的	講義概要		
<p>※『天文』とは「天」から届く「文」のことです。 『天文学』とは宇宙から届く手紙を解読する学問です。</p> <p>※『地球科学 a』は「恒星」についての『天文学』です。天文屋は地球上でつけた自然法則が太陽を始めとする恒星の世界をも司っていること、逆に広い宇宙の自然法則が地球にも及んでいることを知りました。</p> <p>※地球は特別な天体ではなく、宇宙の一員であることを実感してもらえればと思います。</p> <p>※視聴覚教材を出来るだけ利用します。</p> <p>※主体的に勉強して得た知識をもとに、自然の一員であることの自覚の上に、自らの頭で先を考える努力をして下さい。</p>			
(テキスト)・(参考文献)	評価方法		
<p>※ (テキスト/ 配布プリント)・(参考文献/ 『天文学への招待』岡村定矩 編・朝倉書店)</p>	<p>※主たる評価資料は、授業時間中に提出してもらう評価用紙 (宿題・Quiz) の中身です。</p>		

全カリ (秋) 外共	地球科学 b (銀河天文学) 地学 (通年)	担当者	福井 尚生
講義目的	講義概要		
<p>★『地球科学 b』は上記『地球科学 a』の知識を前提として講義します。</p> <p>★『地球科学 b』は「銀河」についての『天文学』です。天文屋は「恒星」までの考察で発見した自然法則を用いて天の川銀河・銀河にまで考察を広げ、自然法則の統一・普遍化の夢実現に努めています。</p> <p>★現有知識で未知の世界を探り、独自の世界を未来に向かって開く場になればと思います。</p> <p>★視聴覚教材を出来るだけ利用します。</p> <p>★主体的に勉強して得た知識をもとに、自然の一員であることの自覚の上に、自らの頭で先を考える努力をして下さい。</p>			
(テキスト)・(参考文献)	評価方法		
<p>★ (テキスト/ 配布プリント)・(参考文献/ 『教養のための天文学講義』米山忠興 著・丸善)</p>	<p>★主たる評価資料は、授業時間中に提出してもらう評価用紙 (宿題・Quiz) の中身です。</p>		

全カリ (春) 外共	スポーツ・レクリエーション学 a (身体運動と生体の生理的変化) 保健体育講義(春学期)	担当者	梶野 克之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>生涯を通じての健康のためには、年齢・体力に応じた身体活動の実践が重要である。人間の文化活動として存在するスポーツ・身体活動の実践により健康の増進と体力の維持向上をはかることが重要となる。</p> <p>スポーツ・レクリエーションに関する知識について解説する。スポーツ・レクリエーションの実践にかかわる身体活動について、生理学的な側面から理解を深める。現代社会をめぐる体力についてその現状を理解するとともに、体力を向上させるトレーニングについて考える。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 講義概要の全般的な説明と、体育の立場から見た発育・発達について 2 体力とはなにか、その定義と構造について 3 体力トレーニングの定義とその体系について 4 トレーニングに対する生体の反応のうち、エネルギー発生系とトレーニングについて 5 体力とトレーニングのうち、筋に対するトレーニングの効果について 6 体力とトレーニングのうち、呼吸循環系に対するトレーニングの効果について 7 体力とトレーニングのうち、運動と神経系について 8 トレーニングの方法のうち、筋力トレーニングについて 9 トレーニングの方法のうち、インターバル・トレーニングや持久的トレーニングについて 10 運動処方理論のうち、運動処方とは何かについて 11 運動処方理論と、運動処方のすすめ方について 12 運動処方理論と、運動処方の実際について 	
テキスト、参考文献		評価方法	
宇土正彦編著『教養としての保健体育』 大修館書店		出席回数、授業参加態度、提出物の内容を加味して決定する。	

全カリ (秋) 外共	スポーツ・レクリエーション学 b (トレーニングの科学的基礎) 保健体育講義(秋学期)	担当者	梶野 克之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>生涯を通じての健康のためには、年齢・体力に応じた身体活動の実践が重要である。人間の文化活動として存在するスポーツ・身体活動の実践により健康の増進と体力の維持向上をはかることが重要となる。</p> <p>スポーツ・レクリエーションに関する知識について解説する。スポーツ・レクリエーションの実践にかかわる身体活動について、生理学的な側面から理解を深める。現代社会をめぐる体力についてその現状を理解するとともに、体力を向上させるトレーニングについて考える。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 講義内容の全般的な説明 トレーニングの定義 トレーニングの効果を決める要因 2 トレーニング効果が生じる条件 競技成績とトレーニングについて 3 成長段階に応じたトレーニングと基本の動作を身につける必要性について 4 最大酸素摂取量の発達について 年齢に応じたトレーニングについて 5 筋肉の構造と活動のメカニズムおよび運動を引き起こす力について 6 筋活動の様式と力の大きさ 関節角度と発揮される力について 7 筋肉の活動をもたらす興奮・収縮関連 運動神経の筋線維支配について 8 運動神経を興奮させる大脳 筋肉の活動のためのエネルギーについて 9 筋線維の種類と筋線維組成について 筋線維組成とスポーツ種目について 10 速筋線維の動員について 運動の種類と筋線維の動員について 11 筋線維の代謝について 運動強度と酸素摂取量について 12 最大酸素摂取量と呼吸機能について 	
テキスト、参考文献		評価方法	
宮下充正『トレーニングの科学的基礎』 ブックハウスHD		出席回数、授業参加態度、提出物の内容を加味して決定する。	

全カリ (春) 外共	スポーツ・レクリエーション学 a (自由時間とクオリティオブライフを考えよう) 保健体育講義 (春学期)	担当者	和田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>健康・生涯スポーツの創造へ向けて、自己のライフスタイルや心身の状態に適した運動・スポーツを生活の中に取り入れて、健康で活力あふれる豊かなライフスタイルを形成するための能力を身につけるため、健康、生涯スポーツの考え方、実践の仕方を学んでもらいたい。</p> <p>春学期にはわれわれを取り巻く、自由時間、健康問題スポーツなどの現状を把握し、文化的視点からその考え方、価値について考えてもらいます。</p> <p>積極的に講義支援システムほか、インターネットを利用しますのでブラウザを操作する、メールを送る、ワープロで文書が作成できる等の知識が必要です。わからなければ授業時間外で教えますから質問に来てください。</p>		<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 自由時間とは その1</p> <p>第3回 自由時間とは その2</p> <p>第4回 生活時間の構成と自由時間の現状</p> <p>第5回 現代における自由時間の意味 その1</p> <p>第6回 現代における自由時間の意味 その2</p> <p>第7回 自由時間を過ごす能力の開発</p> <p>第8回 古典的解釈から知るレジャー その1</p> <p>第9回 古典的解釈から知るレジャー その2</p> <p>第10回 クオリティオブライフについて考える</p> <p>第11回 あなたのライフデザイン</p> <p>第12回 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>中野孝次、「清貧の思想」、草思社</p> <p>ミヒヤエル・エンデ、「モモ」、岩波書店</p>		<p>出席状況 (40%)、クイズ・学期末試験の結果 (40%)、レポート (20%)</p>	

全カリ (秋) 外共	スポーツ・レクリエーション学 b (最近のスポーツ・健康に関する話題を正しく知ろう) 保健体育講義 (秋学期)	担当者	和田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>健康・生涯スポーツの創造へ向けて、自己のライフスタイルや心身の状態に適した運動・スポーツを生活の中に取り入れて、健康で活力あふれる豊かなライフスタイルを形成するための能力を身につけるため、健康、生涯スポーツの考え方、実践の仕方を学んでもらいたい。</p> <p>秋学期は、健康づくりやトレーニングについて具体的に科学的視点から学んでもらいます。</p> <p>積極的に講義支援システムほか、インターネットを利用しますのでブラウザを操作する、メールを送る、ワープロで文書が作成できる等の知識が必要です。わからなければ授業時間外で教えますから質問に来てください。</p>		<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 自分の体について正しく知ろう 身長・体重・体脂肪率</p> <p>第3回 身体計測の結果から</p> <p>第4回 肥満</p> <p>第5回 運動しない現代生活</p> <p>第6回 運動と栄養 ダイエット・サプリメント</p> <p>第7回 運動と栄養 いろいろな健康法</p> <p>第8回 トレーニングの基本</p> <p>第9回 エアロビクストレーニングについて その1</p> <p>第10回 エアロビクストレーニングについて その2</p> <p>第11回 筋力トレーニング</p> <p>第12回 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>特になし</p>		<p>出席状況 (40%)、クイズ・学期末試験の結果 (40%)、レポート (20%)</p>	

全カリ (春) 外共	ことばと思想 (Ⅲ) (悪の思想史) 人文科学特殊講義 B (西洋哲学史) (春学期)	担当者	谷口 郁夫
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>私たちは日常的に「善・悪」の判断をしています。また、具体例として「どのような行為が悪なのか」という問いに答えることのできない人はまずいないでしょう。悪の経験そのものは実にありふれた経験です。ところが、「悪とは何か」という問いに答えるのはそれほどやさしくはありません。また、悪とされる行為は、時代や文化によっても異なります。しかし、具体的な内容は異なっても、「悪」という判断そのものは必ず存在します。この講義は「悪」の普遍的定義の試みです</p> <p>日本語を読むのが苦手な学生が増えてきている印象をもっていますので、できるだけ多くの文献を読んでいただくようにする予定です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 「悪」の思想全般に関する問題点。 ユダヤ・キリスト教的「悪」の思想。 西洋思想における性善説と性悪説 [ホブス・ロック・ヒューム・ルソーを取りあげます]。 前回の続き。 アダム・スミスの『道徳感情論』を取り上げます。 カントの『人間愛からなら嘘をついても良いという誤った権利に関して』を読みます。 前回の続き。 エーリッヒ・フロムの『悪について』 [1] エーリッヒ・フロムの『悪について』 [2] エーリッヒ・フロムの『悪について』 [3] 関係性としての人間、関係性の破壊としての悪について。 関係性としての人間、閉じこもり、閉鎖性としての悪について。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
web site から講義で使用する資料 (pdf 形式) を配布します。		学期終了後にテストを行います。	

全カリ (秋) 外共	ことばと思想 (Ⅲ) (ニヒリズムの克服と生きる意味) 人文科学特殊講義 B (哲学思想史) (秋学期)	担当者	谷口 郁夫
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>生きることに意味はあるのか、これはつねにわれわれが突きつけられる問いです。ニーチェは「神の死」とともに、20世紀はニヒリズムの世紀となると予言しました。この予言は的中したといわざるをえないでしょう。また、ご存知のように日本は自殺大国です。最近では、交通事故死の約四倍にあたる三万人以上が自殺し、昨年は32000人を超えました。毎日百人近くの人が自殺している計算になります。多くの人が自らの生きる意味を見失っている時代だといつてよいでしょう。</p> <p>多くの資料を準備していますので、まず自分で読み、自分で考えるという姿勢で臨んでいただきたいと思います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 生きる意味とニヒリズムの問題について一般論として論じます。 ニーチェにおけるニヒリズムの問題について。 『楽しい知識』『ツァラトゥストラはこのように語った』『遺稿』などを取り上げます。 前回の続き。 ニーチェの『見よ、この人だ』を取り上げます。特に、ニーチェの「運命愛」について考える予定です。 ドストエフスキーの『悪霊』を取り上げます。 前回の続き。カミュの『シーシュポスの神話』併読予定。 ウィクトール・フランクルの『夜と霧』を読みます。 前回の続き。ニヒリズムを克服することが可能だとすれば、愛による以外にはありえないことについて。 前回の続き。 フランクルの『時代精神の病理学』を取り上げます。 アドラーの『人生の意味の心理学』を取り上げます。テーマは人としての「絆」です。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
web site から講義で使用する資料 (pdf 形式) を配布します。		学期終了後にテストを行います。	

全カリ (春)	ことばと思想 (Ⅲ) (英語圏の社会と思想 a)	担当者	福井 嘉彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>アングロ=サクソンの文化がキリスト教化されていく過程の在り方を述べる。</p> <p>なお、授業時には、名簿の番号順に着席していただく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス(1)父性神と母性神 (2)ヘレニズムとヘブライズム 2. ローマン=ブリテン：ケルト人とキリスト教 3. ローマ帝国のキリスト教化の過程：ドナティスト論争 4. イングランドのキリスト教化 5. デーン人とアルフレッド大王 6. カロリング王朝とイングランドのキリスト教 7. グレゴリウス7世の教会改革 8. イングランドの教会改革 9. 中世の異端 10. 地獄落ちへの恐怖 11. 黒死病と農民一揆 12. 教皇権の栄光と下降 13. 中世末期：唯名論論争とイングランド宗教改革前史 <p>以上の各項を述べる予定。 ただし、若干の変化がありうる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはない。参考文献は必要とあれば授業中に示す。		出席の少ない者は不合格とする。 更に、出席合格者は試験の結果で評価する。	

全カリ (秋)	ことばと思想 (Ⅲ) (英語圏の社会と思想 b)	担当者	福井 嘉彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期に準じる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ルター：我ここに立つ 2. ジュネーブの人カルヴァンとイングランド人 3. イングランドの宗教改革：ヘンリー8世 4. エドワード王のプロテスタント化とメアリー女王のカトリック教皇主義復興 5. エリザベス1世の宗教改革 6. ピューリタンの反撃と英国国教会の樹立 7. スチュワート王朝の国教会 8. 国王の処刑とピューリタニズム 9. ピルグリム=ファーザーズ 10. 王政復古から名誉革命以降 11. 啓蒙主義時代から現代まで <p>以上の各項を述べる予定。 ただし、若干の変化がありうる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期と同じ。		春学期に準じる。	

全カリ (春) 外共	ことばと思想 (Ⅲ) (科学としての心理学とこころの世界) 心理学 (通年)	担当者	田口 雅徳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、まず、現代心理学の成立過程を概観することで、心理学の基本的な知見について説明していく。その後、性格の形成、ストレス、生きがいと健康などのテーマについて、さまざまなデータを示しながら説明していく。</p>		<p>授業計画は以下のとおり</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンス 2. こころの科学の成立過程① 3. こころの科学の成立過程② 4. 自己の性格の理解 5. 性格をとらえる枠組み 6. 性格の形成①：世界の子育て 7. 性格の形成②：遺伝と環境 8. ストレス①：ストレスと性格 9. ストレス②：ストレスへの対処 10. ストレス③：現代社会とストレス 11. 現代人とこころの健康① 12. 現代人とこころの健康② 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはとくに使用しない。必要な資料は授業中に配布する。参考文献は適宜紹介する。</p>		<p>出席と小レポート、学期末のテストにより総合的に評価をおこなう。</p>	

全カリ (秋) 外共	ことばと思想 (Ⅳ) (心理検査法とこころの健康) 心理学 (通年)	担当者	田口 雅徳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>基本的には春学期の授業内容を踏まえ、秋学期では、受講者にさまざまな心理検査やグループ・ワークなどを実践してもらおう。これらのことを通して自己についての理解を深めてもらうことが、本講義の目的である。心理検査やグループワークを実践した後には、結果などをレポートにまとめてもらおう。また、関連するビデオなどを見てもらい、レポートを書いてもらうこともある。</p> <p>履修者は春学期の「ことばと思想 (Ⅲ) (こころの科学)」を受講したものに限る。</p>		<p>授業計画は以下のとおり。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 質問紙による性格検査① 3. 質問紙による性格検査② 4. 絵にみるこころの発達① 5. 絵にみるこころの発達② 6. こころのIQ 7. 想像力 8. 職業への興味 9. 将来の夢 10. 自我同一性確立と進路選択 11. グループワークによる自己理解 12. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは使用しない。参考文献は授業において紹介する</p>		<p>出席とレポートにより評価をおこなう。</p>	

全カリ (春) 外共		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

全カリ (秋) 外共	ことばと思想 (Ⅲ) (外国語としての日本語教育) 日本語教育概論 (秋学期)	担当者	中西 家栄子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日本語教師になることを目的とした学生のみを対象としたコースではなく、日本語、日本語教育、しいては語学教育全般にわたって広く興味を持っている学生に受講してもらいたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本語教育と国語教育の違いを知る。 2. 外国人に日本語を教えるとは？ 3. 日本語を外国語として概観する。 4. 日本語の基本的な仕組みを知る。 5. 世界の中における日本語教育の現状を知る。 		<p>次の項目について、各 2～3 回の授業を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション — 日本語教育の現場を見る (ビデオ) 2. 日本語教育とは？ 日本語教育と国語教育の違いについて 3. 日本語教育の歴史 4. 日本語のしくみとその指導のポイント <ul style="list-style-type: none"> ①言語としての日本語 <ul style="list-style-type: none"> 音声 文字・表記 日本語の文法 語彙・意味 5. 授業の展開 — ビデオ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
① 『はじめての日本語教育・1』高見澤孟、他 アスク講談社		1. テスト 2. 宿題提出 3. 出席率 (欠席 4 回以上は F とする)	

全カリ (春) 外共		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

全カリ (秋) 外共	ことばと思想 (Ⅲ) (通訳・翻訳論) 人文科学特殊講義B (通訳文化論) (秋学期)	担当者	永田 小絵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>■講義目標 通訳・翻訳の理論と実践について理解を深めることを目的とします。</p> <p>■講義概要 通訳・翻訳に関する研究について、さまざまな角度から概観します。</p> <p>■受講生への要望 テキストがないので、授業には必ず出て講義を聴いてください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ダイダンス・翻訳の歴史 2. 日本における翻訳と翻訳論 3. 翻訳の規範について 4. 現代の翻訳論 5. 翻訳と通訳—共通点と相違点 6. 通訳の歴史 7. 通訳研究の歩み 8. 通訳訓練の方法 9. 実務としての通訳 10. 通訳の実例研究 11. 通訳者の倫理 12. 予備日 	
テキスト、参考文献		評価方法	
インターネット上に講義資料をダウンロードできるサイトを開設しています。下記にアクセスして履修している講義名をクリックし、必要な資料を入手してください。 http://www.geocities.jp/nagatasae/		出席率と期末試験によって評価します。 出席点5割、試験点5割です。	

全カリ (春) 外共	ことばと思想 (Ⅲ) (言語音の構造 a) 言語学 (通年)	担当者	伊豆山 敦子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>人間の思考を形成する言語の、音声面を考察する。人間の言語音にはどのようなものがあるか。それらは、どんな構造をなしているか。その調音機構を考察し、調音、聴取の訓練をし、それらの表記法を習得する。</p> <p>人間にだけ与えられている、言語音声認識の仕組みを考察する事は、言語による思考形成を考える基礎になる。</p> <p>各自が、無意識のうちに取得した第一言語の、音声面に関する客観的な認識を得た上で、第二言語の学習、教育、更に一般的な言語研究に役立てることを目標にする。</p> <p>国際音声字母表を用いて、説明する。それを理解し、使用可能になることが求められる。</p> <p>受講者の人数にもよるが、できるだけ音声学的訓練を主としたい。それは、音韻論的な考察につながっていく。受講後には、人が音声言語を持つ尊さを再認識できるようにと望んでいる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 音声学とは 2. 調音器官 3. 発声と調音(声門音) 4. 国際音声字母の母音の調音 5. 国際音声字母の子音と調音法 6. 両唇音 7. 発声と発音のタイミング 8. 唇歯音 9. 歯・歯茎音(後部歯茎音) 10. 歯・歯茎(後部歯茎)摩擦音 11. 破擦音 12. 復習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>風間他『言語学(2版)』(2004)東京大学出版会 参考文献：小泉保『音声学入門』大学書林。</p>		<p>授業への積極的参加。授業中随時行う聴取テスト。期末筆記テスト。これらの総合による。</p>	

全カリ (秋) 外共	ことばと思想 (Ⅲ) (言語音の構造 b) 言語学 (通年)	担当者	伊豆山 敦子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>前期と同じ。特別の事情が無い限り、前期を受講しておくことが望ましい。</p> <p>言語音も体系をなしている。後期になり全体像が見え始めると、理解が一層深まることを期待される。そして言語学の他分野との関連も理解できる。</p> <p>言語音の単位が、どのような体系をなし、どんな構造をもっているか学ぶ。</p> <p>大学で習得する外国語の、音声面に対する理解を深める。</p> <p>音声単位が、各言語で果たしている機能に触れ、音韻論への道を見通す。日本語の音素設定に触れる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 前期講義の概要 2. 硬口蓋音 3. 軟口蓋音 4. 口蓋垂音 5. 側面音 6. ふるえ音・はじき音 7. 接近音 8. 鼻母音 9. 音韻論 10. 日本語の音素 11. 日本語の音素 12. 復習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>風間他『言語学(2版)』(2004)東京大学出版会 参考文献：小泉保『音声学入門』大学書林。</p>		<p>授業への積極的参加。授業中随時行う聴取テスト。期末筆記テスト。これらの総合による。</p>	

全カリ (春) 外共	ことばと思想 (Ⅲ) (国文法から日本語文法へ) 日本語学概論 (通年)	担当者	城田 俊
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>国文法は中学、高校の教科として教えらるべきものとされながら、現代語に関してはあまり教えられていない。日本人が知るべきものとされていながら教えられないのはなぜか。日本人は母国語の文法を知らないまま社会に出て行く。このような状態でよいのかという反省の上になつてこと授業は展開される。まず、国文法が持つ諸概念を詳しく検討し、其の本質を明らかにし、それが持つ矛盾や難解さをいかに乗り越えたらよいかを考えていきたい。そのうえで、どうしたら、日本人の共通理解としての、等身大の日本語文法が構築できるかを説明する。日本語の音声に関してもある程度の説明を加える。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 国語のオトの研究: アイウエオ、五十音図、直音と拗音清音と濁音、拡大五十音図、はねる音、つまる音等 2. 日本語にいくつ音節があるか: 英語、ロシア語等の音節、日本語の音節、音節と音節文字 3. 音節と単音: アルファベットの導入、音声学による把握、頭のオトと中心のオト、直音節と拗音節の本質 4. 閉鎖体系と開放体系 (1): 母音の無声化と無声子音の結合の出現、新しい音節の発生 5. 閉鎖体系と開放体系 (2): 日本語音節体系の発展動向、将来の日本語 6. 国文法の基本概念: 品詞分類、自立語と付属語、体言と用言、助詞、助動詞、活用 7. 活用とは何か (1): そのままで使えるかたち、終止形、連体形、命令形 8. 活用とは何か (2): そのままで使えないかたち、仮定形、未然形 9. 活用とは何か (3): 両機能が並存するかたち、連用 10. 活用なしで日本語文法は記述できる 11. 国文法から日本語文法へ 12. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業の進行状況によりその都度指定する。		期末試験 40%、出席 30%、授業への参加態度 30%	

全カリ (秋) 外共	ことばと思想 (Ⅲ) (国語学から日本語学へ) 日本語学概論 (通年)	担当者	城田 俊
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>活用というわかりにくい概念、矛盾を含む助詞、助動詞という考え方を採らずに、外国人に対する日本語教育にも用いられる新しい日本語文法のアウトラインとこれから進むべき道を明らかにするのがこの講義の目的である。英語、その他のヨーロッパ諸言語の文法と共通の語形変化 (コンジュゲーション) という観点から、日本語に則して、文法を記述すると、語尾形、語幹形、結合形、文形という形態がみとめられてくる。これら諸形態の意味、用法を説明する。また、流行の方法でなく、伝統的な手段を用いて新しい日本語の文論 (シンタクス) をいかに記述したらよいかという問題に触れる。格についても考察を深める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 新しい日本語文法 (1): 語尾のかたち (1): 現在形、過去形等 2. 新しい日本語文法 (2): 語尾のかたち (2): テ形、汎用形等 3. 新しい日本語文法 (3): 語幹のかたち (1): 使役形、受身形、可能形等 4. 新しい日本語文法 (4): 語幹のかたち (2): 否定形、マス形等 5. 新しい日本語文法 (5): 結合のかたち (1): テ形+イル/アル/オク/ミル等 6. 新しい日本語文法 (6): 結合のかたち (2): テ形+ヤル/クレル/モラウ 7. 新しい日本語文法 (7): 文のかたち (1): ノダ文 8. 新しい日本語文法 (8): 文のかたち (2): ダロウ、カモシレナイ、ニチガイナイ、ヨウダ、ラシイ等 9. 新しい日本語文法 (9): 主語、述語、日本語に主語がない、二重ガ格 10. 新しい日本語文法 (10): 連用修飾語と連用補語 11. 新しい日本語文法 (11): 連体修飾語 12. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
その都度指定する。		期末試験 40%、出席 30%、授業への参加態度 30%	

全カリ (春)	歴史と文化 (Ⅲ) (日本思想史 a)	担当者	川村 肇
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1. 思想に触れることの意味と、歴史を理解することの意味をつかむ。</p> <p>2. 古代から中世に至る日本思想史の概略的な流れを理解する (a)。近世の思想についての概略を理解する (b)。</p> <p>3. 現代の私たちを奥深く規定している日本の諸思想について考察する。</p> <p>4. 「日本」と「日本文化」について、様々な角度から客観的に考える。</p> <p>かなりの分量と数量の文献を読み、学期途中のレポート作成もあるので、意欲的に参加されたい。日本語を母語としない学生は、少なくとも「<u>上級日本語Ⅱ</u>」の単位を取得していること。古文や漢文を資料として用いるなど、かなり難解と思われるので、相当量の準備と復習を必要とすることをあらかじめ承知しておいてほしい。</p>		<p>1 講義の進め方の説明</p> <p>2 思想史の考え方について (丸山眞男を手掛かりに)</p> <p>3 思想と経済的社会構成体について</p> <p>4 日本の近代化について (竹内好を手掛かりに)</p> <p>5 ヨーロッパから見た日本の伝統 (加藤周一を手掛かりに) / レポート (日本の近代化について)</p> <p>6 古事記の世界</p> <p>7 仏教の思想</p> <p>8 キリスト教の思想と日本への伝来 1</p> <p>9 キリスト教の思想と日本への伝来 2</p> <p>10 歴史意識の「古層」について 1</p> <p>11 歴史意識の「古層」について 2</p> <p>12 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
最終レポートおよび、適宜課外レポート、感想文など。		配布プリント類による / 参考文献は、適宜紹介する。	

全カリ (秋)	歴史と文化 (Ⅲ) (日本思想史 b)	担当者	川村 肇
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期参照。</p> <p>春学期の「日本思想史 a」を履修していることが望ましい。</p> <p>「日本思想史 b」のみを履修する場合、指定した文献を読むように指示する。</p>		<p>1 儒学について</p> <p>2 性善説・性悪説等について (討論)</p> <p>3 朱子学について 1</p> <p>4 朱子学について 2</p> <p>5 近世思想史概観 / 見取り図作成</p> <p>6 近世の思想 (貝原益軒『大疑録』を読む 1)</p> <p>7 近世の思想 (貝原益軒『大疑録』を読む 2) / 気思想についてレポート</p> <p>8 近世の思想 (武士道について 1)</p> <p>9 近世の思想 (武士道について 2)</p> <p>10 幕末維新期の思想 (民衆の思想)</p> <p>11 近世から近代へ</p> <p>12 近代思想史概観</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に同じ。		春学期に同じ。	

全カリ (春)	歴史と文化 (Ⅲ) (能楽における中世武士の諸像 a)	担当者	瀬尾 菊次
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>中世に誕生した「能楽」は、舞台芸術として現代に生き上演されていますが、古典芸能として、とかく難しく捉えられがちです。</p> <p>この能楽の全体像を、現役の能楽師の視点から平易に解明していきます。</p> <p>また、一作品を教材として、他の芸能にどのような影響を与えたかを考察します。</p> <p>春期は、能楽の知識を主に全体像を捉えます。「能楽」への理解度を深める目的のため、通年受講を希望します。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ① 能楽の紹介 ② 能楽の概説 ③ 能楽の流れ ④ 能楽を演じる各役 ⑤ 能舞台について ⑥ 能の演技について (実演) ⑦ 能の演目について I ⑧ 能の演目について II (実演) ⑨ 夢幻能と現在能 ⑩ 夢幻能「井筒」の解釈と鑑賞 I ⑪ 夢幻能「井筒」の解釈と鑑賞 II ⑫ まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
関連資料のコピーを配布		課題レポート・能楽鑑賞レポート	

全カリ (秋)	歴史と文化 (Ⅲ) (能楽における中世武士の諸像 b)	担当者	瀬尾 菊次
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>平安時代の末期に生き、悲劇のヒーローとして膾炙されている「源義経」のその生涯は能の作品に多く取り上げられています。そのうちの「安宅」を教材として、作品の解釈・鑑賞、さらに他の芸能(歌舞伎・映画)にどのように転化していったかを、ビデオ鑑賞を取り入れ比較・検討します。</p> <p>秋期からの受講者のため、簡略な能の知識も視野に入れますが、より深い理解のために、春期からの通年受講を希望します。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ① 源義経の生きた時代 I ② 源義経の生きた時代 II ③ 能のなかの源義経 ④ 能「安宅」の解釈と鑑賞 I ⑤ 能「安宅」の解釈と鑑賞 II ⑥ 能「安宅」の解釈と鑑賞 III ⑦ 歌舞伎「勸進帳」の作品鑑賞 I ⑧ 歌舞伎「勸進帳」の作品鑑賞 II ⑨ 黒澤明監督作品における「安宅」 ⑩ 「安宅」と「勸進帳」の比較 I ⑪ 「安宅」と「勸進帳」の比較 II ⑫ まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
関連資料のコピーを配布		課題レポート・能楽鑑賞レポート	

全カリ (春) 外共		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

全カリ (秋) 外共	歴史と文化 (Ⅲ) (日本事情とコミュニケーション教育) 社会科学特殊講義 B (日本事情とコミュニケーション教育) (秋学期)	担当者	小山 慎治
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日本文化や時事問題について調べ発表する活動を通し、日本社会における諸問題に関する常識的な知識を獲得することが主たる目的である。授業を通して、幅広く問題意識を持ち、積極的に知識を獲得しようとする態度を身に付けることが期待される。</p> <p>授業ではまずコミュニケーション論の枠組みおよび効果的なプレゼンテーションの手法を提示した上で、日本社会に関するテーマの発表を課す。受講者による発表と発表内容に関する質疑応答、発表方法に関するコメントを軸に授業を進める。日本社会に関する問題意識を持つことと同時に、知識を他者と共有するプロセスへの関心も高められるよう配慮していきたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス・発表者および発表テーマ調整 2 コミュニケーションの概念と構成要素 3 情報提供を目的とするプレゼンテーションの手法 4 発表 (1) 5 発表 (2) 6 発表 (3) 7 発表 (4) 8 発表 (5) 9 発表 (6) 10 発表 (7) 11 発表 (8) 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
水谷修他 (編) 『日本事情ハンドブック』大修館 1995 年 文藝春秋 (編) 『日本の論点 2005』文藝春秋 2004 年		出席、クラスへの貢献、クラスでの課題、および定期試験による総合評価	

全カリ (春) 外共		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

全カリ (秋) 外共	歴史と文化(Ⅲ) (西洋美術史 b) 人文科学特殊講義 B (西洋美術史) (秋学期)	担当者	前川 久美子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目標】 15世紀のイタリアとフランドルの絵画について学びながら、さまざまな美術史上の問題について考えます。</p> <p>【講義概要】 講義概要や勉強の仕方などは、第一回の授業時間(イントロダクション)にお話します。</p> <p>【受講生への要望】 授業中に配布する重要事項をメモしたプリントを参照しながら、スライドで映す作品と関係付けて講義の内容を理解し、きちんとノートに書き留めていってください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 イントロダクション 2 15世紀の美術 3 15世紀のフィレンツェ美術 4 サンタ・マリア・デル・カルミネ聖堂 ブランカッチ礼拝堂の壁画 5 遠近法 6 パトロンと芸術家 7 パラッツォ・メディチ・リッカルディ礼拝堂の装飾 8 15世紀のフランドル美術 9 ヴァン・エイク作ヘントの祭壇画 10 偽装のシンボリズム 11 絵画に包含された鑑賞者 12 (予備) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献は授業中に指示します。		テストによる。	

全カリ (春)	歴史と文化 (Ⅲ) (おもしろまじめな芝居のミカタ a)	担当者	児嶋 一男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英米の劇作品の台本 (抜粋英文プリント) を読みながら、現代の英米文化や作品の時代や社会の風潮が、どういうふうに演劇に示されているかについて考えてみましょう。テキスト (英文プリント) を毎回配布しますから、舞台上しゃべって違和感のない日本語に翻訳したものをノートに用意して、出席してください。その翻訳を本読みするパフォーマンスを、順番に一人 3 回ほど実施してもらい、教室でも舞台の雰囲気を出したいと思います。</p> <p>なるべく実際の上演を観られるものを取りあげます。また、英米や時代にかかわらず、有名な作品や話題の作品と歌舞伎なども取りあげます。実際に劇場に観に行き、芝居は楽しいライブ・パフォーマンスであることを知って下さい。</p> <p>遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いは一切ありません。授業回数の 3 分の 1 以上を欠席した場合、<u>理由の如何を問わず</u>、単位を認めません。</p>		<p>予定作品 (邦題) :</p> <p>『オペラ座の怪人』、 『エスケープ・フロム・ハピネス』、 『アルジャーノンに花束を』、 『ミザリー』、 『喝采』、 『舞台裏の騒ぎ』、 『マクベス』、 『時の人』、 歌舞伎作品 ほか。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>英米の現代演劇の台本の抜粋をプリントで配布します。 参考文献は授業中に言及する予定です。</p>		<p>観劇レポート (800 字) 2 編で 70%、授業で 30%。学期末定期試験はありません。レポートに関する詳細は初回授業で説明。</p>	

全カリ (秋)	歴史と文化 (Ⅲ) (おもしろまじめな芝居のミカタ b)	担当者	児嶋 一男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英米の劇作品の台本 (抜粋英文プリント) を読みながら、現代の英米文化や作品の時代や社会の風潮が、どういうふうに演劇に示されているかについて考えてみましょう。テキスト (英文プリント) を毎回配布しますから、舞台上しゃべって違和感のない日本語に翻訳したものをノートに用意して、出席してください。その翻訳を本読みするパフォーマンスを、順番に一人 3 回ほど実施してもらい、教室でも舞台の雰囲気を出したいと思います。</p> <p>なるべく実際の上演を観られるものを取りあげます。また、英米や時代にかかわらず、有名な作品や話題の作品と歌舞伎なども取りあげます。実際に劇場に観に行き、芝居は楽しいライブ・パフォーマンスであることを知って下さい。</p> <p>遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いは一切ありません。授業回数の 3 分の 1 以上を欠席した場合、<u>理由の如何を問わず</u>、単位を認めません。</p>		<p>予定作品 (邦題) :</p> <p>『キャッツ』、 『夜の来訪者』、 『審判』、 『ドライヴィング・ミス・ディジー』、 『ガラスの動物園』、 『聖者の泉』、 『暗くなったら帰っておいで』、 『八月の鯨』、 『最後の恋』、 『リタの教育』、 歌舞伎作品 ほか。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>英米の現代演劇の台本の抜粋をプリントで配布します。 参考文献は授業中に言及する予定です。</p>		<p>観劇レポート (800 字) 2 編で 70%、授業で 30%。学期末定期試験はありません。レポートに関する詳細は初回授業で説明。</p>	

全カリ (春)	歴史と文化 (Ⅲ) (アメリカの詩の楽しみ方)	担当者	原 成吉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>まず第一に詩を楽しむこと。詩の言葉をとおしてアメリカの文化とその時代精神を理解し、異文化という鏡を使いながら「いまのわたしたち」を考える。</p> <p>アメリカ先住民の口承詩(うた)、ロック・ミュージックの歌詞、モダニストの作品、そして同時代の詩人の作品を紹介する。文学史的なアプローチではなく、“here and now”の視点から論じる</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. アメリカの大地の声—Native American の口承詩 2. Rock の Lyrics を読む—Bob Dylan と Paul Simon のアメリカ 3. デモクラシーを歌う『草の葉の詩人—Walt Whitman がみたアメリカのヴィジョン 4. ミクロコスモスのなかのマクロコスモス—Emily Dickinson の世界 5. Ezra Pound がみた東洋の詩学 6. T. S. Eliot の“The Love Song of J. Alfred Prufrock”に描かれた現代人の苦悩 7. William Carlos Williams がみたアメリカの美学 8. e. e. cummings の typography が創る「感じる」詩 9. ビート詩人 Allen Ginsberg の“A Supermarket in California”を読む 10. 禅とエコロジーの詩の世界 Gary Snyder の “Ripples on the Surface”を読む 11. Sylvia Plath の “Daddy”を読む 12. Shel Silverstein の絵と言葉を読む 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはプリントを用意する。</p> <p>参考文献 Jay Parini, ed. <i>The Columbia History of American Poetry</i>. New York: Columbia UP, 1993. 亀井俊介・川本皓嗣編『アメリカ名詩選』(岩波文庫) D・W・ライト編『アメリカ現代詩101人集(思潮社)</p>		<p>ワープロによる 4,000 字程度の作品論で決める(ただし4回以上欠席の場合は評価対象外)。</p>	

全カリ (秋)	歴史と文化 (Ⅲ) (イギリスの詩の楽しみ方)	担当者	白鳥 正孝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義の目的 ワーズワス (W. Wordsworth 1770-1850) の『水仙』などの易しい英詩を導入にして、基本的な英詩を分析し、味わう力を養うと共に、やや古い英詩についても鑑賞し得る能力を身に付けることを目的とする。扱う題材は全てイギリス詩である。</p> <p>講義概要 初めは導入として、詩形や易しい詩、特にマザーグースについて講ずる。次いで現代詩を垣間見た後、ロマン派に焦点を当てる。そして最後にグレイ、ミルトン、シェークスピアの代表的な詩について管見する。なるべく video などの視聴覚教材を利用する</p> <p>参考文献 新井明著 『英詩鑑賞入門』 研究社 1987</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 詩形について 2. <マザーグース> I 3. <マザーグース> II (video 鑑賞) 4. <現代英詩アラカルト> T. Hughes(1992-1985), Seamus Heaney(1939-)など 5. <ロマン派の曙> W. Blake(1757-1827), video 鑑賞(字幕なし、以下同じ) 6. <ロマン派の詩> I ワーズワス、video 鑑賞 7. <ロマン派の詩> II S.T. Coleridge(1772-1834) と G.G. Byron(1788-1824) 8. <ロマン派の詩> III P. B. Shelley(1792-1822) と J. Keats(1795-1821) 9. <ロマン派の詩> 総括 解説と video 鑑賞 10. Thomas Gray(1716-1771), “Elegy Written in a Country Churchyard”(1751)を読む。Video 鑑賞 11. John Milton(1608-74) <i>Paradise Lost</i>(1667)のさわり、ソネット23。Video 鑑賞 12. William Shakespeare(1564-1616), 解説と video 鑑賞 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト 薬師川虹一他 編注『マザーグースと美しい英詩』北星堂 1987</p>		<p>テストを課す。数回の video は、字幕なしなので、100%の理解は求めないが、リスニング・テストとして努力具合を見、平常点とする。</p>	

全カリ (春) 外共	歴史と文化 (Ⅲ) (グローバル化とイスラム-公と私) 社会科学特殊講義 A (異文化との触れ合い) (通年)	担当者	水口 章
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目標】 イスラム社会を一例として学ぶことにより異文化理解を深め、「地球市民」という概念を視野に入れて国際的問題を理解し、行動できるようにする。</p> <p>【講義概要】 本講義では、グローバル化が進む国際社会にあって、13億の人口を有するイスラム世界と欧米社会がどのような関係にあるのかを歴史的過程を通して考える。そのことを踏まえ、日本社会とイスラム社会との比較にまで視野を広げて、伝統文化と国際秩序、「公」と「私」について考えていきたい。</p> <p>【受講生への要望】 講義で紹介した用語や概念について、自主的に調べ、身に付けてほしい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 異文化接触と文化変容 2 イスラム社会の誕生 3 イスラム社会の発展とギリシア思想 4 キリスト教とイスラム 5 ムスリムの西欧についての知識 6 イスラム世界から西欧への技術移転 7 西洋の衝撃と中東 8 民族主義とイスラム 9 イスラムと女性社会 10 人権とイスラム 11 仏教とイスラム 12 日本社会とイスラム 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>参考文献 『イスラムの生活を知る事典』(東京堂出版)、『イスラム世界はなで没落したか?』(日本評論社)、『日本の仏教とイスラム』(春秋社)、『公と私の思想史』(東京大学出版会)</p>		出席とレポートを4:6の割合で評価する。	

全カリ (秋) 外共	歴史と文化 (Ⅲ) (移民・交易に見る文化変容) 社会科学特殊講義 A (異文化との触れ合い) (通年)	担当者	水口 章
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目標】 「交易離散共同体」や「核家族」「地域コミュニティ」について学ぶことを通し、自己のアイデンティティ形成と文化・社会の関係について考察を深める機会を持つてほしい。</p> <p>【講義概要】 本講義では、交易や民族移動、移民などの人や物、情報の移動を通し、生じる文化変容を都市という空間で考察し、それが現代的問題に関わっているのかを考えたい。</p> <p>【受講生への要望】 講義で紹介した用語や概念について、自主的に調べ、身に付けてほしい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 移動と文化変容 2 移民過程とエスニック・マイノリティ 3 歴史の中の都市(1)中東 4 歴史の中の都市(2)アジア 5 歴史の中の都市(3)ヨーロッパ 6 商業ネットワークと都市 7 都市の構成 8 都市における個人 9 都市における集団 10 ヨーロッパのイスラム移民 11 米国の移民の歴史的概観 12 多文化主義の論争点 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>参考文献 『イスラムの都市性』(亜紀書房)、『都市的体験』(未来社)</p>		出席とレポートを4:6の割合で評価する。	

全カリ (春) 外共	歴史と文化 (Ⅲ) (未開人の認識 a) 社会科学特殊講義 A (文化人類学特殊講義) (通年)	担当者	井上 兼行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>未開人 (現在はほとんど消えつつあるが) は、世界について、あるいは事物について、われわれとは全く異なった認識の仕方をもつ。こうした異文化の完全な理解などありえないが、われわれの認識の仕方を剥ぎ取りながら、異文化に迫ることは可能である。ここで私の専門である文化人類学からその一端を明らかにする。</p> <p>注——文化人類学の単位を取ったか、興味をもっている人が取ってください。でないと、どうしてそんなばかなことを、と感じ、嫌になってしまいかねません。</p>		<p>文化人類学における未開社会研究の成果を基礎に、いくつかのテーマを取り上げ、いずれも数回ずつ使って、「異なった」文化をもつ人々の認識の仕方について考察し、われわれのそれとの違いを理解できるように話をしていきたい。テーマについては、第1回の講義においてその大枠を述べる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはない。参考文献は随時紹介する。		試験およびレポートを考えているが、受講者の数によって考慮する。	

全カリ (秋) 外共	歴史と文化 (Ⅲ) (未開人の認識 b) 社会科学特殊講義 A (文化人類学特殊講義) (通年)	担当者	井上 兼行
講義目的、講義概要		授業計画	
上に同じ。		上に同じ。第1回の講義においてその大枠を述べる。ただし春学期に行う「はじめに」に当たるものはやらないので、できる限り「春」「秋」続けて取ってもらいたい。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはない。参考文献は随時紹介する。		試験およびレポートを考えているが、受講者の数によって考慮する。	

全カリ (春) 外共		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

全カリ (秋)	歴史と文化 (Ⅲ) (都市と建築)	担当者	鈴木 隆
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目的】 木の文化に対して石の文化とも言われるように、ヨーロッパでは我国の木造建築とは異なる石造建築の文化が広く発達してきた。本講義は建築の歴史と通してヨーロッパの文化の一面を知ることが目的とする。</p> <p>【講義概要】 ヨーロッパの建築の歴史は、過去の過去の文化として記録の中に記されているのみでなく、現に存在する数多くの建築遺産を通してより直接的に体験することができる。本講義では、古代から中世もしくはルネサンスまでのヨーロッパの建築の様式を、その意味を考えながらみてゆく。</p> <p>【受講生への要望】 資料を提示しながら授業を進める必要から、受講生の定員を150名とします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 古代ギリシャの建築 2 古代ギリシャの建築 (続) 3 古代ローマの建築 4 古代ローマの建築 (続) 5 初期キリスト教建築 6 中世ロマネスクの建築 7 中世ロマネスクの建築(続) 8 中世ゴシックの建築 9 中世ゴシックの建築 (続) 10 ルネサンスの建築 11 ルネサンスの建築(続) 12 まとめ <p>以上の計画には多少の変更がありうる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは用いない。授業に関する資料を配布する。参考文献は必要に応じて授業の中で紹介する。		試験の結果によって評価する。	

全カリ (春) 外共	歴史と文化 (Ⅲ) (イタリアの音楽史) 人文科学特殊講義B (イタリアの音楽史) (春学期)	担当者	園田 みどり
講義目的、講義概要		授業計画	
イタリアの音楽史を概観します。なお、オペラについては後期にまとめて扱うので、原則として除外します。		<ol style="list-style-type: none"> 1 16世紀までのイタリア音楽 (1) 2 16世紀までのイタリア音楽 (2) 3 16世紀の世俗歌曲「マドリガーレ」 4 モンテヴェルディ 5 ヴァイオリンの誕生と器楽の発展 6 ヴィヴァルディのヴァイオリン協奏曲：《四季》を中心に 7 ヴィヴァルディとヴェネツィア 8 バガニーニとロマン派の音楽 9 ヴェルディとイタリア国家統一運動 10 プッチーニとオリエンタリズム 11 プッチーニ後のイタリア音楽：レスピーギを中心に 12 イタリアの映画音楽 	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献として： 藤沢道郎『物語 イタリアの歴史』(中公新書 1045)		学期末試験によります。	

全カリ (秋) 外共	歴史と文化 (Ⅲ) (イタリアの声楽曲) 人文科学特殊講義B (イタリアの声楽曲) (秋学期)	担当者	園田 みどり
講義目的、講義概要		授業計画	
イタリアの声楽曲の歴史をオペラを中心に概観します。		<ol style="list-style-type: none"> 1 オペラ誕生に先立つ劇音楽の系譜 2 オペラ誕生：初期の試み 3 バロック・オペラの台本 4 バロック・オペラの音楽的特徴：カストラートの魅力 5 バロック・オペラと劇場 6 ロッシーニの世界 7 ロマン派のイタリア・オペラ：ベッリーニとドニゼッティ 8 ロマン派のイタリア・オペラ：ヴェルディ登場 9 イタリア・オペラの形式：独唱と二重唱の場合 10 イタリア・オペラの形式：フィナーレの場合 11 新しい形式：ヴェルディ晩年のオペラ 12 ヴェリズモ・オペラとプッチーニ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは特に選定しません。参考文献については、授業中に指示します。		期末テストによります。	

全カリ（春）	歴史と文化（Ⅲ）（英語圏の小説 a）	担当者	藤田 永祐
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>19世紀の初期の小説家ジェーン・オースティンの代表作品『自負と偏見』『マンスフィールド・パーク』『説得』を解説・鑑賞していきます。オースティンの小説は風俗小説と呼ばれていますが、風俗小説はイギリス小説の主流をなしている、その中心的位置にあるのがオースティンの作品とあってよいでしょう。彼女は、今日ではイギリスとアメリカで最も高い評価を受けていて、イギリスでは今現在広く読まれ、数多く映画化されてきました。</p> <p>人間とか人間性に強い興味がある人、語学力を身に着けることに熱意を傾ける人なら、得るところ少なくないはずです。</p>		<p>最初の授業で全体的な解説と説明をします。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>手作りのプリント 参考文献は授業中に指定する。</p>		小テストとレポート	

全カリ（秋）	歴史と文化（Ⅲ）（英語圏の小説 b）	担当者	北澤 滋久
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>20世紀英文学において先駆的役割を果たした、ジェイムズ・ジョイスの文学について、従前の作家たちと異なる諸点を鮮明にいたしたい。これによりモダニズムという極めて曖昧な定義についても、担当者の認識するところの一端が伝えられればとも思っている。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに：本講義の目的と約束 2 モダニズムの予兆；序説 3 ジョイス概観 4 <i>Dubliners</i> をめぐって 5 意識の流れということ 6 <i>A Portrait of the Artist as a Young Man</i> をめぐって（その1） 7 <i>A Portrait of the Artist as a Young Man</i> をめぐって（その2） 8 <i>Giacomo Joyce</i> をめぐって 9 <i>Ulysses</i> をめぐって（その1） 10 <i>Ulysses</i> をめぐって（その2） 11 <i>Finnegans Wake</i> をめぐって 12 まとめ：ジョイスの歴史観と現代認識、質疑応答 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>北沢滋久(他)、『ジョイスからジョイスへ』、東京堂。 北沢滋久(訳註)、『ジャコモ・ジョイス』、下井草書房。 北沢滋久、「話法から意識の流れへ」『獨大外国語教育研究』</p>		学期末提出の、小論文において評価する。	

全カリ (春) 外共	現代社会 (Ⅲ) (英国人は階級問題抜きで語れない) 社会科学特殊講義 A (現代英米社会研究) (通年)	担当者	有吉 広介
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英国人の生活は常に階級がらみで語られる。現代英国人の社会生活および文化を、階級と関連させて社会学的な分析を通して理解する。</p> <p>世界の工場といわれた近代英国の資本主義社会を築いた歴史的主体は、そのブルジョア階級であれ、ジェントルマン階級と結びついた都市の金融資本家であれ、階級的性格を帯びていた。かれらは、この国の伝統と革新を独特な方法で調和させて、近代英国社会を作り出した。またこの国のダイナミックな発展は、それらの階級と労働階級との対立関係において起こった。19世紀末における経営者革命や官僚組織の発達に起源を置く経営者層、中間管理者層、専門・技術者層および大量の事務員層からなるホワイトカラー階級との関係で、は現代社会の英国人の生活と文化とを読み取ることを主眼とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 産業革命前の階級関係 2. 産業革命後の階級関係 3. ジェントルマンの勤め 4. 19世紀末から20世紀にかけての階級関係 5. 20世紀におけるミドルクラスの日常生活 6. 5の補足および20世紀の上流階級 7. ホワイトカラー階級の発達 8. 下層ホワイトカラー 9. 管理者および専門職階層：サービス階級とプチ・ブルジョア階級 10. 労働者階級 11. 英国の教育制度と階級再生産 12. 階級と家庭における子どもの教育 	
テキスト、参考文献		評価方法	
毎回、講義の要点に関するプリントを渡す。 参考文献は適時紹介		期末に求めるレポートの評価による。	

全カリ (秋) 外共	現代社会 (Ⅲ) (少子・高齢社会を生きる) 社会科学特殊講義 A (現代英米社会研究) (通年)	担当者	有吉 広介
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日本では人口の少子化と高齢化が急激に進んでいる。21世紀の半ばには、総人口が今より約2割減少するとともに、国民の3人に1人が65歳以上になる。今後人口減少と少子高齢化が同時に進むという、今までに経験したことのない時代を迎えるが、これは、個人や家族の生活のありかたから、わが国の経済・政治の社会まで深刻な影響をおよぼす。世の中がどのように変化するのか、そこに一体どんな問題が起こるのかを、考えたい。</p> <p>少子・高齢社会が起こる原因をまず明らかにして、次に少子化の社会的・経済的影響を調べ、ついで少子化を起こす要因にどのように対処すればいいのかを簡潔にとらえる。その後、現代の家族の形態・機能および家族観の変化を概観し、そこから現代の男女あるいは夫婦の関係を、そして家庭生活の現状を考える。さらに、少子化の問題の解決には地域や職場の環境の整備が必要であることにふれる。次に、高齢者が現在暮らしている家庭の特徴、老親の扶養問題、高齢者の介護問題、定年のあるサラリーマンにとっての高齢期の生活、高齢者にとっての社会参加の意義を論じる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 少子化社会の到来 2. 少子化への対応 3. 家族集団および家族観の変化 4. 結婚および夫婦生活の現実 5. 地域生活の変化 6. 職場および企業の問題 7. 大衆長寿時代 8. 老親の扶養 9. 高齢者の介護 10. サラリーマン老人の生活 11. 高齢者と社会参加 12. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
毎回、講義の要点および資料に関するプリントを配布する。参考文献は適時紹介する。		学年末にレポートを書いてもらい、これを評価する	

全カリ (春)	現代社会 (Ⅲ) (キャンパスライフと仕事Ⅱ)	担当者	山越 徳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1. 講義の目標</p> <p>1年間の学生生活を踏まえて、人間形成においてどのような成長を遂げたか、何を学んだか、チャレンジして達成できたことは何であるか等再確認させる。2年次の目標と将来のライフスタイル、自分の夢を実現するためのキャリアデザインを明確に意識させることにより、生き生きとした学生生活を送れるようにする。</p> <p>2. 講義の概要</p> <p>選択するのは「入りたい企業」ではなくて「自分がやりたい仕事」である。「就社」ではなくて「就職」であることを意識させる。自分の選択した生き方によって職業選択も変わることが理解できるようにする。そのため多様な職業の実態を知る機会を提供し必要な知識、技能を理解させる。本講義ではさまざまな業種の現役で活躍中の社会人を迎えて「ありのままの仕事の様子」を語ってもらう。仕事をする中での努力、工夫、苦勞、喜び、を語ってもらう。毎回質問の時間を確保し、学生の疑問に答えられるようにする。</p> <p>右の授業計画は講師の都合により変更することもある。</p>		<p>1. さまざまな仕事 (進路) を考える オリエンテーション</p> <p>2. 産業の構造変化と労働市場の変貌</p> <p>3. 女性を取り巻く労働環境の変化</p> <p>4. 経済社会の変化と人事制度</p> <p>5. 職場から見た公務員の仕事</p> <p>6. 職場から見た運輸業の仕事</p> <p>7. 職場から見た旅行業の仕事</p> <p>8. 職場から見た金融・保険業の仕事</p> <p>9. 職場から見た総合商社の仕事</p> <p>10. 職場から見たマスコミの仕事</p> <p>11. 社会が求める人材とは (学生時代にやっておくこと)</p> <p>12. キャンパスライフと仕事 (シボ・ジューム形式による授業を予定)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要な資料は授業で配布		出席、レポート	

全カリ (秋)	現代社会 (Ⅲ) (キャンパスライフと仕事Ⅱ)	担当者	山越 徳
講義目的、講義概要		授業計画	
同上		<p>1. さまざまな仕事 (進路) を考える オリエンテーション</p> <p>2. 産業の構造変化と労働市場の変貌</p> <p>3. 女性を取り巻く労働環境の変化</p> <p>4. 経済社会の変化と人事制度</p> <p>5. 職場から見たアパレル業の仕事</p> <p>6. 職場から見た食品関連企業の仕事</p> <p>7. 職場から見た百貨店の仕事</p> <p>8. 職場から見た情報業の仕事</p> <p>9. 職場から見たホテル業の仕事</p> <p>10. 職場から見た福祉・医療機関の仕事</p> <p>11. 社会が求める人材とは (学生時代にやっておくこと)</p> <p>12. キャンパスライフと仕事 (シボ・ジューム形式による授業を予定)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上		同上	

全カリ (春) 外共	現代社会 (Ⅲ) (中東政治思想 a) 社会科学特殊講義 A (イスラム (原理) 主義過激思想) (通年)	担当者	藤原 和彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「イスラム原理主義」と呼ばれる過激な宗教・政治運動がいま世界を揺るがしている。サウジアラビア出身のオサマ・ビンラーディン率いる過激原理主義組織アル・カーイダは、2001年9月、反米ジハード「9・11テロ」を引き起こした。これに対し、ブッシュ米政権は同年10月から史上初の「対テロ戦争」を開始した。講義では「ジャーヒリーヤ論」に代表される過激原理主義思想・運動の理解を目指す。</p> <p>また、毎時限の講義は (1) 原理主義運動を中心にした中東・中央アジアの政治情勢の時事解説 (2) イスラム信仰を中心にした中東・中央アジア事情のビデオ鑑賞——の2部構成とする。</p>		1 (イントロダクション) セム族一神教の系譜	
		2 イスラム教多数派スンニー派と少数派シーア派の関係など	
		3 イスラム教戒律シャリーア (イスラム律法) とメッカ巡礼、利息の禁止など	
		4 エジプトの過激原理主義組織「イスラム集団」と「ジハード団」	
		5 1981年のサダト・エジプト大統領暗殺	
		6 エジプトの過激原理主義革命家サイド・クトゥブの革命理論「ジャーヒリーヤ論」	
		7 過激原理主義組織の原型、エジプトの「タクフィール・ワ・ヒジュラ (断罪と逃亡) 団」	
		8 イスラム共同体 (ウンマ) 内部のジハード	
		9 タリバンによるカリフ制の復活	
		10 「イスラム集団」を生んだ上エジプト (エジプト中・南部) の社会風土	
		11 「イスラム集団」の反コプト (キリスト教) 主義	
		12 「イスラム集団」の1997年のルクソール事件	
テキスト、参考文献		評価方法	
藤原和彦著『イスラム過激原理主義——なぜテロに走るのか』(中公新書, 2001年)		出席率とテストによる	

全カリ (秋) 外共	現代社会 (Ⅲ) (中東政治思想 b) 社会科学特殊講義 A (イスラム (原理) 主義過激思想) (通年)	担当者	藤原 和彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「イスラム原理主義」と呼ばれる過激な宗教・政治運動がいま世界を揺るがしている。サウジアラビア出身のオサマ・ビンラーディン率いる過激原理主義組織アル・カーイダは、2001年9月、反米ジハード「9・11テロ」を引き起こした。これに対し、ブッシュ米政権は同年10月から史上初の「対テロ戦争」を開始した。講義では「ジャーヒリーヤ論」に代表される過激原理主義思想・運動の理解を目指す。</p> <p>また、毎時限の講義は (1) 原理主義運動を中心にした中東・中央アジアの政治情勢の時事解説 (2) イスラム信仰を中心にした中東・中央アジア事情のビデオ鑑賞——の2部構成とする。</p>		1 原理主義運動一般の反ユダヤ主義	
		2 西欧民主主義とイスラム民主主義「シェーラー」	
		3 1979年末の旧ソ連のアフガニスタン侵攻とアフガニスタン戦争の勃発	
		4 アラブ・アフガンズ (イスラム義勇兵)	
		5 アラブ・アフガンズの初期の精神指導者、パレスチナ人のアブダッラー・アッザーム	
		6 ビンラーディンによるアル・カーイダの結成	
		7 ビンラーディンの1996年「ジハード宣言」	
		8 初の原理主義国際連帯組織「世界イスラム戦線」の結成	
		9 アル・カーイダにおける、アイマン・ザワヒリらエジプト人勢力の台頭	
		10 9・11テロとアメリカの対テロ戦争	
		11 「イラク戦争」とアル・カーイダ新世代の登場	
		12 サウジアラビアのアル・カーイダ運動	
テキスト、参考文献		評価方法	
藤原和彦著『イスラム過激原理主義——なぜテロに走るのか』(中公新書, 2001年)		出席率と試験による	

全カリ (春) 外共	現代社会 (Ⅲ) (中国を考える a) 社会科学特殊講義 A (現代中国論) (通年)	担当者	辻 康吾
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>経済交流を中心に日中両国の交流が広がり、深まるとともに、中国理解の必要が一層切実なものとなっている。中国の政治、外交、文化などの諸側面はそれぞれに研究に値するが、さらにその根底には日々の生活を営む人々が構成する社会がある。そして中国全体を正確に理解するには社会レベルでの人々の価値観、人間関係、性格を可能な限り、理解しなくてはならない。</p> <p>もちろん華僑、華裔と呼ばれる人々を含め 13 億を超える「中国人」の生き様は多様であるが、可能な限りその共通性(民族性)を探りながら、底辺からの中国理解を試みたい。</p>		<p>左記の目的を追求するため、様々な資料を多数を読む必要がある。下記に指定したのは、それぞれ邦訳のある文献であり、それらの講読と解説を通じて「中国人像」を描いていく。いずれも市民図書館で講読可能。</p> <p>①魯迅『阿 Q 正伝』(岩波書店『魯迅選集』など邦訳多数) ②柏楊『醜い中国人』(光文社) ③老舍『駱駝祥子』(新潮社『駱駝祥子』など邦訳多数) ④林語堂『我国土 我國民』(黄河『我が中国論抄』) ⑤李佩甫『羊の門』(勉誠出版) ⑥フェアバンク『中国』(東大出版会) ⑦石田幹之助『長安の春』(講談社学術文庫) ⑧劉賓雁『人妖之間』(亜紀書房『天雲山伝奇』) ⑨増井経夫『中国の歴史と民衆』(吉川弘文館) ⑩パール・バック『大地』(平凡社『世界名作全集』など邦訳多数)</p> <p style="text-align: center;">本科目の履修を希望するものは魯迅の『阿 Q 正伝』を読んでおくこと。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
		期末に作品についてのレポートを提出	

全カリ (秋) 外共	現代社会 (Ⅲ) (中国を考える b) 社会科学特殊講義 A (現代中国論) (通年)	担当者	辻 康吾
講義目的、講義概要		授業計画	
同		同	
テキスト、参考文献		評価方法	
同		同	

全カリ (春) 外共	現代社会 (Ⅲ) (歴史の中のメディア) 社会科学特殊講義 A (マスコミュニケーション論) (通年)	担当者	柴崎 信三
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>民主主義の発展と大衆社会の広がりとともに発達してきたマスメディアは、情報伝達と権力監視を通して自由で公正な社会へ向けて言論を誘導する「第4の権力」としての役割を大きく変えて、いま転換点に置かれている。</p> <p>メディアコングロマリットとよばれる巨大な情報複合体は国家政策や国際政治への影響力を高める一方、文化や娯楽をグローバルに統治する産業としての存在を強めつつある。またネットメディアという新たなコアの登場はピラミッド型の情報の階層を平準化させ、マスメディアの機能そのものを脅かしかねない。</p> <p>春学期の「歴史の中のメディア」ではこのような現状への認識を踏まえて、マスメディアの成立とその進化の歴史をたどりながら、民主主義社会における言論機能と社会の意思決定や価値の創造にメディアがどのようにかかわってきたかを検証する。</p> <p>メディアのもっとも原初的な姿は、例えば人の言葉を通じた神話や物語の伝承であったかもしれない。活字印刷から通信技術の進化、ラジオ・テレビなどによるリアルタイムの情報伝達、そしてインターネットを通じた個人間のグローバルなやりとりへと、メディアの発達を通してその社会的機能と影響力の変容をたどる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 2 グーテンベルクの革命 3 ピュリツァーと新聞戦争 4 ロイターと大英帝国 5 視覚の20世紀 6 複製技術とアウラ 7 プロパガンダ 8 戦争報道とマスメディア 9 メディア複合体 10 ネットとメディア 11 Content is King 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
ジョアンナ・ヌーマン『情報革命という神話』(柏書房)を参考文献とする。		定時試験の成績にくわえて、平常授業で課すりポートの実績を勘案して評価する。	

全カリ (秋) 外共	現代社会 (Ⅲ) (メディアと現代社会) 社会科学特殊講義 A (マスコミュニケーション論) (通年)	担当者	柴崎 信三
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>秋学期の「メディアと現代社会」ではマスメディアとそれを取り巻く社会の変化をふまえて、メディアと受け手である個人や社会、企業、国家などとの関係の揺らぎをさまざまな領域にとらえて考察を進めたい。</p> <p>民主主義社会におけるマスメディアは「公共圏」という足場のもとで、社会的公正の追求や社会における言論代行性をジャーナリズムという機能を通して求められてきた。しかしメディア産業の巨大化にともなう産業的側面の拡大の一方で、国益のからんだ戦争報道などへの関与が深まることにより、その倫理的基盤は次第に低下しつつある。</p> <p>民主主義社会がマスメディアと個人や社会、国家などの間に取り持ってきた調和的な関係が揺らいで、法的・社会的な摩擦を広げているのはそうした背景があろう。</p> <p>「表現の自由」と「プライバシーの権利」の対立には「知る権利」というメディアの足場の衰弱とネット時代の「私」の優位性の高まりがある。戦争報道など国益がからんだ報道に対する情報操作の問題や、知的財産権に対する使用者の権利主張の広がりなど、マスメディアが依拠してきた「公益性」の基盤が脅かされる現状をとらえて、「第4の権力」のこれからを考える。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 2 「公共権」とメディア 3 客観報道・キャンペーン・検閲 4 戦争報道と情報操作 5 プライバシーと「知る権利」 6 表現の自由とその規制 7 メディア経営の基盤 8 誤報と人権侵害 9 テレポリティックス 10 知的財産を巡る二つの立場 11 視聴率至上主義 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
原寿雄『ジャーナリズムの思想』(岩波新書)などを参考文献とする。		定時試験の成績にくわえて平常授業で課すりポートの実績を勘案して評価する	

全カリ (春) 外共	現代社会 (Ⅲ) (広告論 a) 社会科学特殊講義 A (広告論) (通年)	担当者	川又 祥平
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>広告は、消費経済を活性化する重要な役割を持っている。商品やサービスを消費者に活用してもらうためのマーケティングに欠かせないものである。(ここでは事業者向け広告をひとまず別において考える)</p> <p>この講義の目的は、時代に呼応して変化する広告の役割を知り、広告主と広告会社のビジネスのあり方、プランニングの進め方を理解しながら広告の基本と本質を学ぶことである。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション～広告を学ぶ意義 2 マーケティングの新しい潮流と広告 マーケティング・コミュニケーションとは 3 マーケティング・プランニングにおける意思決定と、そのためのデータベース活用 4 広告の発展の歴史、広告の概念の変化、日本の広告費 5 広告の社会的・経済的機能、広告の種類 6 広告会社の役割と広告組織 広告業の起源とあゆみ、広告ビジネスの企業群の変化 7 広告主と広告会社のビジネスの実際 8 広告管理のしくみ、広告目標と予算 9 広告のプランニング～ターゲティングとポジショニング 「広告で伝えるべきこと」をどう決めていくか。 10 消費者インサイトの発見とマーケティング調査の歴史と展望 11 広告作品の制作～良いクリエイティブとは、表現アイデアの発見、時代の人気広告事例 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
岸志津江、田中洋、嶋村和恵著「現代広告論」有斐閣 2000年、「実践マーケティング・コミュニケーションズ」電通 2004年		出席、ミニレポート、試験による。	

全カリ (秋) 外共	現代社会 (Ⅲ) (広告論 b) 社会科学特殊講義 A (広告論) (通年)	担当者	川又 祥平
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>広告は、消費経済を活性化する重要な役割を持っている。商品やサービスを消費者に活用してもらうためのマーケティングに欠かせないものである。</p> <p>この講義の目的は、時代に呼応して変化する広告の役割を知り、広告主と広告会社のビジネスのあり方、プランニングの進め方を理解しながら広告の基本と本質を学ぶことである。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 情報環境の変化とメディア・オーディエンスの捉え方 2 消費者の購買行動と意志決定プロセス、その中での広告の効果 3 マス媒体の特徴とメディアプランニング 4 SP、インタラクティブ・メディアの特徴と媒体計画 イベント、コンパニオンが変える広告コミュニケーション 5 広報・PRの重要性と CSR マーケティングなど マーケティング・コミュニケーションの新しい課題 6 広告表現の評価、広告効果の把握 7 コミュニケーション過程と広告効果① ～理論編 8 コミュニケーション過程と広告キャンペーン 効果②～事例編 新製品広告キャンペーンのケース 既存製品の販売促進キャンペーンのケース 9 ブランド構築の重要性と広告の役割、 ブランド・コミュニケーションの方法論 10 ブランド・コミュニケーション～事例 11 グローバル広告の可能性 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
岸志津江、田中洋、嶋村和恵著「現代広告論」有斐閣 2000年、「実践マーケティング・コミュニケーションズ」電通 2004年		出席、ミニレポート、試験による。	

全カリ (春) 外共	現代社会 (Ⅲ) (社会科学概論 a) 社会科学特殊講義 A (社会科学概論) (通年)	担当者	杉田 孝夫
講義目的、講義概要		授業計画	
ドイツにおける近代家族観の成立過程を対象にして市民社会と家族の観念の構造的連関をその成立、展開過程に即して明らかにするとともに、現代社会と家族の関係にかかわる諸問題の根源を明らかにする。		<ol style="list-style-type: none"> 1. 市民社会と家族 2. 一般ラント法における家族と社会 3. カントの家族観 (1) 4. カントの家族観 (2) 5. カントの家族観 (3) 6. フィヒテの家族観 (1) 7. フィヒテの家族観 (2) 8. フィヒテの家族観 (3) 9. ヘーゲルの家族観 (1) 10. ヘーゲルの家族観 (2) 11. ヘーゲルの家族観 (3) 12. ドイツ民法における家族と社会 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業のなかで随時紹介する。		講義への出席と学期末試験によって評価する。	

全カリ (秋) 外共	現代社会 (Ⅲ) (社会科学概論 b) 社会科学特殊講義 A (社会科学概論) (通年)	担当者	杉田 孝夫
講義目的、講義概要		授業計画	
近代西洋政治思想の展開のなかで政治とジェンダーを考える。 近代政治思想史の代表的テキストのなかで、人間 (男- 女- 子ども)、家族、社会、公私関係はどのように原理的に構成されたのであろうか。近代社会の形成過程でどのようにジェンダーが基礎づけられ、展開したのか。そしてなにがどのように批判の対象となるにいたったのか、その過程をテキストが登場した時代の精神と連関させつつテキストに即して明らかにする。		<ol style="list-style-type: none"> 1. ロック：家族社会と政治社会の峻別 2. ルソー：「エミール」と「社会契約論」 3. オランプ・ドゥ・グージュ：「女性の権利宣言」 4. ウルストンクラフト：「女性の権利の擁護」 5. カント：「家長個人主義」の誕生 6. フィヒテ：「夫婦で一票」 7. ヘーゲル：「家族・市民社会・国家」 8. J.S. ミル：女性の隷従からの解放 9. エンゲルス「家族・私有財産・国家の起源」 10. ベーベル：「婦人論」は何を目ざしたのか 11. エレン・ケイ：「児童の世紀」の意味するもの 12. ボーヴォワール「第二の性」 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業の中で随時紹介する。		講義への出席と学期末試験によって評価する。	

全カリ (春) 外共	現代社会 (Ⅲ) (教育法 a) 教育法 (通年)	担当者	市川 須美子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>教育法は、教育の場で生じる様々な問題を法的視点から整理して、教育問題の解決を提起してゆく法分野です。現在学校でも家庭でも様々な子どもの人権侵害が生じています。体罰で子どもが心身に重大な被害を受ける事例もあとを絶たないし、いじめも文部省調査などでは数的に減少しているとされていますが、いじめ被害による裁判はむしろ増加しています。この講義では、学校での子どもの人権侵害を具体的な裁判事例を通して法的に分析し、教育法の考え方と現時点での到達点を入門的に解説してゆきたいと思っています。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 学校における子どもの人権侵害——学校における人権侵害の問題化の経緯と分類 2 体罰裁判とその特徴——水戸五中事件とその後の展開 3 障害児体罰とその問題性 4 体罰自殺裁判——龍野市小学生体罰自殺事件 5 いじめと裁判——中野富士見中事件といわき小川中事件 6 いじめ自殺と予見可能性——津久井町立中野中事件 7 学校のいじめ調査・報告義務——町田いじめ調査報告義務訴訟 8 校則裁判——丸刈り校則と裁判 9 私立学校校則と裁判——修徳高校パーマ校則裁判 10 学校教育措置訴訟——都立高校原級留置き訴訟 11 信教の自由と学校教育措置——エホバの証人退学事件 12 教育情報訴訟——内申書・指導要録開示訴訟 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは指定しませんが、教育法の小六法が講義時に必要です。学陽書房・教育小六法を推薦します。参考文献は講義時に適宜紹介します。</p>		<p>事前に問題を開示して試験を行います</p>	

全カリ (秋) 外共	現代社会 (Ⅲ) (教育法 b) 教育法 (通年)	担当者	市川 須美子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>教育法の問題状況の把握 (教育法 a) を前提に、教育法のみより理論的な理解のために、教育法の基礎概念である教育人権と国家との関係を、歴史的な経緯を含めて教育裁判を素材に法的に分析します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 教育と国家 (1) ——教科書裁判 2 教育と国家 (2) ——学テ裁判 3 教育基本法改正問題——国家は子どもの心を支配できるのか 4 子どもの学習権と政治活動の自由——内申書裁判 5 障害児の学習権——特殊学級入級処分取消訴訟 6 親の教育権——日曜日訴訟 7 親の教育情報請求権——町田いじめ作文開示訴訟 8 教師の教育の自由——伝習館高校事件 9 教師の教育の自由と日の丸・君が代——福岡高校事件 10 教師の良心の自由——都立高校教師日の丸・君が代訴訟 11 子どもの権利条約と報告審査システム 12 教育基本法と子どもの人権 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは指定しませんが、教育法の小六法が講義時に必要です。学陽書房・教育小六法を推薦します。参考文献は講義時に適宜紹介します。</p>		<p>事前に問題を開示して試験を行います</p>	

全カリ(春)	現代社会(Ⅲ)(法学a)	担当者	中空 壽雅
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、現代社会において法がどのような場面でどのように重要な役割を果たしているのかを検討・分析していくことを通じて、法的な処理方法・法的思考方法の特色の理解を目指します。</p> <p>日頃意識していない生活場面がどのように法と関係しているのか、日常の生活場面で法的思考方法が問題解決にどのように役立っているのかをこの講義を通して理解してもらいたいと考えています。</p> <p>現代社会(Ⅲ)(法学b)と併せて受講することが望ましい。</p> <p>具体的には指定の教科書を利用して、法が人間の誕生から死までのそれぞれのライフステージで、どのように関わっていくかを、トピックとなる出来事を取りあげながら見ていきます。</p> <p>現代社会(Ⅲ)(法学a)では、人の誕生から大学に至るまでのライフステージでの法的諸問題をとりあげます。</p> <p>毎回必ず六法を持参して講義に出席すること。</p> <p>毎回、次の講義で取りあげる項目を指示しますので、教科書の該当ページに目を通して講義に出席すること。受動的に講義を聴くのではなく、自分であったらどのように解決するかを考えて下さい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 法とは何か、法的紛争処理の特色はどのようなものか。 2. 生殖医療と代理母をめぐる問題 3. 胎児の生まれ出る意思—胎児は人か 4. 幼児の地位—児童虐待防止法 5. 小学生の地位—義務教育費と事故 6. 中学生の苦悩—ダイヤルQ2と校内暴力 7. いじめをめぐる法的問題 8. 校則をめぐる攻防—自己決定と規則 9. 少年犯罪—少年法の改正 10. 少年犯罪—更正の可能性 11. 大学生の自由と責任—一気のみと単位 12. 採用内定の取り消し 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：竜崎喜助『生の法律学』尚学社</p> <p>参考文献は、講義で適宜指示します。</p>		<p>定期テストと何回かの小レポートによって評価します。</p>	

全カリ(秋)	現代社会(Ⅲ)(法学b)	担当者	中空 壽雅
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、現代社会において法がどのような場面でどのように重要な役割を果たしているのかを検討・分析していくことを通じて、法的な処理方法・法的思考方法の特色の理解を目指します。</p> <p>日頃意識していない生活場面がどのように法と関係しているのか、日常の生活場面で法的思考方法が問題解決にどのように役立っているのかをこの講義を通して理解してもらいたいと考えています。</p> <p>指定の教科書を利用して、法が人間の誕生から死までのそれぞれのライフステージで、どのように関わっていくかを、トピックとなる出来事を取りあげながら見ていきます。</p> <p>現代社会(Ⅲ)(法学a)では、人の誕生から大学に至るまでのライフステージでの法的諸問題をとりあげましたが、この現代社会(Ⅲ)(法学b)では、大学卒業のライフステージでの社会的問題・家庭的問題における法を取上げます。</p> <p>現代社会(Ⅲ)(法学a)と併せて受講することが望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 会社の中の労働者をめぐる法的問題 2. 現代の家族—婚姻制度と離婚 3. 刑事法の世界—尊属殺人と死刑執行 4. 日本の会社をめぐる法的問題—コーポレート・ガバナンス 5. 情報の公開と不開示—情報へのアクセス 6. 環境問題をめぐる法的問題 7. 環境ホルモンと法 8. 消費者問題をめぐる法 9. 多重債務者—自己破産と民事再生 10. 死ぬ権利はあるか—安楽死と尊厳死 11. 臓器移植の法的問題 12. 死をめぐる法的問題 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：竜崎喜助『生の法律学』尚学社</p> <p>参考文献は、講義で適宜指示します。</p>		<p>定期テストと何回かの小レポートによって評価します。</p>	

全カリ(春) 外共	現代社会(Ⅲ)(東アジア国際関係の史的展開) 国際関係論(通年)	担当者	阿部 純一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現代東アジア国際関係を論じることで、わが国を取り巻く国際情勢への認識を深めることが本講義の目的である。</p> <p>講義では、第2次大戦後の東アジア国際関係を、米ソの冷戦を軸に解説する。今日われわれが直面する朝鮮半島や台湾海峡における緊張の歴史的背景、発展と変貌著しい中国の試行錯誤過程などを時系列的にフォローし、過去と現在との継続性を確認することによって、現代東アジア国際関係が抱える問題点を明らかにする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 東アジア国際関係の特質 2 冷戦の起源と東アジア 3 中国革命、朝鮮戦争：アジアに拡大する冷戦 4 中ソ対立とベトナム戦争 5 米中和解の衝撃 6 米ソ・デタント：進展する核軍備管理 7 新冷戦：日米中戦略提携の時代 8 民主化の潮流とソ連体制の崩壊 9 ポスト冷戦の世界 10 東アジア地域の台頭 11 アメリカ単独覇権の時代 12 (予備日) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
なし		筆記試験(論述)	

全カリ(秋) 外共	現代社会(Ⅲ)(東アジア国際関係の現状と展望) 国際関係論(通年)	担当者	阿部 純一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現代東アジア国際関係を論じることで、わが国を取り巻く国際情勢への認識を深めることが本講義の目的である。</p> <p>冷戦後の国際関係のなかで中心的重要性をもつ東アジアの国際関係の現状把握に努める。日米中ロという大国の利害が交錯し、かつASEANという地域協力体やAPECという多国間経済協力機構が存在するこの地域は、大国間外交の場であるとともに多国間外交の場でもあり、また朝鮮半島や台湾海峡、南シナ海など潜在的紛争地域を内包している。この地域の動向をフォローすることによって、形成途上にある新たな国際秩序の方向を明らかにしていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 21世紀の超大国・中国：建国50年の紆余曲折 2 21世紀の超大国・中国：外交戦略の変遷 3 21世紀の超大国・中国：将来への模索 4 台湾：蒋介石・蔣経国の権威主義時代 5 台湾：李登輝の民主化路線 6 台湾：陳水扁と米中台関係 7 北朝鮮：金日成・正日体制の形成と発展 8 韓国：強権政治から民主体制への転換 9 北朝鮮の核問題と朝鮮半島を取り巻く国際関係 10 東南アジア世界の統合：東アジア共同体の模索 11 総括：現代東アジア国際関係の課題 12 (予備日) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
なし		筆記試験(論述)	

全カリ (春)	現代社会 (Ⅲ) (アンダルシアの文化)	担当者	野々山 ミチコ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペインといえばアンダルシアのイメージが外国人、とくに観光客の間に固定している。スペインのアイデンティティともいわれる闘牛もフラメンコもアンダルシアの文化である。アンダルシアの魅力を多方面から探る。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 スペインの中のアンダルシア 2 アンダルシアの魅力 3 闘牛 4 フラメンコ 5 聖母マリア崇拝 6 パティオ 7 イスラム・スペインとは 8 アラブが残した言語表現 9 闘牛と素人闘牛をわかるもの 10 ジプシー 11 ロルカにみる生と死 12 スペイン人の死生観 	
テキスト、参考文献		評価方法	
野々山 真輝帆著「すがおのスペイン文化史」		出席と試験による。	

全カリ (秋)	現代社会 (Ⅲ) (現代スペイン社会の諸問題)	担当者	野々山 ミチコ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現代スペインはどのように動いているか。さまざまな側面から切りこむ。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 フアン・カルロス国王 2 アルバ女公爵 3 イサベル・ブレイスレル 4 フランコ時代の男女交際 5 マチズモとの戦い 6 中絶とセクハラ 7 移民 8 バスク問題 9 カタルニア語問題 10 麻薬 11 老人問題 12 変わりゆくものと変わらざるもの 	
テキスト、参考文献		評価方法	
野々山 真輝帆著「スペインを知るための60章」		出席と試験による。	

全カリ (春) 外共	自然・環境・人間 (Ⅲ) (地球環境の変化とその要因) 自然科学特殊講義A (地球環境論) (通年)	担当者	鈴木 滋
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>人類が直面し、避けて通ることの出来ない地球環境問題は自然・環境・人間の相互関係の上で発生している。</p> <p>この講義の目的は、地球科学・環境資源科学・一般科学技術の立場からその内容を把握すると共に、自然科学の持つ客観的な物の見方を養うことである。</p> <p>我々の環境は目まぐるしく変化している。その状況を地球規模で、タイムリーに的確に理解するためには、地球環境を自然科学的側面から捉えることが必要である。</p> <p>この講義では、地球環境の変化とその要因として、地球誕生後の地球環境の変遷とその自然のおよび人為的要因について検討する。また、地球環境問題に対する地球環境の位置づけや地球規模の問題として環境と資源がどのような因果関係にあるのか考察する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション：授業概要等の説明 2 地球環境とは何か？ 今、何が起っているのか？ 3 地球環境の歴史 4 地球環境の構造等：地球という惑星について 5 地球環境と地球システム 6 地球環境と資源 (I)：資源の特性 7 地球環境と資源 (II)：エネルギー 8 地球環境と材料：地球材料学とは 9 地球環境と科学技術：科学技術は地球環境に何をもたらしたか？ 10 環境：地球環境と広域・地域環境との比較 11 地球環境問題概論 12 まとめ <p>備考：授業の進度により若干の変更がある</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。</p> <p>参考文献：講義内容によって、適時指示する。</p>		<p>基本的には定期試験による。</p>	

全カリ (秋) 外共	自然・環境・人間 (Ⅲ) (地球環境問題と環境保全) 自然科学特殊講義A (地球環境論) (通年)	担当者	鈴木 滋
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>人類が直面し、避けて通ることの出来ない地球環境問題は自然・環境・人間の相互関係の上で発生している。</p> <p>この講義の目的は、地球科学・環境資源科学・一般科学技術の立場からその内容を把握すると共に、自然科学の持つ客観的な物の見方を養うことである。</p> <p>地球環境問題は国際的な文化・経済・社会等に大きな影響を与えている。この問題を理解し、把握することは、グローバルなものを見方を養うと共に、地球環境の保全に欠かせないと思われる。</p> <p>この講義では、地球環境問題と環境保全として、地球環境問題各論を中心に、地球温暖化、オゾン層破壊、酸性雨などの地球環境に生じる具体的現象、その原因と影響ならびに対策について環境論および資源論を交えて検討する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション：授業概要等の説明 2 地球環境問題各論 (I)：地球温暖化(a) 3 地球環境問題各論 (I)：地球温暖化(b) 4 地球環境問題各論 (I)：オゾン層破壊(a) 5 地球環境問題各論 (I)：オゾン層破壊(b) 6 地球環境問題各論 (II)：酸性雨 7 地球環境問題各論 (II)：海洋汚染 8 地球環境問題各論 (II)：有害廃棄物の越境移動 9 地球環境問題各論 (III)：砂漠化、森林減少 10 地球環境問題各論 (III)：野生生物 (種) の減少、開発途上国等の環境 (公害) 問題など 11 地球環境の保全：文化・経済・社会等の今後のあり方 12 まとめ <p>備考：授業の進度により若干の変更がある</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。</p> <p>参考文献：講義内容によって、適時指示する。</p>		<p>基本的には定期試験による。</p>	

全カリ (春) 外共	自然・環境・人間 (III) (宇宙論 a) 自然科学特殊講義 A (宇宙論) (通年)	担当者	福井 尚生
講義目的 ☆ 『宇宙論 a』では Einstein の「特殊相対性理論」を学びます。“特殊”に付けられた条件に留意する必要があります。 ☆ Einstein は当時、研究者の間で議論されていた光の伝播に関する問題に強い関心を持ちました。また時間・空間に対する考え方を Einstein がそれまでの絶対から相対に変えたことに依り、物理的世界観は本質的な変質を遂げました。 ☆ 従来の考え方を見直し、必要とあらば思い切った 発想の転換 、Paradigm Shift を試みることも時には大切なことだと思います。 ☆ 視聴覚教材を出来るだけ利用します。 ☆ 主体的に勉強して得た知識をもとに、自らの頭でユニークな先を考える努力をして下さい。	講義概要 <pre> graph TD A[特殊相対性理論] --> B[光] A --> C[時空] A --> D[特殊相対論] B --> E[光速度 Michelson-Morley の実験 Fitzgerald-Lorentz 収縮] C --> F[絶対・相対時空 Newton のバケツ Mach 原理] D --> G[特殊相対性原理 光速度不変の原理 時間の遅れ・長さの縮み・質量はエネルギー] E --- G F --- G </pre>		
(テキスト)・(参考文献)	評価方法		
☆ (テキスト/ 配布プリント)・(参考文献/ 『なっとくする相対性理論』松田卓也、二間瀬敏史 著・講談社)	☆ 主たる評価資料は、授業時間中に提出してもらう 評価用紙 (宿題・Quiz) の中身 です。		

全カリ (秋) 外共	自然・環境・人間 (III) (宇宙論 b) 自然科学特殊講義 A (宇宙論) (通年)	担当者	福井 尚生
講義目的 ◎ 『宇宙論 b』は上記『宇宙論 a』の知識を前提として講義します。 ◎ 『宇宙論 b』では「一般相対性理論」とその理論が対象とする「重力現象」とを最新的话题を交えながら学びます。理論はその後の観測で確かめられなければなりません。折角の理論に変更を強いられることも多くあります。 ◎ 発想を転換して得られた独自の考えは、 用心深く実践 する必要があります。(相対性)理論構築への道程の話が、自分の考えを実践する際の役に立てば良いと思います。 ◎ 視聴覚教材を出来るだけ利用します。 ◎ 主体的に勉強して得た知識をもとに、自らの頭でユニークな先を考える努力をして下さい。	講義概要 <pre> graph TD A[一般相対性理論] --> B[一般相対論] A --> C[検証] A --> D[重力現象] B --> E[一般相対性原理 等価原理 幾何学と重力] C --> F[重力に依る光の赤方偏移 重力は光の進路を曲げる 水星の近日点移動] D --> G[宇宙モデル Black Hole 重力波] E --- F F --- G </pre>		
(テキスト)・(参考文献)	評価方法		
◎ (テキスト/ 配布プリント)・(参考文献/ 『なっとくする宇宙論』二間瀬敏史 著・講談社)	◎ 主な評価資料は、授業時間中に提出してもらう 課題用紙 (宿題・Quiz) の中身 です。		

全カリ (春) 外共	自然・環境・人間 (III) 自然科学概論	(地球外文明論 a) (通年)	担当者	福井 尚生
講義目的		講義概要		
<p>※『地球外文明論 a』では「地球外文明の進化」を学びます。</p> <p>※我々人類は、宇宙進化を司る宇宙方程式の現時間・空間に対する一つの解として存在します。この解の時間・空間発展を辿れば文明の進化を考察出来る筈です。</p> <p>※人類が今行う進化への営為が、この解の時間・空間発展に沿ったものかどうかをチェックし、進化への夢が持てればと思います。</p> <p>※視聴覚教材を出来るだけ利用します。</p> <p>※主体的に勉強して得た知識をもとに、自らの頭で自由に大きく先を考える努力をして下さい。</p>		<pre> graph TD A[地球外文明の進化] --> B[I型文明] A --> C[II型文明] A --> D[III型文明] B --> E[地球 Drake 方程式 宇宙への夢] C --> F[Dyson 球 恒星間飛行計画 時間・燃料の問題] D --> G[Kardashev 球 CTA-102 騒動 銀河クラブ] </pre>		
(テキスト)・(参考文献)		評価方法		
<p>※ (テキスト/ 配布プリント)・(参考文献/『地球外文明の思想史』横尾広光 著・恒星社厚生閣)</p>		<p>※主たる評価資料は、授業時間中に提出してもらう評価用紙 (宿題・Quiz) の中身です。</p>		

全カリ (秋) 外共	自然・環境・人間 (III) 自然科学概論	(地球外文明論 b) (通年)	担当者	福井 尚生
講義目的		講義概要		
<p>※『地球外文明論 b』は、『地球外文明論 a』の知識を前提として講義します。</p> <p>※『地球外文明論 b』では多数世界論の立場から地球外文明の「存在」を信じ、「地球外文明の探査」の「哲学」と「計画」とを学びます。</p> <p>※地球外文明の探査・発見 (への努力) は、我々人類の存在意義・進化の方向に指針を与えてくれると思います。“Are we alone?” の問い掛けは続きます。</p> <p>※視聴覚教材を出来るだけ利用します。</p> <p>※主体的に勉強して得た知識をもとに、自らの頭で自由に大きく先を考える努力をして下さい。</p>		<pre> graph TD A[地球外文明の探査] --> B[存在] A --> C[探査哲学] A --> D[探査計画] B --> E[多数世界論 唯一世界論 P. Lowell と火星] C --> F[平凡性の原理 人間原理 最小作用の原理] D --> G[Ozma 計画 SETI 計画 (SETI@home) UFO をめぐって] </pre>		
(テキスト)・(参考文献)		評価方法		
<p>※ (テキスト/ 配布プリント)・(参考文献/『Cosmic Company』S. Shostak & A. Barnett, CAMBRIDGE)</p>		<p>※主たる評価資料は、授業時間中に提出してもらう評価用紙 (宿題・Quiz) の中身です。</p>		

全カリ (春) 外共	ことばと思想 (IV) (論文を書く) 国語表現 (通年)	担当者	福沢 健
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・講義内容</p> <p>言語表現の基本技能は「読む」「書く」「話す」「聞く」の4技能がある。この授業では、大学生活において必須の論文の書き方についてのトレーニングを行う。具体的には、問題意識の設定・資料の検索・資料カードの作成・全体の組み立て・注の付け方などを取り扱う。基礎的な概念は講義するが、それを基にした実践、つまり学生諸君の作業が主体となる。毎週出される課題に一週間取り組んで、次の週の授業時間はその課題について述べるという形式が多くなる。授業は課題をこなしてきていることを前提に行うので、課題に取り組まなかったものは受講しても無意味である。</p>		<p>1 はじめに</p> <p>2 問題意識の設定</p> <p>3 序文の作成</p> <p>4 資料検索の方法</p> <p>5 資料カードの作成</p> <p>6 全体の組み立て</p> <p>7 グラフ・表の取り扱い</p> <p>8 本論の作成</p> <p>9 本論の作成</p> <p>10 結論の作成</p> <p>11 目次・注の作成</p> <p>12 提出・まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト</p> <p>『プラクティカル日本語 (文章表現編)』おうふう</p>		<p>出席</p> <p>レポート</p>	

全カリ (秋) 外共	ことばと思想 (IV) (口頭発表を行う) 国語表現 (通年)	担当者	福沢 健
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・講義内容</p> <p>言語表現の基本技能は「読む」「書く」「話す」「聞く」の4技能がある。この授業では、口頭発表の技法についてのトレーニングを行う。基礎的な概念は講義するが、それをもとにした実伐、つまり学生諸君の実際のトレーニングが主体となる。毎週出されるタスクに一週間取り組んで、次の週の授業時間にその結果をもとに実感するといった形式が多くなる。授業はタスクの実施を前提になされるから、タスクに取り組まなかった者は受講しても無意味である。</p>		<p>1 はじめに</p> <p>2 音声表現の基礎</p> <p>3 音声表現の基礎</p> <p>4 朗読</p> <p>5 朗読</p> <p>6 プレゼンテーションの基礎知識</p> <p>7 プレゼンテーションの基礎知識</p> <p>8 プレゼンテーション</p> <p>9 プレゼンテーション</p> <p>10 敬語</p> <p>11 敬語</p> <p>12 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト</p> <p>『プラクティカル日本語 (口頭表現編)』おうふう</p>		<p>平常点</p> <p>授業時の試験</p>	

全カリ (春) 外共	ことばと思想 (IV) (書き言葉の問題) 国語表現 (通年)	担当者	佐藤 毅
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義目標] メールはその簡便性から一般化されてきた。その簡便性ゆえに日本語の持つ叙情性や心配りが失われつつある。本講義では、暗号のようなメールのやりとりから抜けだして、心を打つ手紙、メールを目指す。</p> <p>[講義概要] 手紙文の定型、先人の書簡の分析・鑑賞。手紙を重要なアイテムとした小説の鑑賞。美しいメール作法などを考える。</p> <p>[受講生への要望] 連続する授業なので、やむを得ず休んだ場合は、必ずノートを補っておいて下さい。</p>		<p>① 手紙文の約束 拝啓 時候の挨拶 本文 敬具 実作及び添削 (3回シリーズ)</p> <p>② 時候の挨拶及び季節感 (2回)</p> <p>③ 手紙文の解説・鑑賞 (2回)</p> <p>④ 手紙をアイテムとした小説の鑑賞 (2回)</p> <p>⑤ メール作成の問題点</p> <p>⑥ 絵文字の功罪</p> <p>⑦ ほか</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
その都度プリントを配布します。		出席・レポート・定期試験による。	

全カリ (秋) 外共	ことばと思想 (IV) (話し言葉の問題) 国語表現 (通年)	担当者	佐藤 毅
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義目標] 話し言葉は、ギャル語、若者言葉とかおやじ言葉などに代表されるように、それぞれの世代で区分されコミュニケーションの断絶を生んでいる。世代を越えて理解し合える話し言葉を、学びながらそこに込められた日本人の知恵と繊細さを学び、心に届くことばの本質を考える。</p> <p>[講義概要] 流行語と呼ばれる言葉の変質を考察しながら、現代の世代間ギャップを埋める話し言葉を模索する。学生生活での言葉の問題ではなく、就職試験の面接に代表されるような世代間のコミュニケーションに役立つ自己表現としての話し言葉の習得を実際に考えてみる。</p> <p>[受講生への要望] 連続する授業なので、やむを得ず休んだ場合は、必ずノートを補っておいて下さい。</p>		<p>① 流行語の変遷と世相 昭和50年代の流行語と世相 昭和から平成初年代の流行語と世相 現代の流行語と世相 (3回)</p> <p>② ギャル語とおやじギャグの問題 (2回)</p> <p>③ 心を開かせる挨拶の仕方 (2回)</p> <p>④ 発声法開発</p> <p>⑤ 電話応対</p> <p>⑥ 共通語の理想と現実</p> <p>⑦ 3分間スピーチの実践</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
その都度プリントを配布します。		出席・レポート・定期試験による。	

全カリ (春) 外共	ことばと思想 (IV) (日本語口頭表現のトレーニング - コミュニケーション篇) 国語表現 (通年)	担当者	飯島 一彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>言語には「話す」「聴く」「読む」「書く」という4つの側面があり、これらがバランス良く習得されていなければ言語を十分に獲得できたとは言えない。ところが日本の近代教育は学校教育における日本語習得の機会(国語という教科の授業)をゆがませてきた。現在でも日本全国の教室で、国語の授業の中で「話す」「聴く」について機能している場面はほとんどない。</p> <p>この時間は、日本語の口頭表現(「話す」「聴く」)の訓練を基本からやり直すことを主体に、実践的にコミュニケーションの原理を体得していくことを目的とする。講義は少ない。トレーニングの時間である。</p> <p>毎回の出席と膨大な量と回数の課題の提出・実践が求められるので、覚悟して受講すること。なお内容上の必要性から、受講者数の上限を50名とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 導入・オリエンテーション 「話す」「聴く」と「考える」 2 コミュニケーションの基本① 「聴く」ことの実践 3 コミュニケーションの基本② コミュニケーションサイクル 4 コミュニケーションの基本③ 向かい合うこと 5 コミュニケーションの実践① コミュニケーションがうまく行かない時Ⅰ 6 コミュニケーションの実践② コミュニケーションがうまく行かない時Ⅱ 7 コミュニケーションの実践③ コミュニケーションがうまく行かない時Ⅲ 8 コミュニケーションの実践 新たなコミュニケーションの開拓Ⅰ 9 コミュニケーションの実践 新たなコミュニケーションの開拓Ⅱ 10 コミュニケーションの実践 自分のコミュニケーションを振り返る 11 コミュニケーションの実践 再び「話す」「聴く」と「考える」 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
なし		毎回の出席、課題の提出・実践、課題レポート	

全カリ (秋) 外共	ことばと思想 (IV) (日本語口頭表現のトレーニング - 表現篇) 国語表現 (通年)	担当者	飯島 一彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>言語には「話す」「聴く」「読む」「書く」という4つの側面があり、これらがバランス良く習得されていなければ言語を十分に獲得できたとは言えない。ところが日本の近代教育は学校教育における日本語習得の機会(国語という教科の授業)をゆがませてきた。現在でも日本全国の教室で、国語の授業の中で「話す」「聴く」について機能している場面はほとんどない。</p> <p>この時間は、日本語の口頭表現(「話す」「聴く」)の訓練を基本からやり直すことを主体に、実践的にコミュニケーションの技術の基礎を体得していくことを目的とする。講義は少ない。日本語の発声・発話・聞き取りのトレーニングの時間である。</p> <p>しかし、単なる技術の習得ではいずれ必要性が薄れれば忘れ去られる。毎日の生活に生かす原理を身につけた上での受講が望ましい。従って、春学期を受講した上での参加が望ましい。</p> <p>毎回の出席と膨大な量と回数の課題の提出・実践が求められるので、覚悟して受講すること。なお内容上の必要性から、受講者数の上限を50名とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 導入・オリエンテーション 「伝える」こと、「伝わる」こと 2 何を「伝える」のか?① 自分の言葉、他人の言葉 3 何を「伝える」のか?② 他人の言葉を「理解」する。 4 何を「伝える」のか?③ 自分の言葉を「理解」してもらう 5 何を「伝える」のか?④ 自分の言葉を「理解」してもらう工夫 6 何を「伝える」のか?⑤ 「表現するとは何か?」を考える 7 表現の実践と評価① 8 表現の実践と評価② 9 表現の実践と評価③ 10 表現の実践と評価④ 11 何が「伝わる」のか? 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
なし		毎回の出席、課題の提出・実践、課題レポート	

全カリ (春) 外共	ことばと思想 (IV) (日本語文章の理論と実践 a) 国語表現 (通年)	担当者	小島 幸枝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>いつの世にも青年期は成長途上の不安と苦悩、感情の振幅が大きいものだ。すぐれた古典および文学作品は、多感な青年期の出会いと別れの中から自己実現していった過程、様相をよく表現し得ている。そのような作品の何に、いつ、どれだけ、出会っているかが、人生の苦難の時期には有効な支えとなり激励される。本講では、声を出してそうした作品を表現することに加え、受講者たちと感想を述べ合い、討論を通して表現の機微と技巧を知り、いっそう読みと解釈を深めていきたい。そして、自分でも、作品を生産することを目的とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 韻文の表現 (短歌・俳句・詩) の表現とリズム 2 韻文の技巧 (『曾根崎心中』にみる本歌取り) 3~4 映画「仮面の中のアリア」(発声の基本訓練) 5 詩のリズム 宮澤賢治の作品と鑑賞 6 草野心平の作品と鑑賞 7 日本語の発音の特徴 8 山本周五郎の世界 9 森鷗外の文体 10 漱石の文体 11 天草版「エソポのハプラス」の文体 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出欠およびレポート	

全カリ (秋) 外共	ことばと思想 (IV) (日本語文章の理論と実践 b) 国語表現 (通年)	担当者	小島 幸枝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>文部科学省の方針に基づくいわゆる「ゆとり教育」の実践による学生生徒の学力不足が数字になって現れてきた。それは国語力の貧困に起因する。国語力とは、即ち漢字力の有無と多寡にある。本講では、もっぱら漢字力の衰退・枯渇を食い止め、国語力を取り戻すために手書きに挑戦する。短編の名作を書写することに始まり、自分でも実作することを目指す。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 なぜ書くのか。 2 文章表現の意義 3 文字の力—漢字漢文力で翻訳して、外来文明に追い付いた明治時代 4 書写の意味 5~6 映画「天平の薨」鑑賞 (若き留学僧の書写への執念) 7 名作短編の書写 芥川龍之介の作品 8 三浦哲郎の文体 9 森鷗外の翻訳 10 漱石の世界 (漢詩および俳句) 11 上田敏の翻訳 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
なし。参考資料を授業中に指示します。		出欠および毎週の提出物	

全カリ (春) 外共	ことばと思想 (IV) (作品を読む) 国語表現 (通年)	担当者	小島 幸枝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>過去の人間の考え方に共鳴したり、未来の人間に語りかけられるのは言葉の力である。しかし言葉はただ通じればよいというものでもない。人の心を打つ美しい言葉、的確な表現、それは確かに才能にもよるが、たゆまぬ努力と訓練によってある程度は習熟できるものである。本講は、社会人予備軍としての大学生の日本語力を養うために、社会の変化に関心を持ち、情報の収集および判断力を養うこと、敬語の使い方の習得など、日本語の運用面について講述する。若者の日本語力をつけることを目標とする。今期は、音声言語表現を中心とし、1分間スピーチの演習や、朗読、日本語の敬語法などを学ぶ。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 表現者（送り手）と理解者（受け手）の言葉におけるメカニズムを概説する 2 音声言語について、文字言語との差異および特徴の認識 3 日本語の基礎知識—日本語の音韻、アクセントの特徴 4 美しい言葉の条件—正確さと品位をどのように獲得するか 5～7 スピーチ演習 8 デイベート（ビデオ鑑賞） 9 反省とまとめ 10～12 敬語について、文学作品の朗読と批評 	
テキスト、参考文献		評価方法	
岡田啓介『国語表現法』（おうふう）		平常点。（新聞社説要約。800字の自由作文、読書報告文の提出と共に、毎回、授業開始前に漢字小テストを課す）	

全カリ (秋) 外共	ことばと思想 (IV) (作品を書く) 国語表現 (通年)	担当者	小島 幸枝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>文字言語表現を中心とする。社会人になって書く実用文の実作、相互に交換、添削をし合う。手紙文の書き方を学ぶ。日本語の文法を総復習する。（とくに、助詞、助動詞の基本的使用法を知る）</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1～3 日本語の文と文章、文の構造、文章の種類 4 文章を書く手順 5 主題と題材 6 材料を集める—説明文、報告文、論説文の特徴 7 材料を並べる—アウトラインの作成 8～9 文章を書く。文献資料を用いて文章を補強する 10 交換、批評し合う 11 推敲のポイントを学ぶ 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期と同じ		春学期と同じ	

全カリ (春) 外共	ことばと思想 (IV) (英語通訳の仕事) 人文科学特殊講義 B (英語通訳の仕事) (春学期)	担当者	福井 星一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>外国語を勉強する目標として、将来就きたい仕事として、通訳ということのを少しでも考えているみなさんに、実際に通訳者が何に苦労しながらどんな仕事をしているかを紹介しします。</p> <p>複雑な社会で、いろいろな問題を扱わなければならない通訳は大変な仕事です。通訳に何が求められているかを考えながら、ハイテクの導入とスピードアップが進められる中での現状と問題点、近い将来についての展望も、いろいろな分野の最新の情報を得ながら探ります。また、英語が世界中で広く使われることの意味を問い直す手がかりも紹介し、文化や言語そのものの根本的な問題と絡めて「英語通訳」のあり方を考えます。</p> <p>ほかにここでは、どんな勉強をすれば通訳の力がつくのかというヒントを提供します。参加者の英語のレベルを問わず、人数も多いため、厳しい通訳学校のような訓練はできませんが、最初の数回で英語の通訳の基本的な訓練方法を紹介し(授業計画の[]内参照)、その後の授業でも適度に練習を続けます。自主的な通訳訓練を奨励し、できるだけ支援します。期末レポートは、内容、テーマ、形式を幅広く認めますので、自由に取り組んでください。</p> <p>初回(4月16日)には必ず出席すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 通訳って何だろう どんな通訳があるか [練習材料の入手方法と listening 入門] 2 ふだんの学習と直前の準備 [shadowing 入門] 3 通訳者に向いている性格、評判の良い通訳とは [sight-translation 入門] 4 どんな声を出すべきか [日本語アナウンス入門] 5 同時通訳の理想と現実と問題点 [省略のしかた、わかりやすい日本語研究] 6 通訳として良い仕事をするには(心構えと労働条件) 7 頼れる情報源紹介、先入観に邪魔されないコツ 8 重大ミスの避け方/ハイテク導入と将来像 [Q&A 練習の応用とインタビュー入門] 9 世界共通語の功罪、言葉を通じさせることの意味 10 異文化のギャップを埋める努力 11 これからの人間らしい holistic な通訳とは 12 予備(たとえば、英語による講演と通訳実演) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
購入不要。プリントなどの教材を授業で配布。		出席と積極的な授業参加重視。レポートまたは take-home exam を課し、期末テストは行わない。	

全カリ (秋) 外共	ことばと思想 (IV) (英語通訳の仕事) 人文科学特殊講義 B (英語通訳の仕事) (秋学期)	担当者	福井 星一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>外国語を勉強する目標として、将来就きたい仕事として、通訳ということのを少しでも考えているみなさんに、実際に通訳者が何に苦労しながらどんな仕事をしているかを紹介しします。</p> <p>複雑な社会で、いろいろな問題を扱わなければならない通訳は大変な仕事です。通訳に何が求められているかを考えながら、ハイテクの導入とスピードアップが進められる中での現状と問題点、近い将来についての展望も、いろいろな分野の最新の情報を得ながら探ります。また、英語が世界中で広く使われることの意味を問い直す手がかりも紹介し、文化や言語そのものの根本的な問題と絡めて「英語通訳」のあり方を考えます。</p> <p>ほかにここでは、どんな勉強をすれば通訳の力がつくのかというヒントを提供します。参加者の英語のレベルを問わず、人数も多いため、厳しい通訳学校のような訓練はできませんが、最初の数回で英語の通訳の基本的な訓練方法を紹介し(授業計画の[]内参照)、その後の授業でも適度に練習を続けます。自主的な通訳訓練を奨励し、できるだけ支援します。期末レポートは、内容、テーマ、形式を幅広く認めますので、自由に取り組んでください。</p> <p>初回(9月24日)には必ず出席すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 通訳って何だろう どんな通訳があるか [練習材料の入手方法と listening 入門] 2 ふだんの学習と直前の準備 [shadowing 入門] 3 通訳者に向いている性格、評判の良い通訳とは [sight-translation 入門] 4 どんな声を出すべきか [日本語アナウンス入門] 5 同時通訳の理想と現実と問題点 [省略のしかた、わかりやすい日本語研究] 6 通訳として良い仕事をするには(心構えと労働条件) 7 頼れる情報源紹介、先入観に邪魔されないコツ 9 重大ミスの避け方/ハイテク導入と将来像 [Q&A 練習の応用とインタビュー入門] 9 世界共通語の功罪、言葉を通じさせることの意味 10 異文化のギャップを埋める努力 11 これからの人間らしい holistic な通訳とは 12 予備(たとえば、英語による講演と通訳実演) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
購入不要。プリントなどの教材を授業で配布。		出席と積極的な授業参加重視。レポートまたは take-home exam を課し、期末テストは行わない。	

全カリ (春) 外共	現代社会 (IV) (教育の現場: 教師と語る a) 社会科学特殊講義 A (教育の現場: 教師と語る) (通年)	担当者	川村 肇
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1. 目的: 教育の実際の姿を、実践記録を読みあうことと、教育現場の小中学校の教師との討論を通じてつかむ。そのなかで、特に生活指導についての理解を深める。</p> <p>2. 概要: 教室での講義・討論と、埼玉県の教師の研究会合宿への参加とで構成する。そのため、右記日程の合宿に必ず参加すること (参加費は1万円程度)。</p> <p>3. 合宿で6コマ相当の実践的学修をするため、教室での講義は6回程度とする。2回目以降の日程は相談の上、決定する。</p> <p>4. 教職課程に登録しているか否かは問わない。</p> <p>5. 履修登録の上限を30名とする。</p> <p>6. 春または秋学期だけを履修してもよいが、できるだけ春と秋の両方を受講すること。</p>		<p>1 講義の進め方等の説明</p> <p>2 生活指導とは何か (その1/テキスト使用)</p> <p>3 生活指導とは何か (その2/テキスト使用)</p> <p>4 実践記録を読む (その1)</p> <p>5 実践記録を読む (その2)</p> <p>6 合宿参加のまとめ</p> <p>合宿は、6月18日 (土)、19日 (日)。18日は春日部、19日は本学で行なう予定。</p> <p>7月31日から8月3日まで、本学で行なわれる研究会大会に可能な限り参加すること。その他、学外で行なわれる学習会を紹介するので、そこに積極的に参加されたい。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
高橋陽一他編『生活指導論』(武蔵野美術大学出版局、1900円)		出席と最終レポートによる。合宿に参加しない場合には、不可とする。	

全カリ (秋) 外共	現代社会 (IV) (教育の現場: 教師と語る b) 社会科学特殊講義 A (教育の現場: 教師と語る) (通年)	担当者	川村 肇
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に同じ。		春学期に同じ。	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に同じ。		春学期に同じ。	

全カリ (春)	現代社会(IV) (インターンシップ)	担当者	阿部 正浩
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講座目的 この講義と夏休みに実施するインターンシップ実習を通して、「働く」とはどういうことなのか、「働く」ためにどのようなスキルが必要なのかについて、受講生に受講してもらうことを目的としている。</p> <p>働くことは、人生の一部である。生きる上で働くこと以外にも重要なことはたくさんある。これから社会に出て生きていく諸君が、どのような人生を設計していくのか、そしてどのようなキャリアを形成していくのか、をこの講座を通してよく考えてもらいたいとおもう。</p> <p>講座概要 この講座は、12回の講義と夏休みに実施するインターンシップ実習から成る。</p> <p>講義では、まず受講生に自分と向き合い、これからの人生をどう生きていくかを真剣に考えてもらう。その上で、自己目標を設定し、目標達成に必要なスキルを身につけてもらう。この講座で重視するスキルは、「心の知能指数」と呼ばれるEQ (Emotional Quotient) である。ゲーム等を通してEQを開発し、リーダーシップ能力やコミュニケーション能力を高め、受講生の今後のキャリア形成に役立てる。</p> <p>インターンシップ実習は、受講生自身がインターンシップ先を見つけることから始まる。そして、2週間にわたるインターンシップ実習では様々な体験をすることになるだろう。これは今後の生き方や職業選択を考える上で、貴重な体験になるだろう。なお、インターンシップ先を選択する上で参考になる職業適性テストも講義中に行う。</p>		<p>第1回 オリエンテーション この講座の目的、講座の進め方、グループの決定、EQアセスメントの実施</p> <p>第2回 インターンシップの実際 実習先の探し方や実習先で何をするのかなど、インターンシップを経験した先輩やキャリアセンターの人から話を聞く</p> <p>第3回 働くこととは？ 働くこととは何か、自分の適職は何かを考える</p> <p>第4回 自分と向き合おう 自分の将来を考え、これからの目標を考える</p> <p>第5回 EQとはなにか EQアセスメントの解説</p> <p>第6、7回 リーダーシップ リーダーシップとは何かを理解し、リーダーシップ能力を養成する。</p> <p>第8、9回 コミュニケーション 上手にコミュニケーションをとるためには、どうすればよいのか。コミュニケーション能力を養成する。</p> <p>第10回 インターンシップ実習に向けて 実習先での成功談や失敗談など、先輩から話を聞く。また、企業の人事担当者からインターンシップのねらいなどについて話を聞く。</p> <p>第11回 実習先でのマナー 実習で必要とされるマナーを身につける</p> <p>第12回 報告会 (10月初旬開催予定) インターンシップ実習について報告書を書き、報告する。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
高山直『EQ こころの鍛え方』、東洋経済新報社 (価格 1680円)		授業中やインターンシップ先での発言や行動、および実習報告書と報告会での報告、により総合的に評価する。	

全カリ (春) 外共	現代社会 (IV) (生活に役立つ経理 (A) a) 社会科学特殊講義 A (生活に役立つ経理 (A)) (通年)	担当者	橋口 徹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、非経営系専攻の学生を主な対象とし、日商簿記検定3級レベルを中心とした複式簿記の基礎的技術の習得を目指すものであり、会計関連資格・検定受験のための導入授業として、簿記の初歩を段階的に分かりやすく解説を行う。</p> <p>簿記は、現金の収支、商品の売買、債権債務の発生・決済、備品・建物の取得・処分などについて会計帳簿に記帳し、経営組織の財産および損益の状況（財政状態および経営成績）を明らかにすることを目的とする、現代の経済社会において極めて重要な経営技術といえる。</p> <p>したがって、簿記を通じて身に付く計数感覚は、ビジネス・シーンのみでなく、家計や、その他官公庁等、あらゆる場面で必要となることから、非経営系専攻の学生であっても、必須のビジネス・ツールとして、最低限の簿記技術はぜひ身につけるよう心がけてほしい。</p>		<p>授業は通年ベースで行い、春学期を前半とし、秋学期を後半とする。したがって、全学共通授業科目の場合は半期授業となるため、当該授業を登録する予定の学生は、春学期のaクラスだけでなく、秋学期のbクラスも登録する必要がある。</p> <p>なお、下記の授業計画はあくまで1つの目安であり、受講生の理解度等を斟酌したうえで、毎回の授業について、その進捗・内容ともに臨機応変に対応したいと考えている。その際には、適宜、授業の中で受講生にその旨アナウンスを行っていく予定である。</p> <p>①講義ガイダンス ～ 簿記の意味・目的・種類 ②簿記の基礎概念 ③取引と仕訳 ④勘定 ⑤帳簿の記入 (その1) ⑥帳簿の記入 (その2) ⑦決算と財務諸表 I (その1) ⑧決算と財務諸表 I (その2) ⑨決算と財務諸表 I (その3) ⑩現金預金取引 (その1) ⑪現金預金取引 (その2) ⑫まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業開始前にアナウンスするか、または最初の授業で指示する予定。		期末試験の結果に出席状況を加味した総合評価。	

全カリ (秋) 外共	現代社会 (IV) (生活に役立つ経理 (A) b) 社会科学特殊講義 A (生活に役立つ経理 (A)) (通年)	担当者	橋口 徹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、非経営系専攻の学生を主な対象とし、日商簿記検定3級レベルを中心とした複式簿記の基礎的技術の習得を目指すものであり、会計関連資格・検定受験のための導入授業として、簿記の初歩を段階的に分かりやすく解説を行う。</p> <p>簿記は、現金の収支、商品の売買、債権債務の発生・決済、備品・建物の取得・処分などについて会計帳簿に記帳し、経営組織の財産および損益の状況（財政状態および経営成績）を明らかにすることを目的とする、現代の経済社会において極めて重要な経営技術といえる。</p> <p>したがって、簿記を通じて身に付く計数感覚は、ビジネス・シーンのみでなく、家計や、その他官公庁等、あらゆる場面で必要となることから、非経営系専攻の学生であっても、必須のビジネス・ツールとして、最低限の簿記技術はぜひ身につけるよう心がけてほしい。</p>		<p>授業は通年ベースで行い、春学期を前半とし、秋学期を後半としている。したがって、全学共通授業科目の場合は半期授業となるため、本講義を登録する予定の学生は、原則として、すでに春学期にaクラスを履修しておく必要がある。</p> <p>但し、aクラスの授業範囲に相当する学習内容をすでに既習済みの学生が登録を希望した場合には、個別に対応することになるが、例外的に登録を認めることもある。</p> <p>なお、下記の授業計画はあくまで1つの目安であり、受講生の理解度等を斟酌したうえで、毎回の授業について、その進捗・内容ともに臨機応変に対応したいと考えている。その際には、適宜、授業の中で受講生にその旨アナウンスを行っていく予定である。</p> <p>①商品売買 (その1) ②商品売買 (その2) ③売掛金と買掛金 ④その他の債権債務 ⑤手形取引 ⑥有価証券 ⑦固定資産 ⑧資本金と引出金、税金 ⑨収益と費用 (その1) ⑩収益と費用 (その2)、帳簿と伝票 ⑪決算と財務諸表 II (その1) ⑫決算と財務諸表 II (その2)、まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業開始前にアナウンスするか、または最初の授業で指示する予定。		期末試験の結果に出席状況を加味した総合評価。	

全カリ (春) 外共	現代社会 (IV) (生活に役立つ経理 (B) a) 社会科学特殊講義 A (生活に役立つ経理 (B)) (通年)	担当者	橋口 徹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>我が国企業のビジネスが、業種や規模の大小を問わず国際化している現在、ビジネス・マンにとって、財務諸表を英文で作成したり、また英文で作成された財務諸表を読み、理解することは不可欠となってきた。</p> <p>本講座では、日本商工会議所主催の B A T I C (国際会計検定) での得点を目指し、英文会計の基礎を身に付けることを目標とする。</p> <p>また本講座では、日商簿記 3 級程度の学習を終えている方を受講対象としている。(但し、その合否は問わない。)</p> <p>なお、授業計画については、あくまで予定であり、スケジュール等、多少内容に変更が生じる場合もあることに留意する必要がある。その際には、適宜、授業の中で受講生にその旨アナウンスを行っていく予定である。</p>		<p>春学期では、英文会計について初めて学習する学生を対象に、基礎的な内容を中心に講義を行う。</p> <p>①講義ガイダンス ～ 英文会計とは</p> <p>②資産・負債・資本</p> <p>③借方と貸方：複式簿記</p> <p>④仕訳と転記</p> <p>⑤財務諸表</p> <p>⑥修正仕訳と決算仕訳</p> <p>⑦売上と仕入取引</p> <p>⑧現金仕訳帳</p> <p>⑨精算表 (その 1)</p> <p>⑩精算表 (その 2)</p> <p>⑪その他</p> <p>⑫まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業開始前にアナウンスするか、または最初の授業で指示する予定。		期末試験の結果に出席状況を加味した総合評価。	

全カリ (秋) 外共	現代社会 (IV) (生活に役立つ経理 (B) b) 社会科学特殊講義 A (生活に役立つ経理 (B)) (通年)	担当者	橋口 徹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>我が国企業のビジネスが、業種や規模の大小を問わず国際化している現在、ビジネス・マンにとって、財務諸表を英文で作成したり、また英文で作成された財務諸表を読み、理解することは不可欠となってきた。</p> <p>本講座では、日本商工会議所主催の B A T I C (国際会計検定) での得点を目指し、英文会計の基礎を身に付けることを目標とする。</p> <p>また本講座では、日商簿記 3 級程度の学習を終えている方を受講対象としている。(但し、その合否は問わない。)</p> <p>なお、授業計画については、あくまで予定であり、スケジュール等、多少内容に変更が生じる場合もあることに留意する必要がある。その際には、適宜、授業の中で受講生にその旨アナウンスを行っていく予定である。</p>		<p>秋学期では、春学期に比べ、少し応用的な内容について取り扱う予定である。また、問題演習についても、春学期と比較して意識的に増やすつもりである。</p> <p>したがって、基礎的な内容についてはある程度、事前に学習しておく必要があるため、全学共通授業科目として本講義を登録する予定の学生は、春学期に a クラスを履修しておくことが望ましい。</p> <p>①講義ガイダンス ～ 基礎の確認 (その 1)</p> <p>②基礎の確認 (その 2)</p> <p>③財務諸表</p> <p>④その他 (その 1)</p> <p>⑤その他 (その 2)</p> <p>⑥国際会計理論 (その 1)</p> <p>⑦国際会計理論 (その 2)</p> <p>⑧国際会計理論 (その 3)</p> <p>⑨国際会計理論 (その 4)</p> <p>⑩問題演習</p> <p>⑪問題演習</p> <p>⑫まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業開始前にアナウンスするか、または最初の授業で指示する予定。		期末試験の結果に出席状況を加味した総合評価。	

全カリ (春)	現代社会 (IV) (コンピュータ入門 a)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、大学でのレポート作成や、ゼミでのプレゼンテーションにおいて必要となる、ワードプロセッサ、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの基本的な使用法を、Microsoft Office を使用し、実習を通して身につけることを目的とします。</p> <p>また、リレーショナルデータベースとよばれる、大規模なデータ管理の際に使用されるデータの作成についても取り扱います。</p> <p>なお、各テーマが取り扱われる順序や、時間配分については、担当教員によって異なることがあります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の進め方について 2. コンピュータの基礎、ID の管理について 3. ワードプロセッサの使用法 1 文章の作成、各種書式の設定 4. ワードプロセッサの使用法 2 図形描画、表の作成、数式の入力 5. 表計算ソフトの使用法 1 表の入力、グラフの作成 6. 表計算ソフトの使用法 2 関数を用いた計算 7. 表計算ソフトの使用法 3 マクロを用いた計算 8. プレゼンテーションソフトの使用法 1 スライドの作成、プレゼンテーション方法 9. プレゼンテーションソフトの使用法 2 アニメーションの設定 10. データベースの作成 1 ソフトの概要とデータの入力方法 11. データベースの作成 2 データの関連づけ、検索 12. 授業のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>情報処理教育担当者会監修 『コンピュータ入門』</p>		出席、レポート、試験などで総合評価します。	

全カリ (秋)	現代社会 (IV) (コンピュータ入門 b)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>コンピュータを用いて作業を行う最には、市販のアプリケーションソフトを使用するだけではなく、コンピュータプログラムを作成し、既存のソフトを使うだけでは出来ないことを行うこともできます。コンピュータプログラムを作成する際には、プログラム言語の文法を覚えることにくわえて、どのような手順でコンピュータにより問題を解くのかを考え、それをプログラムとして表現することが重要です。</p> <p>この講義では、Java、C 言語、Visual Basic といったコンピュータ言語のひとつを使用して、プログラム作成の基礎を学びます。使用する言語は、担当教員ごとに異なりますが、各種言語を用いたプログラム法を学び、基礎的な問題解決の手順をプログラムで表現できるようになることを目指します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の進め方について 2. コンピュータ言語の文法 1 使用言語の特徴とプログラムの作成方法 3. コンピュータ言語の文法 2 変数と配列、演算式 4. コンピュータ言語の文法 3 条件分岐、繰り返し 5. コンピュータ言語の文法 4 関数、ファイル処理 6. アルゴリズム 1 - ソート 数値の昇順、降順への並べ替え 7. アルゴリズム 2 - 数値計算法 - ニュートン法、二分法 8. アルゴリズム 3 - 乱数を用いた計算 - 円周率の計算 9. 基礎的な問題のプログラム作成 1 10. 基礎的な問題のプログラム作成 2 11. 基礎的な問題のプログラム作成 3 担当教員が指定した問題を、数回の講義に分けて作成します。 12. 授業のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当教員指定の教科書および印刷物		出席、レポート、試験などで総合評価します。	

全カリ (春)	現代社会 (IV) (コンピュータアドヴァンス a)	担当者	加藤 由樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講では、4年間の学習・教育生活を通じて必要とされる情報処理の基礎と応用を、講義と実習にて習得する。 具体的には、次のような手段を使うことができるようになることを目的とする。</p> <p>① レポート作成や卒業論文の執筆に役立つワードプロセッサソフト (Word) を使った文書作成 ② 必要な資料・データのインターネットからの検索 ③ email を使った情報交換、データのやりとり ④ プレゼンテーション・ツール (PowerPoint) の活用 ⑤ Web ページの作成による情報発信技法 毎回、実際にコンピュータを操作しながら、これらの習得を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. コンピュータ利用の準備 2. 日本語入力とメール送信 3. WWW の参照と情報検索技法 4. ファイル操作の基本 5. Word による文書作成と印刷 6. 図表の作成とレイアウト機能、レポート作成 7. 総合的文書作成練習 8. PowerPoint によるプレゼンテーション1 (スライドの作成方法、ウィザードの活用) 9. PowerPoint によるプレゼンテーション2 (各種ツールの活用) 10. HTML による Web ページ作成1 (基本) 11. HTML による Web ページ作成2 (HTML のタグ) 12. HTML による Web ページ作成3 (作成実習) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義中に、適宜紹介する。		出席とレポート課題を総合して評価する。	

全カリ (秋)	現代社会 (IV) (コンピュータアドヴァンス b)	担当者	加藤 由樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講では、4年間の学習・教育生活を通じて必要とされる情報処理の基礎と応用を、講義と実習にて習得する。 具体的には、表計算ソフト (Excel) を用いて、各種計算、データ集計、データ操作、グラフ作成、統計的分析機能、マクロ作成まで、基礎から応用を一通り行う。また、ワードプロセッサソフト (Word) との連携やテキスト処理も取り上げる。 毎回、実際にコンピュータを操作しながら、これらの習得を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Excel の基本操作 2. 数式の利用と表の書式設定 3. 絶対参照を用いた条件式とワークシートの操作 4. グラフ作成と印刷 5. Excel によるリスト操作 6. データの単純集計とクロス集計 7. 統計的分析機能 8. Word と Excel の連携 9. テキスト処理 10. VBA によるプログラミング入門1 11. VBA によるプログラミング入門2 12. 表計算総合練習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義中に、適宜紹介する。		出席とレポート課題を総合して評価する。	

全カリ (春)	現代社会 (IV) (ホームページ作成)	担当者	A.ベロフ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義は、経済学部「コンピュータ入門a」・法学部「情報処理概論a」の既習者を対象としている。外国語学部は、既にコンピュータの基礎知識を習得していることを条件に、履修することができる。また、高等学校で既にコンピュータの基礎知識を習得したものは履修できる。ホームページを作成することによって次のようなことができるようにすることを目的とする。</p> <p>1) 情報や資料のやり取りをする。 2) 有用な情報を自ら発信する。 3) マルチメディアを活用する。 4) 各自の発表をパソコンで行う。</p> <p>ここでは、ホームページ作成の方法を実際に体験することにより、自分の作品を世界中に発信することを体得する。また、いろいろなホームページがどのようにして作成されているかを参考に、より高度なページにも挑戦する。 この講義は、半期完結で実施され、春学期も秋学期も同じ内容の講義となる。</p>		<p>1 コースの説明、情報理論、ネットワークの仕組み 2 ホームページ作成の基本、HTML、タグ、サーバー 3 ページ構成、編集方法 4 画像、背景、GIFアニメーション 5 文書整形、フォント、リスト、 6 リンク、イベント処理 7 フレーム、BODY、Window、Document コンポーネントへのアクセス 8 テーブル 9 マップ 10 ダイナミック HTML、スクリプト 11 フォーム、オブジェクト 12 アップロード、まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
立田ルミ、他著『コンピュータとネットワークによる情報活用』朝倉書店；川名和子著『初めて作るホームページ』技術評論社； http://www.abacuss.com/HTML_help/		出席、レポート、小テストによる	

全カリ (秋)	現代社会 (IV) (ホームページ作成)	担当者	A.ベロフ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義は、経済学部「コンピュータ入門a」・法学部「情報処理概論a」の既習者を対象としている。外国語学部は、既にコンピュータの基礎知識を習得していることを条件に、履修することができる。また、高等学校で既にコンピュータの基礎知識を習得したものは履修できる。ホームページを作成することによって次のようなことができるようにすることを目的とする。</p> <p>1) 情報や資料のやり取りをする。 2) 有用な情報を自ら発信する。 3) マルチメディアを活用する。 4) 各自の発表をパソコンで行う。</p> <p>ここでは、ホームページ作成の方法を実際に体験することにより、自分の作品を世界中に発信することを体得する。また、いろいろなホームページがどのようにして作成されているかを参考に、より高度なページにも挑戦する。 この講義は、半期完結で実施され、春学期も秋学期も同じ内容の講義となる。</p>		<p>1 コースの説明、情報理論、ネットワークの仕組み 2 ホームページ作成の基本、HTML、タグ、サーバー 3 ページ構成、編集方法 4 画像、背景、GIFアニメーション 5 文書整形、フォント、リスト、 6 リンク、イベント処理 7 フレーム、BODY、Window、Document コンポーネントへのアクセス 8 テーブル 9 マップ 10 ダイナミック HTML、スクリプト 11 フォーム、オブジェクト 12 アップロード、まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
立田ルミ、他著『コンピュータとネットワークによる情報活用』朝倉書店；川名和子著『初めて作るホームページ』技術評論社； http://www.abacuss.com/HTML_help/		出席、レポート、小テストによる	

全カリ (春)	現代社会 (IV) (ホームページ作成)	担当者	久東 義典
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>近年、ブロードバンド環境等の普及によりインターネットの利用がより身近なものになった。これからは、「インターネットを利用する」というよりも「インターネットに参加する」ことに目が向けられている。</p> <p>その参加の足がかりとして、自分のホームページを作成し、PC入門で学んだ知識をさらに深めながら、社会に自分が持っている情報を公開する活動について深く考えられることが特に重要になる。</p> <p>この授業の目的は、このような情報公開に関する知識やスキルを学ぶことである。</p> <p>実際にホームページ作成を行いながら、情報公開の背景にあるインターネットの脅威、ネチケット、個人情報、技術革新等の現代社会の重要なキーワードについて体系的に理解を深める視点をもって講義は行う。</p> <p>授業内で各自が作成したホームページは世界中の人たちが閲覧するので、この講義の成果として獨協大学の学生としてふさわしい内容を公開することを期待する。</p> <p>さらに、講義、実習と盛りたくさんの内容のため、欠席しないようお願いしたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ホームページの仕組み 2 ホームページの作成環境 3 ホームページの作成 4 HTML ファイルの公開 5 スタイルシート 6 画像表示 7 表とレイアウト 8 ホームページの構成 9 ファイルシステム上の構成 10 インターネット上の諸問題 11 ホームページ上の特殊効果追加 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業内で適宜紹介		出席、レポート、小テストによる総合評価	

全カリ (秋)	現代社会 (IV) (ホームページ作成)	担当者	久東 義典
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>近年、ブロードバンド環境等の普及によりインターネットの利用がより身近なものになった。これからは、「インターネットを利用する」というよりも「インターネットに参加する」ことに目が向けられている。</p> <p>その参加の足がかりとして、自分のホームページを作成し、PC入門で学んだ知識をさらに深めながら、社会に自分が持っている情報を公開する活動について深く考えられることが特に重要になる。</p> <p>この授業の目的は、このような情報公開に関する知識やスキルを学ぶことである。</p> <p>実際にホームページ作成を行いながら、情報公開の背景にあるインターネットの脅威、ネチケット、個人情報、技術革新等の現代社会の重要なキーワードについて体系的に理解を深める視点をもって講義は行う。</p> <p>授業内で各自が作成したホームページは世界中の人たちが閲覧するので、この講義の成果として獨協大学の学生としてふさわしい内容を公開することを期待する。</p> <p>さらに、講義、実習と盛りたくさんの内容のため、欠席しないようお願いしたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ホームページの仕組み 2 ホームページの作成環境 3 ホームページの作成 4 HTML ファイルの公開 5 スタイルシート 6 画像表示 7 表とレイアウト 8 ホームページの構成 9 ファイルシステム上の構成 10 インターネット上の諸問題 11 ホームページ上の特殊効果追加 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業内で適宜紹介		出席、レポート、小テストによる総合評価	

全カリ (春)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

全カリ (秋)	現代社会(IV) (模擬国際裁判)	担当者	鈴木 淳一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>模擬国際裁判とは、ある架空の国際事件を想定して、学生が原告・被告・裁判官の三グループに分かれて、自主的に調査・研究を行い、現実の国際裁判さながらに法的主張を競い合う法学教育です。本講義では、外国語で書かれた外交文書を調査したり、大使館等で実務家にインタビューをしたりしながら、書面手続と口頭手続とを行います。これを経ることで、国際法の基礎的問題点を体得することができます。また、グループでの作業が中心となるので、共同で勉強することが苦痛でない人に適した講義です。</p> <p>受講希望者が30名を超える場合、第1回目の講義で、国際法のテストにより選抜します(法学部生を優先します)。法学部以外の学生の場合、全学共通授業科目の国際法a, 同b, 法学部の国際法I、同II、同III、国際人道法のいずれかを既に履修していることを受講の前提とします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 コースガイダンス——模擬国際裁判とは何か? 2 課題文と訴状の発表 3 準備段階 4 申述書提出 (原告側) 5 答弁書提出 (被告側) 6 国際法上の論点を学ぶ 7 口頭弁論 8 判決 9 自己評価と反省 <p>本講義で過去に扱った事例としては、核兵器使用の合法性に関する事件、ミロシェビッチ事件 (旧ユーゴスラビア国際刑事裁判所)、拡散安全保障イニシアチブ (PSI) 構想、イスラエルの分離壁などがあります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『国際条約集 2005年版』有斐閣 その他、適宜、参考文献を紹介します。		書面及び発表や模擬裁判への参加態度に基づいて評価します (試験は行いません)。	

全カリ (春) 外共	自然・環境・人間(IV) (身近な自然観察 春) 生物学 B (通年)	担当者	加藤 僖重
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>登録するに先立っての注意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 講義の性質上、受講生は年間を通じて履修することが望ましい。 一クラスの受講者を抽選に受かった 48 名に限定する。抽選に受かった学生は実習費(¥2,000-)を収めること。詳細は掲示する。 <p>講義の目的</p> <ul style="list-style-type: none"> 身近な自然を知ること目標とする。 <p>履修資格</p> <ul style="list-style-type: none"> 植物に興味があり、身近な植物 100 種以上認識できること。 		<ol style="list-style-type: none"> はじめに 簡単なテストの後、席順の確認、講義内容の説明 実験室内における心得・実験器具の説明 キャンパスウォッチング 1 種の識別 身近な植物の観察 1 花の構造 顕微鏡使用法 1 顕微鏡の構造 顕微鏡使用法 2 ミクロメーターの使用 顕微鏡使用法 3 細胞の大きさと数 キャンパスウォッチング 2 五感を働かす 身近な植物の観察 2 果実の構造 身近な植物の観察 3 葉の構造 自然保護運動 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
毎回、説明する。		毎回のレポート、宿題レポート、期末テスト等で評価する。	

全カリ (秋) 外共	自然・環境・人間 (IV) (身近な自然観察 秋) 生物学 B (通年)	担当者	加藤 僖重
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>登録するに先立っての注意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 講義の性質上、受講生は年間を通じて履修することが望ましい。 一クラスの受講者を抽選に受かった 48 名に限定する。抽選に受かった学生は実習費(¥2,000-)を収めること。詳細は掲示する。 <p>講義の目的</p> <ul style="list-style-type: none"> 身近な自然を知ること目標とする。 <p>履修資格</p> <p>植物に興味があり、身近な植物 100 種以上認識できること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> はじめに：講義の内容を説明。 身近な植物の観察 1：Abelia の花の構造 キャンパスウォッチング 1：種の同定 蛋白質の分析 生産構造図の作成 種の多様性の観察：ブナ科果実の観察 身近な植物の観察 2：落葉と落枝 光合成の色素の分析：クロマトグラフィー利用 身近な植物の観察 3：真果と偽果の構造 キャンパスウォッチング：五感を働かす 形質と分類 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
その都度説明する。		毎回のレポート、宿題レポート、期末テスト等で評価する。	

全カリ (春) 外共	自然・環境・人間 (IV) (東洋の健康哲学 a) 保健体育講義 (春学期)	担当者	青柳 多恵子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日本はもとより全世界的な高齢化社会を考慮して、真の健康について如何に考えるか。 科学の加速度的な発達と動物としての人間 利便性に富んだ科学的な生活と人間生活 医学的進歩と疾病の変質化 地球環境の劣悪化と生物が健やかに生きることの意味</p> <p>1950年 日本は戦後復興期 1970年 1980年 2000年</p> <p>半世紀の社会状況・生活文化度と健康問題を検証</p>		<p>1・ガイダンス・健康問題の現状</p> <p>2・時代の変遷と健康問題の推移</p> <p>3・食事情と疾病との関連</p> <p>4・西洋の科学と東洋の健康哲学</p> <p>5・健康意識と現代科学の進歩</p> <p>6・歴史的な健康哲学の検証</p> <p>7・世界の健康理論</p> <p>8・東洋の身体観</p> <p>9・ヨーガ・気功・エアロビクス・丹田呼吸法理論</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリント配布		出席状況・レポート	

全カリ (秋) 外共	自然・環境・人間 (IV) (東洋の健康哲学 b) 保健体育講義 (秋学期)	担当者	青柳 多恵子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日本はもとより全世界的な高齢化社会を考慮して、真の健康について如何に考えるか。 科学の加速度的な発達と動物としての人間 利便性に富んだ科学的な生活と人間生活 医学的進歩と疾病の変質化 地球環境の劣悪化と生物が健やかに生きることの意味</p> <p>1950年 日本は戦後復興期 1970年 1980年 2000年</p> <p>半世紀の社会状況・生活文化度と健康問題を検証</p>		<p>1・ガイダンス・健康問題の現状</p> <p>2・時代の変遷と健康問題の推移</p> <p>3・食事情と疾病との関連</p> <p>4・西洋の科学と東洋の健康哲学</p> <p>5・健康意識と現代科学の進歩</p> <p>6・歴史的な健康哲学の検証</p> <p>7・世界の健康理論</p> <p>8・東洋の身体観</p> <p>9・ヨーガ・気功・エアロビクス・丹田呼吸法理論</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリント配布		出席状況・レポート	

全カリ (春) 外共	スポーツ・レクリエーション (アウトドアレクリエーション) 体育Ⅰ・Ⅱ (春学期および夏季集中)	担当者	青柳 多恵子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>社会的構造の変化や子供を含めた生活様式の変化に伴う、余暇生活の計画性が大きな社会問題である。健康・余暇についての知識と経験を積み重ねることを重視し、個人・チームの中で集団をコーディネートできる能力も養う。</p> <p>概要 自然と人間行動を十分に理解する。また人間として、自然環境の保全の意味や、責任を理解する事と、自然環境に踏み込むルール (気象の読み方・地図の見方) を学び、安全と自然体系を乱さない知識と配慮を研究し、危険防止の観点から、事前実施計画の作成と、将来にわたってのグループ形成と、楽しい企画・運営を「山」を対象として行う。</p>		<p>1 : ガイダンス 2 : 基礎体力測定 3 : ゲームと班分け 4 : 気象図の見方と地図・志賀高原ルート・尾瀬の自然観察 5 : 山間を想定しての調理訓練 (1) 食材の選定とごみの処理の原則 6 : 自然の楽しみ方 1) 山野草観察・ 7 : サバイバル体験の知識と危険度について 8 : 救急法 9 : キャンプ地での調理訓練 事前購入とキャンプ地の安全度 10 : テントの調整法と危険度について 11 : 山行の個人装備品・団体装備品 山行パンフづくり 12 : 事前実施計画の最終検討・参加人員決定 7月24日 (日) ~ 7月28日 (木) 1案「志賀高原」にて合宿 2案「尾瀬」キャンプ トレッキング靴・雨具必携</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布		出席重視・レポート作成	

全カリ (春) 外共	スポーツ・レクリエーション (アウトドア山岳) 体育Ⅰ・Ⅱ (春学期および夏季集中)	担当者	青柳 多恵子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>集中授業 (山岳) 軽登山と自然観察 班でのトレッキングと飯ごう炊飯 地域ボランティア活動 山野草・温泉見学・地域祭りに参加</p>		<p>7月定期テスト終了後 4泊5日 志賀高原 個人での携帯品 トレッキングシューズ 雨具・日用洗面用具</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	

全カリ (春) 外共	スポーツ・レクリエーション (アウトドアレクリエーション) 体育Ⅰ・Ⅱ (春学期および夏季集中)	担当者	和田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標]</p> <p>レクリエーション活動のうち、主に自然環境と関連するいくつかの種目を体験し、安全と管理、自然と環境、自由時間の意味、価値について考え、現在と将来の自由時間をデザインします。実技だけでなく講義も含み、健康について、環境についても学習します。また、グループワーク活動を重視し、クラスの中での良好な人間関係育成を図りたいと思います。</p> <p>[講義概要]</p> <p>学内の授業では、グループゲーム、アウトドアクッキング、マップ&コンパス、ペタンク、frisbee、インラインスケート、ウォークラリー等、多くの種目を紹介し、体験します。種目については学生の要望に応じて選択しようと思います。各種目は内容と難易度などにより、各種目に当てる時間数は異なります。合宿は、新潟県佐渡島で行う海浜型野外活動、または千葉県館山市で行うウィンドサーフィンの2つの合宿のうち、どちらかに参加してもらいます。内容の詳細については、体育のホームページをご覧ください。日程・参加費は別に案内します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の内容と計画についての説明 2. 仲間づくりの時間：グループゲーム 3. 仲間づくりの時間：グループゲーム 野外炊飯の計画 4. 仲間づくりの時間：アウトドアクッキング 5. アウトドアレクリエーション種目 6. アウトドアレクリエーション種目 7. アウトドアレクリエーション種目 8. アウトドアレクリエーション種目 9. アウトドアレクリエーション種目 10. アウトドアレクリエーション種目 11. アウトドアレクリエーション種目 12. 合宿についてのオリエンテーション 	
テキスト、参考文献		評価方法	
なし		出席と受講態度、レポート。	

全カリ (春) 外共	スポーツ・レクリエーション (アウトドア海浜・ウィンドサーフィン) 体育Ⅰ・Ⅱ (春学期および夏季集中)	担当者	和田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[受講者への要望]</p> <p>集中授業は海での活動が中心になりますので、受講は心疾患、耳鼻科系疾患、皮膚科系疾患のないことを条件とします。安全管理上、あまり多くの受講生は受け入れられません。また、どちらかに集中してしまう場合には、人数の振り分けをすることもあります。</p>		<p>[集中授業] 「ウィンドサーフィン」 千葉県館山市 2005年9月前半4泊5日</p> <p>[集中授業] 「海浜型アウトドアレクリエーション」 新潟県佐渡島 2005年7月後半4泊5日</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
なし		出席と受講態度、レポート。	

全カリ (秋) 外共	スポーツレクリエーション (アウトドアレクリエーション) 体育 I・II (秋学期および冬季集中)	担当者	和田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>アウトドアレクリエーション活動のうち、日常では体験できないアイススケート、カーリングについての知識、技術を学びます。メディアにはたびたび登場する種目ですが、体験することは難しい種目となっています。体験すると、そのスポーツに対する見方が大きく変わります。これを機会に、新しいスポーツ種目にチャレンジしてみませんか。</p> <p>秋学期と冬季集中授業の組み合わせです。春学期には、最初のオリエンテーションだけは参加してください。秋学期には、インラインスケートを使ってスケートトレーニングを行います。インラインスケートならではの技術も行います。初心者の方から受講できます。</p>		<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 用具あわせ、基本動作</p> <p>第3回 フォアストロークとバリエーション その1</p> <p>第4回 フォアストロークとバリエーション その2</p> <p>第5回 ホッケーにチャレンジ その1</p> <p>第6回 ホッケーにチャレンジ その2</p> <p>第7回 バックストロークとバリエーション その1</p> <p>第8回 バックストロークとバリエーション その2</p> <p>第9回 フォアクロッシング その1</p> <p>第10回 フォアクロッシング その2</p> <p>第11回 バッククロッシング</p> <p>第12回 集中授業についてのオリエンテーション</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
特になし		出席回数、授業への参加姿勢、課題達成度によって評価	

全カリ (秋) 外共	スポーツ・レクリエーション (スケートトレーニング) 体育 I・II (秋学期および冬季集中)	担当者	和田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>アウトドアレクリエーション活動のうち、日常では体験できないアイススケート、カーリングについての知識、技術を学びます。メディアにはたびたび登場する種目ですが、体験することは難しい種目となっています。体験すると、そのスポーツに対する見方が大きく変わります。これを機会に、新しいスポーツ種目にチャレンジしてみませんか。</p> <p>秋学期と冬季集中授業の組み合わせです。春学期には、最初のオリエンテーションだけは参加してください。秋学期には、インラインスケートを使ってスケートトレーニングを行います。インラインスケートならではの技術も行います。初心者の方から受講できます。</p> <p>宿泊費ほか費用はかかりますが、必ず満足のいく内容となります。</p>		<p>〔集中授業〕 「氷上スポーツ」</p> <p>長野県軽井沢町 2006年2月中旬予定 費用¥28000程度 (交通費別)</p> <p>3泊4日を午前と午後の6コマに分け、アイススケートとカーリングを行います。</p> <p>アイススケート4コマ、カーリング2コマの予定です。</p> <p>アイススケートは、技術の進捗度や天候によって内容を変えます。カーリングは、試合を楽しめるまでを行います。</p> <p>詳細については、オリエンテーション時に説明します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
特になし		出席回数、授業への参加姿勢、課題達成度によって評価	

全カリ (春) 外共	スポーツ・レクリエーション (インラインスケート a) 体育 I・II (通年)	担当者	和田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] インラインスケートについての知識、技術の習得。これによって、各個人の自由時間をインラインスケートを用いて豊かにすることを目標にしたいと思います。初めは慣れない道具で不自由に戸惑うかもしれませんが、これを使った時に体が自由に動く感覚を経験することで、自分の新たな可能性に気づくことでしょう。インラインスケートは、舗装された平面があればどこでも楽しめます。自転車と同じような感覚で楽しめれば良いと思います。そのためには安全とモラルが大切になるでしょう。</p> <p>[講義概要] インラインスケートについての知識、技術の習得を毎回の授業の中で行います。内容は、安全知識、危険回避、基本テクニック、応用テクニック、メンテナンスについてです。学生の進捗状況・天候によって、授業計画は変えていきます。</p> <p>[受講者への要望] 自分の靴、プロテクター等があれば利用してください。大学では、22センチから28センチまでの靴とリストガード、エルボーパッド、ニーパッドを準備してあります。必要に応じてヘルメットも貸すことができます。初心者から受講して下さい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション インラインスケートとは 2 用具合わせ 立ち方・歩き方・とまり方 3 滑ることに慣れよう： フォアストローク（前方滑走）とバリエーション 4 滑ることに慣れよう： フォアストローク（前方滑走）とバリエーション 5 からだを動かしてみよう： フォアストローク（前方滑走）とバリエーション 6 からだを動かしてみよう： フォアストローク（前方滑走）とバリエーション 7 自由にからだを動かしてみよう： フォアストローク（前方滑走）とバリエーション 8 自由にからだを動かしてみよう： フォアストローク（前方滑走）とバリエーション 9 後ろ向きになれよう：バックストローク（後方滑走）とバリエーション 10 後ろ向きになれよう：バックストローク（後方滑走）とバリエーション 11 後ろ向きになれよう：バックストローク（後方滑走）とバリエーション 12 後ろ向きになれよう：バックストローク（後方滑走）とバリエーション 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>[テキスト] 必要に応じて印刷物を配布します。 [参考文献] そのつど紹介します。</p>		出席と受講態度、技術の向上度、実技テスト	

全カリ (秋) 外共	スポーツ・レクリエーション (インラインスケート b) 体育 I・II (通年)	担当者	和田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] インラインスケートについての知識、技術の習得。これによって、各個人の自由時間をインラインスケートを用いて豊かにすることを目標にしたいと思います。初めは慣れない道具で不自由に戸惑うかもしれませんが、これを使った時に体が自由に動く感覚を経験することで、自分の新たな可能性に気づくことでしょう。インラインスケートは、舗装された平面があればどこでも楽しめます。自転車と同じような感覚で楽しめれば良いと思います。そのためには安全とモラルが大切になるでしょう。</p> <p>[講義概要] インラインスケートについての知識、技術の習得を毎回の授業の中で行います。内容は、安全知識、危険回避、基本テクニック、応用テクニック、メンテナンスについてです。学生の進捗状況・天候によって、授業計画は変えていきます。</p> <p>[受講者への要望] 自分の靴、プロテクター等があれば利用してください。大学では、22センチから28センチまでの靴とリストガード、エルボーパッド、ニーパッドを準備してあります。必要に応じてヘルメットも貸すことができます。初心者から受講して下さい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 久しぶりにインラインスケート 2 自由な動き作り：カーブ 3 自由な動き作り：いくつかの種類のターン 4 自由な動き作り：いくつかの種類のターン 5 自由な動き作り：いくつかの種類のターン 6 自由な動き作り：フォアクロス 7 自由な動き作り：フォアクロス 8 自由な動き作り：バッククロス 9 自由な動き作り：バッククロス 10 インラインホッケー・実技テスト 11 インラインホッケー・実技テスト 12 インラインホッケー まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>[テキスト] 必要に応じて印刷物を配布します。 [参考文献] そのつど紹介します。</p>		出席と受講態度、技術の向上度、実技テスト	

全カリ (秋) 外共	スポーツ・レクリエーション (インラインスケートb) 体育Ⅰ・Ⅱ (秋学期および冬季集中)	担当者	松原 裕
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] 運動を通じて、第1番目には、目の前に展開する事象への多面的な理解と適切な対応の選択、第2番目には、集団行動での基本的なルールを尊重した上で個人個人が積極的に授業参加する態度の育成、第3番目には、生涯に渡る健康観の構築、第4番目には、定期的に運動する習慣の獲得を目標とする。</p> <p>[講義概要] インラインスケートを教材とする。滑走するスポーツとして、用具を利用し、通常では味わえない感覚を経験する。基本的な滑走方法とバランス感覚を身に付けたら、インラインホッケーに挑戦する。また、冬のスノースポーツへの導入としてスラローム滑走、ジャンプ等も視野に入れる。</p> <p>[受講者への要望] フェアな態度、団体行動、試してみる勇氣。 受講にふさわしい服装の用意。</p>		<p>1 オリエンテーション 個人票の作成 授業実施上の諸注意 トレーニングルームの講習と登録</p> <p>2 用具合わせ 基本スケータイング</p> <p>3 基本スケータイング フォア、バック、ターン、ストップ</p> <p>4 基本スケータイング スラローム</p> <p>5 インラインホッケー</p> <p>6 インラインホッケー</p> <p>7 スラローム滑走 ジャンプ</p> <p>8 インラインホッケー</p> <p>9 インラインホッケー</p> <p>10 スラローム競争</p> <p>11 総合練習</p> <p>12 テスト</p> <p>*コートが使用できない場合には、教室にて講義を行うか場所を変更して実技を行う。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて紹介する。		毎時間の出欠席、受講態度、期間中の技術の向上度などを総合して評価する。	

全カリ (秋) 外共	スポーツ・レクリエーション (スノースポーツ) 体育Ⅰ・Ⅱ (秋学期および冬季集中)	担当者	松原 裕
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] 運動を通じて、第1番目には、目の前に展開する事象への多面的な理解と適切な対応の選択、第2番目には、集団行動での基本的なルールを尊重した上で個人個人が積極的に授業参加する態度の育成、第3番目には、生涯に渡る健康観の構築、第4番目には、定期的に運動する習慣の獲得を目標とする。</p> <p>[冬期集中講義] 滑走するスポーツとして、用具を利用し、自然の斜面を利用することで通常では味わえない感覚を経験する。スノースポーツの基本的な滑走方法とバランス感覚を身に付ける。挑戦するスノースポーツは、スノーブレード・ファンスキー・ビッグフット・カービングスキー・スノーボードなど。 実施期間：2月下旬 (4泊5日) 実施場所：秋田県田沢湖スキー場</p> <p>[受講者への要望] フェアな態度、団体行動、試してみる勇氣。 受講にふさわしい服装の用意</p>		<p>秋学期中に学内でオリエンテーションを行い、要項を配布する。 個人票の作成に伴い写真を提出する。 費用の納入など、学内授業とは異なる負担がある。</p> <p>注：02年度以前の受講生はインラインスケートとのセット履修となる。</p> <p>*不明な点は3棟1階体育準備室にて指示を受けること</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて紹介する。		毎時間の出欠席、受講態度、期間中の技術の向上度などを総合して評価する。	

全カリ (春) 外共	スポーツ・レクリエーション (硬式テニス a) 体育 I・II (通年)	担当者	田中 茂宏
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標]</p> <p>学生自身が運動種目に必要なウォーミング・アップ、クーリング・ダウンを行えるようになり、主体性を発揮、身につけることを目的とする。</p> <p>技術的には、フォア・バックのストロークを中心にラリーができるようになり、ゲームの中で必要とされる技術を身につけ、ゲームの進め方・ルールを学ぶ。レポート提出を実施することで、目的、問題意識を持たせる。テニスシューズを用意して出席すること。基本技術の練習を中心に行い、ゲーム時には結果を記録する。ダブルス・シングルのゲームを通じて、ルール・ゲームの進め方を学ぶ。</p> <p>雨天でも行いますが、コートが使用不可能な時には、3棟1階の体育掲示板・体育館の掲示板で指示する。授業に相応しい服装で出席すること(見学者も更衣後に、コートにて見学する。)</p> <p>原則として遅刻は認めない。</p>		<p>1 授業登録の確認と授業内容の説明、個人資料の作成。</p> <p>2 用具の準備と片付けの指示、軽い練習。</p> <p>3 基本技術の練習。</p> <p>4 "</p> <p>5 "</p> <p>6 "</p> <p>7 "</p> <p>8 ゲームを行い、ルール、ゲームの進め方を学ぶ。</p> <p>9 "</p> <p>10 "</p> <p>11 "</p> <p>12 "</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出欠状況、授業態度を中心として、技能の向上、ゲームの結果、レポート等を加味して評価する。レポートについては必要だと思われる回数提出してもらう。	

全カリ (秋) 外共	スポーツ・レクリエーション (硬式テニス b) 体育 I・II (通年)	担当者	田中 茂宏
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標]</p> <p>学生自身が運動種目に必要なウォーミング・アップ、クーリング・ダウンを行えるようになり、主体性を発揮、身につけることを目的とする。</p> <p>技術的には、フォア・バックのストロークを中心にラリーができるようになり、ゲームの中で必要とされる技術を身につけ、ゲームの進め方・ルールを学ぶ。レポート提出を実施することで、目的、問題意識を持たせる。テニスシューズを用意して出席すること。基本技術の練習を中心に行い、ゲーム時には結果を記録する。ダブルス・シングルのゲームを通じて、ルール・ゲームの進め方を学ぶ。</p> <p>雨天でも行いますが、コートが使用不可能な時には、3棟1階の体育掲示板・体育館の掲示板で指示する。授業に相応しい服装で出席すること(見学者も更衣後に、コートにて見学する。)</p> <p>原則として遅刻は認めない。</p>		<p>1 授業登録の確認と授業内容の説明。軽い運動。</p> <p>2 基本技術の練習。</p> <p>3 "</p> <p>4 "</p> <p>5 "</p> <p>6 "</p> <p>7 ゲームを行い、ルール、ゲームの進め方を学ぶ。</p> <p>8 "</p> <p>9 "</p> <p>10 "</p> <p>11 "</p> <p>12 "</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出欠状況、授業態度を中心として、技能の向上、ゲームの結果、レポート等を加味して評価する。レポートについては必要だと思われる回数提出してもらう。	

全カリ (春) 外共	スポーツ・レクリエーション (硬式テニス a) 体育 I・II (通年)	担当者	松原 裕
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] 運動を通じて、第1番目には、目の前に展開する事象への多面的な理解と適切な対応の選択、第2番目には、集団行動での基本的なルールを尊重した上で個人個人が積極的に授業参加する態度の育成、第3番目には、生涯に渡る健康観の構築、第4番目には、定期的に運動する習慣の獲得を目標とする。</p> <p>[講義概要] 硬式テニスを教材とする。硬式テニスには、シングルスとダブルスの2つの代表的な試合形式があるが、この授業ではダブルスの試合をすることを中心とする。ダブルスの試合のルールを十分に理解し、プレーヤーとして、審判として、コーディネーターとして、と関係する役割全てを交代で行う。基本的なことから試合が出来るまでをビルドアップしていく。</p> <p>[受講者への要望] フェアな態度、団体行動、試してみる勇氣。 各自でテニスシューズを必ず用意し、受講にふさわしい服装で参加して下さい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 個人票の作成 授業実施上の諸注意 2 受講決定の確認と個人票の写真提出 トレーニングルームの講習と登録 授業実施場所の確認 3 基本トレーニング ラケットコントロール 4 基本トレーニング ラケットコントロール 5 基本戦術 サーブ・レシーブ・ストローク 6 基本戦術 サーブ・レシーブ・ボレー 7 試合に必要な準備 競技場の設営 審判の仕方 試合の進め方 8 ミックスダブルスによる試合 9 ミックスダブルスによる試合 10 男子ダブルス・女子ダブルス 11 男子ダブルス・女子ダブルス 12 テスト ルール・技術・審判法 <p>*コートが使用できない場合には、教室にて講義をするか場所を変更して実技を行う。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて紹介する。		毎時間の出欠席、受講態度、期間中の技術の向上度などを総合して評価する。	

全カリ (秋) 外共	スポーツ・レクリエーション (硬式テニス b) 体育 I・II (通年)	担当者	松原 裕
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] 運動を通じて、第1番目には、目の前に展開する事象への多面的な理解と適切な対応の選択、第2番目には、集団行動での基本的なルールを尊重した上で個人個人が積極的に授業参加する態度の育成、第3番目には、生涯に渡る健康観の構築、第4番目には、定期的に運動する習慣の獲得を目標とする。</p> <p>[講義概要] 硬式テニスを教材とするが、この授業ではダブルスの試合をすることを中心とする。ダブルスの試合のルールを十分に理解し、レベルに応じて試合の楽しみ方を考える。プレーヤー、審判、コーディネーターと関係する役割全てを交代で行う。基本的なことから応用的なことまでをビルドアップしていく。</p> <p>[受講者への要望] フェアな態度、団体行動、試してみる勇氣。 各自でテニスシューズを必ず用意し、受講にふさわしい服装で参加して下さい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 個人票の作成 授業実施上の諸注意 2 受講決定の確認と個人票の写真提出 授業実施場所の確認 3 基本戦術 プレーの組み合わせ ゲームプラン 4 班に班分け 班別に練習 オーダーの検討 5 リーグ戦 (一巡目) 6 リーグ戦 (一巡目) 7 リーグ戦 (一巡目) 8 チームとしてリーグ戦 (二順目) 9 チームとしてリーグ戦 (二順目) 10 チームとしてリーグ戦 (二順目) 11 トーナメント 12 トーナメント <p>*コートが使用できない場合には、教室にて講義をするか場所を変更して実技を行う。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて紹介する。		毎時間の出欠席、受講態度、期間中の技術の向上度などを総合して評価する。	

全カリ (春) 外共	スポーツ・レクリエーション (ゴルフ a) 体育 I・II (通年)	担当者	山中 邦夫
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] ゴルフの基礎技術を実習し、あわせて基礎戦術およびルール、マナーについても理解することによって、本コースでのプレーが楽しめるレベル獲得をめざす。</p> <p>[講義概要] ゴルフの理論と実際の技能とのギャップを最小化できるよう、毎時の内容を工夫しながら展開する。まず、全体の動きづくりをめざし、リズムカルなスイング、さらには力強いスイングが出きるよう、グループ練習、VTRを用いた分析等を用いた授業となる。</p> <p>[受講者への要望] 欠席をしないこと。初心者または初級者の受講を望む。靴はスニーカーまたはゴルフシューズを持参のこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 ゴルフ競技の概要 (VTR と講義) 3 スイング、グリップ、スタンスについて (学内グラウンドで実習) 4 スイング、グリップ、スタンスについて (学内グラウンドで実習) 5 スイング (各種のクラブを用いて) の基本練習 ターゲットバードゴルフも行なう。 6 スイング (各種のクラブを用いて) の基本練習 ターゲットバードゴルフも行なう。 7 スイング (各種のクラブを用いて) の基本練習 ターゲットバードゴルフも行なう。 8 (学外の練習場で) VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。(主に 9 番アイアン) 9 (学外の練習場で) VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。(") 10 (学外の練習場で) VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。(") 11 (学外の練習場で) VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。(主に 7 番アイアン) 12 (学外の練習場で) VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。(") 	
テキスト、参考文献		評価方法	
		授業の出席状況、技能と理論のテストを総合して評価する。	

全カリ (秋) 外共	スポーツ・レクリエーション (ゴルフ b) 体育 I・II (通年)	担当者	山中 邦夫
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] ゴルフの基礎技術を実習し、あわせて基礎戦術およびルール、マナーについても理解することによって、本コースでのプレーが楽しめるレベル獲得をめざす。</p> <p>[講義概要] ゴルフの理論と実際の技能とのギャップを最小化できるよう、毎時の内容を工夫しながら展開する。まず、全体の動きづくりをめざし、リズムカルなスイング、さらには力強いスイングが出きるよう、グループ練習、VTRを用いた分析等を用いた授業となる。</p> <p>[受講者への要望] 欠席をしないこと。初心者または初級者の受講を望む。靴はスニーカーまたはゴルフシューズを持参のこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 (学外の練習場で) VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。(主に 5 番アイアン) 2 (学外の練習場で) VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。(") 3 (学外の練習場で) VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。(主にドライバー、スプーン) 4 (学外の練習場で) VTR と練習器を用いて個人指導と各種クラブでの打撃練習。(") 5 (学外の練習場で) VTR と練習器を用いて個人指導と各種クラブでの打撃練習。(") 6 (学外の練習場で) VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。(主に 9、7、5 番アイアン) 7 (学外の練習場で) VTR と練習器を用いて個人指導と各種クラブでの打撃練習。(") 8 (学外の練習場で) VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。(") 9 実技テスト：ショートアイアン (約 80m 先のグリーンをねらい、まっすぐ安定したボールが打てれば合格) : ロングアイアンまたはドライバー (まっすぐ安定したボールが打てれば合格) 10 実技テスト：ショートアイアン (約 80m 先のグリーンをねらい、まっすぐ安定したボールが打てれば合格) : ロングアイアンまたはドライバー (まっすぐ安定したボールが打てれば合格) 11 実技テスト：ショートアイアン (約 80m 先のグリーンをねらい、まっすぐ安定したボールが打てれば合格) : ロングアイアンまたはドライバー (まっすぐ安定したボールが打てれば合格) 12 実技テスト：ショートアイアン (約 80m 先のグリーンをねらい、まっすぐ安定したボールが打てれば合格) : ロングアイアンまたはドライバー (まっすぐ安定したボールが打てれば合格) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
		授業の出席状況、技能と理論のテストを総合して評価する。	

全カリ (春) 外共	スポーツ・レクリエーション (ゴルフ a) 体育 I・II (通年)	担当者	吉田 卓司
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標]</p> <p>ゴルフは、老若男女を問わず容易にできる楽しいスポーツである。基本的な正しい知識や技術が上達の近道であると考えている。ゴルフプレーを通して、社会性やルールを遵守する態度を学び、正しい余暇活動の利用について習得する。</p> <p>[講義概要]</p> <p>ゴルフ競技をするにあたり、ゴルフの歴史、ゴルフ用具や服装、エチケットについて講義する。次に、基本的技術をビデオにより学習する。クラブの握り方、グリップとスタンスの方法を習得すると同時に正しいアドレス、正しいスイングの方法を反復練習により、フォームを作る。第7週までは、学内でプラスチック・ボールを使用して、打球する。第8週からゴルフ練習場にて、実習する。</p> <p>[受講者への要望]</p> <p>運動のできる服装で出席すること。手袋を必ず購入すること (汗でグリップがすべり、クラブが飛んでしまう危険性があるため)</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 ゴルフの歴史と正しいマナーについて 3 基本的技術のビデオ学習 4 ショートアイアン (8、9、PW、SW) のスウィング (グリップ、スタンス、アドレス、スウィングの方法を習得する) 5 学内でプラスチック・ボールを使用して実習 6 各人の個別指導 (正しいグリップ、スタンスの中、正しいアドレスの入り方、スウィングの方法) 7 各人の個別指導 (正しいグリップ、スタンスの中、正しいアドレスの入り方、スウィングの方法) 8 ゴルフ練習場にて実習 (ショートアイアン、ミドルアイアンの基本的なスウィングと打球) 9 (反復練習) 10 (個別指導: グリップ、スタンス、アドレス、スウィングのフォームなどのチェック) 11 (個別指導: グリップ、スタンス、アドレス、スウィングのフォームなどのチェック) 12 (個別指導: グリップ、スタンス、アドレス、スウィングのフォームなどのチェック) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出席を重視し、普段の履修態度や運動服装等も評価の対象とする。	

全カリ (秋) 外共	スポーツ・レクリエーション (ゴルフ b) 体育 I・II (通年)	担当者	吉田 卓司
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標]</p> <p>ゴルフは、老若男女を問わず容易にできる楽しいスポーツである。基本的な正しい知識や技術が上達の近道であると考えている。ゴルフプレーを通して、社会性やルールを遵守する態度を学び、正しい余暇活動の利用について習得する。</p> <p>[講義概要]</p> <p>ゴルフ競技をするにあたり、ゴルフの歴史、ゴルフ用具や服装、エチケットについて講義する。次に、基本的技術をビデオにより学習する。クラブの握り方、グリップとスタンスの方法を習得すると同時に正しいアドレス、正しいスイングの方法を反復練習により、フォームを作る。第7週までは、学内でプラスチック・ボールを使用して、打球する。第8週からゴルフ練習場にて、実習する。</p> <p>[受講者への要望]</p> <p>運動のできる服装で出席すること。手袋を必ず購入すること (汗でグリップがすべり、クラブが飛んでしまう危険性があるため)</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ゴルフ練習場にて実習 2 アイアンショット (3、5、7、9、PW、SW) (個別指導とフォームのチェック) 3 1番ウッド (ドライバー) 3番ウッド (スプーン) の打法と練習 4 ロングアイアン (3、4) ショット練習 5 ロングアイアン (3、4) ショット練習 6 個人個人のスウィングをチェック指導 7 個人個人のスウィングをチェック指導 8 個人個人のスウィングをチェック指導 9 個人個人のスウィングをチェック指導 10 テスト (アイアン、及びウッド) 及び実習 11 テスト (アイアン、及びウッド) 及び実習 12 テスト (アイアン、及びウッド) 及び実習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出席を重視し、普段の履修態度や運動服装等も評価の対象とする。テストは、アイアンとウッドについて実施する。	

全カリ (春) 外共	スポーツ・レクリエーション (サッカーa) 体育 I・II (通年)	担当者	檜山 康
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標]</p> <p>スポーツには、歴史的、系統的に発展してきた種目独自の運動文化が存在する。運動文化としてのルール、戦術、それらを取りまく社会環境というものは、人間が長い歴史の中で試行錯誤を重ねながら作り上げてきた。この授業では、サッカーを学びながら、独自の運動文化に触れ、サッカー本来の楽しさに触れることを目標としたい。</p> <p>[講義概要]</p> <p>ゲームを中心に行っていくが、その準備段階において技術、戦術を発展させられるようなハンドリングゲームや予備ゲームを取り入れていく。つまり技術、戦術を個別に取り出して練習するのではなく、常にゲームを意識して、ゲーム形式の中で実際に体を動かして学習してもらいたいと考えている。また参加者の意見を積極的に出してほしい、有効なゲームの進め方について考える場にしたいと思っている。</p> <p>[受講者への要望]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 遅刻はしないようにする。特にチームで行動するので他人に迷惑がかかる。 2. 服装はスポーツのできるものを身につけること。 3. アクセサリー、ピアスは外すこと。 		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション。 2. ボールに慣れること。試しのゲーム。 3. 1対1の守備。 4. 1対1の攻撃。 5. オフザボールの動き。 6. ボールを持っていない選手に対する守備。 7. パス&コントロール。 8. ゴール前での守備。 9. ゴール前での攻撃。 10. フルコートでのゲーム。リーグ戦。 11. フルコートでのゲーム。リーグ戦。 12. フルコートでのゲーム。リーグ戦。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
		授業への出席を重視する。加えて参加態度、意欲などを加味する。実技試験、レポートなどを課す場合もある。	

全カリ (秋) 外共	スポーツ・レクリエーション (サッカーb) 体育 I・II (通年)	担当者	檜山 康
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標]</p> <p>スポーツには、歴史的、系統的に発展してきた種目独自の運動文化が存在する。運動文化としてのルール、戦術、それらを取りまく社会環境というものは、人間が長い歴史の中で試行錯誤を重ねながら作り上げてきた。この授業では、サッカーを学びながら、独自の運動文化に触れ、サッカー本来の楽しさに触れることを目標としたい。</p> <p>[講義概要]</p> <p>ゲームを中心に行っていくが、その準備段階において技術、戦術を発展させられるようなハンドリングゲームや予備ゲームを取り入れていく。つまり技術、戦術を個別に取り出して練習するのではなく、常にゲームを意識して、ゲーム形式の中で実際に体を動かして学習してもらいたいと考えている。また参加者の意見を積極的に出してほしい、有効なゲームの進め方について考える場にしたいと思っている。</p> <p>[受講者への要望]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 遅刻はしないようにする。特にチームで行動するので他人に迷惑がかかる。 2. 服装はスポーツのできるものを身につけること。 3. アクセサリー、ピアスは外すこと。 		<ol style="list-style-type: none"> 1. 積極的にボールを奪う守備 2. ビルドアップ。 3. CFを使った崩し。 4. サイドでの有効な突破 5. 攻撃的に進めながらカウンターを受けない守備 6. カウンターアタック 7. 高い位置でのプレッシャー 8. プレッシャーの中でのフィニッシュ。 9. チームごとの課題練習。リーグ戦①。 10. リーグ戦② 11. リーグ戦③ 12. リーグ戦④ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
		授業への出席を重視する。加えて参加態度、意欲などを加味する。実技試験、レポートなどを課す場合もある。	

全カリ (春) 外共	スポーツ・レクリエーション (サッカーa) 体育Ⅰ・Ⅱ (通年)	担当者	松原 裕
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] 運動を通じて、第1番目には、目の前に展開する事象への多面的な理解と適切な対応の選択、第2番目には、集団行動での基本的なルールを尊重した上で個人個人が積極的に授業参加する態度の育成、第3番目には、生涯に渡る健康観の構築、第4番目には、定期的に運動する習慣の獲得を目標とする。</p> <p>[講義概要] サッカーを教材とする。サッカーの攻守の切替の中で自然に瞬間的な判断と行動を繰り返し行い、身に付ける。サッカーの試合のルールを十分に理解し、プレーヤーとして、審判として、コーディネーターとして、と関係する役割全てを交代で行う。基本的なことから試合までをビルドアップしていく。</p> <p>[受講者への要望] フェアな態度、団体行動、試してみる勇氣。 各自でサッカーにふさわしいシューズと服装を用意すること。</p>		<p>1 オリエンテーション 個人票の作成 授業実施上の諸注意</p> <p>2 受講決定の確認と個人票の写真提出 トレーニングルームの講習と登録 授業実施場所の確認</p> <p>3 ボールコントロール</p> <p>4 簡易のゲーム</p> <p>5 〃</p> <p>6 競技規則、審判法の理解</p> <p>7 正規のゲーム</p> <p>8 〃</p> <p>9 ポジションの理解</p> <p>10 正規のゲーム</p> <p>11 〃</p> <p>12 〃</p> <p>*コートが使用できない場合には、教室にて講義を行うか場所を変更して実技を行う。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて紹介する。		毎時間の出欠席、受講態度、期間中の技術の向上度などを総合して評価する。	

全カリ (秋) 外共	スポーツ・レクリエーション (サッカーb) 体育Ⅰ・Ⅱ (通年)	担当者	松原 裕
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] 運動を通じて、第1番目には、目の前に展開する事象への多面的な理解と適切な対応の選択、第2番目には、集団行動での基本的なルールを尊重した上で個人個人が積極的に授業参加する態度の育成、第3番目には、生涯に渡る健康観の構築、第4番目には、定期的に運動する習慣の獲得を目標とする。</p> <p>[講義概要] サッカーを教材とする。チームとしての攻守の切替の中で自然に個人の瞬間的な判断と行動を繰り返し行い身に付ける。レベルに応じてサッカーの試合の楽しみ方を考える。プレーヤーとして、審判として、コーディネーターとして、と関係する役割全てを交代で行う。基本的なことから試合の進め方までをビルドアップしていく。</p> <p>[受講者への要望] フェアな態度、団体行動、試してみる勇氣。 各自でフットサルにふさわしいシューズと服装を準備すること。</p>		<p>1 オリエンテーション 個人票の作成</p> <p>2 受講決定の確認 個人票の写真提出</p> <p>3 簡易のゲーム</p> <p>4 班分け・班別練習</p> <p>5 リーグ戦①</p> <p>6 リーグ戦②</p> <p>7 リーグ戦③</p> <p>8 リーグ戦④</p> <p>9 リーグ戦⑤</p> <p>10 リーグ戦⑥</p> <p>11 リーグ戦⑦</p> <p>12 リーグ戦⑧</p> <p>*コートが使用できない場合には、教室にて講義を行うか場所を変更して実技を行う。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて紹介する。		毎時間の出欠席、受講態度、期間中の技術の向上度などを総合して評価する。	

全カリ (春) 外共	スポーツ・レクリエーション (サッカーa) 体育Ⅰ・Ⅱ (通年)	担当者	松本 光弘
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] サッカーの技術、戦術を中心に学習し、ゲームを通して活動量を確保し体力の向上を目標とする。内容的にはより高度なレベルを追求したく、サッカーが特に得意又は好きという学生の参加を希望する。又、自主的にチームを作り活動ができるよう主体的な学習ができるようになることも目標とする。</p> <p>[講義概要] サッカーの技術及び戦術を各時間学習し、そのまとめとして毎時間ゲームを行う。雨天時には体育館でミニサッカーを行うか、教室にてVTRを利用した講義を行う。</p> <p>[受講者への要望] ゴム底のスパイクシューズ、ストッキング、ショートパンツの用意を希望する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 体力測定、技能測定、簡単なゲーム 3 技術練習とハーフゲーム 4 〃 5 〃 6 ルールの解説 (雨天時に割り当てる) 7 個人戦術とハーフゲーム又はフルゲーム 8 〃 9 〃 10 グループ戦術とハーフゲーム又はフルゲーム 11 〃 12 サッカーの歴史 (雨天時に割り当てる) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>[テキスト]「サッカースキル (技術と戦術)」松本光弘著 学習研究社「サッカーのテクニック」スピンドラー著 松本光弘訳 ベースボールマガジン社[参考文献] 『イングランド・サッカー教程』アラン・ウェイド著 浅見俊雄訳ベースボールマガジン社</p>		出席状況を重視し、平常の授業態度及び技能の進歩度を含め総合的に評価する。	

全カリ (秋) 外共	スポーツ・レクリエーション (サッカーb) 体育Ⅰ・Ⅱ (通年)	担当者	松本 光弘
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] サッカーの技術、戦術を中心に学習し、ゲームを通して活動量を確保し体力の向上を目標とする。内容的にはより高度なレベルを追求したく、サッカーが特に得意又は好きという学生の参加を希望する。又、自主的にチームを作り活動ができるよう主体的な学習ができるようになることも目標とする。</p> <p>[講義概要] サッカーの技術及び戦術を各時間学習し、そのまとめとして毎時間ゲームを行う。雨天時には体育館でミニサッカーを行うか、教室にてVTRを利用した講義を行う。</p> <p>[受講者への要望] ゴム底のスパイクシューズ、ストッキング、ショートパンツの用意を希望する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 グループ戦術とハーフゲーム又はフルゲーム 2 〃 3 〃 4 特殊戦術とフルゲーム 5 〃 6 グループ戦術、チーム戦術とフルゲーム 7 〃 8 〃 9 〃 10 〃 11 〃 12 フルゲーム、評価 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>[テキスト]「サッカースキル (技術と戦術)」松本光弘著 学習研究社「サッカーのテクニック」スピンドラー著 松本光弘訳 ベースボールマガジン社[参考文献] 『イングランド・サッカー教程』アラン・ウェイド著 浅見俊雄訳ベースボールマガジン社</p>		出席状況を重視し、平常の授業態度及び技能の進歩度を含め総合的に評価する。	

全カリ (春) 外共	スポーツ・レクリエーション (スポーツエクササイズ a) 体育 I・II (通年)	担当者	梶野 克之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>心身ともに健康な生涯を送るためには、積極的な身体運動が必要な時代を向かえている。日常生活の中に能動的な活動を取り入れる態度を養い、健康な生活を視野に入れた考え方を確立したい。健康であるための条件である運動・食事・環境なども考え、適正な運動量を設定して実行できるようにする。</p> <p>自己の体力の現状を認識し、その段階的な向上を目標にトレーニング・プログラムを作成する。目標を設定して定期的に行い、全体的な体力について考える。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、年間授業計画の説明、実施上の注意 2. トレーニングルームの使い方 体力測定について 3. トレーニングの理論と実践 筋力について (1) 4. トレーニングの理論と実践 筋力について (2) 5. トレーニングの理論と実践 筋力について (3) 6. トレーニングの理論と実践 最大酸素摂取量について (1) 7. トレーニングの理論と実践 最大酸素摂取量について (2) 8. トレーニングの理論と実践 最大酸素摂取量について (3) 9. トレーニングの理論と実践 筋持久性について (1) 10. トレーニングの理論と実践 筋持久性について (2) 11. トレーニングの理論と実践 筋持久性について (3) 12. トレーニングの理論と実践 体力測定及び評価 	
テキスト、参考文献		評価方法	
宮下充正『トレーニングの科学的基礎』 ブックハウス HD		授業への参加態度、トレーニングの達成度等により決定する。	

全カリ (秋) 外共	スポーツ・レクリエーション (スポーツエクササイズ b) 体育 I・II (通年)	担当者	梶野 克之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>心身ともに健康な生涯を送るためには、積極的な身体運動が必要な時代を向かえている。日常生活の中に能動的な活動を取り入れる態度を養い、健康な生活を視野に入れた考え方を確立したい。健康であるための条件である運動・食事・環境なども考え、適正な運動量を設定して実行できるようにする。</p> <p>自己の体力の現状を認識し、その段階的な向上を目標にトレーニング・プログラムを作成する。目標を設定して定期的に行い、全体的な体力について考える。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. トレーニングの理論と実践 食事について (1) 2. トレーニングの理論と実践 食事について (2) 3. トレーニングの理論と実践 食事について (3) 4. トレーニングの理論と実践 体力測定および評価 5. トレーニングの理論と実践 心拍数について (1) 6. トレーニングの理論と実践 心拍数について (2) 7. トレーニングの理論と実践 心拍数について (3) 8. トレーニングの理論と実践 歩行について (1) 9. トレーニングの理論と実践 歩行について (2) 10. トレーニングの理論と実践 ジョギングについて (1) 11. トレーニングの理論と実践 ジョギングについて (2) 12. トレーニングの理論と実践 体力測定および評価 	
テキスト、参考文献		評価方法	
宮下充正『トレーニングの科学的基礎』 ブックハウス HD		授業への参加態度、トレーニングの達成度等により決定する。	

全カリ (春) 外共	スポーツ・レクリエーション (ソフトボール a) 体育 I・II (通年)	担当者	池垣 功一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] 正しいソフトボールの理解と、技術を体得するとともに、チームプレーを通して人間性を養う機会とし、さらに、生涯体育の一環として、楽しく実践していく態度を身につける。</p> <p>[講義概要] 前半は個人技術中心の練習内容とし、後半からチームを編成して、チームごとの練習ならびに試合に移る。</p> <p>[受講者への要望] 雨天時およびグラウンド・コンディションの悪い時には、教室内でのビデオによる学習または空いている体育施設での実施に切り替えることがある。</p>		<p>1 年間スケジュールおよび履修上の諸注意 ソフトボールの特質、ルール等について説明</p> <p>2 キャッチボール (ソフトボールに適したボールの握り方、フォーム) ピッチング (スリングショット投法)</p> <p>3 ピッチング (スリングショット投法の復習および ウインドミル投法) トスバッティング</p> <p>4 ピッチング (各種投法の復習) ハーフバッティング</p> <p>5 守備練習 (基本的なゴロと飛球の捕り方) フリーバッティング</p> <p>6 守備練習 (各ポジションの守備方法) シートノック</p> <p>7 ベースランニングとスライディングの練習 バント練習 (内野手の連携プレー)</p> <p>8 シートノックによる守備練習 (ダブルプレーの練習) ゲーム形式のバッティング練習</p> <p>9 審判の方法についての説明 チームの編成 (1) (ポジション・打順を決める) 練習試合</p> <p>10 チーム練習 (試合前の、シートノック) 試合 A~B、C~D</p> <p>11 チーム練習 (トスバッティング) 試合 A~C、B~D</p> <p>12 チーム練習 (バント) 試合 A~D、B~C</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
		評価は、出席点に技能点 (態度・努力・服装等) を加味して行なう。	

全カリ (秋) 外共	スポーツ・レクリエーション (ソフトボール b) 体育 I・II (通年)	担当者	池垣 功一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] 正しいソフトボールの理解と、技術を体得するとともに、チームプレーを通して人間性を養う機会とし、さらに、生涯体育の一環として、楽しく実践していく態度を身につける。</p> <p>[講義概要] 試合を主とした展開となるが、適宜、チームごとにテーマを決めたチーム練習を加える。</p> <p>[受講者への要望] 雨天時およびグラウンド・コンディションの悪い時には、教室内でのビデオによる学習または空いている体育施設での実施に切り替えることがある。</p>		<p>1 総合的練習 (1) 審判方法の復習</p> <p>2 総合的練習 (2) スコアブックのつけ方についての説明</p> <p>3 チーム編成 (2) (以下、各々試合 3 回ごとに編成をかえる) 練習試合</p> <p>4 チーム練習 (毎週、チームごとにテーマを決めて実施する。以下同じ) 試合 E~F、G~H</p> <p>5 チーム練習 試合 E~G、F~H</p> <p>6 チーム練習 試合 E~H、F~G</p> <p>7 チーム編成 (3) チーム練習 試合 I~J、K~L</p> <p>8 チーム練習 試合 I~K、J~L</p> <p>9 チーム練習 試合 I~L、J~K</p> <p>10 チーム編成 (4) チーム練習 試合 M~N、O~P</p> <p>11 チーム練習 試合 M~O、N~P</p> <p>12 チーム練習 試合 M~O、N~P</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
		評価は、出席点に技能点 (態度・努力・服装等) を加味して行なう。	

全カリ (春) 外共	スポーツ・レクリエーション (ソフトボール a) 体育 I・II (通年)	担当者	太田 朝博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] ソフトボールは、走る、投げる、打つ等の運動の基本的要素を持ち、スピード、正確さ、力、機敏さ、注意力、判断力、勇気等を基礎としたスポーツである。その基本技術を身につけ、互いに協力し合い、安全にスポーツを楽しみながら、体力の維持、増進の一助とすることを目標に行なう。</p> <p>[講義概要] 個人的技能と集団的技能を交互に繰り返し、正しいスローイング、バッティング、キャッチングを身につけ、チームプレーに於ける連携プレーの習得を目指し授業を展開し、ゲームを通し攻守のプレーを個々に確認していく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 個人的技能 基本技能 キャッチング 3 スローイング 1対1での正確な技能の修得 バッティング ノックとトスバッティング 4 フリーバッティング 正確なキャッチングと スローイング、バッティングをしっかり身につける 5 ピッチング 6 集団的技能 連携プレー攻撃=バント及び ヒットエンドラン 7 タッチアッププレー守備=フォースプレー 8 ダブルプレーバントの処理と各野手の動き 9 カバーリング あらゆるプレーに対する フォーメーション 10 ルールの解説とスコアのつけ方 (ワンプレーに対する判定法) 11 簡易ゲーム 簡易なゲームを通し事前に練習した プレーの確認とルールの習得。 12 簡易ゲーム 簡易なゲームを通し事前に練習した プレーの確認とルールの習得。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出席点を中心に、授業態度、技能の進歩などを加味し、総合的に評価する。・個人的技能 (捕球、送球、遠投)・ゲーム結果 (集団、個人技能) 欠席時数4回以上の者は、評価の対象としない。	

全カリ (秋) 外共	スポーツ・レクリエーション (ソフトボール b) 体育 I・II (通年)	担当者	太田 朝博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] ソフトボールは、走る、投げる、打つ等の運動の基本的要素を持ち、スピード、正確さ、力、機敏さ、注意力、判断力、勇気等を基礎としたスポーツである。その基本技術を身につけ、互いに協力し合い、安全にスポーツを楽しみながら、体力の維持、増進の一助とすることを目標に行なう。</p> <p>[講義概要] 個人的技能と集団的技能を交互に繰り返し、正しいスローイング、バッティング、キャッチングを身につけ、チームプレーに於ける連携プレーの習得を目指し授業を展開し、ゲームを通し攻守のプレーを個々に確認していく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 個人技能 ゲーム ・個々の技量を考えチーム間の 力量の差が大きくなるようにチーム編成し、 リーグ戦を行なう。集団技能の反復練習 2 キャッチボールトス、フリーバッティングピッチング・ 簡単なスコアをつけ個々の成績 (打率、盗塁、打点 など)を集計し成績を出し、技能を競い合う 3 // 4 // 5 // 6 // 7 // 8 // 9 // 10 // 11 // 12 // 	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出席点を中心に、授業態度、技能の進歩などを加味し、総合的に評価する。・個人的技能 (捕球、送球、遠投)・ゲーム結果 (集団、個人技能) 欠席時数4回以上の者は、評価の対象としない。	

全カリ (春) 外共	スポーツ・レクリエーション (ソフトボール a) 体育 I・II (通年)	担当者	萩野 元祐
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] 基本的練習により、個人的技能、集団的技能を高め、より高いゲーム展開ができることを目指す。またそのなかで、ソフトボールを楽しむということも目標のひとつである。</p> <p>[講義概要] 初心者から中級者に合わせる内容であり、個人的技能、集団的技能練習の内容は、基本練習中心で展開される。また、ゲームを通して、ソフトボールの特性や、技術、戦術を高める。</p> <p>[受講者への要望] 技術力はともかくとして、ソフトボールに興味があり真剣に取り組み、そして楽しんでもらいたい。</p>		<p>1 オリエンテーション 登録の確認と授業内容の説明。個人資料の作成など。</p> <p>2 ソフトボールの特性、基本的ルールなどの説明。個人的技能練習。ボールの握り方、送球、捕球の基本練習</p> <p>3 前回の復習 ゲームの実施</p> <p>4 バッティング練習 (握り方、スタンス、位置、構え方、スイング) リーグ戦</p> <p>5 前回の復習。リーグ戦</p> <p>6 リーグ戦</p> <p>7 守備における送球、捕球 (ゴロ、フライ) 練習 リーグ戦</p> <p>8 前回の復習 リーグ戦</p> <p>9 リーグ戦</p> <p>10 リーグ戦</p> <p>11 リーグ戦</p> <p>12 リーグ戦</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出席点を基本として評価。授業態度、技術の向上などを加味する。欠席時数 1/3 回以上の者については評価の対象としない。特別な理由以外の遅刻は認めない。	

全カリ (秋) 外共	スポーツ・レクリエーション (ソフトボール b) 体育 I・II (通年)	担当者	萩野 元祐
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] 基本的練習により、個人的技能、集団的技能を高め、より高いゲーム展開ができることを目指す。またそのなかで、ソフトボールを楽しむということも目標のひとつである。</p> <p>[講義概要] 初心者から中級者に合わせる内容であり、個人的技能、集団的技能練習の内容は、基本練習中心で展開される。また、ゲームを通して、ソフトボールの特性や、技術、戦術を高める。</p> <p>[受講者への要望] 技術力はともかくとして、ソフトボールに興味があり真剣に取り組み、そして楽しんでもらいたい。</p>		<p>1 基本練習。 リーグ戦</p> <p>2 基本練習。 リーグ戦</p> <p>3 集団技能 (守備)、リレープレーを練習。 リーグ戦</p> <p>4 前回の復習。 リーグ戦</p> <p>5 リーグ戦</p> <p>6 リーグ戦</p> <p>7 リーグ戦</p> <p>8 リーグ戦</p> <p>9 リーグ戦</p> <p>10 リーグ戦</p> <p>11 リーグ戦</p> <p>12 リーグ戦</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出席点を基本として評価。授業態度、技術の向上などを加味する。欠席時数 1/3 回以上の者については評価の対象としない。特別な理由以外の遅刻は認めない。	

全カリ (春) 外共	スポーツ・レクリエーション (卓球 a) 体育 I・II (通年)	担当者	奥野 忠枝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標]</p> <p>卓球という球技をとおして、技術の向上はもとより、ゲームをたのしみながら、ルール、試合方法、審判法を学ぶ。ダブルス競技においては、チームワークを体験することによって、協力の態度を養う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 授業登録の確認 授業内容の説明と諸注意 個人資料の作成 2 競技場と用具について (準備と片付け方) ラケットの種類、持ち方 3 ボールの打ち方 ラリーの連続を行う。 ミニ試合 4 サービス、レシーブの練習 ミニ試合 5 バックハンド フォアハンドの練習 シングルの試合方法と試合 6 サービスについて ボールの回転と ラケットの動きを練習 シングルス試合 7 審判法について学ぶ 8 ダブルス競技のルールを学ぶ ダブルスミニ試合 9 グループでリーグ戦形式のダブルス試合 10 上記に同じ 11 シングルス試合 12 まとめ シングルス試合 	
テキスト、参考文献		評価方法	
		評価は出席点を重視し、平素の授業態度、技能の進歩を加味し実施する。欠席はできるだけ届け出ること。	

全カリ (秋) 外共	スポーツ・レクリエーション (卓球 b) 体育 I・II (通年)	担当者	奥野 忠枝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標]</p> <p>卓球という球技をとおして、技術の向上はもとより、ゲームをたのしみながら、ルール、試合方法、審判法を学ぶ。ダブルス競技においては、チームワークを体験することによって、協力の態度を養う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 復習 基本の動き シングルス試合。 2 カットについて学ぶ シングルス試合 3 マナーについて 悪いマナー 良いマナー 4 ダブルスの作戦とパートナーとの動きについて 5 グループでダブルスの試合 6 上に同じ 7 上に同じ 8 上に同じ 9 シングルのトーナメント試合 10 シングルス ダブルスにわかれて試合 11 総復習 12 総復習と反省 	
テキスト、参考文献		評価方法	
		評価は出席点を重視し、平素の授業態度、技能の進歩を加味し実施する。欠席はできるだけ届け出ること。	

全カリ (春) 外共	スポーツ・レクリエーション (卓球 a) 体育 I・II (通年)	担当者	本田 稔祐
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] 敏捷性・集中力を養い、基本技術を習得して、簡単なルール、審判、ゲームの進め方などを学び、将来も卓球を通じて、社会生活を豊かにし、健康の維持増進にも貢献できること。</p> <p>[講義概要] 基本的練習や簡易ゲームで能力別グループ編成をして、シングルス、ダブルスゲームを通して、卓球の面白さや、卓球についての知識も習得する。</p> <p>[受講者への要望] 授業の前日は早寝、当日は早起をして コンディションを整えて出席するように、欠席・遅刻はその理由を届けてもらう。服装は運動服、上靴を用意し動きやすくする。初心者はフォームだけでもしっかりマスターして少しでも上達するように。尚ラケットは個人で用意することが望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 授業内容の説明と個人資料カード作成 (写真を必ず用意すること) 2 用具の準備、片付けの仕方と基本知識、動作などについて 3 能力別グループ編成と、初心者は、構え、スイング フットワークなどの基本練習 4 サーブ・レシーブ 簡易ゲーム 5 フォアハンドロング・バックハンドショート 簡易ゲーム 6 バックハンドロング・ショートカット 能力別シングルスゲーム 7 カット・スマッシュ・シングルスゲーム 8 ダブルスゲームの進め方・シングルスゲームとの違い ダブルスゲーム 9 ダブルスゲーム パートナーと動きを考える 10 ダブルスゲーム 11 シングルス・トーナメント戦 12 シングルス・トーナメント戦 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『指導者のための卓球』 I、II、III、 倉木常夫他著 不昧堂出版 他		出席点、平常点、技能点、の3つで行う。(出席点は、無欠席は特A、欠席1回A、欠席2回B、欠席3回C、欠席4回以上はFとする。平常点は遅刻、服装などで行い、特に服装の悪い者、上靴の用意のない者は「やる気」に欠けるとして減点する。技能点は進歩の度合で行う)	

全カリ (秋) 外共	スポーツ・レクリエーション (卓球 b) 体育 I・II (通年)	担当者	本田 稔祐
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] 敏捷性・集中力を養うとともに、基本技術を応用して、ルール、審判、ゲームの進め方などを学び、将来も卓球を通じて、社会生活を豊かにし、健康の維持増進にも貢献できること。</p> <p>[講義概要] シングルスゲームで能力別グループ編成をして、シングルス、ダブルスゲームをはじめ、団体戦なども行い、卓球の面白さや、卓球についての知識も習得する。</p> <p>[受講者への要望] 授業の前日は早寝、当日は早起をして コンディションを整えて出席するように、欠席・遅刻はその理由を届けてもらう。服装は運動服、上靴を用意し動きやすくする。初心者はフォームだけでもしっかりマスターして少しでも上達するように。尚ラケットは個人で用意することが望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 チーム編成とチーム内シングルスリーグ戦 2 キャップ・マネージャーなどの選出とシングルスリーグ戦。 3 チーム対抗戦1 4 チーム対抗戦2 5 チーム対抗戦3 6 チーム対抗戦4 7 抽選によるシングルス・予選リーグ戦 8 シングルス・予選リーグ戦 9 決勝リーグ戦 10 決勝リーグ戦 11 シングルス・トーナメント戦 12 技能テスト 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『指導者のための卓球』 I、II、III、 倉木常夫他著 不昧堂出版 他		出席点、平常点、技能点、の3つで行う。(出席点は無欠席特A、欠席1回A、欠席2回B、欠席3回C、欠席4回以上はFとする。平常点は遅刻、服装などで行い、特に服装の悪い者、上靴の用意のない者は「やる気」に欠けるとして減点する。技能点は進歩の度合で行う)	

全カリ (春) 外共	スポーツ・レクリエーション (バスケットボール a) 体育 I・II (通年)	担当者	勝瀬 武
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] 体育実技は実習であるから積極的に参加し、自ら活動する意欲をもって、体力の維持増進に努めてもらいたい。また、バスケットボールの授業を通して、社会性、協調性、公正な判断やルールを遵守する態度を学んでほしい。</p> <p>[講義概要] バスケットボールのルールを正確に把握し、基本技術を習得することによって、楽しくゲームが出来るようにする。また、ゲーム時には、各チームから審判、得点係等を出し、試合の進行を助け合う。個人のレベルアップとともに試合運び等を研究し、チーム全体の技術の向上を目標に努力する。</p> <p>[受講者への要望] バスケットボールを行うのにふさわしい服装で出席すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 基本練習 (パス、ドリブル、ドリブルシュート、ランニングシュート、セットシュート) 3. 基本練習 (パス、ドリブル、ドリブルシュート、ランニングシュート、セットシュート) 4. セットオフense (ハーフコートにおける 3対2) 5. セットディフェンス (ハーフコートにおける 5対5) 6. オールコートにおける試合 (班分けをする) 7. オールコートにおける試合 (班分けをする) 8. リーグ戦開始 (試合に際して、各チームとも審判、オフィシャルの勉強をしてもらう) 9. リーグ戦開始 (試合に際して、各チームとも審判、オフィシャルの勉強をしてもらう) 10. リーグ戦開始 (試合に際して、各チームとも審判、オフィシャルの勉強をしてもらう) 11. リーグ戦開始 (試合に際して、各チームとも審判、オフィシャルの勉強をしてもらう) 12. リーグ戦開始 (試合に際して、各チームとも審判、オフィシャルの勉強をしてもらう) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出席、受講態度を重視し、欠席回数が授業時数の1/3を超した者は不合格とする。	

全カリ (秋) 外共	スポーツ・レクリエーション (バスケットボール b) 体育 I・II (通年)	担当者	勝瀬 武
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] 体育実技は実習であるから積極的に参加し、自ら活動する意欲をもって、体力の維持増進に努めてもらいたい。また、バスケットボールの授業を通して、社会性、協調性、公正な判断やルールを遵守する態度を学んでほしい。</p> <p>[講義概要] バスケットボールのルールを正確に把握し、基本技術を習得することによって、楽しくゲームが出来るようにする。また、ゲーム時には、各チームから審判、得点係等を出し、試合の進行を助け合う。個人のレベルアップとともに試合運び等を研究し、チーム全体の技術の向上を目標に努力する。</p> <p>[受講者への要望] バスケットボールを行うのにふさわしい服装で出席すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 リーグ戦前の予備試合 (リーグのためにチームの再編成) 2 リーグ戦前の予備試合 (リーグのためにチームの再編成) 3 リーグ戦開始 (試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める) 4 リーグ戦 (試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める) 5 リーグ戦 (試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める) 6 リーグ戦 (試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める) 7 リーグ戦 (試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める) 8 リーグ戦 (試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める) 9 リーグ戦 (試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める) 10 リーグ戦の成績により、順位決定戦を行う。 11 リーグ戦の成績により、順位決定戦を行う。 12 リーグ戦の成績により、順位決定戦を行う。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出席、受講態度を重視し、欠席回数が授業時数の1/3を超した者は不合格とする。	

全カリ (春) 外共	スポーツ・レクリエーション (バスケットボール a) 体育 I・II (通年)	担当者	蓬郷 尚代
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] バスケットボールの競技特性を理解し、ゲームを通して集団競技の楽しさを味わい、スポーツへの関心を高めることをねらいとする。また、学年・クラスの枠を越えてチームを編成し、チームを意識しながら技術・戦術ともに上達することを目標とする。</p> <p>[講義概要] 個人技能だけでなく、チームの中における自分の役割を見いだすことでチームへ貢献することができる。ゲームが円滑に進行するよう、各チームから審判・オフィシャルなどを出しゲームの進行も学ぶ。</p> <p>[受講者への要望] バスケットボールを行うのにふさわしい服装・身なりで出席すること。知識の有無、技能レベルに関係なく積極的に授業に参加してほしい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 基本練習 (パス、ドリブル、ドリブルシュート、ランニングシュート、セットシュート) 3. 基本練習 (パス、ドリブル、ドリブルシュート、ランニングシュート、セットシュート) 4. オーバーナンバーの攻め方 (ハーフコートにおける 3対2) 5. マンツーマンディフェンス (ハーフコートにおける 5対5) 6. オールコートにおける試合 7. オールコートにおける試合 8. リーグ戦開始 (試合に際して、各チームとも審判、オフィシャルの勉強をしてもらう) 9. リーグ戦開始 (試合に際して、各チームとも審判、オフィシャルの勉強をもらう) 10. リーグ戦開始 (試合に際して、各チームとも審判、オフィシャルの勉強をもらう) 11. リーグ戦開始 (試合に際して、各チームとも審判、オフィシャルの勉強をもらう) 12. リーグ戦開始 (試合に際して、各チームとも審判、オフィシャルの勉強をもらう) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出席、受講態度を重視して評価する。2/3以上の出席で評価対象とし、遅刻は減点の対象となるので注意すること。	

全カリ (秋) 外共	スポーツ・レクリエーション (バスケットボール b) 体育 I・II (通年)	担当者	蓬郷 尚代
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] バスケットボールの競技特性を理解し、ゲームを通して集団競技の楽しさを味わい、スポーツへの関心を高めることをねらいとする。また、学年・クラスの枠を越えてチームを編成し、チームを意識しながら技術・戦術ともに上達することを目標とする。</p> <p>[講義概要] 個人技能だけでなく、チームの中における自分の役割を見いだすことでチームへ貢献することができる。ゲームが円滑に進行するよう、各チームから審判・オフィシャルなどを出しゲームの進行も学ぶ。</p> <p>[受講者への要望] バスケットボールを行うのにふさわしい服装・身なりで出席すること。知識の有無、技能レベルに関係なく積極的に授業に参加してほしい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 リーグ戦前の予備試合 (リーグのためにチームの再編成) 2 リーグ戦前の予備試合 (リーグのためにチームの再編成) 3 リーグ戦開始 (試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める) 4 リーグ戦 (試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める) 5 リーグ戦 (試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める) 6 リーグ戦 (試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める) 7 リーグ戦 (試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める) 8 リーグ戦 (試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める) 9 リーグ戦 (試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める) 10 リーグ戦の成績により、順位決定戦を行う。 11 リーグ戦の成績により、順位決定戦を行う。 12 リーグ戦の成績により、順位決定戦を行う。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出席、受講態度を重視して評価する。2/3以上の出席で評価対象とし、遅刻は減点の対象となるので注意すること。	

全カリ (春) 外共	スポーツ・レクリエーション (バドミントン a) 体育 I・II (通年)	担当者	太田 朝博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] バドミントンの特性である①性別・年齢を問わず技能レベルに応じて誰でも手軽に楽しめる生涯スポーツとして最適、②シャトルから生まれるスピードの緩急や特殊な飛び方の変化に対応するための身体的能力(敏捷性・瞬発力・全身持久力など)が必要、③空中でとらえる、空間感覚の重要性、④相手の動き、シャトルの飛び方に応じた作戦の工夫、判断力、そしてパートナーとの協調性、これらの特性を基本的なプレーの練習を通して、身につける。</p> <p>[講義概要] バドミントンに関する基本的なルールや技術について理解する。手の延長としてのラケットを使用した各種のストロークを身につける。シングルス・ダブルスの試合の実施を通して、ルールの理解とともに、ゲームの進行方法の理解を深める。ゲームの中で練習した技術が生かせるようにするとともに、試合中に生じた疑問を克服してよりレベルの高いゲームを求めていく。審判法についても理解して進んで審判をつとめるとともに、全体的な試合の進行状況にも関心を持ち、円滑な進行を心掛ける</p> <p>[受講者への要望] 毎回授業に出席し、真面目に取り組むこと。 体育館シューズを用意すること。</p>		<p>1 オリエンテーション、年間授業計画の説明、次回から開始する実技実施上の諸注意ならびに連絡事項の確認。</p> <p>2 バドミントンの全般的な説明を行なう。 コート、ラケット、シャトル等についての説明。基本的なグリップと素振りを行ない、ストロークの基本を学ぶ</p> <p>3 基本的技術ストローク・オーバーヘッド (バック、フォア)・サイドアーム (フォア、バック) アンダーハンド (フォア、バック)</p> <p>4 基本的技術〇フットワーク前後、左右フライトの理解 ラケットワークとフライト (クリアー・ドライブ)</p> <p>5 身につけた技術を実際のゲームで使えるようにする。 〇ロングサービス〇ショートサービス (フォア・バック) 〇ショートサービスに対する対応 (プッシュ) 〇基本的技術の復習</p> <p>6 "</p> <p>7 "</p> <p>8 〇いろいろなフォーメーション 〇基本的技術の復習簡単なゲーム (シングルス) 審判法の習得</p> <p>9 前回までの復習</p> <p>10 前回までの復習</p> <p>11 前回までの復習</p> <p>12 前回までの復習</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出席点を中心に評価し授業にのぞむ態度、実技の達成度等を加味する。欠席4回以上の者に対しては、評価の対象としない。	

全カリ (秋) 外共	スポーツ・レクリエーション (バドミントン b) 体育 I・II (通年)	担当者	太田 朝博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] バドミントンの特性である①性別・年齢を問わず技能レベルに応じて誰でも手軽に楽しめる生涯スポーツとして最適、②シャトルから生まれるスピードの緩急や特殊な飛び方の変化に対応するための身体的能力(敏捷性・瞬発力・全身持久力など)が必要、③空中でとらえる、空間感覚の重要性、④相手の動き、シャトルの飛び方に応じた作戦の工夫、判断力、そしてパートナーとの協調性、これらの特性を基本的なプレーの練習を通して、身につける。</p> <p>[講義概要] バドミントンに関する基本的なルールや技術について理解する。手の延長としてのラケットを使用した各種のストロークを身につける。シングルス・ダブルスの試合の実施を通して、ルールの理解とともに、ゲームの進行方法の理解を深める。ゲームの中で練習した技術が生かせるようにするとともに、試合中に生じた疑問を克服してよりレベルの高いゲームを求めていく。審判法についても理解して進んで審判をつとめるとともに、全体的な試合の進行状況にも関心を持ち、円滑な進行を心掛ける。</p> <p>[受講者への要望] 毎回授業に出席し、真面目に取り組むこと。 体育館シューズを用意すること。</p>		<p>1 グループ別でのシングルのリーグ戦 毎回基本的技術の復習</p> <p>2 "</p> <p>3 "</p> <p>4 "</p> <p>5 "</p> <p>6 シングルの決勝リーグ戦</p> <p>7 "</p> <p>8 "</p> <p>9 ダブルスのリーグ戦</p> <p>10 "</p> <p>11 "</p> <p>12 "</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出席点を中心に評価し授業にのぞむ態度、実技の達成度等を加味する。欠席4回以上の者に対しては、評価の対象としない。	

全カリ (春) 外共	スポーツ・レクリエーション (バドミントン a) 体育 I・II (通年)	担当者	梶野 克之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ラケットとシャトルを使用してプレーするバドミントン競技を種目として取り上げ、基本的なルールや技術について理解する。</p> <p>シングルス、ダブルスの試合方法について理解して実践できるようにし、ルールの理解とともに、ゲームの進行方法の理解を深める。</p> <p>練習した技術がゲームの中で生かせるようにするとともに、試合中に生じた問題点を解決し、よりレベルの高いゲームを求めていく。審判法についても理解して、進んで審判を務めるとともに、全体的な試合の進行にも関心を持ち、円滑な進行を心掛ける。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1.年間授業計画の説明 実技実施上の諸注意 連絡事項の確認 2.バドミントン競技の全般的説明 クリヤーの基本 3.ハイクリヤーの基本練習 ドロップの基本 4.クリヤー、ドロップの復習 ヘアピンの基本 5.各種ストロークの復習 サービスの基本練習 6.片面シングルスの実施 カウント方法の確認 前後へのフットワークの基本 7.片面シングルス 審判法の理解 審判の実施 8.ドライブの基本 正規のシングルスゲーム 9.スマッシュの基本 シングルスゲーム 10. 各種ストロークの練習 ダブルスの基本 11. ダブルスのルールの理解 試合の実施と審判 12.リーグ戦の実施 	
テキスト、参考文献		評価方法	
相沢マチ子 『やさしいバドミントンレッスン』 ベースボールマガジン社		出席回数、授業への参加態度、実技の達成度等によって決定する。	

全カリ (秋) 外共	スポーツ・レクリエーション (バドミントン b) 体育 I・II (通年)	担当者	梶野 克之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ラケットとシャトルを使用してプレーするバドミントン競技を種目として取り上げ、基本的なルールや技術について理解する。</p> <p>シングルス、ダブルスの試合方法について理解して実践できるようにし、ルールの理解とともに、ゲームの進行方法の理解を深める。</p> <p>練習した技術がゲームの中で生かせるようにするとともに、試合中に生じた問題点を解決し、よりレベルの高いゲームを求めていく。審判法についても理解して、進んで審判を務めるとともに、全体的な試合の進行にも関心を持ち、円滑な進行を心掛ける。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1.基本的なストロークの復習 ダブルスの試合方法と審判法の確認 2.ダブルスの組み合わせの決定 いくつかのグループによるリーグ戦 3.ダブルスの基本的フォーメーションの確認 ゲーム中に生かす 4.ゲーム結果の分析 問題点の整理 ダブルスゲームの実施 5.ゲームの進行状況の確認 組み合わせを変えてのリーグ戦 6.ダブルスゲームの進行 課題をゲーム内で解決 7.ダブルスゲームの進行 ゲームの面白さの理解 8.ダブルスゲームの進行 高いレベルのゲーム 9.ゲームの中での課題の練習 組み合わせの変更 10.ゲームの中での課題の練習 相手プレーヤーの動きに合わせたプレーの練習 11.ゲームの進行 ゲーム・審判とも全員が実施 12.ゲームの進行 勝敗・順位について整理 	
テキスト、参考文献		評価方法	
相沢マチ子 『やさしいバドミントンレッスン』 ベースボールマガジン社		出席回数、授業への参加態度、実技の達成度等によって決定する。	

全カリ (春) 外共	スポーツ・レクリエーション (バレーボール a) 体育 I・II (通年)	担当者	小川 又八朗
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] 生涯にわたってバレーボールが楽しめるように、技能を高め、戦術を考えバレーボールの特性をゲームで味わえるようにする。</p> <p>[講義概要] バレーボールのルールを理解し、個人的及び集団的技能を習得するとともにそれらをもとにした戦術を習得し、ゲームの展開方法を学習する。</p> <p>[受講者への要望] 出席を重視するが、履修態度や運動服装等もチェックする、体育館用シューズを用意すること。</p>		<p>1 オリエンテーション 授業の登録確認と授業内容の説明、個人資料の作成。</p> <p>2 基本技と動き (アンダー オーバー)、パスゲーム 1。</p> <p>3 レシーブとトス (ボールのつなぎ)、パスゲーム 2。</p> <p>4 レシーブとカバーリング (守りのフォーメーション)、パスゲーム 3</p> <p>5 基本技と動き (アンダー フローターサーブ) サーブレシーブ 基本技と動き (スパイク) 攻撃の組立、スパイクを含んだミニゲーム 1</p> <p>6 基本技と動き (スパイク) 攻撃の組立、スパイクを含んだミニゲーム 2。</p> <p>7 チーム編成 (スターティングポジションの決定) サーブレシーブのフォーメーション サーレシーブからの攻撃の組立、スパイクを含んだゲーム。</p> <p>8 ゲーム、6 チームによるリーグ戦。</p> <p>9 上記と同じ。8 ゲーム、6 チームによるリーグ戦。</p> <p>10 上記と同じ。</p> <p>11 上記と同じ。</p> <p>12 上記と同じ。まとめテスト</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『スポーツ・人間・社会』ライナー・マートンズ ベースボール・マガジン社『人と人之間』木村敏 弘文堂 『スポーツの倫理』体育原理分科会編 不昧堂出版		出席点を中心にして評価し授業態度、技能の進歩などを加味する。欠席時数 4 回以上の者については、評価の対象としない。交通機関及び体調等やむを得ない事由以外の遅刻は認めない。	

全カリ (秋) 外共	スポーツ・レクリエーション (バレーボール b) 体育 I・II (通年)	担当者	小川 又八朗
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] 生涯にわたってバレーボールが楽しめるように、技能を高め、戦術を考えバレーボールの特性をゲームで味わえるようにする。</p> <p>[講義概要] バレーボールのルールを理解し、個人的及び集団的技能を習得するとともにそれらをもとにした戦術を習得し、ゲームの展開方法を学習する。</p> <p>[受講者への要望] 出席を重視するが、履修態度や運動服装等もチェックする、体育館用シューズを用意すること。</p>		<p>1 チーム編成 (スターティングポジションと攻守のフォーメーション)。</p> <p>2 上記と同じ。</p> <p>3 サーブレシーブからの攻撃の組立、スパイクを含んだゲーム。</p> <p>4 上記と同じ。</p> <p>5 スパイクレシーブのフォーメーション、スパイクを含んだゲーム。ゲーム (リーグ戦) 記録、チーム (特に攻撃スパイク サーブ)</p> <p>6 上記と同じ。</p> <p>7 上記と同じ。</p> <p>8 ゲーム (リーグ戦) 記録、チーム (特に守りレシーブ ブロック)。</p> <p>9 上記と同じ。</p> <p>10 ゲーム (リーグ戦) 記録、攻撃の組立能力、ゲームの評価と練習課題。</p> <p>11 上記と同じ</p> <p>12 ゲームの攻防を通して攻撃貢献度をテストする。ルールやセオリー審判法など知的理解度をテストする。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『スポーツ・人間・社会』ライナー・マートンズ ベースボール・マガジン社『人と人之間』木村敏 弘文堂 『スポーツの倫理』体育原理分科会編 不昧堂出版		出席点を中心にして評価し授業態度、技能の進歩などを加味する。欠席時数 4 回以上の者については、評価の対象としない。交通機関及び体調等やむを得ない事由以外の遅刻は認めない。	

全カリ (春) 外共	スポーツ・レクリエーション (バレーボール a) 体育 I・II (通年)	担当者	小山 さなえ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標]</p> <p>生涯にわたってバレーボールが楽しめるように、基礎的技術を構成するパス、サーブ、スパイク等の個人的技術と、レシーブフォーメーションやアタックフォーメーション等の集団技術の習得をはかり、ゲームを通してその実践能力を高める。 グループ学習により、お互いに協力し自己の責務を全うする態度を養う。</p> <p>[受講者への要望]</p> <p>自己の健康管理を含めた出席を重視するが、授業態度や運動服装などもチェックする。 バレーボールにふさわしい服装、シューズで授業に参加すること。</p>		<p>1 オリエンテーション 授業の登録確認と授業内容の説明、 個人資料の作成。</p> <p>2 基本技術と動き (アンダーハンドパス、 オーバーハンドパス) 試しのゲーム</p> <p>3 アンダーハンドサーブ、レシーブ 試しのゲーム 個人のレシーブ練習 (マンツーマン) スパイク練習</p> <p>5 様々な打ち方によるサーブ練習 試しのゲーム</p> <p>6 サーブレシーブフォーメーション アタックレシーブフォーメーション バレーボールのルールやゲーム運営法</p> <p>7 チーム編成</p> <p>8 ゲーム、チームによるリーグ戦</p> <p>9 //</p> <p>10 //</p> <p>11 //</p> <p>12 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業時に紹介する。		出席状況、授業態度を中心とし、技術の習熟度なども加味して総合的に評価する。	

全カリ (秋) 外共	スポーツ・レクリエーション (バレーボール b) 体育 I・II (通年)	担当者	小山 さなえ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標]</p> <p>生涯にわたってバレーボールが楽しめるように、基礎的技術を構成するパス、サーブ、スパイク等の個人的技術と、レシーブフォーメーションやアタックフォーメーション等の集団技術の習得をはかり、ゲームを通してその実践能力を高める。 グループ学習により、お互いに協力し自己の責務を全うする態度を養う。</p> <p>[受講者への要望]</p> <p>自己の健康管理を含めた出席を重視するが、授業態度や運動服装などもチェックする。 バレーボールにふさわしい服装、シューズで授業に参加すること。</p>		<p>1 チーム編成</p> <p>2 グループ練習</p> <p>3 サーブレシーブフォーメーションとゲーム。</p> <p>4 //</p> <p>5 スパイクレシーブフォーメーションとゲーム。</p> <p>6 //</p> <p>7 ゲーム (リーグ戦) ルールやゲームの運営法、さらにはゲーム内容の 分析法を学習する。</p> <p>8 //</p> <p>9 //</p> <p>10 //</p> <p>11 //</p> <p>12 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業時に紹介する。		出席状況、授業態度を中心とし、技術の習熟度なども加味して総合的に評価する。	

全カリ (春) 外共	スポーツ・レクリエーション (フットサル a) 体育 I・II (通年)	担当者	檜山 康
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標]</p> <p>スポーツには、歴史的、系統的に発展してきた種目独自の運動文化が存在する。運動文化としてのルール、戦術、それらを取りまく社会環境というものは、人間が長い歴史の中で試行錯誤を重ねながら作り上げてきた。この授業では、フットサルを学びながら、独自の運動文化に触れ、フットサル本来の楽しさに触れることを目標としたい。</p> <p>[講義概要]</p> <p>ゲームを中心に行っていくが、その準備段階において技術、戦術を発展させられるようなハンドリングゲームや予備ゲームを取り入れていく。つまり技術、戦術を個別に取り出して練習するのではなく、常にゲームを意識して、ゲーム形式の中で実際に体を動かして学習してもらいたいと考えている。また参加者の意見を積極的に出してもらい、有効なゲームの進め方について考える場にしたいと思っている。</p> <p>[受講者への要望]</p> <ol style="list-style-type: none"> 遅刻はしないようにする。特にチームで行動するので他人に迷惑がかかる。 服装はスポーツのできるものを身につけること。 アクセサリ、ピアスは外すこと。 		<ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション。 ボールに慣れること。試しのゲーム。 1対1の守備。 1対1の攻撃。 オフザボールの動き。 ボールを持っていない選手に対する守備。 パス&コントロール。 ゴール前での守備。 ゴール前での攻撃。 フルコートでのゲーム。リーグ戦。 フルコートでのゲーム。リーグ戦。 フルコートでのゲーム。リーグ戦。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
		授業への出席を重視する。加えて参加態度、意欲などを加味する。実技試験、レポートなどを課す場合もある。	

全カリ (秋) 外共	スポーツ・レクリエーション (フットサル b) 体育 I・II (通年)	担当者	檜山 康
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標]</p> <p>スポーツには、歴史的、系統的に発展してきた種目独自の運動文化が存在する。運動文化としてのルール、戦術、それらを取りまく社会環境というものは、人間が長い歴史の中で試行錯誤を重ねながら作り上げてきた。この授業では、フットサルを学びながら、独自の運動文化に触れ、フットサル本来の楽しさに触れることを目標としたい。</p> <p>[講義概要]</p> <p>ゲームを中心に行っていくが、その準備段階において技術、戦術を発展させられるようなハンドリングゲームや予備ゲームを取り入れていく。つまり技術、戦術を個別に取り出して練習するのではなく、常にゲームを意識して、ゲーム形式の中で実際に体を動かして学習してもらいたいと考えている。また参加者の意見を積極的に出してもらい、有効なゲームの進め方について考える場にしたいと思っている。</p> <p>[受講者への要望]</p> <ol style="list-style-type: none"> 遅刻はしないようにする。特にチームで行動するので他人に迷惑がかかる。 服装はスポーツのできるものを身につけること。 アクセサリ、ピアスは外すこと。 		<ol style="list-style-type: none"> 積極的にボールを奪う守備 ビルドアップ。 ピヴォを使った崩し。 サイドでの有効な突破 攻撃的に進めながらカウンターを受けない守備 カウンターアタック 高い位置でのプレッシャー プレッシャーの中でのフィニッシュ。 チームごとの課題練習。リーグ戦①。 リーグ戦② リーグ戦③ リーグ戦④ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
		授業への出席を重視する。加えて参加態度、意欲などを加味する。実技試験、レポートなどを課す場合もある。	

全カリ (春) 外共	スポーツ・レクリエーション (フットサル a) 体育 I・II (通年)	担当者	松原 裕
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] 運動を通じて、第1番目には、目の前に展開する事象への多面的な理解と適切な対応の選択、第2番目には、集団行動での基本的なルールを尊重した上で個人個人が積極的に授業参加する態度の育成、第3番目には、生涯に渡る健康観の構築、第4番目には、定期的に運動する習慣の獲得を目標とする。</p> <p>[講義概要] フットサルを教材とする。フットサルのスピーディーな攻守の切替の中で自然に瞬間的な判断と行動を繰り返し行い、身に付ける。フットサルの試合のルールを十分に理解し、プレーヤーとして、審判として、コーディネーターとして、と関係する役割全てを交代で行う。基本的なことから試合までをビルドアップしていく。</p> <p>[受講者への要望] フェアな態度、団体行動、試してみる勇氣。 各自でフットサルにふさわしいシューズと服装を用意すること。</p>		<p>1 オリエンテーション 個人票の作成 授業実施上の諸注意</p> <p>2 受講決定の確認と個人票の写真提出 トレーニングルームの講習と登録 授業実施場所の確認</p> <p>3 ボールコントロール</p> <p>4 簡易のゲーム</p> <p>5 //</p> <p>6 競技規則、審判法の理解</p> <p>7 正規のゲーム</p> <p>8 //</p> <p>9 ポジションの理解</p> <p>10 正規のゲーム</p> <p>11 //</p> <p>12 //</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて紹介する。		毎時間の出欠席、受講態度、期間中の技術の向上度などを総合して評価する。	

全カリ (秋) 外共	スポーツ・レクリエーション (フットサル b) 体育 I・II (通年)	担当者	松原 裕
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] 運動を通じて、第1番目には、目の前に展開する事象への多面的な理解と適切な対応の選択、第2番目には、集団行動での基本的なルールを尊重した上で個人個人が積極的に授業参加する態度の育成、第3番目には、生涯に渡る健康観の構築、第4番目には、定期的に運動する習慣の獲得を目標とする。</p> <p>[講義概要] フットサルを教材とする。フットサルのスピーディーな攻守の切替の中で自然に瞬間的な判断と行動を繰り返し行い、身に付ける。レベルに応じてフットサルの試合の楽しみ方を考える。プレーヤーとして、審判として、コーディネーターとして、と関係する役割全てを交代で行う。基本的なことから試合の進め方までをビルドアップしていく。</p> <p>[受講者への要望] フェアな態度、団体行動、試してみる勇氣。 各自でフットサルにふさわしいシューズと服装を準備すること。</p>		<p>1 オリエンテーション 個人票の作成</p> <p>2 受講決定の確認 個人票の写真提出</p> <p>3 簡易のゲーム</p> <p>4 班分け・班別練習</p> <p>5 リーグ戦①</p> <p>6 リーグ戦②</p> <p>7 リーグ戦③</p> <p>8 リーグ戦④</p> <p>9 リーグ戦⑤</p> <p>10 リーグ戦⑥</p> <p>11 リーグ戦⑦</p> <p>12 リーグ戦⑧</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて紹介する。		毎時間の出欠席、受講態度、期間中の技術の向上度などを総合して評価する。	

全カリ (春) 外共	スポーツ・レクリエーション (frisbee-a) 体育 I・II (通年)	担当者	和田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] frisbeeは商標名です。一般名はフライングディスクです。このディスクを使用したスポーツの技術を習得し、アルティメット、ガッツ、ディスクゴルフなど特徴的な種目を体験する。各個人が日常で友人や恋人に教えたり、家族とじゅうぶん楽しめるだけの実力をつけることを目標とします。</p> <p>[講義概要] フライングディスクスローイングの基本テクニックから、応用テクニックまでを習得します。またそれを利用したいいくつかの種目を体験します。種目の中心は、アルティメットというアメリカンフットボールのようなルールで行うスポーツ種目です。身体接触はありませんから、安全です。あまり聞いたことがないでしょうが世界選手権大会も行われるほど海外では普及しているスポーツです。学生の進歩状況・天候によって授業計画は変えていきます。雨天の場合は別の種目を行います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション フライングディスクとは 2 バックハンドスローとサイドアームスロー 3 バックハンドスローとサイドアームスロー 4 バックハンドスローとサイドアームスローから、バリエーション 5 バックハンドスローとサイドアームスローから、バリエーション 6 バックハンドスローとサイドアームスローから、バリエーション 7 バックハンドスローとサイドアームスローから、バリエーション 8 バックハンドスローとサイドアームスローから、バリエーションゲームの導入 9 バックハンドスローとサイドアームスローから、バリエーションゲームの導入 10 バックハンドスローとサイドアームスローから、バリエーションゲームの導入 11 バックハンドスローとサイドアームスローから、バリエーションゲームの導入 12 バックハンドスローとサイドアームスローから、バリエーションゲームの導入 	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて印刷物を配布します。		出席と受講態度、技術の向上度	

全カリ (秋) 外共	スポーツ・レクリエーション (frisbee-b) 体育 I・II (通年)	担当者	和田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] frisbeeは商標名です。一般名はフライングディスクです。このディスクを使用したスポーツの技術を習得し、アルティメット、ガッツ、ディスクゴルフなど特徴的な種目を体験する。各個人が日常で友人や恋人に教えたり、家族とじゅうぶん楽しめるだけの実力をつけることを目標とします。</p> <p>[講義概要] フライングディスクスローイングの基本テクニックから、応用テクニックまでを習得します。またそれを利用したいいくつかの種目を体験します。種目の中心は、アルティメットというアメリカンフットボールのようなルールで行うスポーツ種目です。身体接触はありませんから、安全です。あまり聞いたことがないでしょうが世界選手権大会も行われるほど海外では普及しているスポーツです。学生の進歩状況・天候によって授業計画は変えていきます。雨天の場合は別の種目を行います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 後期授業についてのオリエンテーションとアルティメットについての説明 2 アルティメットのためのトレーニングとゲーム 3 アルティメットのためのトレーニングとゲーム 4 アルティメットのためのトレーニングとゲーム 5 アルティメットのためのトレーニングとゲーム 6 アルティメットのためのトレーニングとゲーム 7 アルティメットのためのトレーニングとゲーム 8 チーム編成とリーグ戦 9 リーグ戦 10 リーグ戦 11 リーグ戦 12 リーグ戦 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて印刷物を配布します。		出席と受講態度、技術の向上度	

全カリ (春) 外共	スポーツ・レクリエーション (ボールルームダンス a) 体育 I・II (通年)	担当者	青柳 多恵子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] ボールルームダンス (社交ダンス) とは、音楽によって歩く (二人で) ことなのです。日常の話す・聴く・動くといった中に音楽によって動くこと、目の前にいる人とコミュニケーションをステップという言語で計ることなのです。太古の時代から人間は踊りを嗜んでいたことを思い起こし、ごく自然にダンス言語を駆使した時の楽しさを知って貰うことです。</p> <p>[講義概要] ここでは歩く事が基本。前に・後ろに、ゆっくり・速く・音楽に添ってと何回も繰り返しステップをする。言語と同様に繰り返す事が大切。一番難しいのは、右・左・右と交互に音楽にあわせて歩く事。憶えた事が脳と筋肉運動を連結させ、自然と心理的・身体的充足感をもたらすもので、ストレスの知的解消法の一つであり、生涯スポーツとしての基礎として、健康に寄与することができます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション ガイダンス ダンスのVTR・班分け 2 ストレッチ・ダンスウォーキング ステップ I・スタンダード 3 ステップ I・スタンダード ワルツのステップ 4 ステップ II・Sベーシック NT・RTと音楽 5 ステップ II・Sベーシック ホールドの意味と必要性 6 ステップ III・Rベーシック リズムとバランス 7 ステップ III・Rベーシック CHA・CHAステップ 8 ステップ IV・Sベーシック クイックステップ 9 ステップ IV・Sベーシック Q・リズム遊び (ジルバ) 10 ステップ V・R・S 表現する事 11 ステップ V・R・S 楽しむ事 12 ダンスを楽しく マナー・パーティーについて 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布		出席	

全カリ (秋) 外共	スポーツ・レクリエーション (ボールルームダンス b) 体育 I・II (通年)	担当者	青柳 多恵子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] ボールルームダンス (社交ダンス) とは、音楽によって歩く (二人で) ことなのです。日常の話す・聴く・動くといった中に音楽によって動くこと、目の前にいる人とコミュニケーションをステップという言語で計ることなのです。太古の時代から人間は踊りを嗜んでいたことを思い起こし、ごく自然にダンス言語を駆使した時の楽しさを知って貰うことです。</p> <p>[講義概要] ここでは歩く事が基本。前に・後ろに、ゆっくり・速く・音楽に添ってと何回も繰り返しステップをする。言語と同様に繰り返す事が大切。一番難しいのは、右・左・右と交互に音楽にあわせて歩く事。憶えた事が脳と筋肉運動を連結させ、自然と心理的・身体的充足感をもたらすもので、ストレスの知的解消法の一つであり、生涯スポーツとしての基礎として、健康に寄与することができます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス ダンスのVTR・班分け 2 ストレッチ・ダンスウォーキング ステップ I・スタンダード 3 ステップ I・スタンダード ワルツのステップ 4 ステップ II・Sベーシック NT・RTと音楽 5 ステップ II・Sベーシック ホールドの意味と必要性 6 ステップ III・Rベーシック リズムとバランス 7 ステップ III・Rベーシック ジャイブ・ステップ 8 ステップ IV・Sベーシック クイックステップ 9 ステップ IV・Sベーシック Q・リズム遊び (ルンバ・マンボ) 10 ステップ V・R・S 表現する事 11 ステップ V・R・S 楽しむ事 12 ダンスを楽しく マナー・パーティーについて 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布		出席	

全カリ (春)	English 111/112a	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>141/142 とともに、全学共通カリキュラムのコア科目である。現代社会、文化などに関するリーディングを行う。統一教材による TOEIC 語彙指導。統一語彙テスト毎回実施。教室外でのコンピュータによる英語学習が義務づけられる。</p> <p>教科書：担当教員の指示に従うこと。</p>		<p>授業計画と評価方法については、担当者からの説明を受けてください</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>注：独仏の 111 と 112 は統一教科書 (Reading On-Line) を使用する。</p>			

全カリ (秋)	English 111/112b	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>141/142 とともに、全学共通カリキュラムのコア科目である。現代社会、文化などに関するリーディングを行う。統一教材による TOEIC 語彙指導。統一語彙テスト毎回実施。教室外でのコンピュータによる英語学習が義務づけられる。</p> <p>教科書：担当教員の指示に従うこと。</p>		<p>授業計画と評価方法については、担当者からの説明を受けてください</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>注：独仏の 111 と 112 は統一教科書 (Reading On-Line) を使用する。</p>			

全カリ (春)	English 112 a Super	担当者	岡田 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>English 112 Super は、外国語学部（ドイツ語学科・フランス語学科）経済学部・法学部の新入生を対象としています。入学時の TOEIC テストスコアが高かった学生を対象に、学部の枠を取り払った授業を行います。各学部の必修科目の時間帯を避けるために5限目という時間帯に入っていますが、このクラスに該当した学生はぜひ、時間帯にめげずに履修してください。なお、この科目は English 142 Super と連動しています。この2科目を取ってさらに英語力をつけていただきたいと思います。</p> <p>English 112 Super は、読解力をつけるための科目です。教科書を1冊読みますが、それ以外に専攻が異なる学生がそれぞれ楽しんでもらえる教材を選び、多読・速読・精読の訓練を行います。補助教材は主に、新聞・雑誌などの記事を用います。</p> <p>効果的に読むことへのストラテジーを鍛え、さらに語彙力、文法力をつけて、内容を的確に把握し、批判的に吟味し、さらにそれに対する自分の考えを表現することができるようにしたいと思っています。授業は大変ですが、必ず力がつきます。TOEIC テストでのさらなる高得点も確実です。</p>		<p>1 Orientation 2 Unit 1 3 Supplementary reading 4 Unit 2 5 Supplementary reading 6 Unit 3 7 Supplementary reading 8 Unit 4 9 Supplementary reading 10 Unit 5 11 Supplementary reading 12 Unit 6</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Reading On-Line (南雲堂) 補助教材は担当者が準備する。		出席、小テスト、期末テスト、語彙小テストなどを合計して総合的に評価する。	

全カリ (秋)	English 112 b Super	担当者	岡田 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春の授業の継続として、更なる語彙力、文法力をつけ、大学生にふさわしい総合的な英語運用力を身につけてもらうことを目標とします。</p> <p>予習・復習の量も多く、大変な授業だと思いますが、必ず実力アップします。ご期待ください。</p>		<p>1 Orientation 2 Unit 7 3 Supplementary reading 4 Unit 8 5 Supplementary reading 6 Unit 9 7 Supplementary reading 8 Unit 10 9 Supplementary reading 10 Unit 11 11 Supplementary reading 12 Unit 12</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Reading On-Line (南雲堂) 補助教材は担当者が準備する。		出席、小テスト、期末テスト、語彙小テストなどを合計して総合的に評価する。	

全カリ (春)	English 121/122 a (国際関係法学科)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
アカデミック・ライティングにつながる基礎科目と位置付ける。和文英訳ではなく、英語での論理的な自己表現を学ぶ。必要に応じて添削指導が行われる。		授業計画と評価方法については、担当者からの説明を受けてください	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書：担当教員の指示に従うこと。			

全カリ (秋)	English 121/122b (国際関係法学科)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
アカデミック・ライティングにつながる基礎科目と位置付ける。和文英訳ではなく、英語での論理的な自己表現を学ぶ。必要に応じて添削指導が行われる。		授業計画と評価方法については、担当者からの説明を受けてください	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書：担当教員の指示に従うこと。			

全カリ (春)	English 141a (独・仏学科) English 141/142a (経・法学部)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
111/112 とともに、全学共通カリキュラム 1 年生のコア科目である。LL で授業を行う。リスニング(統一教科書: VIVA! San Francisco)、統一クイズ、統一期末テスト実施。		授業計画と評価方法については、担当者からの説明を受けてください	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書：統一教科書を使用。			

全カリ (秋)	English 141b (独・仏学科) English 141/142b (経・法学部)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
111/112 とともに、全学共通カリキュラム 1 年生のコア科目である。LL で授業を行う。リスニング(統一教科書: VIVA! San Francisco)、統一クイズ、統一期末テスト実施。		授業計画と評価方法については、担当者からの説明を受けてください	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書：統一教科書を使用。			

全カリ（春）	English 142a（独・仏学科）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
111/112 とともに、全学共通カリキュラム 1 年生のコア科目である。上級リスニング・会話。LL 教室は使用しない。		授業計画と評価方法については、担当者からの説明を受けてください	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書：担当教員の指示に従うこと。			

全カリ（秋）	English 142b（独・仏学科）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
111/112 とともに、全学共通カリキュラム 1 年生のコア科目である。上級リスニング・会話。LL 教室は使用しない。		授業計画と評価方法については、担当者からの説明を受けてください	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書：担当教員の指示に従うこと。			

全カリ (春)	English 142a Super	担当者	J. スティベンソン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Speech Communication</p> <p>This course will focus on both informal conversation skills and more formal presentation skills.</p> <p>The aims of this class are:</p> <ul style="list-style-type: none"> - to improve your ability to speak in English; - to increase your confidence to communicate in English - to provide you with lots of opportunities to speak in English with various people and about various topics; - to think about the characteristics of 'good' speakers and try to copy those; and, - to improve your public speaking skills. <p>In each class, you will have many opportunities to speak in English. This may be difficult at first, and you may feel nervous. However, remember that you do not need speak 'perfect' English. You just need to try your best. As this is a speaking class, it is very important that you attend each lesson, and try to use English as much as possible in and outside of class.</p>		<p>Lesson 1. Introduction</p> <p>Lessons 2-6. We will work through the first half of the textbook and also learn about presentation skills.</p> <p>Lessons 7-10. We will continue working through the textbook, and each week a number of students will give presentations.</p> <p>Lessons 11-12. Review and final interviews</p> <p>As we will not have enough time to complete all of the first half of the textbook in the first semester, you will be able to choose the units in the textbook that you would like to do.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
The textbook will be announced after the first class.		40% Participation 10% Presentation 20% Final interview 10% Homework 20% Journal	

全カリ (秋)	English 142b Super	担当者	J. スティベンソン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Speech Communication</p> <p>This course will focus on both informal conversation skills and more formal presentation skills.</p> <p>The aims of this class are:</p> <ul style="list-style-type: none"> - to improve your ability to speak in English; - to increase your confidence in your English ability; - to provide you with lots of opportunities to speak in English with various people and about various topics; - to think about the characteristics of 'good' speakers and try to copy those; and, - to improve your public speaking skills. <p>In each class, you will have many opportunities to speak in English. This may be difficult at first, and you may feel nervous. However, remember that you do not need speak 'perfect' English. You just need to try your best. As this is a speaking class, it is very important that you attend each lesson, and try to use English as much as possible in and outside of class.</p>		<p>Lesson 1. Introduction</p> <p>Lessons 2-6. We will work through the second half of the textbook and also learn more about presentation skills.</p> <p>Lessons 7-10. We will continue working through the textbook, and each week a number of students will give presentations.</p> <p>Lessons 11-12. Review and final interviews</p> <p>As we will not have enough time to complete all of the second half of the textbook in the second semester, you will be able to choose the units in the textbook that you would like to do.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
We will use the same textbook as English 142-a.		You will be graded on: - participation - presentation - journal - interview - homework You will be given more details in the first lesson.	

全カリ（春）	English 211/212a（独・仏学科、法学部）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
現代社会におけるさまざまなトピックを盛り込んだ、より上級の教材を使用する講読。		授業計画と評価方法については、担当者からの説明を受けてください	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書：担当教員の指示に従うこと。			

全カリ（秋）	English 211/212b（独・仏学科、法学部）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
現代社会におけるさまざまなトピックを盛り込んだ、より上級の教材を使用する講読。		授業計画と評価方法については、担当者からの説明を受けてください	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書：担当教員の指示に従うこと。			

全カリ (春)	English 221/222a (国際関係法学科)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>アカデミック・ライティングにつながる基礎科目と位置付ける。(1年次からの継続)</p> <p>和文英訳ではなく、英語での論理的な自己表現を学ぶ。必要に応じて添削指導が行われる。パラグラフ・ライティングからより説得力のあるエッセイへと進む。</p>		<p>授業計画と評価方法については、担当者からの説明を受けてください</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書：担当教員の指示に従うこと。			

全カリ (秋)	English 221/222b (国際関係法学科)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>アカデミック・ライティングにつながる基礎科目と位置付ける。(1年次からの継続)</p> <p>和文英訳ではなく、英語での論理的な自己表現を学ぶ。必要に応じて添削指導が行われる。パラグラフ・ライティングからより説得力のあるエッセイへと進む。</p>		<p>授業計画と評価方法については、担当者からの説明を受けてください</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書：担当教員の指示に従うこと。			

全カリ（春）	English 241/242a（独・仏学科、法学部）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
TOEIC 対策につながるリスニング演習。		授業計画と評価方法については、担当者からの説明を受けてください	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書：担当教員の指示に従うこと。			

全カリ（秋）	English 241/242b（独・仏学科、法学部）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
TOEIC 対策につながるリスニング演習。		授業計画と評価方法については、担当者からの説明を受けてください	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書：担当教員の指示に従うこと。			

全カリ (春)	English 311/312a (独・仏学科)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
現代社会におけるさまざまなトピックを盛り込んだ、211/212 よりさらに上級の教材を使用する講読。		授業計画と評価方法については、担当者からの説明を受けてください	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書：担当教員の指示に従うこと。			

全カリ (秋)	English 311/312b (独・仏学科)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
現代社会におけるさまざまなトピックを盛り込んだ、211/212 よりさらに上級の教材を使用する講読。		授業計画と評価方法については、担当者からの説明を受けてください	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書：担当教員の指示に従うこと。			

全カリ (春)	English 110 a (既習、外国人学生)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
身近な社会問題を題材とした平易な英語のテキストを使用する		授業計画と評価方法については、担当者からの説明を受けてください	
テキスト、参考文献		評価方法	

全カリ (秋)	English 110 b (既習、外国人学生)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
身近な社会問題を題材とした平易な英語のテキストを使用する		授業計画と評価方法については、担当者からの説明を受けてください	
テキスト、参考文献		評価方法	

全カリ (春)	English 211a (独・仏学科既習、外国人学生)	担当者	山本 英政
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>身近で日常的な社会問題を取り上げ、読解して、内容について、盛んに意見交換をしたいと思う。</p> <p>アメリカの雑誌、新聞記事などから、事件や各種の報道をテキストとして使用する。</p> <p>メディアで報じられる内容から、日本との相違が極めて明らかに認識されることと思う</p>		<p>各月ごとに、プリントを配布する</p> <p>授業計画と評価方法については、担当者からの説明を受けてください</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント		出席、発表、試験	

全カリ (秋)	English 211b (独・仏学科既習、外国人学生)	担当者	山本 英政
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>身近で日常的な社会問題を取り上げ、読解して、内容について、盛んに意見交換をしたいと思う。</p> <p>アメリカの雑誌、新聞記事などから、事件や各種の報道をテキストとして使用する。</p> <p>メディアで報じられる内容から、日本との相違が極めて明らかに認識されることと思う</p>		<p>各月ごとに、プリントを配布する</p> <p>授業計画と評価方法については、担当者からの説明を受けてください</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント		出席、発表、試験	

全カリ (春)	English 211a (経・法学部既習、外国人学生)	担当者	C.カーペンター
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The main goal of this class is to help students increase their confidence and fluency in reading and discussing current events and contemporary topics in English. We will read interesting texts on various topics. We will read fiction and non-fiction, stories, magazine articles, newspaper articles, and more. Some of the reading you will choose yourself. You will need to do some reading outside of class (i.e. there is homework in this class).</p> <p>Students will be prepared to actively participate in classroom discussions. The teacher will guide and support you in your reading and discussions with other students, but you, the students, will do most of the talking in this class.</p>		<p>Semester 1</p> <p>Week 1: Orientation and Level-Test</p> <p>Weeks 2 – 11: Various reading topics to be announced. Others to be self-selected by students.</p> <p>Week 12: Final Assessment</p> <p>※ A more complete and detailed schedule will be given in class. The schedule is always subject to changes and adjustments.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
The text and recommended references will be announced in class.		Grades will be based on active participation, quizzes, homework, and tests. (※ <i>Attendance is required.</i> More than 3 days absent in one semester and you cannot pass this class.)	

全カリ (秋)	English 211b (経・法学部既習、外国人学生)	担当者	C.カーペンター
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Same as above.</p> <p>※ During the second semester, students will have greater responsibility for selecting reading materials and discussions will be based on your individualized reading.</p>		<p>Semester 2</p> <p>Week 13: Getting re-acquainted</p> <p>Weeks 14 – 23: Various reading topics to be announced. Others to be self-selected by students.</p> <p>Week 24: Final Assessment</p> <p>※ A more complete and detailed schedule will be given in class. The schedule is always subject to changes and adjustments.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
The text and recommended references will be announced in class.		Grades will be based on active participation, quizzes, homework, and tests. (※ <i>Attendance is required.</i> More than 3 days absent in one semester and you cannot pass this class.)	

全カリ (春)	English121a	担当者	堀 いづみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英語の writing 力を向上させることが目的です。特に、英語らしい構文・表現の学びに重点を置きます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 「名詞表現」を用いた表現 2. 「句動詞」を用いた表現 3. 「無生物を主語」にした表現 4. 「前置詞+名詞」の表現 5. 「動詞の代わりに前置詞」の表現 6. まとめ① 7. 「接続詞を用いずに結果」を表す方法 8. 「文修飾の副詞」を用いた表現 9. 「時を示す語や否定語を主語」にした表現 10. 「倒置」 11. 「省略」 12. まとめ② 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>「Writing in English from Basics to Paragraphs」山村三郎著 (成美堂) ¥1,600+税</p>		(出席率を含む平常点) + (試験の得点)	

全カリ (秋)	English121b	担当者	堀 いづみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英語の writing 力を向上させることが目的です。特に、エッセイ・ライティングの基礎となるパラグラフ・ライティングに重点を置き、パラグラフの構成要素、アウトライン、展開方法などを身につけることを学びます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. パラグラフ・ライティングの基礎① 2. パラグラフ・ライティングの基礎② 3. 列挙と例示 4. 比較と対照 5. 分析と類推 6. まとめ① 7. 原因・結果 8. 定義と分類 9. 意見と理由 10. まとめ② 11. パラグラフからエッセイへ 12. まとめ③ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>「Writing in English from Basics to Paragraphs」山村三郎著 (成美堂) ¥1,600+税</p>		(出席率を含む平常点) + (試験の得点)	

全カリ (春)	English 121a (独・仏学科)	担当者	松岡 昇
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本コースでは、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 人に伝えることを目的としたライティングの練習を行う。 2) 従って、書いたものは必ずクラスで発表する。 3) このため、書くことに加えて、プレゼンテーション (発表) の技術も並行して学習する。 4) 授業はプロジェクト形式 (個人とグループ) で行い、コースを通して3つの課題に取り組む予定である。 5) IT をフルに活用できるよう、授業はコンピュータ室で行う。 		<ol style="list-style-type: none"> 1. コース紹介 : Writing と Presentation 2. Presentation の構成と方法 / PowerPoint の使い方 3. Project 1: Why Not Marry Me? (個人 : 準備) 4. Project 1: Why Not Marry Me? (個人 : 発表) 5. Project 2: News Casting (グループ : 準備) 6. Project 2: News Casting (グループ : 準備) 7. Project 2: News Casting (グループ : 発表) 8. Review 9. Project 3: Why Not Take Our Summer Plan? (グループ : 準備) 10. Project 3: Why Not Take Our Summer Plan? (グループ : 準備) 11. Project 3: Why Not Take Our Summer Plan? (グループ : 発表) 12. Project 3: Why Not Take Our Summer Plan? (グループ : 発表) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布		プレゼンテーション (3回) で評価	

全カリ (秋)	English 121b (独・仏学科)	担当者	松岡 昇
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本コースは、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) English 121-a Composition の講義目的を引き継ぎ、 2) それをさらに応用、発展させるものである。 3) コースを通して2つの課題に取り組む予定である。 		<ol style="list-style-type: none"> 1. 後期の授業予定、前期の復習 2. Project 4: How Do Foreigners See Japan? (グループ : 準備 : 企画) 3. Project 4: How Do Foreigners See Japan? (グループ : 準備 : 取材) 4. Project 4: How Do Foreigners See Japan? (グループ : 準備 : 編集) 5. Project 4: How Do Foreigners See Japan? (グループ : 準備 : リハ) 6. Project 4: How Do Foreigners See Japan? (グループ : 発表) 7. Project 4: How Do Foreigners See Japan? (グループ : 発表) 8. Review 9. Project 5: My Future Plan (個人 : 準備) 10. Project 5: My Future Plan (個人 : 準備) 11. Project 5: My Future Plan (個人 : 発表) 12. Project 5: My Future Plan (個人 : 発表) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布		プレゼンテーション (2回) で評価	

全カリ (春)	English 131a (独・仏学科)	担当者	G.ロビン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This topic-based course will develop speaking skills in English for students through interactive controlled pair and group communication projects. A variety of topic oriented discussion, role-playing, dialogue, and presentation activities will be used to enhance the students' ability to express themselves. A basic text will be used for warm-up speaking and other materials will be provided by the teacher to extend oral skill development. Students will be graded on classroom participation, presentations and a speaking test at the end of term.</p>		<p>Lessons :1 Health :2 Health :3 Animals :4 Animals :5 Fashion :6 Fashion :7 Family :8 Family :9 Love and Marriage :10 Love and Marriage :11 Jobs :12 Jobs</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>TOPIC TALK: Issues by Kirsty Mclean. EFL PRESS (2002)</p>		<p>Grading is based on class participation, presentation and a speaking test.</p>	

全カリ (秋)	English 131b (独・仏学科)	担当者	G.ロビン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This topic-based course will develop speaking skills in English for students through interactive controlled pair and group communication projects. A variety of topic oriented discussion, role-playing, dialogue, and presentation activities will be used to enhance the students' ability to express themselves. A basic text will be used for warm-up speaking and other materials will be provided by the teacher to extend oral skill development. Students will be graded on classroom participation, presentations and a speaking test at the end of term.</p>		<p>Lessons :1 Shopping :2 Shopping :3 School :4 School :5 TV and Movies :6 TV and Movies :7 Nature :8 Nature :9 Preparation for Test :10 Preparation for Test :11 Speaking Test :12 Speaking Test</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>TOPIC TALK: Issues by Kirsty Mclean. EFL PRESS (2002)</p>		<p>Grading is based on class participation, presentation and a speaking test.</p>	

全カリ (春)	English 131a (独・仏学科)	担当者	M. ミルティアダス
講義目的、講義概要		授業計画	Class Content Other/Objective
<p>1. Course Description: This course in listening/speaking skills moves from simply giving comprehension answers to explaining, and presenting opinions and ends in discussing the topics.</p> <p>2.Course Objectives: At the end of this course students should be able to:</p> <p>Use different listening skills to gather information Use reasons to explain opinions Use evidence to support opinions Critically evaluate reasons and evidence Apply all the above skills within a discussion</p> <p>3 Classroom Management: Students more than 15 minutes late will be considered absent, unless, there is an unavoidable delay due to a train accident or bus delay.</p> <p>When and how to contact: Your teacher for this course can be contacted on Monday at College, from 8:45 until 3:30pm. Or you may contact your teacher by e-mail at milts@gol.com</p>		<p>Lesson1: Course Outline Students introduce themselves Verbally</p> <p>Lesson2: Classroom English</p> <p>Lesson3: Introduce various listening skills that will be used in class</p> <p>Lesson4: Education (Unit3B) Pre-listening knowledge Vocabulary</p> <p>Lesson5: '' ''</p> <p>Lesson6: Good-Mood Foods(Unit2B)</p> <p>Lesson7: '' ''</p> <p>Lesson8: A Penny Saved is a Penny Earned Make predictions Identity Comparisons</p> <p>Lesson9: '' '' Summarize Information Share opinions</p> <p>Lesson10: A Piece of the Country in the city Classify information Infer situational context</p> <p>Lesson11: '' '' Relate listening to personal experience</p> <p>Lesson12: Review (Pre-Exam)</p> <p>Exam</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
English File Intermediate		i) written exam held during the special exam week at the end of semester 30% ii) homework assignments 20% iii) in class performance 30% iv) Attendance 20% Total for semester 100%	

全カリ (秋)	English 131b (独・仏学科)	担当者	M. ミルティアダス
講義目的、講義概要		授業計画	Class Content Other/Objective
<p>1. Course Description: This course in listening/speaking skills moves from simply giving comprehension answers to explaining, and presenting opinions and ends in discussing the topics.</p> <p>2.Course Objectives: At the end of this course students should be able to:</p> <p>Use different listening skills to gather information Use reasons to explain opinions Use evidence to support opinions Critically evaluate reasons and evidence Apply all the above skills within a discussion</p> <p>3 Classroom Management: Students more than 15 minutes late will be considered absent, unless, there is an unavoidable delay due to a train accident or bus delay.</p> <p>When and how to contact: Your teacher for this course can be contacted on Monday at College, from 8:45 until 3:30pm. Or you may contact your teacher by e-mail at milts@gol.com</p>		<p>Lesson1: Crime and punishment Examine the change in crimes within society</p> <p>Lesson2: '' '' '' ''</p> <p>Lesson3: Environmental awareness Identify what environmental problems are faced in Japan and the world</p> <p>Lesson4: '' '' '' ''</p> <p>Lesson5: Media Culture Discuss the effect of popular culture in different countries</p> <p>Lesson6: '' '' '' ''</p> <p>Lesson7: Medical Matters Discuss medial issues of the 21 century</p> <p>Lesson8: Marketing Look at the marketing techniques of multi-national corporations</p> <p>Lesson9: '' '' '' ''</p> <p>Lesson10: Current events Discuss the event of the day</p> <p>Lesson11: '' '' '' ''</p> <p>Lesson12: Review (Pre-Exam)</p>	
テキスト、参考文献 Text		評価方法	
English File Intermediate		i) written exam held during the special exam week at the end of semester 30% ii) homework assignments 20% iii) in class performance 30% iv) Attendance 20% Total for semester 100%	

全カリ (春)	English 131a (経・法学部)	担当者	G. コッホ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Basic Communicative English</p> <p>This course will use movie scripts for the basis to develop such skills as debate, discussion, presentation and public-speaking. The students will be required to download the script from a web page. After downloading the students must read the script before the beginning of class. At the beginning of each class, a short quiz will be given to evaluate the students preparedness for the class. During class, the students will be engaged in several activities and the last third of the class the scene for the day will be viewed.</p> <p>Web page:</p> <p>http://members.jcom.home.ne.jp/2131775701</p>		<p>1. Introduction and Explanation</p> <p>2. Weeks 2-12 will be explained in the first class</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>No text</p> <p>Material will be downloaded from a web site.</p>		<p>Participation</p> <p>Weekly quizzes, and assignments</p>	

全カリ (秋)	English 131b (経・法学部)	担当者	G. コッホ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Communicative English (Speaking)</p> <p>This course will use movie scripts for the basis to develop such skills as debate, discussion, presentation and public-speaking. The students will be required to download the script from a web page. After downloading the students must read the script before the beginning of class. At the beginning of each class, a short quiz will be given to evaluate the students preparedness for the class. During class, the students will be engaged in several activities and the last third of the class the scene for the day will be viewed.</p> <p>Web page:</p> <p>http://members.jcom.home.ne.jp/2131775701</p>		<p>1. Introduction and Explanation</p> <p>2. Weeks 2-12 will be explained in the first class</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>No text</p> <p>Material will be downloaded from a web page</p>		<p>Participation</p> <p>Weekly quizzes, and assignments</p>	

全カリ (春)	English 131a (経・法学部)	担当者	R.ラミティ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this class, we will work towards competence and confidence in speaking English. Many of you probably feel that you can't speak English. When you practice consistently, you should discover that you have acquired the building blocks of English, but haven't begun to lay them on top of each other to communicate. In this class, you will use English to talk about yourself and your interests</p> <p>We will work a bit every day on pronunciation and listening. However, the main focus of the class will be working on your communication skills. We will spend a lot of time in small groups. Each group will be responsible for reporting what they have done during each class. The class will do midterm presentations in groups and final presentations in the last two or possibly three class periods.</p> <p>We will spend a bit of time each class on public speaking skills such as body language, eye contact, attention getters, voice control, etc. You will practice these skills in your groups as you present your homework and discuss the subjects from the text.</p>		<p>Week 1: Introduction and orientation</p> <p>Week 2: Money: budgets, joys and problems.</p> <p>Week 3: Stress: causes and stress fighters.</p> <p>Week 4-5: Friendship: what is it, and why are you attracted to certain people as friends? Also, in week 5, you will start to plan your midterm presentations.</p> <p>Week 6: Presentations.</p> <p>Week 7-8: Challenges: hobbies and sports as well as "every-day challenges and setting and meeting goals.</p> <p>Week 9: Travel: dreams and nightmares. We will also start talking about the final presentations.</p> <p>Week 10: Animals: Don't cockroaches make the best pets? Also, preparation for the final presentations.</p> <p>Week 11-12: Final presentations.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Springboard 2, written by Jack C. Richards, published by Oxford Press.</p> <p>Each student is expected to bring an English to Japanese and a Japanese to English dictionary.</p>		<p>40% class participation (including homework)</p> <p>30% attendance</p> <p>30% presentations</p>	

全カリ (秋)	English 131b (経・法学部)	担当者	R.ラミティ
講義目的、講義概要		授業計画	
Same as above			
テキスト、参考文献		評価方法	

全カリ (春)	English 211 a (経済学部)	担当者	岡田 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この科目は、1年生で English 111/112 を修得した経済学部 (経済学科・経営学科) の学生 (2年生以上) がさらに読解力をつけるために選択科目として受講するものです。</p> <p>この科目の特徴は教科書にあります。経済・経営の学生のために開発された「日本の企業研究」とも言える教科書を使い、読解力をつけながらも経済・経営の基礎用語を学び、さらに文法力もつけられるように工夫されています。</p> <p>この教科書を読んでいくことが中心ですが、種々のアクティビティ、また新聞なども生の補助教材として使います。</p> <p>この科目を選択しようとする学生は、現在英語力があるかないかにかかわらず、大量のリーディング、問題練習をこなす熱意とやる気が必要です。予習・復習も多く大変だと思いますが、ガッツで頑張ってください！そのかわり、1年間終わったら英語力の上昇を必ず実感できます。最後に一緒に笑いましょう！</p>		<p>1 Orientation</p> <p>2 Chapter 1 カゴメ</p> <p>3 Chapter 1 カゴメ</p> <p>4 Chapter 2 松下電器産業</p> <p>5 Chapter 2 松下電器産業</p> <p>6 Chapter 3 中村ブレイス</p> <p>7 Chapter 3 中村ブレイス</p> <p>8 Chapter 4 楽天</p> <p>9 Chapter 4 楽天</p> <p>10 Chapter 5 資生堂</p> <p>11 Chapter 5 資生堂</p> <p>12 Review</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Leading Companies in the 21st Century (松柏社) 補助教材は担当者が準備する		出席、小テスト、期末テスト、語彙小テストなどを合計して総合的に評価する。	

全カリ (秋)	English 211 b (経済学部)	担当者	岡田 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春と同じ教科書で継続的に英語読解力をつける訓練を行います。また同時に、日本の企業について知り、就職への意識も高めて行きましょう。</p>		<p>1 Orientation</p> <p>2 Chapter 6 日産自動車</p> <p>3 Chapter 6 日産自動車</p> <p>4 Chapter 7 タマノイ酢</p> <p>5 Chapter 7 タマノイ酢</p> <p>6 Chapter 8 NTT ドコモ</p> <p>7 Chapter 9 ミズノ</p> <p>8 Chapter 10 シスメックス</p> <p>9 Chapter 11 サカタのタネ</p> <p>10 Chapter 12 日清食品</p> <p>11 Chapter 12 日清食品</p> <p>12 Review</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Leading Companies in the 21st Century (松柏社) 補助教材は担当者が準備する		出席、小テスト、期末テスト、語彙小テストなどを合計して総合的に評価する。	

全カリ (春)	English 221a (独・仏学科)	担当者	福井 星一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>書くということとは、「混乱した無秩序な作業だ。」と言われており、母語でも難しい。英語での作文の力をつけたいならば、実際に旺盛に書いてみないことには始まらない。</p> <p>参加者の英語のレベルは問わず、これまでに英語で自由に書いた経験がなくてもかまわない。言葉で表現することによって魅力を感じて意義を認める参加者を求める。</p> <p>最初の数時間で、何をどう書いたらよいかわからない参加者も取りかかりやすいように、短い詩やエッセイの基本などを紹介する。</p> <p>春学期の重点は、「簡単に書いて、読み易く、強い印象を与えることができるような工夫」になることだろう。</p> <p>本心の表現でも創作でもかまわないが、伸び伸びと書くことができるような環境の整備を大切にしたい。また、孤独で自分勝手になりがちな書くという作業と訓練を、協力し合って進める方法を探りたい。</p> <p>講師としては、相談に応じ質問に答えることと、膨大な提出物をていねいに添削することが第一の任務だと心得て、学生主導で講師は柔軟に対応するという授業を望む。</p> <p>ほかに参加者に求めるのは、手本になるようなエッセイ等にできるだけ多く接して自主的に読むこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 四行詩：気持ちの表現入門 2. 自己紹介：好きなものについて 3. 五段落エッセイ 4. 書く素材の仕入れと整理：brain storming 5. お勧め、お誘い、紹介、軽い説得 6. 手紙の必要事項の整理 7. エッセイと手紙の共通の書式：重要項目の表現方法 8. 文法ミス退治 9. 嫌いな人への手紙、または異議の唱え方 10. 説得力を高め読みやすくする工夫 11. 日本の書式と表現を英語に直訳した場合の問題点 12. 創作入門「とんでもない一日でした。」 	
テキスト、参考文献		評価方法	
購入の必要なし。辞書、参考書等、授業で適宜紹介する。		積極的な授業参加と自主的な提出物。質問と添削で講師に手間をかけるほど評価は上がる。開始時の「実力」が成績に直結しないように工夫したい。期末試験は行わない。	

全カリ (秋)	English 221b (独・仏学科)	担当者	福井 星一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期に続いて、積極的に書き、表現力を向上させることを基本とする。</p> <p>さらに、書くことの一応の完成を目指して、目的に沿って書式と表現を整える作業を手がける。テーマを広げすぎても、どっちつかずのコマ切れ授業になる恐れがあるので、参加者の希望をできるだけ入れて、クラス全体の目標と個別の希望の調和を図って方向を定め、書く意欲を保てるような、メリハリのある授業を心がける。</p>		<p>春学期の到達点と参加者の希望によるが、以下のように発展させたい。高度な詳しい内容に立ち入ることはできないが、近い将来に何か応用できるようなポイントを押さえてい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 正式（フォーマル）な手紙 2. 履歴書と求職の手紙 3. 新聞記事を想定したレポート 4. ビジネス・レター 5. ビジネス・レポート 6. 学術的な論文、レポート 7. 作文のグループ学習と peer teaching の可能性追求 8. 自己点検と相互点検のコツ 9. エッセイのパターン比較 10. 威厳と格式をつけるか、読み易くするかの選択 11. 「誰に読んでもらうか」による文体の変化 12. 文学的エッセイ入門：文法形式を含めた工夫 	
テキスト、参考文献		評価方法	
購入の必要なし。		基本は春学期と同じ。何を目標して何を書きたいかを明確にして、授業の内容と進め方について提案できるような積極性を求める。	

全カリ (春)	English 231a (独・仏学科)	担当者	D. ブラドリー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This class aims to develop the students' listening and speaking abilities at the intermediate level so that by the end of the year students can talk about themselves, their interests and everyday life.</p> <p>We will do a selection of listening exercises and fluency practice activities. The materials we will use will be mainstream EFL activities in listening and speaking on general everyday topics. The listening exercises will consist of short interviews, public announcements, conversations and other recordings of people speaking naturally. In the fluency activities students exchange information, describe their experiences and participate in discussions.</p> <p>Students will work together in pairs during the speaking activities and it is important that you make an effort to speak in English and maintain English throughout the lesson. This effort will be reflected in the grading.</p>		<p>1 Introduction to the course</p> <p>2 Asking about and giving personal information</p> <p>3 Inside location: describing where things are</p> <p>4 Giving directions (1)</p> <p>5 Daily routines: times, dates, etc.</p> <p>6 Likes and dislikes</p> <p>7 Describing what people look like</p> <p>8 Invitations and suggestions</p> <p>9 Talking about the past (1)</p> <p>10 Comparisons</p> <p>11 Giving instructions</p> <p>12 Review</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
There will be no textbook. I will distribute handouts as necessary.		Grades will be based on attendance (33%), class participation (33%) and short tests.	

全カリ (秋)	English 231b (独・仏学科)	担当者	D. ブラドリー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The autumn term will be a continuation of the course begun in the spring. We will proceed with the same approach and style of lesson. The same conditions for grading will apply.</p>		<p>1 Consolidation</p> <p>2 Giving directions (2)</p> <p>3 Talking about the past (2)</p> <p>4 Talking about experiences: already, for, since</p> <p>5 Talking about experiences: "Have you ever....?"</p> <p>6 Health</p> <p>7 Advice</p> <p>8 Talking about the future: weather forecasts</p> <p>9 Talking about the future: holiday plans</p> <p>10 Opinions: agreeing and disagreeing</p> <p>11 Opinions: "What do you think about....?"</p> <p>12 Review</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
There will be no textbook. I will distribute handouts as necessary.		Grades will be based on attendance (33%), class participation (33%) and short tests.	

全カリ (春)	English 231a (経・法学部)	担当者	C.カーペンター
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal of this course is to help students become better and more confident at expressing themselves in spoken English. We will practice giving short presentations, debating, and discussing various topics. Discussions will be based on topics we investigate in readings, videos, interviews with each other, and individual research. We will cover a wide range of issues, including lifestyles, family and personal relationships, global issue, social issues, and more.</p> <p>Students will be prepared to actively participate in classroom discussions. The teacher will guide and support you in your reading, listening, research, and discussions, but students will do most of the talking in this class.</p>		<p>Semester 1</p> <p>Week 1: Orientation and Level-Test</p> <p>Weeks 2 – 11: Various discussion topics to be announced. Others to be self-selected by students.</p> <p>Week 12: Final Assessment</p> <p>※ A more complete and detailed schedule will be given in class. The schedule is always subject to changes and adjustments.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
The text and recommended references will be announced in class.		Grades will be based on active participation, quizzes, homework, and tests. (※ <i>Attendance is required.</i> More than 3 days absent in one semester and you cannot pass this class.)	

全カリ (秋)	English 231b (経・法学部)	担当者	C.カーペンター
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Same as above.</p> <p>※ During the second semester, students will have greater responsibility for selecting discussion topics and will do more individualized research on these topics.</p>		<p>Semester 2</p> <p>Week 13: Getting re-acquainted</p> <p>Weeks 14 – 23: Various discussion topics to be announced. Others to be self-selected by students.</p> <p>Week 24: Final Assessment</p> <p>※ A more complete and detailed schedule will be given in class. The schedule is always subject to changes and adjustments.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
The text and recommended references will be announced in class.		Grades will be based on active participation, quizzes, homework, and tests. (※ <i>Attendance is required.</i> More than 3 days absent in one semester and you cannot pass this class.)	

全カリ (春)	English 351	担当者	安井 美代子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ネットアカデミーというウェブ教材は(1) 語彙(PowerWords)、(2) リーディング、(3) リスニング、(4) ライティングの4つからなる。昨年度、1年の全カリでは(2)、英語学科では(1)を自律学習した。この授業では主に(1)-(3)を使う。レベル分けテストの結果に基づいて3レベルに分け、それぞれのレベルに応じて週3時間以上の学習内容を課す。一斉授業は行わず、学内のPCを利用して各自の都合の良い時間に学習してもらう。但し、毎週水曜日の昼休み12:30-13:00に指定の教室に集まり、レベル毎の小テスト(PowerWords、リスニング)を受験してもらう。水曜日の予定は右の通り。リーディングはUnits 51-80を定期試験の出題範囲に含める。英語学科2年は前年度より上のレベルのPowerWordsを学習する。受講対象は全学部2-4年生。TOEIC600点以上、450点以上、350点以上の3レベルを設定する予定である。春学期完結、重複履修不可。詳しくは myasui@dokkyo.ac.jp に問い合わせること。学期中の学習相談は月曜日4限、水曜日2限に中央棟606にて対応する。</p>		<p>1 レベル診断テスト受験、ネットアカデミーの説明 2 ネットアカデミーの説明補足 3 第1回小テスト 4 第2回小テスト 5 第3回小テスト 6 第4回小テスト 7 第5回小テスト 8 第6回小テスト 9 第7回小テスト 10 第8回小テスト 11 第9回小テスト 12 第10回小テスト</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
なし		指定教材の学習終了が単位取得の必須要件である。A-Cの評価は10回の小テスト(50%)と定期試験(50%)による。上位のレベルほどAの割合を多くする。	

全カリ (秋)	English 351	担当者	安井 美代子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ネットアカデミーというウェブ教材は(1) 語彙(PowerWords)、(2) リーディング、(3) リスニング、(4) ライティングの4つからなる。昨年度、1年の全カリでは(2)、英語学科では(1)を自律学習した。この授業では主に(1)-(3)を使う。レベル分けテストの結果に基づいて3レベルに分け、それぞれのレベルに応じて週3時間以上の学習内容を課す。一斉授業は行わず、学内のPCを利用して各自の都合の良い時間に学習してもらう。但し、毎週水曜日の昼休み12:30-13:00に指定の教室に集まり、レベル毎の小テスト(PowerWords、リスニング)を受験してもらう。水曜日の予定は右の通り。リーディングはUnits 51-80を定期試験の出題範囲に含める。英語学科2年は前年度より上のレベルのPowerWordsを学習する。受講対象は全学部2-4年生。TOEIC600点以上、450点以上、350点以上の3レベルを設定する予定である。秋学期完結、重複履修不可。詳しくは myasui@dokkyo.ac.jp に問い合わせること。学期中の学習相談は月曜日4限、水曜日2限に中央棟606にて対応する。</p>		<p>1 レベル診断テスト受験、ネットアカデミーの説明 2 ネットアカデミーの説明補足 3 第1回小テスト 4 第2回小テスト 5 第3回小テスト 6 第4回小テスト 7 第5回小テスト 8 第6回小テスト 9 第7回小テスト 10 第8回小テスト 11 第9回小テスト 12 第10回小テスト</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
なし		指定教材の学習終了が単位取得の必須要件である。A-Cの評価は10回の小テスト(50%)と定期試験(50%)による。上位のレベルほどAの割合を多くする。	

05全カリ (春) 03全カリ (春) 外共	ドイツ語 I a (基礎) ドイツ語 IAa 基礎ドイツ語 I (通年)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 1) ドイツ語の基礎的能力の習得。具体的には、春学期+秋学期の学習で「ドイツ語技能検定試験(独検)」4級に合格できるレベル達成を目指します。 2) 言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する(できるだけアクチュアルな)情報獲得を図ります。 講義概要 ドイツ語の基礎的な能力を、実際の練習を通して身につけていきます。使用する教材は、「読み、書き、聞き、話す」ことを総合的に学べるよう考えられており、また使われている表現や語彙も、実際にドイツ語圏に旅行したり滞在するときに役立つものばかりです。 授業は、日本人教員のもので行われます。この授業を通して、ドイツ語の基本的な仕組みや語彙を、楽しく、かつ体系的に学ぶことができます。		『ドイツ語一年生- ケイコのミュンヘン (Keikos Praktikum in Muenchen)・CD 付き』(朝日出版社) 2003年 Step 1 ~ Step 5	
テキスト、参考文献		評価方法	
矢羽々 崇:『ドイツ語一年生- ケイコのミュンヘン (Keikos Praktikum in Muenchen)・CD 付き』(朝日出版社) 2003年		学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。	

05全カリ (秋) 03全カリ (秋) 外共	ドイツ語 I b (基礎) ドイツ語 IAb 基礎ドイツ語 I (通年)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 1) ドイツ語の基礎的能力の習得。具体的には、春学期+秋学期の学習で「ドイツ語技能検定試験(独検)」4級に合格できるレベル達成を目指します。 2) 言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する(できるだけアクチュアルな)情報獲得を図ります。 講義概要 ドイツ語の基礎的な能力を、実際の練習を通して身につけていきます。使用する教材は、「読み、書き、聞き、話す」ことを総合的に学べるよう考えられており、また使われている表現や語彙も、実際にドイツ語圏に旅行したり滞在するときに役立つものばかりです。 授業は、日本人教員のもので行われます。この授業を通して、ドイツ語の基本的な仕組みや語彙を、楽しく、かつ体系的に学ぶことができます。		『ドイツ語一年生- ケイコのミュンヘン (Keikos Praktikum in Muenchen)・CD 付き』(朝日出版社) 2003年 Step 6 ~ Step 9	
テキスト、参考文献		評価方法	
矢羽々 崇:『ドイツ語一年生- ケイコのミュンヘン (Keikos Praktikum in Muenchen)・CD 付き』(朝日出版社) 2003年		学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。	

05全カリ (春) 03全カリ (春)	ドイツ語 I a (基礎) ドイツ語 IBa	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 1) ドイツ語の基礎的能力の習得。具体的には、春学期+秋学期の学習で「ドイツ語技能検定試験(独検)」4級に合格できるレベル達成を目指します。 2) 言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する(できるだけアクチュアルな)情報獲得を図ります。 講義概要 ドイツ語の基礎的な能力を、実際の練習を通して身につけていきます。使用する教材は、「読み、書き、聞き、話す」ことを総合的に学べるよう考えられており、また使われている表現や語彙も、実際にドイツ語圏に旅行したり滞在するときに役立つものばかりです。 授業は、日本人教員のもので行われます。この授業を通して、ドイツ語の基本的な仕組みや語彙を、楽しく、かつ体系的に学ぶことができます。		『ドイツ語一年生- ケイコのミュンヘン (Keikos Praktikum in Muenchen)・CD 付き』(朝日出版社) 2003年 Step 1 ~ Step 5	
テキスト、参考文献		評価方法	
矢羽々 崇:『ドイツ語一年生- ケイコのミュンヘン (Keikos Praktikum in Muenchen)・CD 付き』(朝日出版社) 2003年		学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。	

05全カリ (秋) 03全カリ (秋)	ドイツ語 I b (基礎) ドイツ語 IBb	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 1) ドイツ語の基礎的能力の習得。具体的には、春学期+秋学期の学習で「ドイツ語技能検定試験(独検)」4級に合格できるレベル達成を目指します。 2) 言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する(できるだけアクチュアルな)情報獲得を図ります。 講義概要 ドイツ語の基礎的な能力を、実際の練習を通して身につけていきます。使用する教材は、「読み、書き、聞き、話す」ことを総合的に学べるよう考えられており、また使われている表現や語彙も、実際にドイツ語圏に旅行したり滞在するときに役立つものばかりです。 授業は、日本人教員のもので行われます。この授業を通して、ドイツ語の基本的な仕組みや語彙を、楽しく、かつ体系的に学ぶことができます。		『ドイツ語一年生- ケイコのミュンヘン (Keikos Praktikum in Muenchen)・CD 付き』(朝日出版社) 2003年 Step 6 ~ Step 9	
テキスト、参考文献		評価方法	
矢羽々 崇:『ドイツ語一年生- ケイコのミュンヘン (Keikos Praktikum in Muenchen)・CD 付き』(朝日出版社) 2003年		学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。	

05全カリ (春) 03全カリ (春)	ドイツ語 I a (会話) ドイツ語 ICa	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 ネイティブ教員のもと、少しずつ段階を踏みながら、日常生活に関するさまざまなことがら、ドイツ語で表現できるようにすることを目指します。		『CD付き・スツェーネ1 場面で学ぶドイツ語』(三修社) 2003年 Lektion 1 ~ Lektion 6	
講義概要 ネイティブ教員のもと、日常的な場面で使われる典型的な表現を、さまざまな実際の練習を通して身につけていきます。練習は段階的に進められますが、そこで何より重要なのは、声を出して練習し、身体で覚えること。この授業で、ぜひ「ドイツ語を使う楽しさ」を味わってみてください。			
テキスト、参考文献		評価方法	
佐藤修子+伊藤祐紀子:『CD付き・スツェーネ1 場面で学ぶドイツ語』(三修社) 2003年		学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。	

05全カリ (秋) 03全カリ (秋)	ドイツ語 I b (会話) ドイツ語 ICb	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 ネイティブ教員のもと、少しずつ段階を踏みながら、日常生活に関するさまざまなことがら、ドイツ語で表現できるようにすることを目指します。		『CD付き・スツェーネ1 場面で学ぶドイツ語』(三修社) 2003年 Lektion 7 ~ Lektion 12	
講義概要 ネイティブ教員のもと、日常的な場面で使われる典型的な表現を、さまざまな実際の練習を通して身につけていきます。練習は段階的に進められますが、そこで何より重要なのは、声を出して練習し、身体で覚えること。この授業で、ぜひ「ドイツ語を使う楽しさ」を味わってみてください。			
テキスト、参考文献		評価方法	
佐藤修子+伊藤祐紀子:『CD付き・スツェーネ1 場面で学ぶドイツ語』(三修社) 2003年		学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。	

全カリ (春) 外共	ドイツ語ⅡAa 基礎ドイツ語Ⅱ (通年)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 1) 1年次に学習したことを復習し、さらにそれを発展させながら、一層のドイツ語能力向上を図ります。具体的には、2年次春学期+秋学期の学習を終えた段階で「ドイツ語技能検定試験(独検)」3級に合格できるレベル達成を目指します。 2) 1年次に続き、言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する(できるだけアクチュアルな)情報の獲得を図ります。 講義概要 1年次に学習したことを土台に、実際の練習を通して、ドイツ語の応用能力を発展させていきます。 使用する教材は、「読み、書き、聞き、話す」ことを総合的に学べるよう考えられており、また使われている表現や語彙も、実際にドイツ語圏に旅行したり滞在するときに役立つものばかりです。 授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の仕組みをより深く理解し、さらに語彙力を充実させていきましょう。		『Dialog - ステップアップ版』(郁文堂) 2003年 Lektion 1 ~ 5	
テキスト、参考文献		評価方法	
近藤+小林+新倉+松尾:『Dialog - ステップアップ版』(郁文堂) 2003年		学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。	

全カリ (秋) 外共	ドイツ語ⅡAb 基礎ドイツ語Ⅱ (通年)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 1) 1年次に学習したことを復習し、さらにそれを発展させながら、一層のドイツ語能力向上を図ります。具体的には、2年次春学期+秋学期の学習を終えた段階で「ドイツ語技能検定試験(独検)」3級に合格できるレベル達成を目指します。 2) 1年次に続き、言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する(できるだけアクチュアルな)情報の獲得を図ります。 講義概要 1年次に学習したことを土台に、実際の練習を通して、ドイツ語の応用能力を発展させていきます。 使用する教材は、「読み、書き、聞き、話す」ことを総合的に学べるよう考えられており、また使われている表現や語彙も、実際にドイツ語圏に旅行したり滞在するときに役立つものばかりです。 授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の仕組みをより深く理解し、さらに語彙力を充実させていきましょう。		『Dialog - ステップアップ版』(郁文堂) 2003年 Lektion 6 ~ 10	
テキスト、参考文献		評価方法	
近藤+小林+新倉+松尾:『Dialog - ステップアップ版』(郁文堂) 2003年		学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。	

全カリ (春)	ドイツ語ⅡBa	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 1) 1年次に学習したことを復習し、さらにそれを発展させながら、一層のドイツ語能力向上を図ります。具体的には、2年次春学期+秋学期の学習を終えた段階で「ドイツ語技能検定試験(独検)」3級に合格できるレベル達成を目指します。 2) 1年次に続き、言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する(できるだけアクチュアルな)情報の獲得を図ります。 講義概要 1年次に学習したことを土台に、実際の練習を通して、ドイツ語の応用能力を発展させていきます。 使用する教材は、「読み、書き、聞き、話す」ことを総合的に学べるよう考えられており、また使われている表現や語彙も、実際にドイツ語圏に旅行したり滞在するときに役立つものばかりです。 授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の仕組みをより深く理解し、さらに語彙力を充実させていきましょう。		『Dialog - ステップアップ版』(郁文堂) 2003年 Lektion 1~5	
テキスト、参考文献		評価方法	
近藤+小林+新倉+松尾:『Dialog - ステップアップ版』(郁文堂) 2003年		学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。	

全カリ (秋)	ドイツ語ⅡBb	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 1) 1年次に学習したことを復習し、さらにそれを発展させながら、一層のドイツ語能力向上を図ります。具体的には、2年次春学期+秋学期の学習を終えた段階で「ドイツ語技能検定試験(独検)」3級に合格できるレベル達成を目指します。 2) 1年次に続き、言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する(できるだけアクチュアルな)情報の獲得を図ります。 講義概要 1年次に学習したことを土台に、実際の練習を通して、ドイツ語の応用能力を発展させていきます。 使用する教材は、「読み、書き、聞き、話す」ことを総合的に学べるよう考えられており、また使われている表現や語彙も、実際にドイツ語圏に旅行したり滞在するときに役立つものばかりです。 授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の仕組みをより深く理解し、さらに語彙力を充実させていきましょう。		『Dialog - ステップアップ版』(郁文堂) 2003年 Lektion 6~10	
テキスト、参考文献		評価方法	
近藤+小林+新倉+松尾:『Dialog - ステップアップ版』(郁文堂) 2003年		学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。	

全カリ (春)	ドイツ語 II Ca	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 ネイティブ教員のもと、1年次に学習したことを土台にして、身近なことがらに関するドイツ語圏の事情を学び、さらにそれに対応する日本事情をドイツ語で表現できるようになることを目指します。</p> <p>講義概要 ネイティブ教員のもと、さまざまな日常的テーマを扱いながら「話す、聞く、読む、書く」という4技能の一層の向上を図ります。 対話、聞き取り、読み物、作文等、いろいろ変化に富んだ練習を行います。それによって実際の言語応用能力を養成していきます。この授業で、ぜひ「ドイツ語で表現する楽しさ」を味わってみてください。</p>		<p>『CD付き・スツェーネ 2 場面で学ぶドイツ語 ニューヴァージョン』(三修社) 2004年</p> <p>Lekiton 1 ~ Lektion 6</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
佐藤+下田+Papenthin+Oldehaver : 『CD付き・スツェーネ 2 場面で学ぶドイツ語 ニューヴァージョン』(三修社) 2004年		学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。	

全カリ (秋)	ドイツ語 II Cb	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 ネイティブ教員のもと、1年次に学習したことを土台にして、身近なことがらに関するドイツ語圏の事情を学び、さらにそれに対応する日本事情をドイツ語で表現できるようになることを目指します。</p> <p>講義概要 ネイティブ教員のもと、さまざまな日常的テーマを扱いながら「話す、聞く、読む、書く」という4技能の一層の向上を図ります。 対話、聞き取り、読み物、作文等、いろいろ変化に富んだ練習を行います。それによって実際の言語応用能力を養成していきます。この授業で、ぜひ「ドイツ語で表現する楽しさ」を味わってみてください。</p>		<p>『CD付き・スツェーネ 2 場面で学ぶドイツ語 ニューヴァージョン』(三修社) 2004年</p> <p>Lekiton 7 ~ Lektion 12</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
佐藤+下田+Papenthin+Oldehaver : 『CD付き・スツェーネ 2 場面で学ぶドイツ語 ニューヴァージョン』(三修社) 2004年		学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。	

全カリ (春)	ドイツ語ⅢBa	担当者	田島 加奈子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ドイツ語圏での習慣などを理解しながら、それぞれの場面で使う対話を参考にして、練習し、実際に会話ができるようになることがこの授業の目的である。</p> <p>そのために、パートナー練習を通して、話すドイツ語を習得してほしい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション+復習 2 復習 (動詞の三基本形、現在完了を中心に) 3~4 旅行と交通 (話法の助動詞) 5~6 レストランとホテルで 7~8 街で道を尋ねる (序数、前置詞) 9~10 天気について話す (現在完了、形容詞の比較級、最上級) 11 病気のことを伝える (再帰動詞) 12 口頭試験 	
テキスト、参考文献		評価方法	
佐藤修子他著『スツェーネン 2 場面で学ぶドイツ語—ニューバージョン—』三修社		出席、口頭試験、筆記試験	

全カリ (秋)	ドイツ語ⅢBb	担当者	田島 加奈子
講義目的、講義概要		授業計画	
同 上		<ol style="list-style-type: none"> 1~2 贈り物と招待 (人称代名詞) 3~4 人物描写 (服装) (形容詞の格変化) 5~6 ゴミと環境 (命令形、zu 不定詞) 7~8 公共の場所で禁止・許可されていること (接続法Ⅱ式) 9~10 履歴と学校制度 (過去形) 11 祝祭と祝日 (受動文、関係文) 12 口頭試験 	
テキスト、参考文献		評価方法	
佐藤修子他著『スツェーネン 2 場面で学ぶドイツ語—ニューバージョン—』三修社		出席、口頭試験、筆記試験	

05全カリ (春) 03全カリ (春) 外共	フランス語 I a (基礎) フランス語 IAa 基礎フランス語 I (通年)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>これは週1回の授業で、2年かけてフランス語の初歩を習得することを目的とした講座です。フランス語を知識として学ぶのではなく、実際に身につけ、簡単な会話ができるようになることを目指します。</p> <p>春学期では Tome 1 の第5課まで進みます。授業では CD を使うことがあります。</p> <p>右におおよその進み方を示しますが、実際の進度は先生により異なります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 発音とつづり字の読み方 2. 発音とつづり字の読み方 3. 第1課 4. 第2課 5. 第2課 6. 第3課 7. 第3課 8. 第4課 9. 第4課 10. 第5課 11. 第5課 12. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書：Tome 1 (第三書房) 辞書、参考書については担当の先生より指示があります。		担当の先生より指示があります。	

05全カリ (秋) 03全カリ (秋) 外共	フランス語 I b (基礎) フランス語 IAb 基礎フランス語 I (通年)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>これは週1回の授業で、2年かけてフランス語の初歩を習得することを目的とした講座です。フランス語を知識として学ぶのではなく、実際に身につけ、簡単な会話ができるようになることを目指します。</p> <p>秋学期では Tome 1 の第6課から第10課まで進みます。授業では CD を使うことがあります。</p> <p>右におおよその進み方を示しますが、実際の進度は先生により異なります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 13. 第6課 14. 第6課 15. 第7課 16. 第7課 17. 第8課 18. 第8課 19. 第9課 20. 第9課 21. 第10課 22. 第10課 23. annexe 24. 総合問題 (bilan) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書：Tome 1 (第三書房) 辞書、参考書については担当の先生より指示があります。		担当の先生より指示があります。	

05全カリ (春) 03全カリ (春)	フランス語 I a (総合 J) フランス語 I Ba	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講座は週2回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的としています。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指します。教科書は INITIALvol.1 で、フランス人講師とのペアで授業を行います。IBは日本人、ICはフランス人講師が担当します(再履修クラスを除く)。</p> <p>IBではとくに文法と語彙の習得が中心になります。文法や語彙に関する練習を数多く行います。実際に使えるフランス語を学びたい学生諸君にはぜひ取っていただきたい授業です。</p> <p>右の表は目安です。実際の進行は担当の先生方より指示があります。</p> <p>なおこの講座はフランス語 IC とのペアでしか取れません。</p>		1. 発音 (1) 2. 発音 (2) 3. unité 1 leçon 1 4. unité 1 leçon 2 5. unité 1 leçon 3 6. unité 1 leçon 4 7. unité 2 leçon 5 8. unité 2 leçon 6 9. unité 2 leçon 7 10. unité 2 leçon 8 11. unité 3 leçon 9 12. unité 3 leçon 10	
テキスト、参考文献		評価方法	
INITIAL vol.1		担当の各先生が指示します。	

05全カリ (秋) 03全カリ (秋)	フランス語 I b (総合 J) フランス語 I Bb	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講座は週2回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的としています。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指します。教科書は INITIALvol.1 で、フランス人講師とのペアで授業を行います。IBは日本人、ICはフランス人講師が担当します(再履修クラスを除く)。</p> <p>IBではとくに文法と語彙の習得が中心になります。文法や語彙に関する練習を数多く行います。実際に使えるフランス語を学びたい学生諸君にはぜひ取っていただきたい授業です。</p> <p>右の表は目安です。実際の進行は担当の先生方より指示があります。</p> <p>なおこの講座はフランス語 IC とのペアでしか取れません。</p>		1. unité 3 leçon 11 2. unité 3 leçon 12 3. unité 4 leçon 13 4. unité 4 leçon 14 5. unité 4 leçon 15 6. unité 4 leçon 16 7. unité 5 leçon 17 8. unité 5 leçon 18 9. unité 5 leçon 19 10. unité 5 leçon 20 11. bilan (1) 12. bilan (2)	
テキスト、参考文献		評価方法	
INITIAL vol.1		担当の各先生が指示します。	

05全カリ (春) 03全カリ (春)	フランス語 I a (総合 F) フランス語 I Ca	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講座は週2回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的としています。フランス語の会話の基礎と決まった言い回しを学び、実際的なフランス語の実力を身につけることを目指します。</p> <p>フランス語 I B とペアになる授業ですが、この I C はフランス人講師が担当いたします (再履修クラスを除く)。会話と決まった言い回し (expressions) を中心に学びます。使えるフランス語を身につけたい学生諸君には I B とともにぜひとってもらいたい授業です。</p> <p>右に進行を示しますが、これは目安であって、実際の進行は先生によって異なります。</p> <p>なおこの講座はフランス語 I B とのペアでしか取れません。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 発音 (1) 2. 発音 (2) 3. unité 1 leçon 1 4. unité 1 leçon 2 5. unité 1 leçon 3 6. unité 1 leçon 4 7. unité 2 leçon 5 8. unité 2 leçon 6 9. unité 2 leçon 7 10. unité 2 leçon 8 11. unité 3 leçon 9 12. unité 3 leçon 10 	
テキスト、参考文献		評価方法	
INITIAL vol.1		担当の各先生が指示します。	

05全カリ (秋) 03全カリ (秋)	フランス語 I b (総合 F) フランス語 I Cb	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講座は週2回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的としています。フランス語の会話の基礎と決まった言い回しを学び、実際的なフランス語の実力を身につけることを目指します。</p> <p>フランス語 I B とペアになる授業ですが、この I C はフランス人講師が担当いたします (再履修クラスを除く)。会話と決まった言い回し (expressions) を中心に学びます。使えるフランス語を身につけたい学生諸君には I B とともにぜひとってもらいたい授業です。</p> <p>右に進行を示しますが、これは目安であって、実際の進行は先生によって異なります。</p> <p>なおこの講座はフランス語 I B とのペアでしか取れません。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. unité 3 leçon 11 2. unité 3 leçon 12 3. unité 4 leçon 13 4. unité 4 leçon 14 5. unité 4 leçon 15 6. unité 4 leçon 16 7. unité 5 leçon 17 8. unité 5 leçon 18 9. unité 5 leçon 19 10. unité 5 leçon 20 11. bilan (1) 12. bilan (2) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
INITIAL vol.1		担当の各先生が指示します。	

全カリ (春) 外共	フランス語ⅡAa 基礎フランス語Ⅱ (通年)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>これは週1回の授業で、2年かけてフランス語の初歩を習得することを目的とした講座の2年目です。フランス語を知識として学ぶのではなく、実際に身につけ、簡単な会話ができるようになることを目指します。</p> <p>使用する教科書は < Elle est gourmande ! > < Salut ! > < Bis, amicalement > の3種類のうちのいずれかになります (担当の先生によって異なります)。</p> <p>1年間学んだことを発展させていきます。</p>		<p>担当の先生および教科書によって異なります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Elle est gourmande ! (朝日出版社) Salut ! (駿河台出版社) Bis, amicalement (駿河台出版社) のうちのひとつ。辞書等は先生より指示があります。</p>		<p>先生より指示があります。</p>	

全カリ (秋) 外共	フランス語ⅡAb 基礎フランス語Ⅱ (通年)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>これは週1回の授業で、2年かけてフランス語の初歩を習得することを目的とした講座の2年目です。フランス語を知識として学ぶのではなく、実際に身につけ、簡単な会話ができるようになることを目指します。</p> <p>春学期の続きです。</p>		<p>担当の先生および教科書によって異なります</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Elle est gourmande ! (朝日出版社) Salut ! (駿河台出版社) Bis, amicalement (駿河台出版社) のうちのひとつ。辞書等は先生より指示があります。</p>		<p>先生より指示があります。</p>	

全カリ (春)	フランス語 II Ba	担当者	各担当教員																																																
講義目的、講義概要		授業計画																																																	
<p>これは1年次のフランス語 I B に引き続き、週 2 回の授業でフランス語の初歩を学ぶ講座です。基本文法事項を習得し、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指します。</p> <p>教科書は INITIAL で、フランス人講師とのペアで授業を行います。II B は日本人、II C はフランス人が担当します。</p> <p>II B では文法と語彙の学習が中心になります。</p> <p>右におおよその授業の進め方を示しますが、これは目安であって、実際の進行は担当の先生によって異なります。</p>		<table border="1"> <tr><td>1.</td><td>INITIAL vol.1</td><td>unité 6</td><td>leçon 21</td></tr> <tr><td>2.</td><td></td><td>unité 6</td><td>leçon 22</td></tr> <tr><td>3.</td><td></td><td>unité 6</td><td>leçon 23</td></tr> <tr><td>4.</td><td></td><td>unité 6</td><td>leçon 24</td></tr> <tr><td>5.</td><td>INITIAL vol.2</td><td>unité 1</td><td>leçon 1</td></tr> <tr><td>6.</td><td></td><td>unité 1</td><td>leçon 2</td></tr> <tr><td>7.</td><td></td><td>unité 1</td><td>leçon 3</td></tr> <tr><td>8.</td><td></td><td>unité 1</td><td>leçon 4</td></tr> <tr><td>9.</td><td></td><td>unité 2</td><td>leçon 5</td></tr> <tr><td>10.</td><td></td><td>unité 2</td><td>leçon 6</td></tr> <tr><td>11.</td><td></td><td>unité 2</td><td>leçon 7</td></tr> <tr><td>12.</td><td></td><td>unité 2</td><td>leçon 8</td></tr> </table>		1.	INITIAL vol.1	unité 6	leçon 21	2.		unité 6	leçon 22	3.		unité 6	leçon 23	4.		unité 6	leçon 24	5.	INITIAL vol.2	unité 1	leçon 1	6.		unité 1	leçon 2	7.		unité 1	leçon 3	8.		unité 1	leçon 4	9.		unité 2	leçon 5	10.		unité 2	leçon 6	11.		unité 2	leçon 7	12.		unité 2	leçon 8
1.	INITIAL vol.1	unité 6	leçon 21																																																
2.		unité 6	leçon 22																																																
3.		unité 6	leçon 23																																																
4.		unité 6	leçon 24																																																
5.	INITIAL vol.2	unité 1	leçon 1																																																
6.		unité 1	leçon 2																																																
7.		unité 1	leçon 3																																																
8.		unité 1	leçon 4																																																
9.		unité 2	leçon 5																																																
10.		unité 2	leçon 6																																																
11.		unité 2	leçon 7																																																
12.		unité 2	leçon 8																																																
テキスト、参考文献		評価方法																																																	
INITIAL vol.1 INITIAL vol.2		担当の各先生より指示があります。																																																	

全カリ (秋)	フランス語 II Bb	担当者	各担当教員																																																
講義目的、講義概要		授業計画																																																	
<p>これは1年次のフランス語 I B に引き続き、週 2 回の授業でフランス語の初歩を学ぶ講座です。基本文法事項を習得し、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指します。</p> <p>教科書は INITIAL で、フランス人講師とのペアで授業を行います。II B は日本人、II C はフランス人が担当します。</p> <p>II B では文法と語彙の学習が中心になります。</p> <p>右におおよその授業の進め方を示しますが、これは目安であって、実際の進行は担当の先生によって異なります。</p>		<table border="1"> <tr><td>1.</td><td></td><td>unité 3</td><td>leçon 9</td></tr> <tr><td>2.</td><td></td><td>unité 3</td><td>leçon 10</td></tr> <tr><td>3.</td><td></td><td>unité 3</td><td>leçon 11</td></tr> <tr><td>4.</td><td></td><td>unité 3</td><td>leçon 12</td></tr> <tr><td>5.</td><td></td><td>unité 4</td><td>leçon 13</td></tr> <tr><td>6.</td><td></td><td>unité 4</td><td>leçon 14</td></tr> <tr><td>7.</td><td></td><td>unité 4</td><td>leçon 15</td></tr> <tr><td>8.</td><td></td><td>unité 4</td><td>leçon 16</td></tr> <tr><td>9.</td><td></td><td>unité 5</td><td>leçon 17</td></tr> <tr><td>10.</td><td></td><td>unité 5</td><td>leçon 18</td></tr> <tr><td>11.</td><td></td><td>unité 5</td><td>leçon 19</td></tr> <tr><td>12.</td><td></td><td>unité 5</td><td>leçon 20</td></tr> </table>		1.		unité 3	leçon 9	2.		unité 3	leçon 10	3.		unité 3	leçon 11	4.		unité 3	leçon 12	5.		unité 4	leçon 13	6.		unité 4	leçon 14	7.		unité 4	leçon 15	8.		unité 4	leçon 16	9.		unité 5	leçon 17	10.		unité 5	leçon 18	11.		unité 5	leçon 19	12.		unité 5	leçon 20
1.		unité 3	leçon 9																																																
2.		unité 3	leçon 10																																																
3.		unité 3	leçon 11																																																
4.		unité 3	leçon 12																																																
5.		unité 4	leçon 13																																																
6.		unité 4	leçon 14																																																
7.		unité 4	leçon 15																																																
8.		unité 4	leçon 16																																																
9.		unité 5	leçon 17																																																
10.		unité 5	leçon 18																																																
11.		unité 5	leçon 19																																																
12.		unité 5	leçon 20																																																
テキスト、参考文献		評価方法																																																	
INITIAL vol.1 INITIAL vol.2		担当の各先生より指示があります。																																																	

全カリ (春)	フランス語 II Ca	担当者	各担当教員																																																
講義目的、講義概要		授業計画																																																	
<p>これは1年次のフランス語 I C に引き続き、週 2 回の授業でフランス語の初歩を学ぶ講座です。基本文法事項を習得し、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指します。</p> <p>教科書は INITIAL で、フランス人講師とのペアで授業を行います。II B は日本人、II C はフランス人が担当します。</p> <p>II C では決まった言い回しと会話が中心になります。</p> <p>右におおよその授業の進め方を示しますが、これは目安であって、実際の進行は担当の先生によって異なります。</p>		<table border="1"> <tr><td>1.</td><td>INITIAL vol.1</td><td>unité 6</td><td>leçon 21</td></tr> <tr><td>2.</td><td></td><td>unité 6</td><td>leçon 22</td></tr> <tr><td>3.</td><td></td><td>unité 6</td><td>leçon 23</td></tr> <tr><td>4.</td><td></td><td>unité 6</td><td>leçon 24</td></tr> <tr><td>5.</td><td>INITIAL vol.2</td><td>unité 1</td><td>leçon 1</td></tr> <tr><td>6.</td><td></td><td>unité 1</td><td>leçon 2</td></tr> <tr><td>7.</td><td></td><td>unité 1</td><td>leçon 3</td></tr> <tr><td>8.</td><td></td><td>unité 1</td><td>leçon 4</td></tr> <tr><td>9.</td><td></td><td>unité 2</td><td>leçon 5</td></tr> <tr><td>10.</td><td></td><td>unité 2</td><td>leçon 6</td></tr> <tr><td>11.</td><td></td><td>unité 2</td><td>leçon 7</td></tr> <tr><td>12.</td><td></td><td>unité 2</td><td>leçon 8</td></tr> </table>		1.	INITIAL vol.1	unité 6	leçon 21	2.		unité 6	leçon 22	3.		unité 6	leçon 23	4.		unité 6	leçon 24	5.	INITIAL vol.2	unité 1	leçon 1	6.		unité 1	leçon 2	7.		unité 1	leçon 3	8.		unité 1	leçon 4	9.		unité 2	leçon 5	10.		unité 2	leçon 6	11.		unité 2	leçon 7	12.		unité 2	leçon 8
1.	INITIAL vol.1	unité 6	leçon 21																																																
2.		unité 6	leçon 22																																																
3.		unité 6	leçon 23																																																
4.		unité 6	leçon 24																																																
5.	INITIAL vol.2	unité 1	leçon 1																																																
6.		unité 1	leçon 2																																																
7.		unité 1	leçon 3																																																
8.		unité 1	leçon 4																																																
9.		unité 2	leçon 5																																																
10.		unité 2	leçon 6																																																
11.		unité 2	leçon 7																																																
12.		unité 2	leçon 8																																																
テキスト、参考文献		評価方法																																																	
INITIAL vol.1 INITIAL vol.2		担当の先生より指示されます。																																																	

全カリ (秋)	フランス語 II Cb	担当者	各担当教員																																																
講義目的、講義概要		授業計画																																																	
<p>これは1年次のフランス語 I C に引き続き、週 2 回の授業でフランス語の初歩を学ぶ講座です。基本文法事項を習得し、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指します。</p> <p>教科書は INITIAL で、フランス人講師とのペアで授業を行います。II B は日本人、II C はフランス人が担当します。</p> <p>II C では決まった言い回しと会話が中心になります。</p> <p>右におおよその授業の進め方を示しますが、これは目安であって、実際の進行は担当の先生によって異なります。</p>		<table border="1"> <tr><td>1.</td><td>INITIAL vol.2</td><td>unité 3</td><td>leçon 9</td></tr> <tr><td>2.</td><td></td><td>unité 3</td><td>leçon 10</td></tr> <tr><td>3.</td><td></td><td>unité 3</td><td>leçon 11</td></tr> <tr><td>4.</td><td></td><td>unité 3</td><td>leçon 12</td></tr> <tr><td>5.</td><td></td><td>unité 4</td><td>leçon 13</td></tr> <tr><td>6.</td><td></td><td>unité 4</td><td>leçon 14</td></tr> <tr><td>7.</td><td></td><td>unité 4</td><td>leçon 15</td></tr> <tr><td>8.</td><td></td><td>unité 4</td><td>leçon 16</td></tr> <tr><td>9.</td><td></td><td>unité 5</td><td>leçon 17</td></tr> <tr><td>10.</td><td></td><td>unité 5</td><td>leçon 18</td></tr> <tr><td>11.</td><td></td><td>unité 5</td><td>leçon 19</td></tr> <tr><td>12.</td><td></td><td>unité 5</td><td>leçon 20</td></tr> </table>		1.	INITIAL vol.2	unité 3	leçon 9	2.		unité 3	leçon 10	3.		unité 3	leçon 11	4.		unité 3	leçon 12	5.		unité 4	leçon 13	6.		unité 4	leçon 14	7.		unité 4	leçon 15	8.		unité 4	leçon 16	9.		unité 5	leçon 17	10.		unité 5	leçon 18	11.		unité 5	leçon 19	12.		unité 5	leçon 20
1.	INITIAL vol.2	unité 3	leçon 9																																																
2.		unité 3	leçon 10																																																
3.		unité 3	leçon 11																																																
4.		unité 3	leçon 12																																																
5.		unité 4	leçon 13																																																
6.		unité 4	leçon 14																																																
7.		unité 4	leçon 15																																																
8.		unité 4	leçon 16																																																
9.		unité 5	leçon 17																																																
10.		unité 5	leçon 18																																																
11.		unité 5	leçon 19																																																
12.		unité 5	leçon 20																																																
テキスト、参考文献		評価方法																																																	
INITIAL vol.1 INITIAL vol.2		担当の先生より指示されます。																																																	

全カリ (春)	フランス語ⅢAa	担当者	C.ペリセロ
講義目的、講義概要		授業計画	
最初の授業時に指示する			
テキスト、参考文献		評価方法	

全カリ (秋)	フランス語ⅢAb	担当者	C.ペリセロ
講義目的、講義概要		授業計画	
最初の授業時に指示する			
テキスト、参考文献		評価方法	

全カリ (春)	フランス語ⅢAa	担当者	F.ルーセル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Ce cours est destinée à améliorer vos compétences de communication en français (surtout à l'oral). Pour rendre votre français plus riche et plus naturel, vous aurez de nombreuses occasions de vous exprimer :</p> <p>1. « Quoi de neuf ? » : nous commencerons chaque cours par un tour de table où chacun pourra parler librement</p> <p>2. Dialogue : nous étudierons des dialogues basés sur différentes situations de la vie (mémorisation, imitation)</p> <p>3. Civilisation : apprendre une langue, c'est aussi découvrir un (ou des) pays, de nouvelles réalités, et de nouvelles idées. A partir de documents simples, nous discuterons de différents sujets sur la vie ou la société.</p> <p>4. Exposé : la langue française vous servira sûrement, dans le futur, à parler de vous et de votre pays à des francophones. Chacun devra préparer un exposé (un par semestre) portant sur la culture ou la société japonaises.</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	
Le manuel éventuellement utilisé sera décidé en début d'année, en fonction du niveau des étudiants.		Contrôle continu (votre participation à la classe et votre travail à la maison seront contrôlés chaque semaine)	

全カリ (秋)	フランス語ⅢAb	担当者	F.ルーセル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Ce cours est destinée à améliorer vos compétences de communication en français (surtout à l'oral). Pour rendre votre français plus riche et plus naturel, vous aurez de nombreuses occasions de vous exprimer :</p> <p>1. « Quoi de neuf ? » : nous commencerons chaque cours par un tour de table où chacun pourra parler librement</p> <p>2. Dialogue : nous étudierons des dialogues basés sur différentes situations de la vie (mémorisation, imitation)</p> <p>3. Civilisation : apprendre une langue, c'est aussi découvrir un (ou des) pays, de nouvelles réalités, et de nouvelles idées. A partir de documents simples, nous discuterons de différents sujets sur la vie ou la société.</p> <p>4. Exposé : la langue française vous servira sûrement, dans le futur, à parler de vous et de votre pays à des francophones. Chacun devra préparer un exposé (un par semestre) portant sur la culture ou la société japonaises.</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	
Le manuel éventuellement utilisé sera décidé en début d'année, en fonction du niveau des étudiants.		Contrôle continu (votre participation à la classe et votre travail à la maison seront contrôlés chaque semaine)	

全カリ (春)	フランス語ⅢAa	担当者	伊藤 幸次
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>シャンペンの名前がしばしば女性であるのはなぜでしょうか。ボルドーワインはシャトーと呼ばれます。ではブルゴーニュにはシャトーはありますか。最上級の格付けワインよりもっと美味しいワインとは。プロヴァンスのブドウ畑は石ころだらけなのはなぜでしょう。</p> <p>ワインに関する面白いエピソードを美しい写真やラベルの鑑賞と織り交ぜながら読んでいきます。ワインを飲む時フランス人が好んで歌う歌もCDに収録されています。授業は単なる訳読でなく、テキストの文章を応用して作文する形式で行ないます。このようにして文法知識だけでなく応用能力を身につけるよう計画しています。</p> <p>時にはインターネットを利用してワイン探訪も行ないましょう。ワインには料理も必要です。そしてチーズも。</p>		<p>1 授業方法、評価方法の解説。</p> <p>2～12 フランスワインの世界を巡る。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『ワインの話-20/20』駿河台出版社		授業での発表と定期試験による。	

全カリ (秋)	フランス語ⅢAb	担当者	伊藤 幸次
講義目的、講義概要		授業計画	
同上。		1～12 引き続いてフランスワインの世界を巡る。	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上。		同上。	

05全カリ(春) 03全カリ(春) 外共	スペイン語 I a (文法) スペイン語 I A a 基礎スペイン語 I (通年)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>基本的に週一コマスペイン語を学習する学生を対象とし、スペイン語を初めて学ぶ学生のために、口頭練習を中心にしながら、スペイン語文法の基礎と基礎的会話力の習得を目的とする。具体的には、あいさつや自己紹介、所在に関する表現、数に関する表現、現在形での質問の依頼ができ、その答えについても話し、聞き取れることを目的にする。</p>		<p>① 発音・アクセント ② 名詞の性・数、冠詞 ③ 形容詞 ④ 動詞の活用 ― 直説法現在規則活用 ⑤ 動詞の活用 ― 直説法現在不規則活用 ⑥ ser, estar 動詞の使い方 ⑦ 代名詞の使い方</p> <p>基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは最初の授業で指示する。 および、担当者が随時プリントを配布。 また、スペイン語―日本語辞書を用意してもらう。 辞書については、最初の授業で説明するので、その後購入していただきたい。</p>		<p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>	

05全カリ(秋) 03全カリ(秋) 外共	スペイン語 I b (文法) スペイン語 I Ab 基礎スペイン語 I (通年)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語 I a, IAa に引き続き、基本的に週一コマスペイン語を学習する学生を対象とし、口頭練習を中心にしながら、スペイン語文法の基礎と基礎的会話力の習得を目的とする。具体的には、あいさつや自己紹介、所在に関する表現、数に関する表現、現在形での質問の依頼ができ、その答えについても話し、聞き取れることを目的にする。</p>		<p>① 動詞の活用 ― 直説法現在形の復習とまとめ ② 動詞の活用 ― 直説法現在形不規則の復習とまとめ ③ 代名詞の使い方 ④ 動詞の活用 ― 直説法点過去規則活用 ⑤ 動詞の活用 ― 直説法点過去不規則活用</p> <p>基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは最初の授業で指示する。 また、担当者が随時プリントを配布。</p>		<p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>	

05全カリ(春) 03全カリ(春)	スペイン語 I a (文法) スペイン語 I Ba	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>基本的に週二コマスペイン語を学習する学生を対象とし、スペイン語を初めて学ぶ学生のために、スペイン語文法の基礎と基礎的会話力の習得を目的とする。動詞の直説法現在形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目指す。</p> <p><u>基本的には、スペイン語 I a(会話), I Ca とのペア履修を要望する。</u></p>		<p>① 発音・アクセント ② 名詞の性・数、冠詞 ③ 形容詞 ④ 動詞の活用 --- 直説法現在規則活用 ⑤ 動詞の活用 --- 直説法現在不規則活用 ⑥ ser, estar 動詞の使い方 ⑦ 代名詞の使い方</p> <p>基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは最初の授業で指示する。 および、担当者が随時プリントを配布。 また、スペイン語-日本語辞書を用意してもらう。 辞書については、最初の授業で説明するので、その後購入していただきたい。</p>		<p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>	

05全カリ(秋) 03全カリ(秋)	スペイン語 I b (文法) スペイン語 I Bb	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語 I a(文法), I Ba に引き続き、<u>基本的に週二コマスペイン語を学習する学生を対象とし</u>、スペイン語文法の基礎と基礎的会話力の習得を目的とする。動詞の直説法点過去形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目指す。</p> <p><u>基本的には、会話コースのスペイン語 I b(会話), I Cb とのペア履修を要望する。</u></p>		<p>① 動詞の活用 --- 直説法現在形の復習とまとめ ② 動詞の活用 --- 直説法現在形不規則の復習とまとめ ③ 代名詞の使い方 ④ 動詞の活用 --- 直説法点過去規則活用 ⑤ 動詞の活用 --- 直説法点過去不規則活用</p> <p>基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは最初の授業で指示する。 また、担当者が随時プリントを配布。</p>		<p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>	

05全カリ(春) 03全カリ(春)	スペイン語 Ia (会話) スペイン語 I Ca	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><u>基本的に週二コマスペイン語を学習する学生を対象とし、スペイン語を初めて学ぶ学生のために、文法学習に基づいて、基本的な日常会話ができるようにすることを目的にする会話中心のクラスである。</u></p> <p>スペイン語 I (会話), C の担当者は、基本的にスペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。</p> <p><u>基本的には、文法コースであるスペイン語 Ia (文法), I Ba とのペア履修を要望する。</u></p>		<p>学習目標となる文法項目は、スペイン語 Ia (文法), I Ba の項目と同じであるが、スペイン語 Ia (会話), I Ca ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。</p> <p>学習項目に関してはスペイン語 Ia (文法), I Ba の「授業計画」を参照のこと。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは最初の授業で指示する。</p> <p>および、担当者が随時プリントを配布。</p> <p>また、スペイン語-日本語辞書を用意してもらう。</p> <p>辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入していただきたい。</p>		<p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>	

05全カリ(秋) 03全カリ(秋)	スペイン語 Ib (会話) スペイン語 I Cb	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語 Ia (会話), I Ca に引き続き、<u>基本的に週二コマスペイン語を学習する学生を対象とし、文法学習に基づいて、基本的な日常会話ができるようにすることを目的にする会話中心のクラスである。</u></p> <p>スペイン語 I (会話), C の担当者は、基本的にスペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。</p> <p><u>基本的には、文法コースであるスペイン語 Ib (文法), I Bb とのペア履修を要望する。</u></p>		<p>学習目標となる文法項目は、スペイン語 Ib (文法), I Bb の項目と同じであるが、スペイン語 Ib (会話), I Cb ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。</p> <p>学習項目に関してはスペイン語 Ib (文法), I Bb の「授業計画」を参照のこと。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは最初の授業で指示する。</p> <p>また、担当者が随時プリントを配布。</p>		<p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>	

全カリ (春) 外共	スペイン語ⅡAa 基礎スペイン語Ⅱ (通年)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>基本的に週一コマスペイン語を学習する学生を対象とした、スペイン語ⅠAab の継続の授業である。過去形を中心に、比較表現・完了形などの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。</p>		<p>① 動詞の活用 --- 直説法点過去の復習 ② 動詞の活用 --- 直説法線過去 ③ 点過去と線過去の違い ④ 比較表現 ⑤ 過去分詞と現在分詞</p> <p>基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を最低限学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは最初の授業で指示する。 および、担当者が随時プリントを配布。</p>		<p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>	

全カリ (秋) 外共	スペイン語ⅡAb 基礎スペイン語Ⅱ (通年)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>上記のスペイン語ⅡAa に引き続き、<u>基本的に週一コマスペイン語を学習する学生を対象とし</u>、接続法現在・命令表現までの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。初級スペイン語文法を終える。</p>		<p>① 動詞の活用 --- 直説法現在完了形 ② 動詞の活用 --- 現在進行形 ③ 動詞の活用 --- 接続法現在形規則形 ④ 動詞の活用 --- 接続法現在形不規則形 ⑤ 命令表現</p> <p>基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは最初の授業で指示する。 および、担当者が随時プリントを配布。</p>		<p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>	

全カリ (春)	スペイン語 II Ba	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><u>基本的に週二コマスペイン語を学習する学生を対象とした、スペイン語 IBab の継続の授業である。過去形を中心に、比較表現・完了形などの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。</u></p> <p><u>基本的には、スペイン語 IICa とのペア履修を要望する。</u></p>		<p>① 動詞の活用 --- 直説法点過去の復習 ② 動詞の活用 --- 直説法線過去 ③ 点過去と線過去の違い ④ 比較表現 ⑤ 過去分詞と現在分詞</p> <p>基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を最低限学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは最初の授業で指示する。 および、担当者が随時プリントを配布。</p>		<p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>	

全カリ (秋)	スペイン語 II Bb	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><u>スペイン語 IIBa に引き続き、基本的に週二コマスペイン語を学習する学生を対象とする。接続法現在・命令表現までの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。初級スペイン語文法を終える。</u></p> <p><u>基本的には、会話コースのスペイン語 IICb とのペア履修を要望する。</u></p>		<p>① 動詞の活用 --- 直説法現在完了形 ② 動詞の活用 --- 現在進行形 ③ 動詞の活用 --- 接続法現在形規則形 ④ 動詞の活用 --- 接続法現在形不規則形 ⑤ 命令表現</p> <p>基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは最初の授業で指示する。 および、担当者が随時プリントを配布。</p>		<p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>	

全カリ (春)	スペイン語 II Ca	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><u>基本的に週二コマスペイン語を学習する学生を対象とし、過去形を中心に、比較表現・完了形などの基礎的文法事項をまなび、文法学習に基づいて、基本的な日常会話ができるようにすることを目的とする会話中心のクラスである。語学力だけではなく、スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。</u></p> <p><u>基本的には、文法コースであるスペイン語 IIBa とのペア履修を要望する。</u></p>		<p>学習目標となる文法項目は、スペイン語 IIBa の項目と同じであるが、スペイン語 IICa ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。</p> <p>学習項目に関してはスペイン語 IIBa の「授業計画」を参照のこと。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは最初の授業で指示する。</p> <p>および、担当者が随時プリントを配布。</p>		<p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>	

全カリ (秋)	スペイン語 II Cb	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><u>スペイン語 I Ca に引き続き、基本的に週二コマスペイン語を学習する学生を対象とする。接続法現在・命令表現までの基礎的文法事項をまなび、文法学習に基づいて、基本的な日常会話ができるようにすることを目的とする会話中心のクラスである。語学力だけではなく、スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。</u></p> <p><u>基本的には、文法コースであるスペイン語 IIBb とのペア履修を要望する。</u></p>		<p>学習目標となる文法項目は、スペイン語 IIBb の項目と同じであるが、スペイン語 IICb ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。</p> <p>学習項目に関してはスペイン語 IIBb の「授業計画」を参照のこと。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは最初の授業で指示する。</p> <p>および、担当者が随時プリントを配布。</p>		<p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>	

全カリ (春)	スペイン語ⅢAa	担当者	喜多 延鷹
講義目的、講義概要		授業計画	
初級文法をひとつおり終了した学生を対象に講読 中心に進める。 具体的には最初の授業で説明する。		最初の授業で説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
最初の授業で指示する。		テスト・授業態度により総合評価する。	

全カリ (秋)	スペイン語ⅢAb	担当者	喜多 延鷹
講義目的、講義概要		授業計画	
同上		同上	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上		同上	

全カリ (春)	スペイン語Ⅲ Ba	担当者	J. フェレーラス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日本語にないスペイン語の独特な「音」を一人一人に繰り返させて、スペイン語らしい発音ができるようにするとともに聞き取り能力を養成する。</p> <p>スペイン語とともにポディーランゲージになれること。</p> <p>ビデオを用いながら会話、文化（世界遺産、生活、習慣、など）を紹介。</p>		<p>季節ごとのスペイン語圏の国々の祝日、記念日、行事、慣習（イースター、学生の日、死者の日、など）をビデオや写真によって学ぶこと。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
本を使わず、その都度担当者が作成。		出席、授業への積極的な参加、小テスト。	

全カリ (秋)	スペイン語Ⅲ Bb	担当者	J. フェレーラス
講義目的、講義概要		授業計画	
同上		同上	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上		同上	

05全カリ(春) 03全カリ(春) 外共	中国語 I a (会話) 中国語 I A a 基礎中国語 I (通年)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>中国語の入門段階で最も重要なことは発音の習得です。発音の壁を越えると中国語の学習がうんと楽しくなり自信がついてきます。「耳」と「口」を精一杯駆使して根気よく練習することが大切です。会話文を歌を覚えるようにそのリズムを楽しみながら暗誦すると学習効果は一段と高まります</p> <p>中国語の基礎力をつけるために発音のトレーニングをしながら会話文の基本文型とこの中で使われている初級文法事項についても学びます。</p> <p>受講者の皆さんが授業中に教師に積極的に質問することを歓迎します。</p>		<p>第1回～第3回：テキスト発音篇</p> <p>第4回～第12回：テキスト第1課～第8課</p> <p>(内 容) 形容詞述語文、動詞述語文、名詞述語文、各種疑問文、“在”、“有”の用法、“了”の用法、数の数え方、量詞、比較の表現、結果補語、可能補語、助動詞“会、可以、想”他。</p> <p>各クラスの学習状況に応じて進度を図りながら、上記の範囲を学びます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：『表現する中国語』白帝社 推薦辞書：『プログレッシブ中国語辞典』</p>		<p>期末試験と平常点（中間テスト、小テスト、出席、課題の実行度、授業への姿勢）によって総合的に評価します。</p>	

05全カリ(秋) 03全カリ(秋) 外共	中国語 I b (会話) 中国語 I A b 基礎中国語 I (通年)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>中国語の入門段階で最も重要なことは発音の習得です。発音の壁を越えると中国語の学習がうんと楽しくなり自信がついてきます。「耳」と「口」を精一杯駆使して根気よく練習することが大切です。会話文を歌を覚えるようにそのリズムを楽しみながら暗誦すると学習効果は一段と高まります</p> <p>中国語の基礎力をつけるために発音のトレーニングをしながら会話文の基本文型とこの中で使われている初級文法事項についても学びます。</p> <p>受講者の皆さんが授業中に教師に積極的に質問することを歓迎します</p>		<p>第1回～第12回：テキスト第9課～第16課</p> <p>(内 容) 各種前置詞、様態補語、持続の“着”、主述述語文助動詞“能、得”、方向補語、“把”構文、存現文、受身文、兼語文、“要”の用法、その他さまざまな言い回し。</p> <p>各クラスの学習状況に応じて進度を図りながら、上記の範囲を学びます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：『表現する中国語』白帝社 推薦辞書：『プログレッシブ中国語辞典』</p>		<p>期末試験と平常点（中間テスト、小テスト、出席、課題の実行度、授業への姿勢など）によって総合的に評価します。</p>	

05全カリ (春) 03全カリ (春)	中国語 I a (会話) 中国語 I B a	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>中国語の入門段階で最も重要なことは発音の習得です。発音の壁を越えると中国語の学習がうんと楽しくなり自信がついてきます。「耳」と「口」を精一杯駆使して根気よく練習することが大切です。会話文を歌を覚えるようにそのリズムを楽しみながら暗誦すると学習効果は一段と高まります</p> <p>中国語の基礎力をつけるために発音のトレーニングをしながら会話文の基本文型とこの中で使われている初級文法事項についても学びます。</p> <p>受講者の皆さんが授業中に教師に積極的に質問することを歓迎します。</p>		<p>第1回～第3回：テキスト発音篇</p> <p>第4回～第12回：テキスト第1課～第8課</p> <p>(内 容) 形容詞述語文、動詞述語文、名詞述語文、各種疑問文、“在”、“有”の用法、“了”の用法、数の数え方、量詞、比較の表現、結果補語、可能補語、助動詞“会、可以、想”他。</p> <p>各クラスの学習状況に応じて進度を図りながら、上記の範囲を学びます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：『表現する中国語』白帝社 推薦辞書：『プログレッシブ中国語辞典』</p>		<p>期末試験と平常点（中間テスト、小テスト、出席、課題の実行度、授業への姿勢）によって総合的に評価します。</p>	

05全カリ (秋) 03全カリ (秋)	中国語 I b (会話) 中国語 I B b	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>中国語の入門段階で最も重要なことは発音の習得です。発音の壁を越えると中国語の学習がうんと楽しくなり自信がついてきます。「耳」と「口」を精一杯駆使して根気よく練習することが大切です。会話文を歌を覚えるようにそのリズムを楽しみながら暗誦すると学習効果は一段と高まります</p> <p>中国語の基礎力をつけるために発音のトレーニングをしながら会話文の基本文型とこの中で使われている初級文法事項についても学びます。</p> <p>受講者の皆さんが授業中に教師に積極的に質問することを歓迎します</p>		<p>第1回～第12回：テキスト第9課～第16課</p> <p>(内 容) 各種前置詞、様態補語、持続の“着”、主述述語文助動詞“能、得”、方向補語、“把”構文、存現文、受身文、兼語文、“要”の用法、その他さまざまな言い回し。</p> <p>各クラスの学習状況に応じて進度を図りながら、上記の範囲を学びます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：『表現する中国語』白帝社 推薦辞書：『プログレッシブ中国語辞典』</p>		<p>期末試験と平常点（中間テスト、小テスト、出席、課題の実行度、授業への姿勢など）によって総合的に評価します。</p>	

05全カリ (春) 03全カリ (春)	中国語 I a (講読・文法) 中国語 I Ca	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>中国語の入門段階でまず習得しなければならないのは発音です。ピンイン (中国語表音ローマ字) を正しく読めるように繰り返し練習します。</p> <p>次に中国語の基礎文法を学び、中国語の語順の基本を理解することによって基礎的な日常表現を習得します。</p> <p>授業は音読を重視し色々な基礎文型を頭だけでなく「耳」と「口」を使って身体で覚えるようにすることが求められます。</p> <p>受講者の皆さんが積極的に授業に参加することを期待します。</p>		<p>第1回～第3回：テキスト 中国語の発音</p> <p>第4回～第12回：テキスト第1課～第6課</p> <p>(内 容) 人称代名詞、指示代名詞、疑問詞、数量詞、動詞述語文、形容詞述語文、各種疑問文、連動文、動詞の重ね型、“是、有、在。”の用法、“也、都”の用法、月日・曜日・時刻の言い方 等等。</p> <p>各クラスの学習状況に応じて進度を図りながら上記の範囲を学びます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：『中国語ポイント42』白水社 推薦辞書：『プログレッシブ中国語辞典』小学館</p>		<p>期末試験と平常点 (中間テスト、小テスト、出席、課題の実行度、授業への姿勢など) によって評価します。</p>	

05全カリ (秋) 03全カリ (秋)	中国語 I b (講読・文法) 中国語 I C b	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>前期に引き続き文法事項と基礎文型を学びます。</p> <p>また前期で学んだ発音の基礎をさらに強化し、文の内容を理解しながら中国語のイントネーションを身につけるよう練習します。</p> <p>テキストに出ている単語数はそれほど多くないので、テキスト別冊の「自習単語帳」なども活用して発音・意味ともしっかり覚えてしまうことが求められます。</p>		<p>第1回～第12回：テキスト第7課～第12課</p> <p>(内 容) 各種介詞、各種動詞、動作・状態の進行と持続、結果補語、状態補語、方向補語、可能補語、完了を表す“了”、時間量の表し方、“把”構文、比較の表現 等等。</p> <p>各クラスの学習状況に応じて進度を図りながら上記の範囲を学びます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：『中国語ポイント42』白水社 推薦辞書：『プログレッシブ中国語辞典』小学館</p>		<p>期末試験と平常点 (中間テスト、小テスト、出席、課題の実行度、授業への姿勢など) によって評価します。</p>	

全カリ (春) 外共	中国語ⅡAa 基礎中国語Ⅱ (通年)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>最初の1年間で習得した単語や会話の基礎表現を復習・確認しながらさらに新しい表現を学び、コミュニケーション能力のレベルアップを目指します。</p> <p>テキストの会話文を使って日本人が中国でよく出会う場面の中で交わされる実用的で分かりやすい言い回しを勉強します。繰り返し聴き、声に出して読み、丸暗記すると学習効果が一層向上します。</p> <p>文法事項は、一部の新しいものを除きその多くの部分は1年次にすでに学んでいるので復習を重ねることで基礎文型、基礎表現をしっかり定着させることが大切です。</p>		<p>第1回～第12回：テキスト第1課～第6課</p> <p>(内 容) <場面別会話> 北京に到着 道を尋ねる 買い物 バスに乗る 新しい友達 外食</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：『2年生のコミュニケーション中国語』白水社 推薦辞書：『プログレッシブ中国語辞典』小学館</p>		<p>期末試験と平常点（中間テスト、小テスト、出席、課題の実行度、授業への姿勢など）によって評価します。</p>	

全カリ (秋) 外共	中国語ⅡAb 基礎中国語Ⅱ (通年)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>最初の1年間で習得した単語や会話の基礎表現を復習・確認しながらさらに新しい表現を学び、コミュニケーション能力のレベルアップを目指します。</p> <p>テキストの会話文を使って日本人が中国でよく出会う場面の中で交わされる実用的で分かりやすい言い回しを勉強します。繰り返し聴き、声に出して読み、丸暗記すると学習効果が一層向上します。</p> <p>文法事項は、一部の新しいものを除きその多くの部分は1年次にすでに学んでいるので復習を重ねることで基礎文型、基礎表現をしっかり定着させることが大切です。</p>		<p>第1回～第12回：テキスト第7課～第12課</p> <p>(内 容) <場面別会話> 約束 友達に電話する 郵便局 医者に行く 家庭訪問 謝恩会</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：『2年生のコミュニケーション中国語』白水社 推薦辞書：『プログレッシブ中国語辞典』小学館</p>		<p>期末試験と平常点（中間テスト、小テスト、出席、課題の実行度、授業への姿勢など）によって評価します。</p>	

全カリ (春)	中国語ⅡB a	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>最初の1年間で習得した単語や会話の基礎表現を復習・確認しながらさらに新しい表現を学び、コミュニケーション能力のレベルアップを目指します。</p> <p>テキストの会話文を使って日本人が中国でよく出会う場面の中で交わされる実用的で分かりやすい言い回しを勉強します。繰り返し聴き、声に出して読み、丸暗記すると学習効果が一層向上します。</p> <p>文法事項は、一部の新しいものを除きその多くの部分は1年次にすでに学んでいるので復習を重ねることで基礎文型、基礎表現をしっかり定着させることが大切です。</p>		<p>第1回～第12回：テキスト第1課～第6課</p> <p>(内 容) <場面別会話> 北京に到着 道を尋ねる 買い物 バスに乗る 新しい友達 外食</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：『2年生のコミュニケーション中国語』白水社 推薦辞書：『プログレッシブ中国語辞典』小学館</p>		<p>期末試験と平常点（中間テスト、小テスト、出席、課題の実行度、授業への姿勢など）によって評価します。</p>	

全カリ (秋)	中国語ⅡBb	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>最初の1年間で習得した単語や会話の基礎表現を復習・確認しながらさらに新しい表現を学び、コミュニケーション能力のレベルアップを目指します。</p> <p>テキストの会話文を使って日本人が中国でよく出会う場面の中で交わされる実用的で分かりやすい言い回しを勉強します。繰り返し聴き、声に出して読み、丸暗記すると学習効果が一層向上します。</p> <p>文法事項は、一部の新しいものを除きその多くの部分は1年次にすでに学んでいるので復習を重ねることで基礎文型、基礎表現をしっかり定着させることが大切です。</p>		<p>第1回～第12回：テキスト第7課～第12課</p> <p>(内 容) <場面別会話> 約束 友達に電話する 郵便局 医者に行く 家庭訪問 謝恩会</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：『2年生のコミュニケーション中国語』白水社 推薦辞書：『プログレッシブ中国語辞典』小学館</p>		<p>期末試験と平常点（中間テスト、小テスト、出席、課題の実行度、授業への姿勢など）によって評価します。</p>	

全カリ (春)	中国語 II Ca	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現代の中国に暮らす人々の生活や社会の状況を題材にした比較的長い文章の講読を通じて最初の1年間で習得した文法・言いまわしを復習、確認しながらさらに新しい語句や表現を学びます。</p> <p>授業では音読を重視します。文章の内容を理解した上でイントネーションに注意しながら長文の音読練習をすることで中国語の発音は飛躍的に上達するからです。</p> <p>このテキストの文章を講読することによって受講者の皆さんが言葉だけでなく激しく変貌を遂げつつある今の中国に関心を持ち、理解する一助になることを期待しています。</p> <p>授業には辞書必携。</p>		<p>第1回～第12回：テキスト第1課～第5課</p> <p>(内 容)</p> <p>各課文の読解と課文に出てくる重要語句や少々複雑な構文を短い例文を通して学びます。</p> <p>各課の「練習問題」は復習を兼ねて原則として課題とし、次の授業で受講者の皆さんが解答します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：『中国は今』 白水社		期末試験と平常点（中間テスト、小テスト、出席、課題の実行度、授業への姿勢など）によって評価します。	

全カリ (秋)	中国語 II Cb	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現代の中国に暮らす人々の生活や社会の状況を題材にした比較的長い文章の講読を通じて最初の1年間で習得した文法・言いまわしを復習、確認しながらさらに新しい語句や表現を学びます。</p> <p>授業では音読を重視します。文章の内容を理解した上でイントネーションに注意しながら長文の音読練習をすることで中国語の発音は飛躍的に上達するからです。</p> <p>このテキストの文章を講読することによって受講者の皆さんが言葉だけでなく激しく変貌を遂げつつある今の中国に関心を持ち、理解する一助になることを期待しています。</p> <p>授業には辞書必携。</p>		<p>第1回～第12回：テキスト第6課～第10課</p> <p>(内 容)</p> <p>各課文の読解と課文に出てくる重要語句や少々複雑な構文を短い例文を通して学びます。</p> <p>各課の「練習問題」は復習を兼ねて原則として課題とし、次の授業で受講者の皆さんが解答します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：『中国は今』 白水社		期末試験と平常点（中間テスト、小テスト、出席、課題の実行度、授業への姿勢など）によって評価します。	

全カリ (春)	中国語Ⅲa (会話)	担当者	張 継英
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>中国語Ⅲの授業は、I、II、で学んだ会話の入門段階をさらに定着・発展させるために、一つ的话题をめぐってバリエーションに富んだ会話が展開でき、日常生活に不自由のないレベルに達することを目指します。テキストの会話の文体は決して難しいものではありませんが、さまざまなシチュエーションにすばやく反応して正確に中国語を聞き取り、かつ自然に中国語が口をついて出るようトレーニングします。</p>		<p>第1回～第12回：テキスト Unit1～Unit5</p> <p>(内 容) 各 Unit の話題ごとの会話を学び、それらを暗誦できるほどにしっかり定着させます。 テキストの各 Unit の 後ろにある<話してみよう>と<ヒアリング>部分は、原則として課題とし次回の授業で受講者の皆さんに解答してもらいます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：新版 『トーク・トピックス』白帝社</p>		<p>期末試験と平常点（中間テスト、小テスト、出席、課題の実行度、授業への姿勢など）によって評価します。</p>	

全カリ (秋)	中国語Ⅲb (会話)	担当者	張 継英
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>中国語Ⅲの授業は、I、II、で学んだ会話の入門段階をさらに定着・発展させるために、一つ的话题をめぐってバリエーションに富んだ会話が展開でき、日常生活に不自由のないレベルに達することを目指します。テキストの会話の文体は決して難しいものではありませんが、さまざまなシチュエーションにすばやく反応して正確に中国語を聞き取り、かつ自然に中国語が口をついて出るようトレーニングします。</p>		<p>第1回～第12回：テキスト Unit6～Unit10</p> <p>(内 容) 各 Unit のテーマごとの会話を学び、それらを暗誦できるほどにしっかり定着させます。 テキストの各 Unit の 後ろにある<話してみよう>と<ヒアリング>部分は、原則として課題とし次回の授業で受講者の皆さんに解答してもらいます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：新版 『トーク・トピックス』白帝社</p>		<p>期末試験と平常点（中間テスト、小テスト、出席、課題の実行度、授業への姿勢など）によって評価します。</p>	

全カリ (春)	中国語Ⅲa (講読・文法)	担当者	石垣 寿夫
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>読解・応用練習を通して中国語Ⅰ・Ⅱで学んだ語彙・文法事項の定着・発展を図るとともに将来的に中国語の勉強を続けるために必要な、豊かな基礎力の養成を目指します。</p> <p>読解では、変貌を遂げつつある中国社会を理解する一助として、新しい社会を反映する新語、流行語を含む時事文を対象とし、その読解力を養います。</p> <p>他方、「読む」ばかりでなく、自分から「発信する」応用力を身につけるため、基礎的な語句と文型の応用練習(解釈・作文)を並行して行います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 第1課 読解 2. 第2課 読解 3. 第1課、第2課 練習 4. 第3課 読解 5. 第4課 読解 6. 第3課、第4課 練習 7. 第5課 読解 8. 第6課 読解 9. 第5課、第6課 練習 10. 第7課 読解 11. 第8課 読解 12. 第7課、第8課 練習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：『中文新世紀』白帝社		期末試験と平常点(出席・発表・参加姿勢)によって評価します。	

全カリ (秋)	中国語Ⅲb (講読・文法)	担当者	石垣 寿夫
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>読解・応用練習を通して中国語Ⅰ・Ⅱで学んだ語彙・文法事項の定着・発展を図るとともに将来的に中国語の勉強を続けるために必要な、豊かな基礎力の養成を目指します。</p> <p>読解では、変貌を遂げつつある中国社会を理解する一助として、新しい社会を反映する新語、流行語を含む時事文を対象とし、その読解力を養います。</p> <p>他方、「読む」ばかりでなく、自分から「発信する」応用力を身につけるため、基礎的な語句と文型の応用練習(解釈・作文)を並行して行います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 第9課 読解 2. 第10課 読解 3. 第9課、第10課 練習 4. 第11課 読解 5. 第12課 読解 6. 第11課、第12課 練習 7. 第13課 読解 8. 第14課 読解 9. 第13課、第14課 練習 10. 第15課 読解 11. 第16課 読解 12. 第15課、第16課 練習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：『中文新世紀』白帝社		期末試験と平常点(出席・発表・参加姿勢)によって評価します。	

全カリ (春)	イタリア語 I a	担当者	園田 みどり
講義目的、講義概要		授業計画	
イタリア語の初等文法を学ぶことによって、比較的平易な文章を理解し、日常会話に必要な基礎的な表現を身につけることを目指す。随時小テストを行い、習熟度の確認を行う。		1 アルファベットと発音 2 名詞と冠詞 (1) 3 名詞と冠詞 (2)、挨拶の表現 4 形容詞 5 動詞の現在形 (1) 6 動詞の現在形 (2)、相手が誰かを尋ねる表現 7 動詞の現在形 (3)、自分自身について話す (1) 8 前置詞 (1) 9 前置詞 (2)、自分自身について話す (2) 10 不規則で重要な動詞 11 あるものが存在するかしないかを知る、時間を言う 12 様態動詞 (〜できる、〜しなければならない、〜したい)	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書：ナンニーニ アルダ、藤谷道夫『イタリア語の最初歩』(三修社) / 推薦する辞書：『伊和中辞典』(小学館) / その他に適宜プリントを配布する。		授業内に行う小テストおよび期末試験の成績による。	

全カリ (秋)	イタリア語 I b	担当者	園田 みどり
講義目的、講義概要		授業計画	
イタリア語 I a に引き続き、イタリア語の初等文法を学ぶことによって、比較的平易な文章を理解し、日常会話に必要な基礎的な表現を身につけることを目指す。随時小テストを行い、習熟度の確認を行う。		1 前期で学んだ内容の復習 2 目的地までの行き方を聞く 3 所有形容詞 4 再帰動詞 (1) 5 再帰動詞 (2) 6 比較級と最上級 (1) 7 比較級と最上級 (2)、自分の好みを表現する 8 近過去 (1) 9 近過去 (2) 10 直接・間接目的語の代名詞 (1) 11 直接・間接目的語の代名詞 (2) 12 半過去	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書：ナンニーニ アルダ、藤谷道夫『イタリア語の最初歩』(三修社) / 推薦する辞書：『伊和中辞典』(小学館) / その他に適宜プリントを配布する。		授業内に行う小テストおよび期末試験の成績による。	

全カリ (春) 外共	ポルトガル語 I a 基礎ポルトガル語 I (通年)	担当者	牧野 真也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、ポルトガル語を初めて学習する人を対象としており、ポルトガル語の基本文法と基本表現を学びます。後期のポルトガル語 I b と併せ、一年後には簡単な会話表現が使える、平易な文章であれば辞書を引きながら理解できるようになるのが目標です。</p>		<p>教科書は未定です。</p> <p>授業では、基本的な文法項目の学習と平行して、文型練習や CD・テープを利用したリスニング練習、会話練習なども行います。文法項目は、学習の便を考え、必要に応じて英語と対照しながら説明することもあります。また受講者の進度・意欲次第では、ポルトガルやブラジルの文化・社会事情を題材にした平易なテキストを読むことも考えています。</p> <p>辞書はぜひ購入することをお勧めします。練習問題を行うときや文章を読むときに必要になります。日本の辞書では『現代ポルトガル語辞典』（白水社）がお勧めですが、すでに他のものを持っていたり、それ以外のものを希望する人は白水社の辞書にこだわる必要はありません。</p> <p>質問等は kuitak@syd.odn.ne.jp まで。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは未定です。 辞書については上欄を参照のこと。 その他の参考書については授業中に適宜紹介します。</p>		出席・授業態度・定期試験による総合評価です。	

全カリ (秋) 外共	ポルトガル語 I b 基礎ポルトガル語 I (通年)	担当者	牧野 真也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、ポルトガル語を初めて学習する人を対象としており、ポルトガル語の基本文法と基本表現を学びます。前期のポルトガル語 I a と併せ、一年後には簡単な会話表現が使える、平易な文章であれば辞書を引きながら理解できるようになるのが目標です。</p>		<p>教科書は未定です。</p> <p>授業では、基本的な文法項目の学習と平行して、文型練習や CD・テープを利用したリスニング練習、会話練習なども行います。文法項目は、学習の便を考え、必要に応じて英語と対照しながら説明することもあります。また受講者の進度・意欲次第では、ポルトガルやブラジルの文化・社会事情を題材にした平易なテキストを読むことも考えています。</p> <p>辞書はぜひ購入することをお勧めします。練習問題を行うときや文章を読むときに必要になります。日本の辞書では『現代ポルトガル語辞典』（白水社）がお勧めですが、すでに他のものを持っていたり、それ以外のものを希望する人は白水社の辞書にこだわる必要はありません。</p> <p>質問等は kuitak@syd.odn.ne.jp まで。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは未定です。 辞書については上欄を参照のこと。 その他の参考書については授業中に適宜紹介します。</p>		出席・授業態度・定期試験による総合評価です。	

05全カリ(春) 03全カリ(春) 外共	ロシア語Ia(総合) ロシア語IAa 基礎ロシア語I(通年)	担当者	斉藤 毅
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ユーラシア大陸のちょうど中間に位置するロシアは、今日の国際社会の中で重要な地位を占めているだけでなく、千年以上の歴史にわたり、ヨーロッパともアジアとも異なる独特の文化を育んできました。その言語であるロシア語も、文字はもちろんのこと、音の響きや文法の面でも、英語等とはかなり違った特徴を持っています。</p> <p>この授業はまったくの初心者を対象とし、文字の読み方・書き方から始め、後期を含め一年間でロシア語文法の最初歩をマスターすることを目指します。</p> <p>会話を中心とした「ロシア語I Ba」と併せて受講することが原則ですが、単独での履修も可能です。</p>		<p>全体で教科書の第9課まで進むことを目標とします。主な学習事項は以下の通りです。</p> <p>1-6. アルファベット(キリル文字)の発音・書き方 基本的な文型(平叙文、疑問文、否定文)</p> <p>7. 名詞の性と、形容詞類の変化</p> <p>8. 動詞の現在変化(1)</p> <p>9. 場所の表現(1)(前置詞、名詞の格変化の導入)</p> <p>ロシアの地理・歴史・文化についての基礎知識も、随時とりあげてゆきます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
黒田龍之助『ロシア語文法への旅』(大学書林) 辞書・参考書等は授業時に紹介してゆきます。		①期末試験、②出席などの平常点。とくに出席を重視します。	

05全カリ(秋) 03全カリ(秋) 外共	ロシア語Ib(総合) ロシア語IAb 基礎ロシア語I(通年)	担当者	斉藤 毅
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「ロシア語IAa」の続編の授業です。「Aa」と同じ教科書もちいて、引き続きロシア語文法を学んでゆきます。</p>		<p>全体で教科書の第18課まで進むことを目標とします。主な学習事項は以下の通りです。</p> <p>10. 場所の表現(2)(前置詞)</p> <p>11. 動詞の現在変化(2)</p> <p>12. 不規則動詞の現在変化</p> <p>13. 形容詞の変化</p> <p>14. 名詞の複数形</p> <p>15. 名詞の格変化(1)生格</p> <p>16. 名詞の格変化(2)対格</p> <p>17. 動詞の過去変化</p> <p>18. 運動の動詞、方向の表現</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
黒田龍之助『ロシア語文法への旅』(大学書林) 辞書・参考書等は授業時に紹介してゆきます。		①期末試験、②出席などの平常点。とくに出席を重視します。	

05全カリ(春) 03全カリ(春) 外共	ロシア語 Ia (会話) ロシア語 IBa 基礎ロシア語 I (通年)	担当者	佐藤 千登勢
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>はじめてロシア語を学ぶ人を対象とします。</p> <p>資本主義への移行を果たし、改めて世界における主要な位置を占めるようになったロシア。政治、経済、文化において日本との交流もますます拡大していきます。今後、ロシア語が重要な言語になることは間違いありません。</p> <p>ロシア語は、日本語の50音と同様、アルファベット(キリル文字)の音を一度覚えてしまえば、どんな単語でも正しく読むことができ、短期間で到達度が高い言語です。音の響きの美しさでも世界一と定評がありますから、一度は触れてほしい、それがロシア語です。</p> <p>この授業では、発音、イントネーションを正しく身につけ、ロシア語で挨拶や自己紹介をしたり、買い物ができるようにします。発話のみならず、リスニングを通して聴取の力もつけます。また、ロシアの文化や生活習慣について、毎回、映像資料を通して紹介していきます。</p> <p>「ロシア語 IA」 と併せての受講が望ましいのですが、単独での履修も可能です。</p> <p>Г о в о р и м п о - р у с с к и !</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス (ロシア語、およびロシアについて)。 2 アルファベット、発音練習。「チェブラーシカ」鑑賞。 3 アルファベット、発音練習。「チェブラーシカ」鑑賞。 4 単語、文章の発音練習。「チェブラーシカ」鑑賞。 5 動詞の変化、名詞の性、発音練習。リスニング。「チェブラーシカ」鑑賞。 6 動詞の変化、代名詞、発音練習。リスニング。「チェブラーシカ」鑑賞。 7 動詞の変化、所有代名詞、発音練習。ディクテーション。「戦艦ポチョムキン」(一部) 鑑賞。 8 自己紹介の表現、リスニング。「イワン雷帝」(一部) 鑑賞。 9 自己紹介の表現。買い物に必要な表現。「惑星ソラリス」(一部) 鑑賞。 10 まとめと補足。アニメ映画「霧の中のハリネズミ」鑑賞。 11 映画鑑賞。 12 試験 (会話とディクテーション)。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
毎回、プリントを配付します。		学期末に試験 (会話とディクテーション) を行いますが、何よりも出席率を重要視します。	

05全カリ(秋) 03全カリ(秋) 外共	ロシア語 Ib (会話) ロシア語 IBb 基礎ロシア語 I (通年)	担当者	佐藤 千登勢
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「ロシア語 IBa」の続きとなります。ロシア語の響きの美しさを共に味わいながら、会話の練習をさらに重ね、聴取力を向上させていきましょう。</p> <p>道を訪ねる表現、外食する時の表現を身につけ、ロシア旅行を楽しめるぐらいのレベルを目指します。同時に、ロシアの交通事情や食文化についても知識を深めます。</p> <p>Ж е л а ю в а м у с п е х о в в у ч ё б е !</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 春学期の復習。アニメ映画「きつねとウサギ」鑑賞。 2 疑問詞、感嘆文、形容詞。リスニング。パペットアニメ「ミトン」鑑賞。 3 感嘆文。道の尋ね方。リスニング。パレリーナ、プリセツカヤのインタビューと演技を見る。 4 道の尋ね方。ロシアの子供達のインタビューを見る。 5 道の尋ね方。リスニング。ロシアの子供達のインタビューを見る。 6 外食に必要な表現。メニューの見方。ロシアの子供達のインタビューを見る。 7 外食に必要な表現。数詞。リスニング。ロシアの子供達のインタビューを見る。 8 外食に必要な表現。数詞と名詞の組み合わせ。ロシアの子供達のインタビューを見る。 9 外食に必要な表現。数詞と名詞の組み合わせ。リスニング。ロシアの子供達のインタビューを見る。 10 まとめと補足。ロシアの子供達のインタビューを見る。 11 映画鑑賞。 12 試験 (会話とディクテーション)。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
毎回、プリントを配付します。		学期末に試験 (会話とディクテーション) を行いますが、何よりも出席率を重要視します。	

全カリ (春) 外共	ロシア語ⅡAa 基礎ロシア語Ⅱ (通年)	担当者	佐藤 千登勢
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>昨年度に「ロシア語Ⅰ」を履修した人を対象としますが、ロシア語の初歩を学んだことのある人なら誰でも履修可能です。</p> <p>この授業では、昨年度使用した文法のテキストをさらに進めていながら、新たな文法事項や表現を身につけていきます。また、総合的な力をつけるために、リスニング、音読にも力を入れます。なお、ロシア語にも長い歴史をもつ検定試験があります。この授業を受けた先輩には、検定に挑戦し合格した人もいます。検定試験の受験はむろん義務ではありませんが、10月に行われるロシア語検定試験4級もしくは3級に合格する力をつけるべく、ロシア語の基礎を固めていくのがレベル上での目標です。せっかく学ぶロシア語。文法事項をひとつひとつ着実に消化しながら、結実させたいですね。</p> <p>ロシアは、深く美しい芸術を誇る国です。映像資料を通して、言葉を支える背景としての文化、芸術を共に味わう時間ももちます。</p> <p>「ロシア語ⅡB」と併せての受講が望ましいのですが、単独での履修も可能です。</p>		<p>1 ガイダンス (ロシア語、ロシアの文化について)。</p> <p>2 テキスト18課：練習問題。「エルミタージュ幻想」(一部)鑑賞。</p> <p>3 作文、音読。テキスト19課。「エルミタージュ幻想」(一部)鑑賞。</p> <p>4 テキスト19課：作文、音読。「チャイコフスキー」(一部)鑑賞。</p> <p>5 テキスト20課：練習問題。ロシア映画「ハムレット」(一部)鑑賞。</p> <p>6 テキスト20課：作文、リスニング。「ハムレット」(一部)鑑賞。</p> <p>7 テキスト21課：練習問題。「両棲人間」(一部)鑑賞。</p> <p>8 テキスト21課：作文。リスニング。筆記体の練習。「両棲人間」(一部)鑑賞。</p> <p>9 テキスト22課：練習問題、作文。筆記体の練習。「罪と罰」(一部)鑑賞。</p> <p>10 テキスト23課：練習問題。筆記体の練習。リスニング。「アレクセイと泉」(一部)鑑賞。</p> <p>11 テキスト23課：作文。「アレクセイと泉」鑑賞。</p> <p>12 映画鑑賞。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
黒田龍之助著『ロシア語文法への旅』大学書林 その他、プリントを適宜配付します。		レポートにより決定しますが、出席率を最重要視します。	

全カリ (秋) 外共	ロシア語ⅡAb 基礎ロシア語Ⅱ (通年)	担当者	佐藤 千登勢
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「ロシア語ⅡAa」の続きとなります。春学期と同じテキストを用いて、引き続き、文法の習得と復習を確実に進めていきます。音読とリスニングもさらに充実させていきましょう。</p> <p>ロシアの文化や芸術に触れるため、映像資料もできるだけ楽しむようにします。映画の台詞も、聴き取れる表現が徐々に増えてきて、面白くなるはずです。</p>		<p>1 ロシア語検定試験の過去問題。映画「テルミン」鑑賞。</p> <p>2 ロシア語検定試験の過去問題。「テルミン」鑑賞。</p> <p>3 テキスト25課：練習問題。「テルミン」鑑賞。</p> <p>4 テキスト25課：作文。リスニング。「テルミン」鑑賞。</p> <p>5 テキスト24課：練習問題。「テルミン」鑑賞。</p> <p>6 テキスト24課：作文。リスニング。「テルミン」鑑賞。</p> <p>7 「動詞の完了体と不完了体」。「テルミン」鑑賞。</p> <p>8 「動詞の完了体と不完了体」。リスニング。「ローラーとバイオリン」鑑賞。</p> <p>9 「関係代名詞」。「ローラーとバイオリン」鑑賞。</p> <p>10 「関係代名詞」。「ローラーとバイオリン」鑑賞。</p> <p>11 まとめと補足。「ローラーとバイオリン」鑑賞。</p> <p>12 映画鑑賞。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
黒田龍之助著『ロシア語文法への旅』大学書林 その他、プリントを適宜配付します。		レポートにより決定しますが、出席率を最重要視します。	

全カリ (春) 外共	ロシア語Ⅱ Ba 基礎ロシア語Ⅱ (通年)	担当者	斉藤 毅
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>昨年度に全カリの「ロシア語Ⅰ」、外国語学部の「基礎ロシア語Ⅰ」を履修した人を対象としますが、ロシア語の初歩を学んだことのある人なら誰でも受講できます。</p> <p>この授業では、ロシア語会話の教科書、音声教材を用いた易しい日常会話の練習を通して、これまで学んだ文法事項の復習と、新たな文法事項の習得を行ないます。とくにロシア語は発音に慣れるのがやや難しい言語なので、受講者の皆さん一人一人の発話練習に重点を置きます。発音がある程度楽にできるようになれば、ロシア語が生きた言葉として感じられてくるようになると思います。</p> <p>文法を中心とした「ロシア語ⅡA」と併せて受講することが原則ですが、単独での履修も可能です。</p>		<p>全体で教科書の第8課まで進むことを目標とします。大まかな学習事項は以下の通りです。</p> <p>1-2. 人・物の名前の訊ね方 / 家族の単語 3. 場所の訊ね方 4. 自己紹介の表現 5. 可能・不可能の表現 6. 数の訊ね方 / 曜日 / 数詞 7. 副詞を使った表現 / 言語の表現 8. 目的の表現 / 身体の一部</p> <p>その他、時おりロシアの映画・音楽を鑑賞します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
米重文樹、P. トマルキン『話すロシア語入門』(白水社)、および授業時に配布するプリント。		①期末試験(筆記および口頭)、②出席などの平常点。とくに出席を重視します。	

全カリ (秋) 外共	ロシア語Ⅱ Bb 基礎ロシア語Ⅱ (通年)	担当者	斉藤 毅
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「ロシア語Ⅱ Ba」の続編の授業です。「Ba」と同じ教材を用い、引き続きロシア語の発音・会話表現を練習してゆきます。</p> <p>さらにプリント教材をもちいて、新たな文法事項の習得および、読解練習を行ないます。文法に関しては、1年間で名詞の格変化をすべて習得することを目標とします</p>		<p>全体で教科書の最後(第17課)まで進むことを目標とします。主な学習事項は以下の通りです。</p> <p>9. 所有の表現 10. 居住に関する表現 11. 好みの表現 / 食べ物の単語 12. 電話の表現 / 一日の時間 13. 値段の訊ね方 / 数詞+名詞の表現 14. 道順の表現 15. 未来の表現 16. 時刻の表現</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
米重文樹、P. トマルキン『話すロシア語入門』(白水社)、および授業時に配布するプリント。		①期末試験(筆記および口頭)、②出席などの平常点。とくに出席を重視する。	

05全カリ (春) 03全カリ (春) 外共	朝鮮語 I a (総合) 朝鮮語 I Aa 基礎朝鮮語 I (通年)	担当者	朴 勇俊
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日本と韓国は古来から密接な関係を保ってきており、今後とも政治、経済、社会、文化などの諸分野にわたり、特に民間レベルでのより盛んな交流の進展が期待される。さらに日本における韓国語の需要も今後ますます増えていくと思われる。このような観点から本科目では読解力、生きたコミュニケーションができる表現力、新聞や雑誌などから時事情報を得る基本的な能力の総合的な定着を目指し、多角的な授業を行う。</p>		<p>1回 本講義に対する紹介、概要説明</p> <p>2～5回 韓国語の文字・文章の理解と解読</p> <p>6～11回 次のような内容を題材に会話・読解・作文力の基礎を定着させる。</p> <p>「自己紹介」 「あいさつ」 「学校生活①」 「学校生活②」 「家族①」 「家族②」</p> <p>12回 期末試験</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
「韓国語学習—基礎から完成まで—」朴 勇俊 (プリント)		評価は原則として定期試験を基本に授業への取り組み方、出席状況等を含め、総合的に判定する。	

05全カリ (秋) 03全カリ (秋) 外共	朝鮮語 I b (総合) 朝鮮語 I Ab 基礎朝鮮語 I (通年)	担当者	朴 勇俊
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日本と韓国は古来から密接な関係を保ってきており、今後とも政治、経済、社会、文化などの諸分野にわたり、特に民間レベルでのより盛んな交流の進展が期待される。さらに日本における韓国語の需要も今後ますます増えていくと思われる。このような観点から本科目では読解力、生きたコミュニケーションができる表現力、新聞や雑誌などから時事情報を得る基本的な能力の総合的な定着を目指し、多角的な授業を行う。</p>		<p>1～11回 次のような内容を題材に会話・読解・作文力の基礎を定着させる。</p> <p>「友人①」 「友人②」 「買い物①」 「買い物②」 「趣味①」 「趣味②」 「海外旅行①」 「海外旅行②」 「伝統文化」 「衣食住①」 「衣食住②」</p> <p>12回 期末試験</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
「韓国語学習—基礎から完成まで—」朴 勇俊 (プリント)		評価は原則として定期試験を基本に授業への取り組み方、出席状況等を含め、総合的に判定する。	

05全カリ(春) 03全カリ(春) 外共	朝鮮語 I a (講読・会話) 朝鮮語 I Ba 基礎朝鮮語 I (通年)	担当者	李 貞美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>韓国語を初めて学ぶ人を対象に韓国語と日本語の共通点、類似点を示し、学習の容易さと有用性を理解させながらハングル文字の読み書き、辞書の活用ができるようにするとともに、実用会話を入門指導する。</p> <p>会話の学習については、韓国固有の民俗、歴史生活、芸術、衣食住などのストーリー性のある題材、日常生活で当面する様々な典型的局面や節目での文型、会話を選び、そのような場面を想定、再現することで実感を深めながら反復指導する。また、写真、スライド、ビデオ等をも活用することで臨場感を深め、積極的に学習に取り組むようにする。</p>		<p>1回 本講義に対する紹介、概要説明</p> <p>2~5回 韓国語の文字・文章の理解と解説</p> <p>6~11回 次のような多様な生活場面を設定し、柔軟に対応できるような表現力の定着をめざす。</p> <p>「市場」 「スーパーマーケット」 「薬局」 「喫茶店」 「郵便局」 「洋服店」</p> <p>12回 期末試験</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
「韓国語学習—基礎から完成まで—」朴 勇俊(プリント)		評価は原則として定期試験を基本に授業への取り組み方、出席状況等を含め、総合的に判定する。	

05全カリ(秋) 03全カリ(秋) 外共	朝鮮語 I b (講読・会話) 朝鮮語 I Bb 基礎朝鮮語 I (通年)	担当者	李 貞美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>韓国語を初めて学ぶ人を対象に韓国語と日本語の共通点、類似点を示し、学習の容易さと有用性を理解させながらハングル文字の読み書き、辞書の活用ができるようにするとともに、実用会話を入門指導する。</p> <p>会話の学習については、韓国固有の民俗、歴史、生活、芸術、衣食住などのストーリー性のある題材、日常生活で当面する様々な典型的局面や節目での文型、会話を選び、そのような場面を想定、再現することで実感を深めながら反復指導する。また、写真、スライド、ビデオ等をも活用することで臨場感を深め、積極的に学習に取り組むようにする。</p>		<p>1回 本講義に対する紹介、概要説明</p> <p>2~11回 次のような内容を題材に読解・作文力の基礎を定着させる。多様な生活場面を設定し、柔軟に対応できるような表現力の定着をめざす。</p> <p>「映画館」 「スポーツ」 「図書館」 「クリーニング店」 「銀行」 「役所」 「銭湯」 「美容院」 「趣味」 「国際電話」 「健康管理」</p> <p>12回 期末試験</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
「韓国語学習—基礎から完成まで—」朴 勇俊(プリント)		評価は原則として定期試験を基本に授業への取り組み方、出席状況等を含め、総合的に判定する。	

全カリ (春) 外共	朝鮮語ⅡAa 基礎朝鮮語Ⅱ (通年)	担当者	李 貞美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>韓国語の読解、会話、作文力を基盤に多様かつ実用的な表現力を身につけるため、それぞれについて毎時間くわしいプリントを作成配布し、学習を進めていく。また、韓国の文学（詩や小説）や映画、音楽などを題材に取り上げることで文化や芸術に関する理解を深めるとともに多様な表現力の習得をめざす。</p>		<p>1回 本講義に対する紹介、概要説明</p> <p>2～11回 次のような内容を題材に読解・作文力の基礎を定着させる。</p> <p>「誕生日」 「遺跡」 「旅行」 「登山」 「正月の風俗」 「民族衣装」 「虎と干し柿」(民話)</p> <p>12回 期末試験</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
「韓国語学習—基礎から完成まで—」朴 勇俊(プリント)		評価は原則として定期試験を基本に授業への取り組み方、出席状況等を含め、総合的に判定する。	

全カリ (秋) 外共	朝鮮語ⅡAb 基礎朝鮮語Ⅱ (通年)	担当者	李 貞美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>韓国語の読解、会話、作文力を基盤に多様かつ実用的な表現力を身につけるため、それぞれについて毎時間くわしいプリントを作成配布し、学習を進めていく。また、韓国の文学（詩や小説）や映画、音楽などを題材に取り上げることで文化や芸術に関する理解を深めるとともに多様な表現力の習得をめざす。</p>		<p>1～11回 次のような内容の題材を取り上げ、読解・作文学習を行っていく。</p> <p>「農薬」 「端午」 「世宗大王」 「交通」 「記念日」 「手紙」 「済州島」 「牛になった怠け者」(民話) 「韓国の風俗」 「韓国の礼節」 「伝統芸能」</p> <p>12回 期末試験</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
「韓国語学習—基礎から完成まで—」朴 勇俊(プリント)		評価は原則として定期試験を基本に授業への取り組み方、出席状況等を含め、総合的に判定する。	

全カリ (春) 外共	朝鮮語ⅡBa 基礎朝鮮語Ⅱ (通年)	担当者	朴 勇俊
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>韓国語の多面的な会話表現力の定着をめざし、日本人が韓国で遭遇する様々な状況を設定し、臨機応変に対応できるように実際に使われる表現・文型などを身につけさせる。また、外国語は異文化の集積体であることを感得させ、背景となっている当該外国文化の諸相への関心と探求意欲を育てて行くことにも留意していく。スライド・ビデオ・テープ等の視聴覚教材を用い、韓国の歴史・文化・時事情報を題材に選び、多様で実用的な表現力を定着させていく。</p>		<p>1回 本講義に対する紹介、概要説明</p> <p>2～11回 次のような内容を題材にクラスをいくつかのグループに分け、会話を交わす実演を通じて会話文を暗唱できるようにしていく。</p> <p>「入国審査」 「外国人登録」 「両替」 「国際電話」 「地下鉄」 「ホテル」 「観光」 「名刺交換」 「伝統的行事」</p> <p>12回 期末試験</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
「韓国語学習—基礎から完成まで—」 朴 勇俊 (プリント)		評価は原則として定期試験を基本に授業への取り組み方、出席状況等を含め、総合的に判定する。	

全カリ (秋) 外共	朝鮮語ⅡBb 基礎朝鮮語Ⅱ (通年)	担当者	朴 勇俊
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>韓国語の多面的な会話表現力の定着をめざし、日本人が韓国で遭遇する様々な状況を設定し、臨機応変に対応できるように実際に使われる表現・文型などを身につけさせる。また、外国語は異文化の集積体であることを感得させ、背景となっている当該外国文化の諸相への関心と探求意欲を育てて行くことにも留意していく。スライド・ビデオ・テープ等の視聴覚教材を用い、韓国の歴史・文化・時事情報を題材に選び、多様で実用的な表現力を定着させていく。</p>		<p>1～11回 以下のような内容の題材を取り上げ、幅広い会話力の定着をめざす。</p> <p>「出身地」 「伝言」 「ピザの延長」 「健康管理」 「演劇」 「予約」 「病状」 「余暇」 「韓国料理」 「忘れ物」 「観光地」</p> <p>12回 期末試験</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
「韓国語学習—基礎から完成まで—」 朴 勇俊 (プリント)		評価は原則として定期試験を基本に授業への取り組み方、出席状況等を含め、総合的に判定する。	

全カリ (春) 外共	タイ語 I a 基礎タイ語 I (通年)	担当者	江藤 双恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>入門レベルの標準タイ語会話を学ぶ。声調、子音や母音の発音、発音記号の表記の仕方などの特徴を理解したうえで、さまざまな状況に応じたタイ語での表現例を学ぶ。また、その背景にあるタイ文化、社会の特徴、人の行動様式や考え方などについても理解する。</p> <p>さらに、ディクテーションによって発音記号による表記の能力を高め、作文練習によって表現能力をつける。</p> <p>映画などのビジュアル教材を用いたり、受講者の希望に応じてタイの文化・社会に関する講義を行う場合もある。どんどん希望を出してほしい。</p>		<p>1 導入：現代タイの状況、タイ語を学ぶ意義について</p> <p>1 発音練習 (声調・数字・子音・母音)</p> <p>2 会話1 (挨拶、所在に関する表現)、タイ語を聞いて発音記号で表記する</p> <p>3 会話2 (ものの性質などに関する表現)、タイ語を聞いて発音記号で表記する</p> <p>4 会話3 (家族に関する表現)、タイ語を聞いて書く</p> <p>5 会話4 (所有、存在に関する表現)、タイ語を聞いて書く</p> <p>6 会話5 (職業、国名に関する表現) タイ語を聞いて書く</p> <p>7 会話6 (可能、不可能に関する表現)、タイ語を聞いて書く</p> <p>8 会話7 (名前、所在、手段などに関する表現)</p> <p>9 会話6 (動詞を用いた表現)、タイ語を聞いて書く</p> <p>10 会話7 (類別詞の用法1)、タイ語を聞いて書く</p> <p>11 タイ事情 (映画などのビジュアル教材の鑑賞)</p> <p>12 タイ事情 (映画などのビジュアル教材の鑑賞)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント		定期試験の成績および出席状況	

全カリ (秋) 外共	タイ語 I b 基礎タイ語 I (通年)	担当者	江藤 双恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>I aに引き続き、標準タイ語会話を中心に学ぶ。声調、子音や母音の発音などの理解を深め、さまざまな状況に応じたタイ語での表現例を身につけ、文法事項についても整理する。また、言葉の背景にあるタイ文化、社会の特徴、人の行動様式や考え方などについても理解する。</p> <p>ディクテーションによる表記練習や、作文練習によって運用能力や表現能力を高める。</p> <p>映画などのビジュアル教材を用いたり、受講者の希望に応じてタイの文化・社会に関する講義を行う場合もある。どんどん希望を出してほしい。</p>		<p>1 会話1 (類別詞の用法2)、タイ語を聞いて書く</p> <p>2 会話2 (日付に関する表現)、タイ語を聞いて書く</p> <p>3 会話3 (時刻の表し方)、タイ語を聞いて書く</p> <p>4 会話4 (年・月などの表し方)、タイ語を聞いて書く</p> <p>5 会話5 (レストランでの注文)、タイ語を聞いて書く</p> <p>6 会話6 (自己紹介など)、タイ語を聞いて書く</p> <p>7 会話7 (類別詞の用法3)、タイ語を聞いて書く</p> <p>8 会話8 (比較を含む表現)、タイ語を聞いて書く</p> <p>9 会話9 (電話をかける)、タイ語を聞いて書く</p> <p>10 会話10 (受身の表現)、タイ語を聞いて書く</p> <p>11 タイ事情 (映画鑑賞または特定のトピックを取り上げた解説)</p> <p>12 タイ事情 (映画鑑賞または特定のトピックを取り上げた解説)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント		定期試験の成績および出席状況	

全カリ (春) 外共	タイ語Ⅱa 基礎タイ語Ⅱ (通年)	担当者	江藤 双恵												
講義目的、講義概要		授業計画													
<p>1、文字の表記と発音 2、会話 の2点を中心に学習し、初級レベルのタイ語を習得するための基礎固めを行う。初級レベルとは、タイ語を母語とする人々との間にある程度の意志疎通ができることである。そのためには文字が判読でき、正しく発音できることが大前提となる。また、タイ人の行動様式やものの考え方などを理解しようとする姿勢も求められる。そこで本講義では、文字の読み方、発音方法、書き方、表現手法の習熟にとどまらず、言葉の背景にある文化的・社会的特徴ないしタイ的な世界観にも触れることをめざす。</p> <p>具体的には、タイ文字の表記と発音方法についてテキストを用いた講義を行い、タイ文字の子音、母音、数字および各種記号の表記方法、発音方法についてマスターする。できれば、随時、タイ映画などのビジュアル教材を通じて生きたタイ語に触れる機会をもち理解を深める。</p>		<table border="1"> <tr><td>1 導入；今タイ語を学ぶ意義は？</td></tr> <tr><td>2 タイ文字の成立と種類、タイ語の特徴についての概説、ローマ字表記の方法、数字の発音</td></tr> <tr><td>3 文字の読み書き1 (中子音・高子音)</td></tr> <tr><td>4 文字の読み書き2 (低子音と長母音)</td></tr> <tr><td>5 文字の読み書き3 (真正二重子音・平音節・促音節)</td></tr> <tr><td>6 文字の読み書き4 (声調符号、短母音)</td></tr> <tr><td>7 文字の読み書き5 (低子音の高子音化と中子音化、擬似二重子音)</td></tr> <tr><td>8 文字の読み書き6 (一字再読字)</td></tr> <tr><td>9 文字の読み書き7 (タイ数字、年月日に関する表記、例外)、</td></tr> <tr><td>10 タイ事情 (映画などのビジュアル教材を使う予定)</td></tr> <tr><td>11 タイ事情 (映画などのビジュアル教材を使う予定)</td></tr> <tr><td>12 講読1 (読み方、文章のつながり方など)</td></tr> </table>		1 導入；今タイ語を学ぶ意義は？	2 タイ文字の成立と種類、タイ語の特徴についての概説、ローマ字表記の方法、数字の発音	3 文字の読み書き1 (中子音・高子音)	4 文字の読み書き2 (低子音と長母音)	5 文字の読み書き3 (真正二重子音・平音節・促音節)	6 文字の読み書き4 (声調符号、短母音)	7 文字の読み書き5 (低子音の高子音化と中子音化、擬似二重子音)	8 文字の読み書き6 (一字再読字)	9 文字の読み書き7 (タイ数字、年月日に関する表記、例外)、	10 タイ事情 (映画などのビジュアル教材を使う予定)	11 タイ事情 (映画などのビジュアル教材を使う予定)	12 講読1 (読み方、文章のつながり方など)
1 導入；今タイ語を学ぶ意義は？															
2 タイ文字の成立と種類、タイ語の特徴についての概説、ローマ字表記の方法、数字の発音															
3 文字の読み書き1 (中子音・高子音)															
4 文字の読み書き2 (低子音と長母音)															
5 文字の読み書き3 (真正二重子音・平音節・促音節)															
6 文字の読み書き4 (声調符号、短母音)															
7 文字の読み書き5 (低子音の高子音化と中子音化、擬似二重子音)															
8 文字の読み書き6 (一字再読字)															
9 文字の読み書き7 (タイ数字、年月日に関する表記、例外)、															
10 タイ事情 (映画などのビジュアル教材を使う予定)															
11 タイ事情 (映画などのビジュアル教材を使う予定)															
12 講読1 (読み方、文章のつながり方など)															
テキスト、参考文献		評価方法													
「やさしいタイ語 文字の読み書き」(宇戸清治著大学書林刊) およびプリント		定期試験の成績および出席状況													

全カリ (秋) 外共	タイ語Ⅱb 基礎タイ語Ⅱ (通年)	担当者	江藤 双恵												
講義目的、講義概要		授業計画													
<p>Ⅱa で学んだタイ文字の読み書き能力をさらに高め、簡単な文章を講読しながら背景にあるタイの文化、社会、人の行動様式や考え方などについても理解する。また、基礎文法を身につけ、簡単な作文能力や、辞書を用いて公文書レベルのタイ文を自力で読めるような力をつける。</p> <p>なお、受講者の関心や進度に応じて講義の内容が変わる場合もある。タイの政治、宗教、農村開発、ジェンダーなど、今日的な話題を取りあげて議論を行うこともありえる。</p>		<table border="1"> <tr><td>1 講読1 (読み方、文章のつながり方など)</td></tr> <tr><td>2 講読2 (平易な物語など)</td></tr> <tr><td>3 文法1 (指示詞の用法)</td></tr> <tr><td>4 文法2 (一般動詞の用法)</td></tr> <tr><td>5 文法3 (形容詞の用法)</td></tr> <tr><td>6 講読3 (平易な物語など)</td></tr> <tr><td>7 文法4 (類別詞の用法・比較)</td></tr> <tr><td>8 講読4 (タイの文化・祭り)</td></tr> <tr><td>9 講読5 (首都バンコクについて)</td></tr> <tr><td>10 文法6 (出家式)</td></tr> <tr><td>11 タイ事情 (現代映画の鑑賞)</td></tr> <tr><td>12 タイ事情 (現代映画の鑑賞)</td></tr> </table>		1 講読1 (読み方、文章のつながり方など)	2 講読2 (平易な物語など)	3 文法1 (指示詞の用法)	4 文法2 (一般動詞の用法)	5 文法3 (形容詞の用法)	6 講読3 (平易な物語など)	7 文法4 (類別詞の用法・比較)	8 講読4 (タイの文化・祭り)	9 講読5 (首都バンコクについて)	10 文法6 (出家式)	11 タイ事情 (現代映画の鑑賞)	12 タイ事情 (現代映画の鑑賞)
1 講読1 (読み方、文章のつながり方など)															
2 講読2 (平易な物語など)															
3 文法1 (指示詞の用法)															
4 文法2 (一般動詞の用法)															
5 文法3 (形容詞の用法)															
6 講読3 (平易な物語など)															
7 文法4 (類別詞の用法・比較)															
8 講読4 (タイの文化・祭り)															
9 講読5 (首都バンコクについて)															
10 文法6 (出家式)															
11 タイ事情 (現代映画の鑑賞)															
12 タイ事情 (現代映画の鑑賞)															
テキスト、参考文献		評価方法													
「やさしいタイ語 文字の読み書き」(宇戸清治著大学書林刊) およびプリント		定期試験の成績および出席状況													

全カリ (春) 外共	アラビア語 Ia 基礎アラビア語 I (通年)	担当者	師岡カリマ・エルサムニー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>アラビア語は、総人口が2億8千万に達するアラブ21カ国の国語であり、国連の公用語の一つに指定されています。またイスラームの啓典『クルアーン (コーラン)』の言葉であることから、アラブ以外のイスラーム圏でも広く学習されています。近年にわかに日本人の関心が高まったイスラームは、10億を超える人々に信仰されているにもかかわらず、「世界で最も誤解された宗教」と言われていますが、アラブ世界もまた、世界で最も誤解された文化圏の一つだといえるでしょう。</p> <p>本講義では、アラビア語を通じて、その背後にある豊かな文化に親しんでもらうことを目指しています。</p> <p>文法に片寄らず、「まずは言いたいことをアラビア語で言う」ことを目標に会話にも重点を置きつつ、様々なメディアを通じて、自然にアラビア語を呼吸してもらいたいと考えています。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. (会話) 挨拶をする 3. (会話) 自己紹介をする 4. (文法) アラビア文字に挑戦 1 5. (文法) アラビア文字に挑戦 2 6. (文法) アラビア文字に挑戦 3 7. (文法) アラビア文字に挑戦 4 8. (会話) アラブ人と友達になろう 9. (文法) アラビア語を読む! 1 10. (文法) 自分の名前を書く 1 11. (文法) 自分の名前を書く 2 12. 復習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト『アラビア語の入門 (改訂版) (本田孝一著、白水社)』 参考文献『アラビア語のかたち』(師岡カリマ・エルサムニー) (白水社)</p>		簡単な会話・筆記試験を行います。	

全カリ (秋) 外共	アラビア語 Ib 基礎アラビア語 I (通年)	担当者	師岡カリマ・エルサムニー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>アラビア文字や言葉の響きに触れることによって、異文化に対する理解を深め、会話を楽しむ感覚でつかんでもらうことを目指しています。</p> <p>本講義では、前期に引き続き、楽しみながら文法や会話を学び、音楽やビデオを通じて自然にアラビア語を吸収してもらいたいと考えています。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. (会話) 「これは何ですか?」 2. (会話) 「私は日本人です。」 3. (文法) アラビア語を読む 2 4. (文法) 「これは日本のお茶です」 5. (文法) 「このお茶は日本のものです」 6. (文法) アラビア語を読む! 3 7. (会話) 「駅はどこですか?」 8. (文法) 動詞は過去形から 1 9. (文法) 動詞は過去形から 2 10. 復習 11. 期末テスト 12. アラビア語の映画鑑賞 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト『アラビア語の入門 (改訂版) (本田孝一著、白水社)』 参考文献『アラビア語のかたち』(師岡カリマ・エルサムニー) (白水社)</p>		簡単な会話・筆記試験を行います。	

全カリ (春) 外共	アラビア語Ⅱa 基礎アラビア語Ⅱ (通年)	担当者	師岡カリーマ・エルサムニー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>前年度に基礎アラビア語Ⅰを受講し、よりアラビア語の知識を深めることを希望する人を対象にしています。</p> <p>テキストから会話や文法を学ぶと同時に、音楽やインターネット探検、詩、言葉遊びなど、文化の様々な側面を通じた変化に富んだ学習内容になるでしょう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 復習 2. 復習 3. (会話)「私は～を持っています」 1 4. (文法)「私は～を持っています」 2 5. (文法)「僕は彼女を知った」はひとことで 6. (文法) 未完了形動詞 7. (文法) 名詞は動詞から派生する 8. (文法) 語根って何?辞書を引く! 1 9. (文法) 辞書を引く! 10. (会話) アラビア語で買い物を 1 11. (会話) アラビア語で買い物を 2 12. 復習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト『アラビア語の入門 (改訂版) (本田孝一著、白水社)』</p> <p>参考文献『アラビア語のかたち』(師岡カリーマ・エルサムニー) (白水社)</p>		簡単な会話・筆記試験を行います。	

全カリ (秋) 外共	アラビア語Ⅱb 基礎アラビア語Ⅱ (通年)	担当者	師岡カリーマ・エルサムニー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>前期に引き続き、様々なメディアを通じて、アラビア語を楽しく勉強したいと考えています。</p> <p>一言に「アラブ」と言っても、それぞれの国の「お国柄」があり、ヴァリエティ豊かな文化を構成しています。この講義では、語学力を伸ばすだけでなく、そのようなアラブ世界の素顔に触れること、また受講生一人一人が、それぞれの興味の対象を自ら追求する手助けをすることも目標としています。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. (文法)「日本の首都」ってどういなの? 2. (文法) 双数と複数 1 3. (文法) 双数と複数 2 4. (文法) 数の表し方 1 5. (文法) 数の表し方 2 6. (応用) 絵本を読んでみよう 7. (応用) 手紙を書いてみよう 8. (応用) 電話で話そう 9. (応用) クルアーンを読んでみよう 10. 復習 11. 期末テスト 12. アラビア語の映画鑑賞 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト『アラビア語の入門 (改訂版) (本田孝一著、白水社)』</p> <p>参考文献『アラビア語のかたち』(師岡カリーマ・エルサムニー) (白水社)</p>		簡単な会話・筆記試験を行います。	

全カリ (春) 外共	現代ヘブライ語 I a 現代ヘブライ語 I (通年)	担当者	高橋 正男
講義目的、講義概要		授業計画	
講義の目標 ヘブライ語は、印欧語とは異なり、セム語の一つ、アラビア語と同系の言語である。我が国では旧約聖書の言語として広く知られている。ヘブライ語は、イスラエル-ユダヤ民族の消長とともに幾多の変遷をへて、今からおよそ 100 年前、ロシア出身のエリエゼル=ベン-イフェダの努力により、パレスティナに入植したユダヤ人帰還民の間に復活・浸透し、1948 年イスラエル国独立とともに同国の公用語となり、イスラエルをはじめ世界各地に在住する 1500 万ユダヤ人の間で広く用いられている。本講は生きた日常現代ヘブライ語の基礎（日常会話と文法の把握と応用）の習得を目標とする。併せて現代のユダヤ-イスラエル文化を紹介する。		1. セム語概説 2. ヘブライ文字（アレフ・ベイト）の書体（活字体・筆記体） 3. ヘブライ文字の書き方（1） 4. ヘブライ文字の書き方（2） 5. 発音 6. 発音の手引（1） 7. 発音の手引（2） 8. 名詞と代名詞（1） 9. 名詞と代名詞（2） 10. 形容詞 11. 前置詞 12. 動詞の現在形（1）	
講義概要 我が国では明治以来の西欧語偏重のなかでセム語は日本人には難解といわれてきた。これは言語が元来話されるものであるという基本事実を無視して教育が行なわれてきたからである。イスラエルでヘブライ語を習得した体験から、ヘブライ語はアラビア語同様日本人には学習困難な言語ではない。現代ヘブライ語と聖書ヘブライ語との隔たりは、現代日本語と明治日本語のそれとは異なり、予想以上に小さい。初年度は日常会話と文法を交互に学習する。			
受講者への要望 ・毎週休まずに出席できるよう生活設計をたてることを強く希望する。 ・前期末・後期末に補講を予定している。			
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト・神藤耀他著『ヘブライ語入門』キリスト聖書塾、2000 年。 ・キリスト聖書塾編集部編『現代ヘブライ語辞典』キリスト聖書塾、2001 年。 参考文献・『ヘブライ語入門発音テープ』（45 分テープ 2 本組） ミルトス（5 棟 3 階 外国語教育研究所で利用可能）		・平常点と学年末の簡単な口述会話テストによる。	

全カリ (秋) 外共	現代ヘブライ語 I b 現代ヘブライ語 I (通年)	担当者	高橋 正男
講義目的、講義概要		授業計画	
講義の目標 ヘブライ語は、印欧語とは異なり、セム語の一つ、アラビア語と同系の言語である。我が国では旧約聖書の言語として広く知られている。ヘブライ語は、イスラエル-ユダヤ民族の消長とともに幾多の変遷をへて、今からおよそ 100 年前、ロシア出身のエリエゼル=ベン-イフェダの努力により、パレスティナに入植したユダヤ人帰還民の間に復活・浸透し、1948 年イスラエル国独立とともに同国の公用語となり、イスラエルをはじめ世界各地に在住する 1500 万ユダヤ人の間で広く用いられている。本講は生きた日常現代ヘブライ語の基礎（日常会話と文法の把握と応用）の習得を目標とする。併せて現代のユダヤ-イスラエル文化を紹介する。		13. 動詞の現在形（2） 14. 語根と動詞 15. ラメッド・ヘー型のパアル態 16. 不定詞（1） 17. ピエル態の現在形 18. ヒトパエル態の現在形 19. ニフアル態の現在形 20. ヒフフィル態の現在形 21. 不規則名詞複数形 22. 数詞（1） 23. 数詞（2） 24. 名詞の人称接尾辞と連結詞	
講義概要 我が国では明治以来の西欧語偏重のなかでセム語は日本人には難解といわれてきた。これは言語が元来話されるものであるという基本事実を無視して教育が行なわれてきたからである。イスラエルでヘブライ語を習得した体験から、ヘブライ語はアラビア語同様日本人には学習困難な言語ではない。現代ヘブライ語と聖書ヘブライ語との隔たりは、現代日本語と明治日本語のそれとは異なり、予想以上に小さい。初年度は日常会話と文法を交互に学習する。			
受講者への要望 ・毎週休まずに出席できるよう生活設計をたてることを強く希望する。 ・前期末・後期末に補講を予定している			
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト・神藤耀他著『ヘブライ語入門』キリスト聖書塾、2000 年。 ・キリスト聖書塾編集部編『現代ヘブライ語辞典』キリスト聖書塾、2001 年。 参考文献・『ヘブライ語入門発音テープ』（45 分テープ 2 本組） ミルトス（5 棟 3 階 外国語教育研究所で利用可能）		・平常点と学年末の簡単な口述会話テストによる。	

全カリ (春) 外共	古典ギリシア語 I a 古典ギリシア語 I (通年)	担当者	櫻井 悠美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><講義目的> 一年間の授業を通して、基礎的な古典ギリシア語を着実に読み、書き、理解することができるようになることを主目的とする。そのためには、テキストの練習問題を確実にこなして、一つ一つステップアップしていく手法をとる。また、古典ギリシア語の学習を通して、古代ギリシアの文化や歴史、さらには現代ギリシアの社会や文化にも触れることにしたい。</p> <p><講義概要> 授業は毎回単元を1~2つずつ学習するペースで進むが、途中10分間ほどの中休みを入れ、古代や現代のギリシアの情勢を映像などを交えて紹介しつつ、アト・ホームな雰囲気で行いたい。また、予習と復習をきちんとしていることを前提に進めていくので、出席は必ず毎回するように心がけること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 字母・発音・音韻などの分類 (この時点で、古典ギリシア語で自分の名前が書ける) 2. 音節・アクセント・句読点 (この時点で、古典ギリシア語の単語が読める) 3. 動詞の変化・直説法能動相現在 (この時点で、単文が理解できる) 4. 名詞の第一変化 (この時点で、名詞の規則変化が理解できる) 5. 動詞の変化・直説法能動相未来 (この時点で、未来形が理解できる) 6. 動詞の変化・直説法能動相未完了過去 (この時点で、動詞の三時制がマスターできる) 7. 名詞の第二変化 (この時点でスペルがすらすら書けるようになる) 8. 形容詞の変化(第一・第二変化) (ここで、語順が決まっていないことが理解できる) 9. 前置詞(ここで、ヨーロッパ近代諸語の前置詞との対比によって、その類似性が理解できる) 10. 動詞の変化・直説法能動相アオリスト (ここで、過去時制の文章理解ができるようになる) 11. 動詞の変化・現在完了と過去完了(これで動詞の諸時制を学ぶことにより、文章理解が一層促進する) 12. 指示代名詞と強意代名詞 (この時点で、早くも新約聖書が読めるようになる) <p>* () 内は到達度チェックの際のポイントを示しているので、各自の理解度の指針とすること。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><テキスト> 田中美知太郎・松平千秋著『ギリシア語入門改訂版』(岩波全書、1648円)</p>		出席による練習問題の解答を繰り返して行い、テストや試験はしない(平常点評価)。	

全カリ (秋) 外共	古典ギリシア語 I b 古典ギリシア語 I (通年)	担当者	古川 堅治
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><講義目的> 同上</p> <p><講義概要> 同上</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ελιμι動詞とφημι動詞 (この時点で、動詞の人称変化の基本が理解できる) 2. 疑問代名詞と不定代名詞(ここで、アクセントの有無で意味が変わることが理解できる) 3. 動詞の変化・直説法中動相の各時制(1) (この時点で、中動相の独特な用法が理解できる) 4. 動詞の変化・直説法中動相の各時制(2) (ここまでくると、微妙な文章表現が理解できる) 5. 人称代名詞(この時点で、人称代名詞を使わずに、その代用表現が多用されることが理解できる) 6. 再帰代名詞、相互代名詞、所有代名詞(ここまでくると、文章上のつながりが理解しやすくなる) 7. 第二アオリストの用法 (この時点で、動詞のいわゆる不規則変化が理解できる) 8. 動詞の変化・直説法受動相 (この時点で、受身の文章表現が理解できる) 9. 名詞の第三変化(1)(この時点で、名詞の不規則変化の「変化の規則性」が理解できる) 10. 名詞の第三変化(2) (同上) 11. 能動相欠如動詞と約音動詞(ここまでくると、辞書を片手にスムーズに文章が理解ができるようになる) 12. まとめ (この最終回で、古典ギリシア語習得の意義について理解しよう) <p>* () 内は到達度チェックの際のポイントを示しているので、各自の理解度の指針とすること。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上		同上	

全カリ (春) 外共	ラテン語 I a ラテン語 I (通年)	担当者	松田 治
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>古典ラテン語は難しそうに見えるが、語尾変化などの約束ごとを理解すれば、近代語と同様に習得できる。多くの例文を読むことで約束ごとは身につく。そうすると自分でラテン語の文をつづれるようになる。とりあえず易しい文章を読んで理解することを目標にする。</p> <p>動詞の直説法現在の活用を自由自在に使いこなせるように、教室で繰り返し練習する。平行して名詞の変化、形容詞の変化を学ぶ。</p> <p>[受講生への要望] コンスタントに出席し、演習問題に取り組んでいただきたい。古典語は欠席すると先へ進めなくなるので、全出席を心がけてください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業概説 2. ラテン語の読み方 3. Sum の現在形 4. 規則動詞 (1) 5. 規則動詞 (2) 6. 名詞 (1) 7. 名詞 (2) 8. 形容詞 (1) 9. 形容詞 (2) 10. 規則動詞 (3, 4) 11. 人称代名詞 12. 前置詞 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『詳解ラテン文法』樋口勝彦、藤井 昇共著 (研究社) 参考書は授業中に指示する。		出席することが先ず基本、普段の練習が評価の対象となる。とくに試験はやらない。	

全カリ (秋) 外共	ラテン語 I b ラテン語 I (通年)	担当者	松田 治
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>動詞の完了形を学び、かなり複雑なラテン語文を読みこなせることを目標としたい。</p> <p>前半の授業で身につけた文法を土台にして、やや複雑な語法や文の構造を把握できるような形で授業を進める。やはり動詞の活用が大切で、直説法や接続法などのモードによる変化、現在・過去・未来といった時制による変化など、ラテン語形態論の基本をしっかりと学びたい。</p> <p>[受講生への要望] コンスタントに出席し、演習問題に取り組んでいただきたい。古典語は欠席すると先へ進めなくなるので、全出席を心がけてください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 動詞の過去形 2. 不規則動詞 3. 名詞 (3) 4. 形容詞 (3) 5. 指示代名詞 6. 動詞の未来形、現在分詞 7. 疑問詞 8. 関係代名詞 9. 完了 (1) 10. 完了 (2) 11. 命令法 12. 受動態 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『詳解ラテン文法』樋口勝彦、藤井 昇共著 (研究社) 参考書は授業中に指示する。		出席することが先ず基本、普段の練習が評価の対象となる。とくに試験はやらない。	

外共	国語表現（通年）	担当者	福沢 健
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・講義概要</p> <p>現在、若者の日本語能力の低下が叫ばれ、日本語のブームと言ってよいような状況にある。この授業では、社会人となっても恥ずかしくないような、日本語の基礎的な能力を身につけることを目標とする。具体的には、漢字検定2級、日本語検定準2級程度の能力が身に付くことを目標としたトレーニングを行っていく。</p>		<p>1 はじめに</p> <p>2 語彙 熟語</p> <p>3 語彙 類義語・対義語</p> <p>4 語彙 同訓異義語・同音異義語</p> <p>5 用字法</p> <p>6 句読法</p> <p>7 文の成分</p> <p>8 係り受け</p> <p>9 文の組み立て</p> <p>10 総合問題</p> <p>11 総合問題</p> <p>12 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
なし プリント配布		期末試験	

外共	国語表現（通年）	担当者	福沢 健
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・講義概要</p> <p>現在、若者の日本語能力の低下が叫ばれ、日本語のブームと言ってよいような状況にある。この授業では、社会人となっても恥ずかしくないような、日本語の基礎的な能力を身につけることを目標とする。具体的には、漢字検定2級、日本語検定準2級程度の能力が身に付くことを目標としたトレーニングを行っていく。後期は敬語法・実用文書について扱う。</p>		<p>1 はじめに</p> <p>2 敬語法</p> <p>3 敬語法</p> <p>4 総合問題（敬語）</p> <p>5 実用文 手紙</p> <p>6 実用文 案内書</p> <p>7 実用文 社内文書・社外文書</p> <p>8 実用文 レポート</p> <p>9 実用文 報告書</p> <p>10 総合問題</p> <p>11 総合問題</p> <p>12 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
なし プリント配布		期末試験	

外共	経済原論（通年）	担当者	野村 容康
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義概要 経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政・金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。</p> <p>講義目的 身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 経済学の目的と方法 2. 家計の行動① 3. 家計の行動② 4. 家計の行動③ 5. 企業の行動① 6. 企業の行動② 7. 企業の行動③ 8. 不完全競争の理論 9. 市場の理論① 10. 市場の理論② 11. 厚生経済学の基本定理 12. 市場の失敗 	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて指示する。		原則として試験の成績で評価する。出席を考慮する場合もある。	

外共	経済原論（通年）	担当者	野村 容康
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義概要 経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政・金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。</p> <p>講義目的 身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. マクロ経済学の体系 2. 国民所得の諸概念 3. 消費と貯蓄の理論 4. 投資の理論 5. 国民所得決定の理論 6. 生産物市場の分析 7. 金融市場の分析 8. IS-LM 分析 9. 物価とインフレーション 10. 失業の問題 11. 経済成長論 12. 開放マクロ経済 	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて指示する。		原則として試験の成績で評価する。出席を考慮する場合もある。	

外共	日本国憲法（通年）	担当者	加藤 一彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日本国憲法について、人権論を中心に講義を行う。 毎回、具体的事件（判例）を通じて、憲法問題を受講者とともに考えてゆく。 問題意識のある学生の受講を希望する。 なお、『六法』（出版社は問わない）は必携である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義内容の説明 2. 六法の使い方と読み方。憲法総論 3. 日本憲法史と現憲法の三大原理 4. 人権総論・人権の享有主体性 5. 法の下での平等・ 6. 精神的自由（1）信教の自由 7. 精神的自由（2）学問の自由 8. 精神的自由（3）表現の自由（総論） 9. 精神的自由（4）表現の自由・報道の自由 10. 精神的自由（5）プライバシーの権利 11. 精神的自由（6）結社の自由 12. 予備日 	
テキスト、参考文献		評価方法	
加藤／植村編『現代憲法入門講義』北樹出版、吉田編『憲法重要判例集』敬文堂。		定期試験による	

外共	日本国憲法（通年）	担当者	加藤 一彦
講義目的、講義概要		授業計画	
		<ol style="list-style-type: none"> 1. 経済的自由権（1）総論 2. 経済的自由権（2）判例研究 3. 人身の自由（刑事手続と逮捕） 4. 社会権（総論・朝日訴訟） 5. 社会権（教育権・学テ訴訟、家永訴訟） 6. 平和主義（9条の解釈論） 7. 平和主義（自衛隊海外派兵） 8. 選挙権論 9. 国会（国会の最高機関性と国会の権能） 10. 国会（条約の国会承認、国政調査権・浦和事件） 11. 裁判所（司法権の概念、裁判官の身分保障） 12. 予備日 	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上		定期試験による	

外共	社会心理学（通年）	担当者	田口 雅徳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>社会心理学とは、社会と個人の関わりという観点から、社会における個人の認知や行動を研究する学問である。個人の行動や認知過程は少なからず、個人をとりまく他者、環境、文化などに影響される。本講義では、こうした点を近年の研究動向を踏まえて、身近な話題を取り入れながら論じていきたい。年間を通じての授業概要は以下のとおり。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 他者認知 2. 自己認知 3. 集団の影響力と社会的行動 4. 自己呈示と自己開示 5. 対人コミュニケーションの心理 		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンス 2. 社会心理学とは？ 3. 他者認知：印象形成 4. 他者認知：印象の記憶 5. 他者認知：性格に認知 6. 他者認知：対人魅力 7. 自己認知：自己意識 8. 自己認知：自覚理論と没個性化 9. 自己認知：自己知識 10. 自己認知：自己評価 11. 集団と個人の行動① 12. 集団と個人の行動② 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはとくに指定しない。資料を配付して授業を進めていく。参考文献は授業の中で紹介する。</p>		<p>出席状況と授業での小レポート、最終試験により総合的に評価する。</p>	

外共	社会心理学（通年）	担当者	田口 雅徳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義の目的と概要は春学期を参照のこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 春学期のまとめと秋学期のガイダンス 2. 自己呈示① 3. 自己呈示② 4. 自己開示 5. コミュニケーションの心理①：説得① 6. コミュニケーションの心理②：説得② 7. コミュニケーションの心理③：言語 8. コミュニケーションの心理④：非言語① 9. コミュニケーションの心理⑤：非言語② 10. コミュニケーションの心理⑥：非言語③ 11. コミュニケーションの心理⑦：CMC 12. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはとくに指定しない。資料を配付して授業を進めていく。参考文献は授業の中で紹介する。</p>		<p>出席状況と授業での小レポート、最終試験により総合的に評価する。</p>	

外共	コンピュータ入門 (春)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現在、膨大な情報の中から「自らに必要なもの」を探し出し、「効率的かつ効果的」に活用する場合の中心となるのはコンピュータである。この科目では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用、およびコンピュータネットワークについて学んでいく。とくに大学生活(広くは社会生活)で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータ活用法を習得することを目的とする。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人で1台のパーソナルコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。内容は、日本語および英文ワープロ、コンピュータネットワーク(通信)、情報倫理についてである。</p> <p>注意</p> <p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとコンピュータの基本操作 2 ウィンドウズ入門—ウィンドウ操作とアプリケーション 3 日本語入力とタイピング 4 インターネット—ブラウザ・メール・検索 5 情報倫理 6 ワードプロセッサとは 7 文書の作成 (1) 8 文書の作成 (2) 9 文書の作成 (3) 10 文書への画像の挿入 11 レポートの作成 12 総合演習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『学生のためのコンピュータ活用 I』		授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。	

外共 (秋)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

外共	情報科学概論（通年）	担当者	呉 浩東
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっている。単にコンピュータの操作技術を習熟するということではなく、その基礎となる原理を理解することにより、情報やそのシステムをより有用な道具として使いこなす能力を身に付けることができる。これは、情報が多大で多様な価値をもつ情報社会に生きる個人としてもっとも重要な能力である。</p> <p>本講義では、(1) 情報に関する基本的な概念、(2) コミュニケーションにおける情報とその処理に関する基礎的な素養、(3) 情報システムに関する基礎的な素養、(4) 情報社会に関する基礎的な理解などを修得の目標とする。</p> <p>本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムとの関係を概説し、コンピュータのハードウェアとソフトウェア、コンピュータの動作概要などを解説する。次に、情報の符号化、コンピュータ内のデータ表現、プログラム構造、アルゴリズムについて学ぶ。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 講義の概要と目標 2 情報とは何か 情報の性質、情報の形態、情報の発達 3 コンピュータの歴史と特徴 計算機械の変遷とコンピュータの世代論 4 数の体系と基数変換 2進数と16進数、基数変換、2進数の演算 5 コンピュータの論理回路とデータ表現 6 コンピュータの構成要素(1) 中央処理装置(CPU)とメインメモリ 7 コンピュータの構成要素(2) 2次記憶装置と周辺措置 8 コンピュータ・ソフトウェアの概略 ソフトウェアの役割、体系と種類 9 オペレーティングシステム(OS) OSの基礎概念、OSの役割と原理 10 コンピュータ言語 コンピュータ言語の分類と目的 11 基本データ構造 配列構造、木構造、リスト構造、スタック構造 12 アルゴリズム 	
テキスト、参考文献		評価方法	
山田啓一 『情報科学』 西日本法規出版		レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価する。	

外共	情報科学概論（通年）	担当者	呉 浩東
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっている。単にコンピュータの操作技術を習熟するということではなく、その基礎となる原理を理解することにより、情報やそのシステムをより有用な道具として使いこなす能力を身に付けることができる。これは、情報が多大で多様な価値をもつ情報社会に生きる個人としてもっとも重要な能力である。</p> <p>本講義では、(1) 情報に関する基本的な概念、(2) コミュニケーションにおける情報とその処理に関する基礎的な素養、(3) 情報システムに関する基礎的な素養、(4) 情報社会に関する基礎的な理解などを修得の目標とする。</p> <p>本講義では、近年急速に発展しているインターネット、データ通信、データベース技術などに重点を置き、コンピュータ活用技術に関するさまざまな知識を概説し、数回の演習も実施する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ファイルの構造 ファイルの種類と構造 2 データベース データベースの概要、データベースの種類 3 データベース管理システム(DBMS) DBMSの目的と構成 4 データベースの設計 データベース構築の手順、データの正規化 5 コンピュータ・ネットワーク ネットワークの種類、LANの構成とアクセス方式 6 インターネット インターネットの仕組み、通信規約TCP/IP、DNS 7 インターネットサービス World Wide Web、情報検索、電子メールなど 8 インターネットと社会 セキュリティ、暗号システム、電子認証 9 マルチメディアの利用 画像処理、音声処理、応用システム 10 情報検索 情報検索の方法と演習 11 言語処理における情報技術(演習) 12 ソフトウェア開発手順 システム分析と設計、プログラム開発と保守 	
テキスト、参考文献		評価方法	
山田啓一 『情報科学』 西日本法規出版 随時必要な資料を指示する。		レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価する。	

外共	情報科学各論(初級—表計算入門) (春)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論(入門)」「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目である。コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。</p> <p>この授業では、表計算ソフト(MS-Excel)の基本操作を学ぶ。数値データ・文字データの処理方法およびコンピュータネットワークを利用した情報の収集とそのデータの整理・加工の方法を学習する。さらにそのデータをまとめ効果的に発表する手段を習得する。</p> <p>注意 実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2 表の作成(文字の入力)、グラフの作成 3 表の編集、グラフの装飾、印刷 4 計算式の利用 5 ネットワークからのデータの収集・整理 6 関数の利用 (1) 7 関数の利用 (2) 8 関数の利用 (3) 9 プレゼンテーション (1) —作成 (MS-Powerpoint とは) 10 プレゼンテーション (2) —作成 (データの活用・まとめ) 11 プレゼンテーション (3) —発表 12 総合演習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』		授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。	

外共	情報科学各論(初級—表計算入門) (秋)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論(入門)」「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目である。コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。</p> <p>この授業では、表計算ソフト(MS-Excel)の基本操作を学ぶ。数値データ・文字データの処理方法およびコンピュータネットワークを利用した情報の収集とそのデータの整理・加工の方法を学習する。さらにそのデータをまとめ効果的に発表する手段を習得する。</p> <p>注意 実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2 表の作成(文字の入力)、グラフの作成 3 表の編集、グラフの装飾、印刷 4 計算式の利用 5 ネットワークからのデータの収集・整理 6 関数の利用 (1) 7 関数の利用 (2) 8 関数の利用 (3) 9 プレゼンテーション (1) —作成 (MS-Powerpoint とは) 10 プレゼンテーション (2) —作成 (データの活用・まとめ) 11 プレゼンテーション (3) —発表 12 総合演習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』		授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。	

外共	情報科学各論（初級－プレゼンテーション）（春）	担当者	金井 満
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、コンピュータ初心者向け授業「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目です。コンピュータの基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて、一歩踏み出すために設けられているものです。</p> <p>講義概要： この授業では、プレゼンテーション用ソフトウェアであるPowerpointを使って文字情報だけではなく、画像・音声・動画など様々な方法で自分の持っている情報をわかりやすく相手に伝え、理解してもらうための手法を学びます。ソフト自体はワープロが使える人であればそれほど難しいものではないので、実際にプレゼンテーションを行う経験も積んでもらいたいと思います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. Powerpoint の基本操作 1 3. Powerpoint の基本操作 2 4. Powerpoint の基本操作 3 5. Powerpoint の基本操作 4 6. Powerpoint の基本操作 5 7. プレゼンテーションの注意点と個人プレゼンテーションの準備 8. 個人プレゼンテーションの準備 9. 個人プレゼンテーション 10. 個人プレゼンテーション 11. 個人プレゼンテーション 12. 総括 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業で指示します。		授業内での個人プレゼンテーション。	

外共	情報科学各論（初級－プレゼンテーション）（秋）	担当者	金井 満
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、コンピュータ初心者向け授業「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目です。コンピュータの基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて、一歩踏み出すために設けられているものです。</p> <p>講義概要： この授業では、プレゼンテーション用ソフトウェアであるPowerpointを使って文字情報だけではなく、画像・音声・動画など様々な方法で自分の持っている情報をわかりやすく相手に伝え、理解してもらうための手法を学びます。ソフト自体はワープロが使える人であればそれほど難しいものではないので、実際にプレゼンテーションを行う経験も積んでもらいたいと思います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. Powerpoint の基本操作 1 3. Powerpoint の基本操作 2 4. Powerpoint の基本操作 3 5. Powerpoint の基本操作 4 6. Powerpoint の基本操作 5 7. プレゼンテーションの注意点と個人プレゼンテーションの準備 8. 個人プレゼンテーションの準備 9. 個人プレゼンテーション 10. 個人プレゼンテーション 11. 個人プレゼンテーション 12. 総括 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業で指示します。		授業内での個人プレゼンテーション。	

外共	情報科学各論(初級-HTML入門)(春)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論(入門)」「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目である。コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。</p> <p>この授業では先ず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの一つであるWWW(World Wide Web)における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language)を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。</p> <p>注意 実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2 WWW と LAN 3 情報の単位と情報通信 4 ハイパーテキストと HTML 5 インターネットと情報倫理 6 ページの構造と HTML 7 ホームページの作成-テキスト 8 ホームページの作成-イメージ 9 ホームページの作成-リンク 10 ホームページの作成-テーブル・その他 11 ホームページの作成-完成 12 ファイルの転送とページの更新 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』		授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。	

外共	情報科学各論(初級-HTML入門)(秋)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論(入門)」「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目である。コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。</p> <p>この授業では先ず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの一つであるWWW(World Wide Web)における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language)を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。</p> <p>注意 実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2 WWW と LAN 3 情報の単位と情報通信 4 ハイパーテキストと HTML 5 インターネットと情報倫理 6 ページの構造と HTML 7 ホームページの作成-テキスト 8 ホームページの作成-イメージ 9 ホームページの作成-リンク 10 ホームページの作成-テーブル・その他 11 ホームページの作成-完成 12 ファイルの転送とページの更新 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』		授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。	

外共	情報科学各論（中級—表計算応用1）（春）	担当者	松山 恵美子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は表計算ソフト (MS-Excel) の基礎をマスターした学生を対象として行うものとする。</p> <p>Excel の機能のひとつに「マクロ」機能がある。Excel でデータを処理する過程において、計算式、関数、書式設定、コピーなど、同じ一連の操作を何度か繰り返す必要がでてくる場合がある。</p> <p>「マクロ」とは、そのような同じ操作を記録して登録することである。そのことにより、次回からは登録した「マクロ」を呼び出すことで、即時に実行することが可能となる。</p> <p>簡単な「マクロ」を作成しながら、マクロ機能で自動的に作成される VBA (Visual Basic for Application) プログラムの基礎を理解することを目標とする。</p> <p>初回の授業に、必ず出席すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスと Excel の復習 2 マクロ機能とは 3 関数と計算式を使ったマクロの作成 (1) 4 関数と計算式を使ったマクロの作成 (2) 5 マクロ用ボタンとマクロの連携 6 第1回目課題作成 7 VBA の利用—簡単なゲームの作成 (1) 8 VBA の利用—簡単なゲームの作成 (2) 9 第2回目課題作成 10 最終課題作成 (1) 11 最終課題作成 (2) 12 最終課題作成 (3) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
第1回目の授業で指示する。		平常点 50% (出席および課題提出)、定期試験 50% で総合評価をおこなう。	

外共	情報科学各論（中級—表計算応用1）（秋）	担当者	松山 恵美子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は表計算ソフト (MS-Excel) の基礎をマスターした学生を対象として行うものとする。</p> <p>Excel の機能のひとつに「マクロ」機能がある。Excel でデータを処理する過程において、計算式、関数、書式設定、コピーなど、同じ一連の操作を何度か繰り返す必要がでてくる場合がある。</p> <p>「マクロ」とは、そのような同じ操作を記録して登録することである。そのことにより、次回からは登録した「マクロ」を呼び出すことで、即時に実行することが可能となる。</p> <p>簡単な「マクロ」を作成しながら、マクロ機能で自動的に作成される VBA (Visual Basic for Application) プログラムの基礎を理解することを目標とする。</p> <p>初回の授業に、必ず出席すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスと Excel の復習 2 マクロ機能とは 3 関数と計算式を使ったマクロの作成 (1) 4 関数と計算式を使ったマクロの作成 (2) 5 マクロ用ボタンとマクロの連携 6 第1回目課題作成 7 VBA の利用 (1) 8 VBA の利用 (2) 9 第2回目課題作成 10 最終課題作成 (1) 11 最終課題作成 (2) 12 最終課題作成 (3) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
第1回目の授業で指示する。		平常点 50% (出席および課題提出)、定期試験 50% で総合評価をおこなう。	

外共 (春)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

外共	情報科学各論 (中級—表計算応用 2) (秋)	担当者	松山 恵美子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は情報科学各論 (中級—表計算応用 1) の単位を取得した学生を対象として行うものとする。</p> <p>情報科学各論 (中級—表計算応用 1) では、Excel の基本的なマクロ機能を学習しながら VBA (Visual Basic for Application) の基本についても触れた。</p> <p>本講義では、VBA をもう一歩踏み込んで理解することを目的とする。</p> <p>最終的には、情報科学各論 (中級—表計算応用 1) で作成したマクロをプログラミングすることで、汎用性のあるものへと完成させていく。</p> <p>初回の授業に、必ず出席すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスと Excel マクロ機能の復習 2 VBA とは (1) 3 プログラミングの技法 (1) 4 プログラミングの技法 (2) 5 マクロ用ボタンとの連携 6 第 1 回目課題作成 7 プログラミングの技法 (3) 8 プログラミングの技法 (4) 9 第 2 回目課題作成 10 最終課題作成 (1) 11 最終課題作成 (2) 12 最終課題作成 (3) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
第 1 回目の授業で指示する。		平常点 50% (出席および課題提出)、定期試験 50% で総合評価をおこなう。	

外共	情報科学各論(中級－HTML 応用 1) (春)	担当者	東 孝博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Javaは1995年にSun Microsystems社が発表し、インターネット時代のコンピュータ言語と言われている。プログラミングの経験のない人間がJavaを理解するのは大変難しいとされているが、ここでは、HTMLから呼び出されて実行されるアプレットによるWebページ上のグラフィックス描写を通して、Java言語の一端を知ること为目标とする。</p> <p>最初に、簡単なCGIの利用とJavaスクリプトの埋め込みを通して、HTMLによるWebページ作りの復習をする。次に、Javaアプレットの概要を説明する。そして、プログラムを構成する要素である変数、配列、文などと、イメージの表示やグラフィックスの描画の方法を、プログラミングの経験がないことを前提に説明する。</p> <p>注意 情報科学各論(初級)「HTML 入門」修了者か、または、それと同等程度の者を対象とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 授業内容説明 2 HTML の復習 (簡単な CGI の利用) 3 HTML の復習 (Java スクリプトの埋め込み) 4 Java アプレットの概要 5 プログラム練習 (グラフィックスイメージの表示) 6 プログラム練習 (定数と変数) 7 プログラム練習 (for 文 1) 8 プログラム練習 (for 文 2) 9 プログラム練習 (if 文) 10 プログラム練習 (配列) 11 プログラム練習 (Math オブジェクト) 12 総合演習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布する。		日常の授業への参加態度と演習により評価をつける。	

外共	情報科学各論(中級－HTML 応用 2) (秋)	担当者	東 孝博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Javaは1995年にSun Microsystems社が発表し、インターネット時代のコンピュータ言語と言われている。プログラミングの経験のない人間がJavaを理解するのは大変難しいとされているが、ここでは、HTMLから呼び出されて実行されるアプレットによるWebページ上のグラフィックス描写を通して、Java言語の一端を知ること为目标とする。</p> <p>最初に、Javaの基本構造を説明する。続いて、マウスやキーに対するイベント処理、ボタン等のGUI部品の使用、スレッド機能を利用したリアルタイム処理を通してJavaアプレットへの理解を深める。</p> <p>注意 情報科学各論(中級)「HTML 応用 1」修了者か、または、それと同等程度の者を対象とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 Java の基本構造 2 イベント処理 (マウスイベント 1) 3 イベント処理 (マウスイベント 2) 4 イベント処理 (キーイベント 1) 5 イベント処理 (キーイベント 2) 6 GUI 部品の使用 (ボタン・チェックボックス) 7 GUI 部品の使用 (選択ボックス・スクロールバー) 8 GUI 部品の使用 (GUI 部品のレイアウト) 9 スレッドの利用 (イメージの移動) 10 スレッドの利用 (色の変化・時計) 11 スレッドの利用 (スレッドを利用したゲーム) 12 総合演習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布する。		日常の授業への参加態度と演習により評価をつける。	

外共 (春)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

外共	情報科学各論 (中級-HTML応用1) (秋)	担当者	金子 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義の目的</p> <p>この授業は、コンピュータ初級の授業「HTML入門」の次に位置する中級科目である。コンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び「HTMLを用いたホームページ作成技術を習得した人 (FTPの理解を含む) を対象」に、一方向の情報発信ではなく、インタラクティブなページ作成を通じて、コミュニケーション技術を得ることを目標とする。</p> <p>講義の概要</p> <p>この授業ではまず、ファイルの種類、フォルダ構造などのコンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及びHTML、FTPなどの復習を行う。次にJavaScriptやCGIプログラムを利用して、メッセージの表示や画像の変化、カウンタ、掲示板の設置等を行う。作成の成果は、受講生相互で批評・検討する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとイントロダクション 2 HTMLとFTPの復習 (1) 3 HTMLとFTPの復習 (2) 4 インタラクティブなページ (HTMLとCGI) 5 JavaScript (1) 6 JavaScript (2) 7 JavaScript (3) 8 JavaScript (4) 9 CGIの利用 (1) 10 CGIの利用 (2) 11 CGIの利用 (3) 12 総合報告会 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に指示する。プリントの配布も行う。		授業中に作成する課題と平常点 (宿題含む) で総合評価する。出席は重視する。最低限のルール (禁飲食等) を守れない場合は、即時失格とする。	

外共 (春)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

外共	情報科学各論 (中級-HTML 応用 1) (秋)	担当者	田中 雅英
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は情報科学各論(初級)「HTML 入門」に続く中級コースである。HTML 入門を受講済みあるいは同等の知識を有する学生を対象に、単に HTML 言語の更なる発展を目指すのではなく、CGI や Java Script にまで範囲を広げる。もちろん単にホームページ作成ということを目指してではなく、その過程においてコンピュータやネットワークの理解を含め、その積極的な利用方法の理解にまで話を進める。基本的には、一方向の情報発信ではなく、インタラクティブな双方向のコミュニケーションを図ることにより、情報処理としての広範囲な知識の整理を図りたい。</p> <p>なお、この授業計画はあくまで一つの目安であり、途中での変更も十分にありえる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスと復習 2. Web ページのネットへのアップロード等 3. プログラミングの考え方 4. Java Script1 5. Java Script2 6. Java Script3 7. Java Script4 8. CGI 9. 情報の収集 1 10. 情報の収集 2 11. 応用 12. その他 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に適宜指示する。		授業中に指示する課題と平常点で評価する。	

外共	情報科学各論（中級－データベース1）（春）	担当者	長崎 等
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は表計算ソフトウェア（Excel）の基礎をマスターした学生を対象として、Excel を利用してデータベースの基礎概念及び利用方法について学習する。</p> <p>高度情報化社会といわれる現代においては、昔と違い膨大な量の情報がうずまいている。そういった情報の中からいかに的確な情報を取り出すかというのが大きな課題である。その方法論的な答えの1つとしてデータベースがある。</p> <p>データベースの基本的な考え方や利用の仕方について、比較的なじみのある表計算ソフトウェアを利用して実習を行い、学習するのが本講義の目的である。</p> <p><受講者への要望> 情報科学各論（初級－表計算入門）を既修、またはそれと同等程度の知識があることが望ましい。第1回目の授業には必ず出席すること。 遅刻は厳禁とします。また実習を主体とする科目なので休まずに出席すること。</p>		<p>1 ガイダンスとコンピュータ利用の復習</p> <p>2 データベースについての調査</p> <p>3 データベースの基本概念</p> <p>4 並べ替え</p> <p>5 集計</p> <p>6 レコードの抽出</p> <p>7 条件検索 1</p> <p>8 条件検索 2</p> <p>9 データベース関数</p> <p>10 クロス集計とピボットテーブル</p> <p>11 まとめ</p> <p>12 実習試験</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
1 回目の授業で指示します。		出席及びレポート課題、さらに実習試験によって評価します。	

外共（秋）	情報科学各論（中級－データベース2）（秋）	担当者	長崎 等
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は「データベース1」を履修済みの学生を対象として、Access を利用してデータベースの概念や設計方法について学習する。</p> <p>Access の基本的な使い方やデータベースの概念を学習した後に、グループごとに与えられた要求をもとにデータベースの設計及び作成をおこなってもらい、グループ単位での演習を通じて、データベースの概念や設計に対する理解を深める。</p> <p><受講者への要望> 情報科学各論（中級）「データベース1」を既修、またはそれと同等程度の知識があることが望ましい。第1回目の授業には必ず出席すること。 遅刻は厳禁とします。またコンピュータの実習を主体とする科目なので休まずに出席すること。</p>		<p>1 データベースの概念と機能</p> <p>2 Access の基本操作</p> <p>3 テーブル</p> <p>4 テーブルと結合</p> <p>5 クエリー（1）</p> <p>6 クエリー（2）</p> <p>7 グループによるテーブル設計1 （ハイレベルエンティティ分析）</p> <p>8 グループによるテーブル設計2 （関係データ分析）</p> <p>9 グループによるテーブル設計3 （テーブル作成）</p> <p>10 グループによるクエリ設計1 （外部スキーマの設計）</p> <p>11 グループによるクエリ設計1 （クエリの作成）</p> <p>12 グループによるプレゼンテーション</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『30H で理解できるアクセス 2000』， 実教出版 『図解雑学データベース』， ナツメ出版		出席及びレポート課題によって評価します。	

外共	情報科学各論(中級-プログラミング論 1) (春)	担当者	呉 浩東
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>コンピュータで問題解決のプログラムを作成することを「プログラミング」と呼ぶ。本講義では、プログラムの経験のない初心者から、プログラミングの基礎、すなわちプログラムをどう作成するか、プログラミング言語はどのような構造を持つか、どのような手順で行うか、データをどのような形にして扱うかについて解説と実習によって明らかにする。履修者にプログラミングのノウハウや方法を身につけることに目指す。</p> <p>初めにコンピュータの構成要素やプログラミング言語について概説します。続いて、プログラミング言語の一つである Visual Basic.NET を用いてプログラミングの設計手順や方法、プログラミング言語の構造、プログラムの仕組みなどについて学習する。いくつかのプログラムの設計について講義および実習を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 授業のガイダンスとコンピュータ構成の概説 2 プログラミング言語の発展史 3 開発ツールとしての Visual Basic.NET の基本 Visual Basic の画面構成、プログラム開発の流れ 4 Visual Basic の基本操作 フォーム、コントロール、プロパティ設定 5 簡単なプログラムの作成 基本的なプログラミングの手順、プログラムの動作の確認する 6 イベント駆動型プログラム 7 文字の表示と計算プログラム 変数定義、演算、関数、メソッドの使い方 8 選択構造をもつプログラム (1) 条件選択構造、プログラムの設計とコーディング 9 選択構造をもつプログラム (2) 多重選択、複数の選択のあるプログラムの設計 10 繰り返しあるプログラムの作成 (1) 回数指定による繰り返し、For~Next 文 11 繰り返しあるプログラムの作成 (2) 条件指定による繰り返し 12 総合練習 総合問題、まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<ol style="list-style-type: none"> (1) 最初の講義で指示する。 (2) 随時必要な資料を指示する。 		定期試験と、レポートの提出および出席状況を加味して評価する。	

外共	情報科学各論(中級-プログラミング論 2) (秋)	担当者	呉 浩東
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義は、上記「プログラミング論 1」既習または基礎的なプログラムの作成知識を理解していることが前提にし、より発展的なプログラミングの知識を学べ、実際に各種のプログラムの作成練習を繰り返し替えプログラミングの技能を身に付けることを目的とする。</p> <p>ここでは、Visual Basic.NET というプログラミング言語を使って、Windows 環境でさまざまな機能を生かすためにプログラムの作成の考え方ははじめ、文系の方に役立つ文字列の処理、図形・画像の処理、ファイル操作などに学ぶ。さらに、問題解決のアルゴリズムについて紹介し、実用なプログラムの設計法まで述べる。プログラミングを学ぶにあたって実践が非常に重要であるので、実習の比重が大きく設定されている。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 プログラムの構造化 Sub プロシージャ、Function プロシージャ 2 配列とコントロール配列 配列変数の宣言、配列の使い方 3 文字列の処理プログラム (1) 簡単な翻訳プログラムの作成 4 文字列の処理プログラム (2) 文字列の照合と置き換え 5 図形の描画 さまざまな図形を描画するプログラムの作成 6 文字列の表示 7 画像の描画 画像の呼び出し方、画像の移動とコピー 8 ファイル操作 (1) シーケンシャルアクセス：データの読み書き 9 ファイル操作 (2) ランダムファイルとランダムアクセス 10 応用的なテクニック アルゴリズム：探索とソート 11 再帰というプログラミング手法 12 総合練習 総合問題、まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
随時必要な資料を指示する。		定期試験と、レポートの提出および出席状況を加味して評価する。	

外共	日本語学特殊講義A (通年)	担当者	中西 家栄子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1. この特殊講義は講義の部分もあるが、大部分は全員が参加する演習の形式で進められる。</p> <p>2. テキストの英文を正確に読解し内容をまとめる。</p> <p>3. 担当部分の英文を担当者があらかじめその要約をつくりクラスで配布できるように準備する。</p> <p>4. テキストの内容に基づき日本語学習上での問題点を考えていく。</p> <p>5. 考察した問題点や特徴を日本語の全体像の中に位置づけ、知識の体系化を図る。</p> <p>6. シラバスに記したものと実際の授業とでは多少前後することがある。また、新たなテーマを加えることがある。</p> <p>授業への積極的な参加が望まれる。</p>		<p>1. オリエンテーション</p> <p>① 発表担当の分担、いかなる方法で勉強をすすめるかの説明。</p> <p>② Introduction を読む</p> <p>2. 2回目以降はテキストの内容に沿って進める。毎回7～8頁ほど進める</p> <p>内容項目の詳細はオリエンテーション時に紹介する。</p> <p>(2) Earlier thinking on transfer</p> <p>(3) Some fundamental problems in the study of Transfer</p> <p>(4) Discourse</p> <p>(5) Semantics</p> <p>(6) Syntax</p> <p>(7) Phonetics, Phonology, and writing systems</p> <p>(8) Nonstructural factors in transfer</p> <p>(9) Looking back and looking ahead</p> <p>(10) Implications for teaching</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>Language Transfer – Cross-linguistic influence in language learning</i> T. Odlin Chambridge Applied Linguistics</p>		<p>① 課題 (まとめ) ② 試験の得点</p> <p>③ 出席率 (欠席4回以上はF評価とする)</p>	

外共	日本語学特殊講義A (通年)	担当者	中西 家栄子
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に同じ		<p>① Recent Research in Reading Japanese as a Foreign Language</p> <p>② Studies on L2 writing Instruction in the past and present</p> <p>時間があれば、秋学期にあつては、春学期の残りおよび上記の小論を読んでいきたい。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に同じ		春学期に同じ	

外共	総合講座 B (春学期)	担当者	加藤 儂重																																																
講義目的、講義概要		授業計画																																																	
<p>～日本は諸外国から何を学び、何を伝えたか～</p> <p>講義目的および概要 日本人は海外への好奇心は高く、海外から多くの諸知識を昔から得てきた。 本講義は毎回の講演者が、右に示したように各自の専攻分野において、日本が外国の学問をどのように導入したかを講義する。</p>		<table border="1"> <tr><td>1</td><td>4月13日</td><td>はじめに</td><td>加藤 儂重</td></tr> <tr><td>2</td><td>4月20日</td><td>中国古典</td><td>浅山 佳郎</td></tr> <tr><td>3</td><td>4月27日</td><td>「社会」</td><td>有吉 広介</td></tr> <tr><td>4</td><td>5月11日</td><td>ダンス</td><td>青柳 多恵子</td></tr> <tr><td>5</td><td>5月18日</td><td>会計学</td><td>湯田 雅夫</td></tr> <tr><td>6</td><td>5月25日</td><td>社会主義 1</td><td>辻 康吾</td></tr> <tr><td>7</td><td>6月 1日</td><td>社会主義 2</td><td>辻 康吾</td></tr> <tr><td>8</td><td>6月 8日</td><td>古代日本の国際交流</td><td>飯島 一彦</td></tr> <tr><td>9</td><td>6月15日</td><td>教育制度</td><td>川村 肇</td></tr> <tr><td>10</td><td>6月22日</td><td>基督教</td><td>高橋 正男</td></tr> <tr><td>11</td><td>6月29日</td><td></td><td>未定</td></tr> <tr><td>12</td><td>7月 6日</td><td>まとめ</td><td>加藤 儂重</td></tr> </table>		1	4月13日	はじめに	加藤 儂重	2	4月20日	中国古典	浅山 佳郎	3	4月27日	「社会」	有吉 広介	4	5月11日	ダンス	青柳 多恵子	5	5月18日	会計学	湯田 雅夫	6	5月25日	社会主義 1	辻 康吾	7	6月 1日	社会主義 2	辻 康吾	8	6月 8日	古代日本の国際交流	飯島 一彦	9	6月15日	教育制度	川村 肇	10	6月22日	基督教	高橋 正男	11	6月29日		未定	12	7月 6日	まとめ	加藤 儂重
1	4月13日	はじめに	加藤 儂重																																																
2	4月20日	中国古典	浅山 佳郎																																																
3	4月27日	「社会」	有吉 広介																																																
4	5月11日	ダンス	青柳 多恵子																																																
5	5月18日	会計学	湯田 雅夫																																																
6	5月25日	社会主義 1	辻 康吾																																																
7	6月 1日	社会主義 2	辻 康吾																																																
8	6月 8日	古代日本の国際交流	飯島 一彦																																																
9	6月15日	教育制度	川村 肇																																																
10	6月22日	基督教	高橋 正男																																																
11	6月29日		未定																																																
12	7月 6日	まとめ	加藤 儂重																																																
テキスト、参考文献		評価方法																																																	
		テスト、レポートで評価する。 最初の講義で説明する。																																																	

外共	総合講座 B (秋学期)	担当者	加藤 儂重																																																
講義目的、講義概要		授業計画																																																	
<p>～一冊の本・一つの資料に出会う～</p> <p>講義目的および概要 本講義では毎回の講演者が、各自の専攻分野において、何に惹かれ、何を勉強・研究しているかを講義する。この講義が学生諸君の将来の指針となることを願う。</p>		<table border="1"> <tr><td>1</td><td>9月28日</td><td>はじめに</td><td>加藤 儂重</td></tr> <tr><td>2</td><td>10月 5日</td><td>明治の国際交流</td><td>飯島 一彦</td></tr> <tr><td>3</td><td>10月12日</td><td>スポーツ</td><td>梶野 克之</td></tr> <tr><td>4</td><td>10月19日</td><td></td><td>未定</td></tr> <tr><td>5</td><td>10月26日</td><td>フリースラント語</td><td>児島 仁士</td></tr> <tr><td>6</td><td>11月 2日</td><td>伊藤仁斎</td><td>浅山 佳郎</td></tr> <tr><td>7</td><td>11月 9日</td><td>教育史</td><td>川村 肇</td></tr> <tr><td>8</td><td>11月16日</td><td>文化人類学</td><td>井上 兼行</td></tr> <tr><td>9</td><td>11月30日</td><td>化学と生活</td><td>塚目 孝裕</td></tr> <tr><td>10</td><td>12月 7日</td><td>シーボルト蒐集品</td><td>和田 浩志</td></tr> <tr><td>11</td><td>12月14日</td><td>スペイン語</td><td>二宮 哲</td></tr> <tr><td>12</td><td>12月21日</td><td>まとめ</td><td>加藤 儂重</td></tr> </table>		1	9月28日	はじめに	加藤 儂重	2	10月 5日	明治の国際交流	飯島 一彦	3	10月12日	スポーツ	梶野 克之	4	10月19日		未定	5	10月26日	フリースラント語	児島 仁士	6	11月 2日	伊藤仁斎	浅山 佳郎	7	11月 9日	教育史	川村 肇	8	11月16日	文化人類学	井上 兼行	9	11月30日	化学と生活	塚目 孝裕	10	12月 7日	シーボルト蒐集品	和田 浩志	11	12月14日	スペイン語	二宮 哲	12	12月21日	まとめ	加藤 儂重
1	9月28日	はじめに	加藤 儂重																																																
2	10月 5日	明治の国際交流	飯島 一彦																																																
3	10月12日	スポーツ	梶野 克之																																																
4	10月19日		未定																																																
5	10月26日	フリースラント語	児島 仁士																																																
6	11月 2日	伊藤仁斎	浅山 佳郎																																																
7	11月 9日	教育史	川村 肇																																																
8	11月16日	文化人類学	井上 兼行																																																
9	11月30日	化学と生活	塚目 孝裕																																																
10	12月 7日	シーボルト蒐集品	和田 浩志																																																
11	12月14日	スペイン語	二宮 哲																																																
12	12月21日	まとめ	加藤 儂重																																																
テキスト、参考文献		評価方法																																																	
		テスト、レポートで評価する。 最初の講義で説明する。																																																	